

筑後東部地区遺跡群 VI

福岡県筑後市大字鶴田所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第36集

2001

筑後市教育委員会

ちくごとうぶちく
筑後東部地区遺跡群 VI

みぞくちきたしんがえ
溝口北新替遺跡

つるたひがしうしがいけ
鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査

つるたひがしうしがいけ
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査

つるたにしうしがいけ
鶴田西牛ヶ池遺跡

つるたきやのかど つるたうしがいけ
鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査

つるたうしがいけ
鶴田牛ヶ池第3次調査

つるたうしがいけ
鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査

2001

筑後市教育委員会

序

本書に掲載した発掘調査は、平成9年度から10年度に行われた県営圃場整備事業筑後東部地区における緊急発掘調査であります。

筑後東部地区遺跡群の発掘調査報告書は今回で第6集を数えます。今までに多くの調査が行われた結果、数々の遺跡情報が得られ、郷土の歴史が若干ではありますが解明されてきました。先人達の文化や歴史、遺跡を保護・活用していくことが文化財行政の役割と考えておりますが、現在、開発における緊急の発掘調査の増大で遺跡の破壊、消滅を余儀なくされ、発掘調査による記録保存等によって保護することしかできないのが現状です。

しかし、発掘調査で記録保存された情報を整理して市民の方々に提供し、それを活用していただくことも私達の役割と考え、本書の作成を行いました。

また、今後は学術的な資料としても広く活用していただき、文化財の理解、普及、発展に繋がれば幸いです。

発掘調査、報告書作成に対して、関係者各位には多大のご協力を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

筑後市教育委員会
教育長 牟田口和良

例言

1. 本書は筑後川水系農地開発事務所が平成10年度に実施した県営圃場整備事業筑後東部地区の事前調査として筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書に掲載した調査の期間や調査に係わる経緯については第I章と各調査の報告部分に記載している。
3. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は第I章に記したとおりである。なお、出土遺物・図面・写真は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。
4. 本書に使用した図面の内、遺構全体図を鶴田西牛ヶ池遺跡は朝日航洋（株）、鶴田木屋ノ角、鶴田牛ヶ池第2次調査は、アジア航測（株）、鶴田牛ヶ池第4次調査は写測エンジニアリング（株）に委託した。
その他の遺構実測図は各調査担当者、柴田剛、奥村太郎、高田知恵が行い、遺物実測、浄書は平塚あけみ、徳永みどり、仲文恵、高田、永見秀徳が行った。
5. 本書に使用した遺構写真、遺物写真は各遺跡調査担当者と柴田が撮影した。鶴田西牛ヶ池遺跡の全体写真は朝日航洋（株）でモザイク処理により合成している。鶴田木屋ノ角・鶴田牛ヶ池第2次調査の空中写真はアジア航測（株）、その他の遺跡の空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
6. 今回の調査に用いた測量座標は、国土調査法第II座標系を基準としており、方位は全て座標北（G.N）である。
7. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による。
SI-竪穴住居 SB-掘立柱建物 SK-土壌 SD-溝 SF-道路 SP-ピット SX-ピット、不明、その他の遺構
8. 出土した金属製品の応急処置は上村英士が行い、保存処理は太宰府市教育委員会の協力を得た。
9. 本書の各遺跡の執筆者は目次に記している。編集は上村が行った。

目次

I. 調査経過と組織	1
II. 位置と環境	3
III. 調査成果	7
1. 溝口北新替遺跡 (小林勇作)	7
(1) はじめに	7
(2) 検出遺構	7
(3) 出土遺物	8
(4) 小結	8
2. 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 (上村英士)	11
(1) はじめに	11
(2) 検出遺構	11
(3) 出土遺物	13
(4) 小結	14
3. 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 (上村英士)	15
(1) はじめに	15
(2) 検出遺構	15
(3) 出土遺物	16
(4) 小結	22
4. 鶴田西牛ヶ池遺跡 (上村英士)	25
(1) はじめに	25
(2) 検出遺構	26
(3) 出土遺物	48
(4) 小結	84
5. 鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査 (永見秀徳)	101
(1) はじめに	101
(2) 検出遺構	102
(3) 出土遺物	108
(4) 小結	108
6. 鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査 (小林勇作)	111
(1) はじめに	111
(2) 検出遺構	111
(3) 出土遺物	111
(4) 小結	111

7. 鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査 (小林勇作).....	112
(1) はじめに	112
(2) 検出遺構	112
(3) 出土遺物	116
(4) 小結	120
IV. まとめ (上村英士).....	121

PLATE

I. 調査経過と組織

平成9・10年度に福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市へ圃場整備工事予定地内の埋蔵文化財について確認依頼があり、これを受けた筑後市教育委員会では同年に試掘調査を実施し、圃場整備工事予定地内に埋蔵文化財が認められたことを事業関係者に回答し協議を行った。協議の結果、「筑後東部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として、掘削の及ぶ排水路工事予定地、面の削平を受ける箇所を発掘調査することとなった。埋蔵文化財発掘調査の費用については国、県からの補助を受け、受益者負担については文化財担当部局で負担、残る費用については県水系事務所が負担することで合意した。

調査は平成9・10年度に実施し、遺物の整理及び報告については、平成11、12年度に筑後市文化財整理室で行った。

調査組織

(平成9年度)

1) 発掘調査及び整理作業

総括	教育長	森田基之	総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	津留忠義		教育部長	下川雅晴
庶務	社会教育課長	山口逸郎	庶務	社会教育課長	山口逸郎
	社会教育係長	田中清通		社会教育係長	田中清通
	社会教育係	永見秀徳 (調査担当)		社会教育係	永見秀徳
		小林勇作 ()			小林勇作
		田中剛			田中剛
		上村英士 ()			上村英士
		柴田剛			柴田剛
		立石真二			立石真二

(平成10年度)

(平成11年度)

総括	教育長	牟田口和良	総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川雅晴		教育部長	下川雅晴
庶務	社会教育課長	庄村國義	庶務	社会教育課長	庄村國義
	文化係長	田中徹一		文化係長	成清平和
	文化係	永見秀徳 (報告担当)		文化係	永見秀徳 (報告担当)
		小林勇作 ()			小林勇作 ()
		上村英士 ()			上村英士 ()
		柴田剛			柴田剛
		立石真二			立石真二

(平成12年度)

総括	教育長	牟田口和良	総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川雅晴		教育部長	下川雅晴
庶務	社会教育課長	庄村國義	庶務	社会教育課長	庄村國義
	文化係長	田中徹一		文化係長	成清平和
	文化係	永見秀徳 (報告担当)		文化係	永見秀徳 (報告担当)
		小林勇作 ()			小林勇作 ()
		上村英士 ()			上村英士 ()
		柴田剛			柴田剛
		立石真二			立石真二

2) 発掘作業参加者 地元有志

3) 整理作業参加者

(整理補助員)	平塚あけみ	仲文恵
(整理作業員)	野間口靖子	馬場敦子
	徳永みどり	湯川琴美
	横井理絵	野口晴香
		仲文恵
		高田知恵

なお、調査及び報告書作成に際しては以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。(順不同、敬称略)

福岡県教育庁南教育事務所 小田和利
太宰府市教育委員会 城戸康利、中島恒次郎、山村信榮、下川可容子
久留米市教育委員会 大石昇、富永直樹、園井正隆、白木守、小澤太郎
八女市教育委員会 大塚恵治、山田朗子
別府大学学生 大坪芳典
長崎外国語短期大学 木本雅康
元国学院大学 木下良
道路文化研究所 武部健一
国立奈良文化財研究所 山中敏史

Ⅱ. 位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南部には一般河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は、国道に沿って市の中央部に形成されている。

以下に東部地区圃場整備事業に係わる発掘調査の遺跡一覧を挙げる。(Tab.1)

遺跡名	調査年度	時期	遺構の性格
鶴田岸添遺跡第1次	平成5年度	弥生～古墳	集落
新漕丸田遺跡	〃	縄文・古墳	集落
鶴田橋原遺跡第1次	〃	中世	集落
鶴田前島遺跡	〃	奈良・中世	集落
鶴田岸添遺跡第2次	平成6年度	弥生～古墳	集落
鶴田岸添遺跡第3次	〃	弥生～古墳	集落
久恵野元遺跡第1次	〃	中世	集落
久恵野元遺跡第2次	〃		
鶴田岸添遺跡第4次	〃	弥生～古墳、近世	集落
新漕松原遺跡	〃	弥生～古墳	集落
久恵橋原遺跡第1次	平成7年度	弥生～中世	集落
久恵北草場遺跡	〃	弥生～古墳	集落
久恵内次郎遺跡第1次	〃	弥生	集落
鶴田武津恵遺跡	〃	弥生、中世	溝
鶴田橋原遺跡第2次	〃	中世	集落
久恵岸ノ下遺跡第1次	〃	中世	溝、土壇
久恵岸ノ下遺跡第2次	〃		
久恵橋原遺跡第2次	〃		
久恵上川原遺跡	〃		
久恵上ノ上遺跡	〃	縄文～中世	集落
久恵内次郎遺跡第2次	〃	弥生～中世	集落
久恵中野遺跡	〃	弥生～近世	溝
久恵東岸遺跡	〃	縄文～古墳	集落
鶴田西田遺跡	〃	縄文～中世	土壇
鶴田東大坪遺跡第1次	平成8年度	不明	溝
鶴田西畑遺跡	〃	縄文～中世	溝、土壇、墳墓
鶴田野田遺跡	〃	古墳	集落、土壇
溝口北新替遺跡	〃	不明	溝
久恵北水原遺跡	平成9年度	中世	溝
久恵今町遺跡	〃	弥生	溝
新漕大丸遺跡	〃	弥生～中世	溝、竪穴住居
鶴田東大坪遺跡第2次	〃	近世	溝
鶴田溝代遺跡	〃	近世	溝
鶴田東牛ヶ池遺跡第1次	平成10年度	縄文、近世	土壇
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次	〃	縄文、近世	土壇、竪穴住居
鶴田牛ヶ池遺跡第1次	〃	縄文	集石遺構
鶴田牛ヶ池遺跡第2次(鶴田木屋ノ角遺跡)	〃	古代	官道
鶴田牛ヶ池遺跡第3次	〃	縄文、近世	ピットほか
鶴田牛ヶ池遺跡第4次	〃	縄文、弥生、近世	甕棺ほか
鶴田西牛ヶ池遺跡	〃	弥生、近世	竪穴住居ほか

Tab.1 圃場整備事業に係わる筑後東部地区発掘調査(平成10年度まで)



1. 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査
2. 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査
3. 鶴田西牛ヶ池遺跡
4. 鶴田木屋ノ角・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査
5. 鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査
6. 鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査

Fig.1 東部地区調査地点位置図 (1/2500) 溝口北新替遺跡は除く



遺跡名
1 瑞王寺古墳
2 田佛遺跡
3 蔵敷東野屋敷遺跡
4 石人山古墳
5 弘化谷古墳
6 蔵敷坂口遺跡
7 蔵敷森ノ木遺跡
8 久富鳥居遺跡
9 欠塚古墳
10 前津中ノ玉遺跡
11 四ヶ所古四ヶ所遺跡
12 羽犬塚中道遺跡
13 羽犬塚射場ノ本遺跡
14 若菜森坊遺跡
15 長崎坊田遺跡
16 徳久中牟田遺跡
17 常用長田・日田行遺跡
18 裏山遺跡
19 鶴田岸添遺跡
20 新溝丸田遺跡
21 鶴田橋原遺跡
22 鶴田前畑遺跡
23 久恵野元遺跡
24 新溝松原遺跡
25 久恵権藤遺跡
26 久恵北草場遺跡
27 久恵内次郎遺跡
28 鶴田武津恵遺跡
29 久恵岸ノ下遺跡
30 久恵川ノ上遺跡
31 久恵中野遺跡
32 鶴田西田遺跡
33 鶴田東大坪遺跡第1次
34 鶴田西畑遺跡
35 鶴田野田遺跡
36 久恵北水原遺跡
37 久恵今町遺跡
38 新溝犬丸遺跡
39 鶴田溝代遺跡
40 鶴田東大坪遺跡第2次
41 溝口北新替遺跡
42 鶴田東牛ヶ池遺跡
43 鶴田牛ヶ池遺跡
44 鶴田木屋ノ角遺跡
45 鶴田西牛ヶ池遺跡

Fig.2 周辺遺跡分布図 (1/30000)

Ⅲ. 調査成果

1. 溝口北新替遺跡

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字溝口字北新替に所在し、一帯は水田地帯で標高17.0m位の低位段丘上にある。調査は、平成9年度に施工された県営ほ場整備事業筑後東部地区9工区の支線用排水路設置範囲において、遺構を確認した239㎡を対象とした。調査は平成9年9月に実施し、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は小林勇作が担当した。

調査の結果、調査区からは溝等を検出し、以下はその成果について報告する。



Fig.3 溝口北新替遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 検出遺構

溝

SD05 (Fig.4)

調査区南部で検出した東西方向の溝で、25.5m分を検出した。溝の断面形は逆台形状を呈し、深さは0.6~0.8mを測る。黒茶色粘質土を基調とした埋土で、土層状況からは、少なくとも3回以上の掘り直しが行われていることが確認された。遺物は須恵器(甕)、土師器(坏・碗・片)、瓦質土器(片)が出土している。

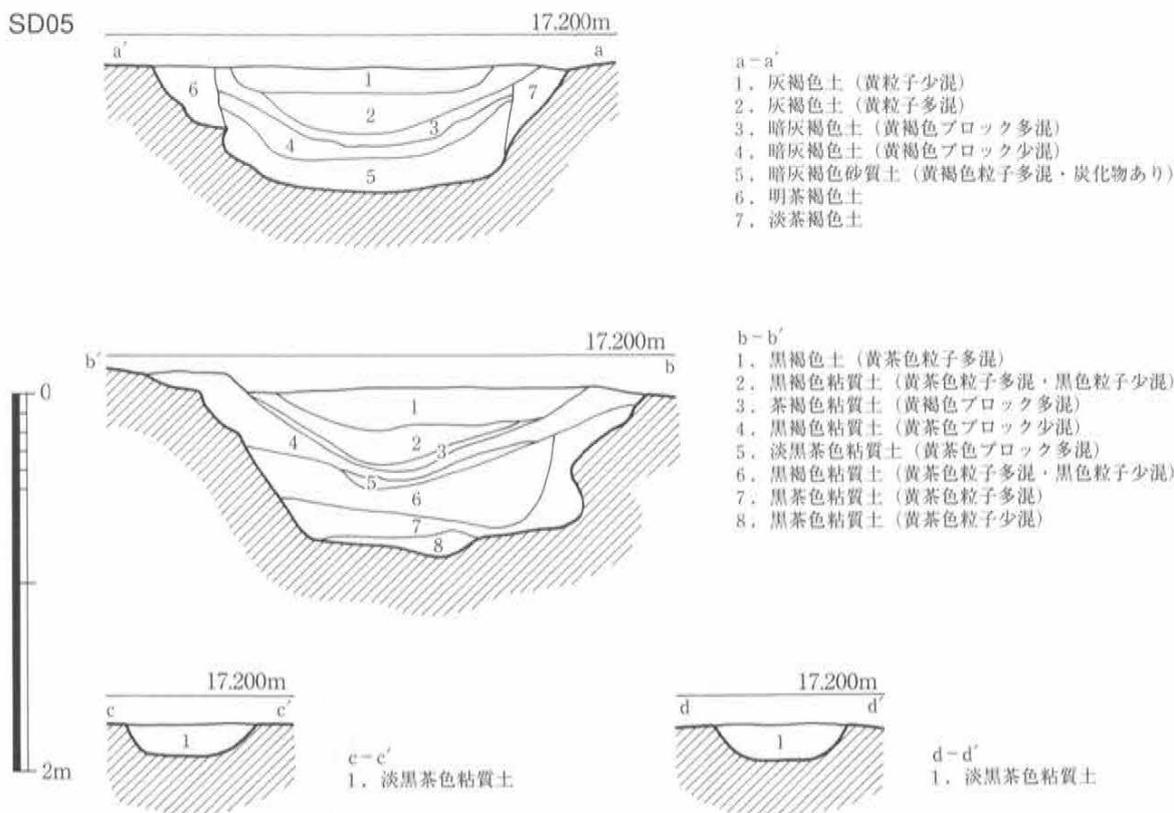


Fig.4 溝土層断面実測図 (1/40)

SD10 (Fig.4)

東西方向にはしる溝で、20.0m分を検出した。溝の断面形は逆台形状を呈し、深さは0.20m前後を測る。埋土は淡黒茶色粘質土の単一層で、出土遺物は土師器(片)を僅かに認めたが図示しうるものではなかった。

(3) 出土遺物

SD05 (Fig.5)

須恵器

甕(1) 甕の体部細片で、外面には正格子、内面には平行の叩き文が施される。胎土は5mm大の小石と黒色粒子を含み焼成はほぼ良好である。

土師器

坏(2) 口径12.0cm、底径8.0cm、器高3.5cmを復原し、口縁端部はやや外反する。表面は著しく磨耗しているが、内外面の口縁部及び体部はヨコナデ、体部下位は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りが看取できる。

(4) 小結

工事の都合上、トレンチ状の調査区設定となり、調査区からは溝2条の遺構が確認された。

今回、検出された溝からは出土遺物が乏しく、時期決定に至ることはできない。また、当遺跡周辺部(北へ約140m)に所在する久恵北水原遺跡からは南北溝5条が確認されているが、この調査においても当遺跡同様に各溝の時期決定までには至っていない。この地区に関しては集落跡等の生活の匂いのする遺構は確認されておらず、また、確認された溝の性格(流路・用水路・区画溝等)を考慮すると水田用地として活用され続けてきた地区であったことが想定される。

今後の調査に期待するところである。

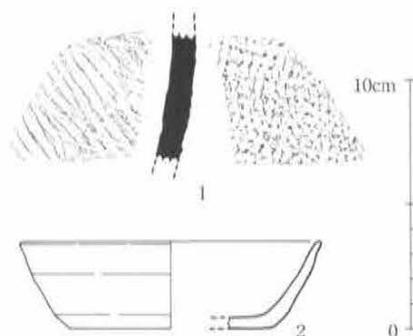


Fig.5 SD05出土土器実測図 (1/3)

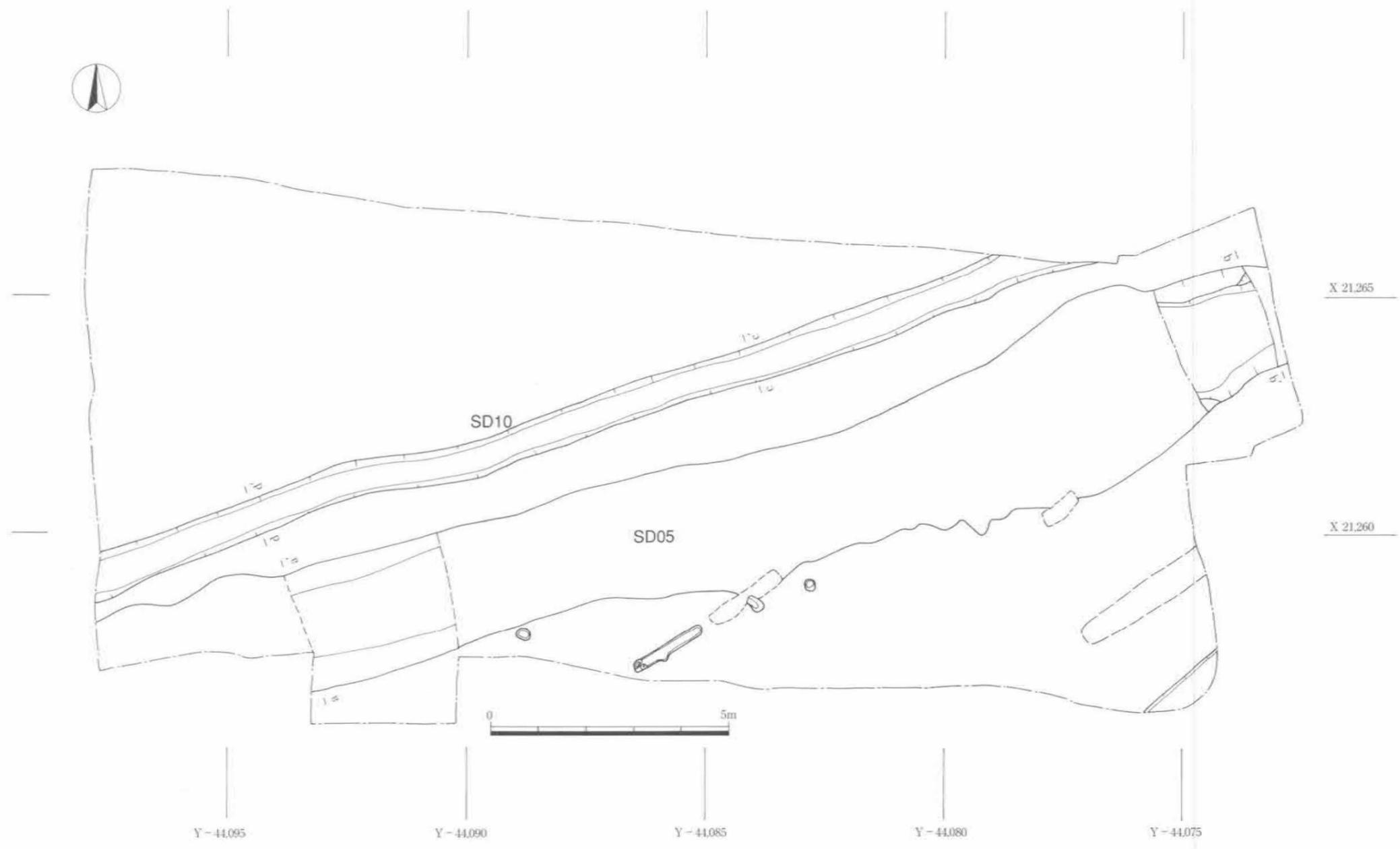


Fig.6 溝口北新替遺跡遺構全体実測図 (1/100)

2. 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査

(1) はじめに

鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査地は筑後市大字鶴田字東牛ヶ池に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ面と排水路について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約1200㎡、調査期間は平成10年9月18日から10月9日までである。発掘調査は上村英士が担当した。

調査地は標高約12m程の台地上に立地しており、現況は葡萄畑であった。遺溝上面は淡茶褐色土、明茶褐色土が約40cm程堆積し、その下は黄褐色粘質土の地山となる。遺構はこの地山に切り込む形で検出された。

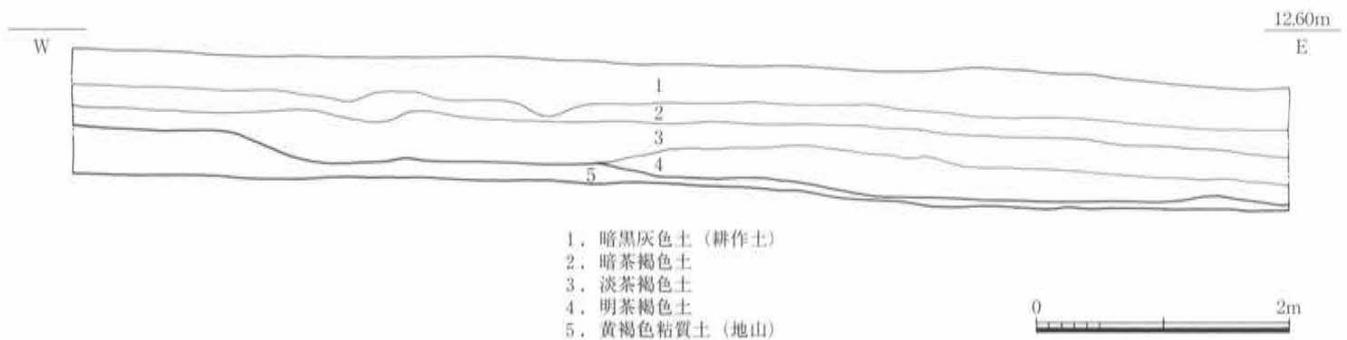


Fig.7 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 西北隅土層観察 (1/60)

(2) 検出遺構

土壌

1SK001 (Fig.8、Pl.2)

調査区中央で検出された略円形の土壌である。検出最大幅約2.25m、深さ約0.29mを測る。出土遺物は尖底の鉢と考えられる縄文土器底部片を1点出土している。壙底に5つのピットを確認した。

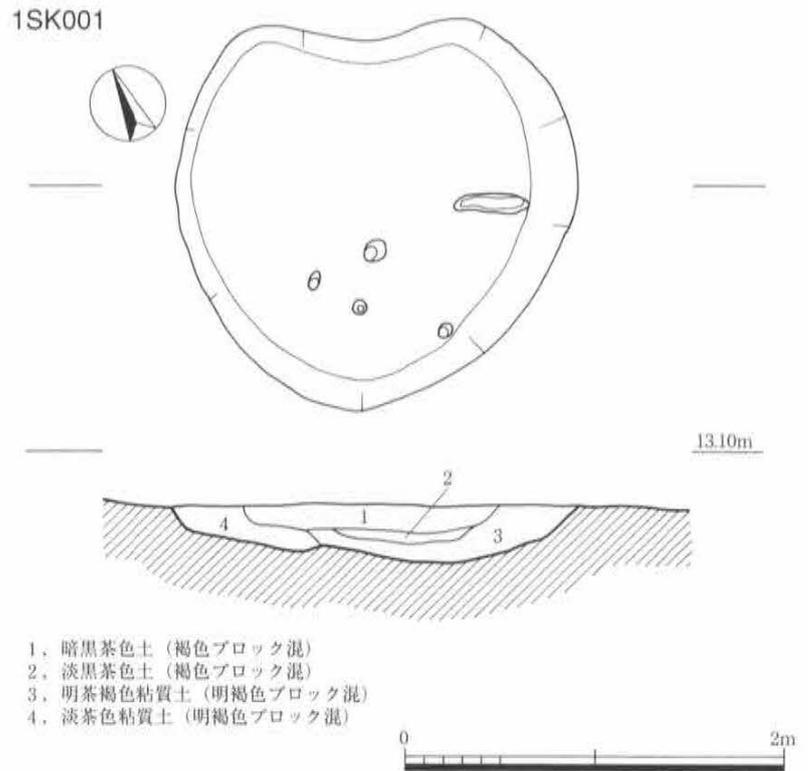
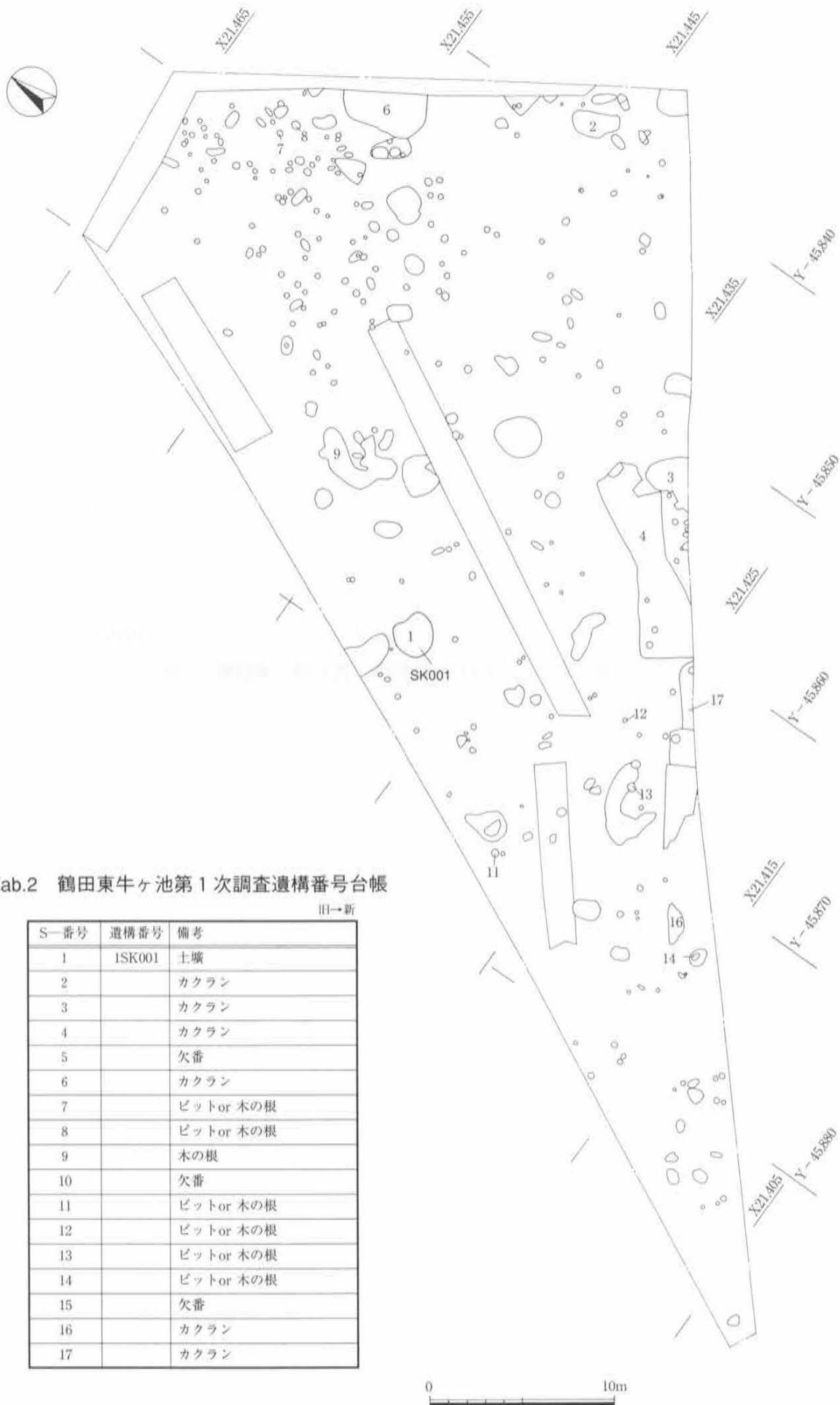


Fig.8 鶴田東牛ヶ池遺跡 1SK001遺溝実測図 (1/40)



Tab.2 鶴田東牛ヶ池第1次調査遺構番号台帳

旧→新

S-番号	遺構番号	備考
1	ISK001	土城
2		カクラン
3		カクラン
4		カクラン
5		欠番
6		カクラン
7		ビットor 木の根
8		ビットor 木の根
9		木の根
10		欠番
11		ビットor 木の根
12		ビットor 木の根
13		ビットor 木の根
14		ビットor 木の根
15		欠番
16		カクラン
17		カクラン

Fig.9 鶴田東牛ヶ池第1次調査遺構全体図 (1/300)

(3) 出土遺物

1SK001 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (1) 底部破片である。外面淡褐色、内面淡灰褐色を呈する。胎土に角閃石を含む。尖底であり、早期の中でも古い時期のものではないか。

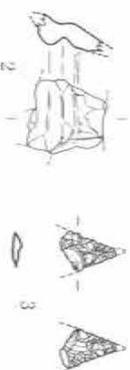


その他の出土遺物 (Fig. 10, Pl. 34)

ここに掲載する遺物は、検出したピットや攪乱からの出土遺物であるが、ピットについては包含層の取り残しや木の根であると考えられ、あえて遺構番号を与えていない。S番号は略測図の番号である。

S-4 (Fig. 10, Pl. 34)

不明製品 (2) 土師質の人形片と考えられる。内外面ともに淡褐色を呈し、胎土はよく精選されている。焼成は良好である。

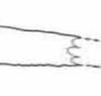


S-7 (Fig. 10, Pl. 34)

石鏃 (3) 黒曜石製の石鏃で、先端と両脚を欠損している。

S-9 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (4~6) 4は口縁部のみ資料で、外面が灰茶褐色、



内面が灰褐色を呈する。胎土に角閃石を含み、小砂粒を含む。焼成はやや不良である。5は胴部破片で外面に格子目の押型を施している。6は口縁部資料で口縁端部が欠損している。外面に格子目の押型を施す。4、5、6は同一個体の物と考えられる。

S-12 (Fig. 10, Pl. 34)

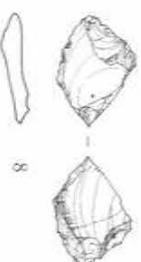
縄文土器 (7) 胴部細片で、外面に楕円文の押型を施す。外面は茶褐色、内面は灰褐色を呈する。小砂粒を含む胎土で焼成はやや良好である。



茶褐色土 (遺構上面の包含層出土遺物) (Fig. 10, Pl. 34)

石製品

剥片 (8) 黒曜石の剥片である。現存長3.1cm、幅4.5cmを測る。



表土 (Fig. 10, Pl. 34)

縄文土器 (9~11) 9は口縁部破片である。口縁部が外反し、外面に大型の楕円文を施し、内面は縦方向に条痕を施す。胎土には角閃石と小砂粒を含む。10は胴部細片で、外面に小型の楕円文を斜め方向に施す。内外面ともに黄褐色を呈する。11は胴部片で、外面に格子目の押型を施し内面をナデで仕上げる。角閃石と小砂粒を含み、焼成は良好である。

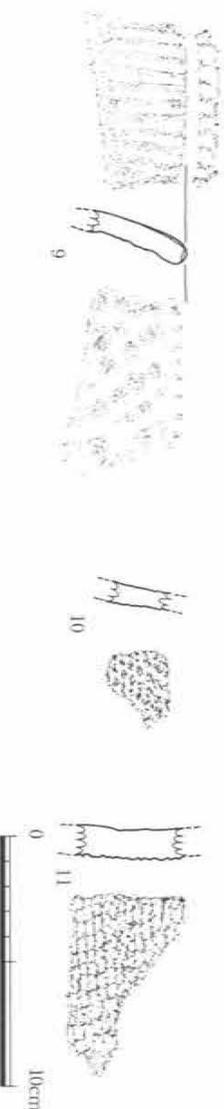


Fig. 10 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 出土遺物 (1~11) 土器1/3・石器1/2

(4) 小結

鶴田東牛ヶ池第1次調査では遺構として捉えられるものに限りがあったが、遺物は遺構や包含層から押型文土器を中心に資料を得られた。SK001出土遺物については本文中に述べているとおり、尖底と考えられる遺物で早期の古い段階に位置づけられるのではないか。包含層中他の押型文土器の施文については比較的大型の楕円文が斜位に施されており、早期の中でも新しい段階のものではないか。また、格子目の押型が施されたものが3点出土しており、市内出土の押型文土器の中で当遺跡では出土頻度としては高い方である。

Tab.3 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査出土遺物一覧表

S-番号	種別	器種
1	縄文土器	鉢
2	石製品	不明
3	土師器	甕口縁
4	縄文土器	鉢
	土師器	片
	陶器	片
	土製品	人形片?
6	縄文土器	鉢
	石製品	黒曜石剥片
7	石製品	黒曜石石鏃
8	土師器	片
9	縄文土器	鉢
11	土師器	片
12	縄文土器	鉢
13	土師器	片
14	土師器	片
16	土師器	片
17	磁器	染付片

Tab.4 鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査遺物観察表

【単位はcm、*は復原値、+は欠損】

遺構	Fig.	番号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残存	備考
SK001	10	1	縄文土器	鉢	001				底部片	
その他										
S-4	10	2	土師器	人形片	001				小片	
S-7	10	3	石製品	石鏃	001					黒曜石
S-9	10	4	縄文土器	鉢	001				口縁部小片	
*	10	5	*	*	002				胴部片	格子目
*	10	6	*	*	003				口縁部片	格子目
S-12	10	7	縄文土器	鉢	001				胴部片	楕円文
茶褐色土	10	8	石製品	剥片	001					黒曜石
表土	10	9	縄文土器	鉢	001				口縁部片	楕円文
*	10	10	*	*	003				胴部片	楕円文
*	10	11	*	*	002				胴部片	格子目

3. 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査

(1) はじめに

鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査地は筑後市大字鶴田字東牛ヶ池に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ面について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約3000㎡、調査期間は平成10年10月9日から10月30日までである。発掘調査は上村英士が担当した。

調査地は鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査の西隣地である。基本土層は1次調査と同じであるが、葡萄棚の基礎等で遺構面の多くは破壊を受けていた。

(2) 検出遺構

竪穴住居

2SI010 (Fig.11, 12, Pl.5, 6)

調査区北端で検出した竪穴住居である。検出東西長約2.9m、南北長約4.45m、床面深さは約0.09mの長方形プランを呈する。埋土には住居の建材と考えられる炭化した木片を検出している。住居中央には石が組み立てられており、炉の役目を果たした可能性が考えられる。また、北東隅にはベッドが存在した痕跡が見受けられ、南壁際には屋内土壙が掘られている。出土遺物は縄文土器、土師器甕、甑、坏、ミニチュア土器、焼土、黒曜石剥片、屋内土壙からは弥生土器壺、不明石製品が出土している。

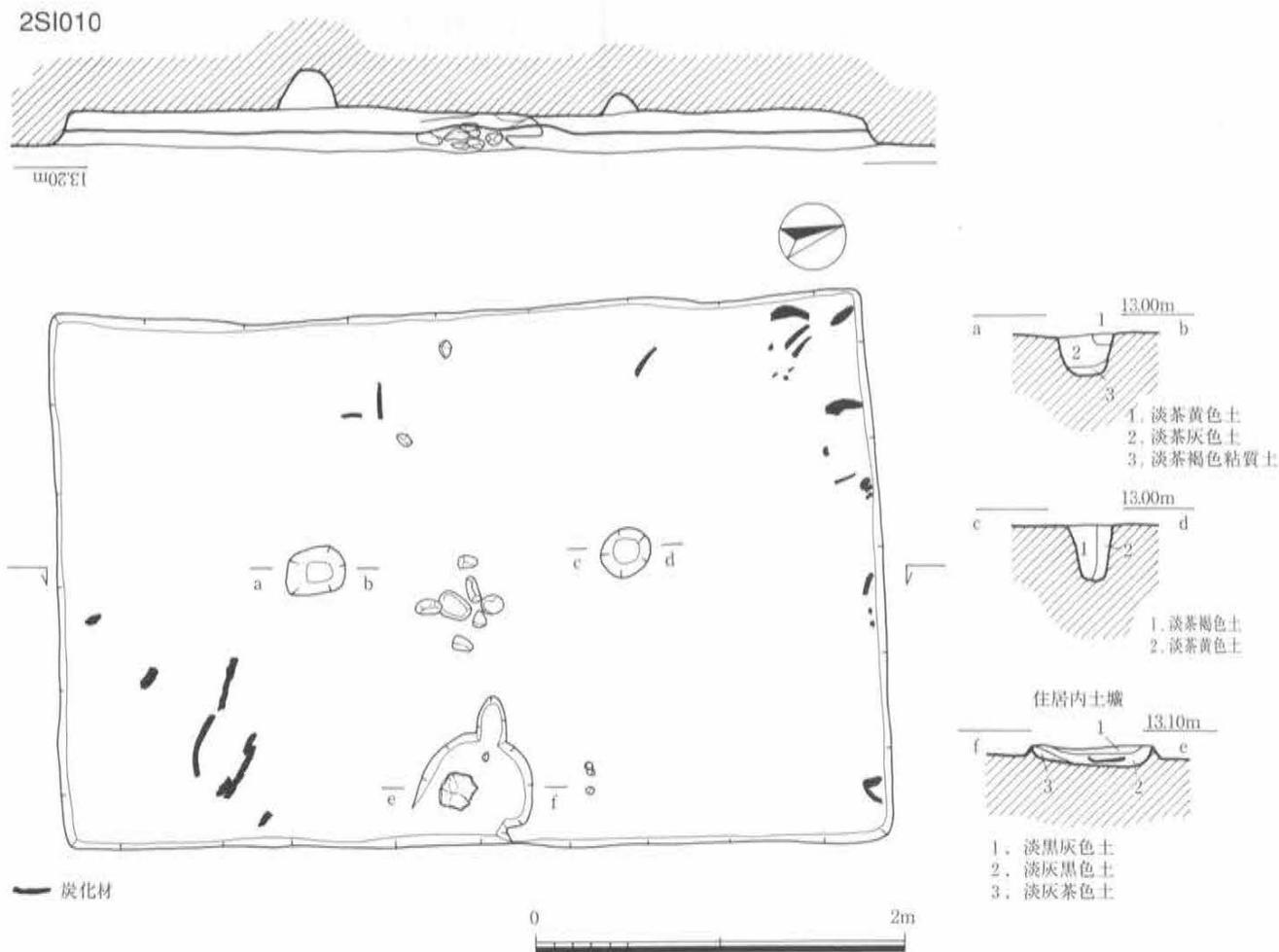
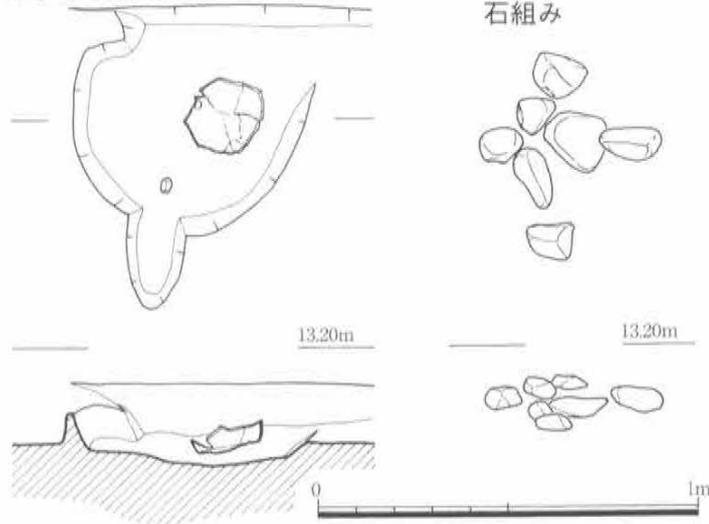


Fig.11 2SI010遺構実測図 (1/40)

2SI010 住居内土壌



土壌

2SK005 (Fig.12, Pl.4)

調査区中央で検出した土壌で、落とし穴状遺構になる可能性が考えられる。プランは楕円形を呈し、検出南北長約1.6m、東西長約1.0mを測る。深さは約0.49mである。北側壙底は袋状にオーバーハングしている。出土遺物は皆無であった。

(3) 出土遺物

2SI010 (Fig.13, Pl.34, 35)

縄文土器 (1~8) 1は無文土器で内面に縦位の条痕が入る。2~4・6・7は押型土器で、胎土に角閃石を多く含んでいる。2~4の外面には大型の楕円文が施され、内面はナデられる。いずれも施文方向は斜位である。6は口縁部片で直線的に立ち上がる。内外面共に山形文が斜位に施される。7は外面に横方向の山形文が施され、内面はナデられる。5は口縁部片で施文はなく、内外面共にナデられる。8は底部片であるが、内外面共にナデにより仕上げられ、押型文の一部が外面に残る。

土師器 (9~12) 9は口縁破片でミニチュアの可能性があり、口縁外面の一部がヨコナデ、他はナデである。10は小型の甕で、口縁が歪んでいる。口縁部をヨコナデ、体部内外面はナデられる。胎土は精選されている。11、12は甕で内外面共にヨコナデで、11は角閃石を含み、共に焼成は良好である。

2SK005

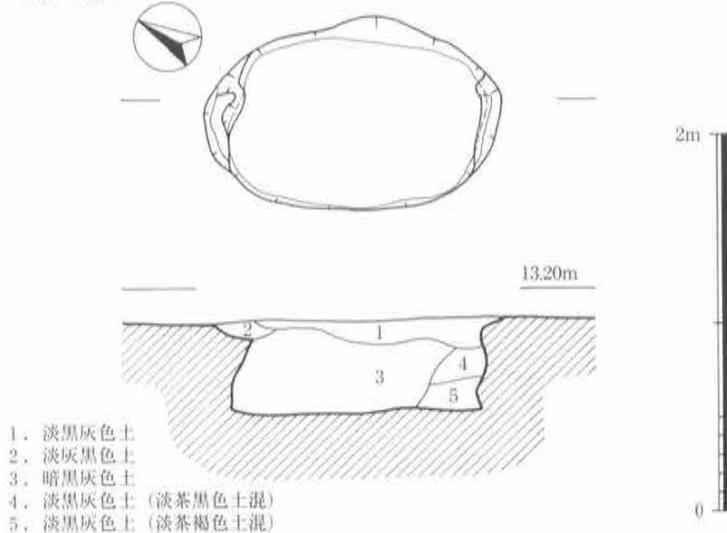


Fig.12 2SI010住居内土壌、石組み、2SK005実測図 (1/20・1/40)

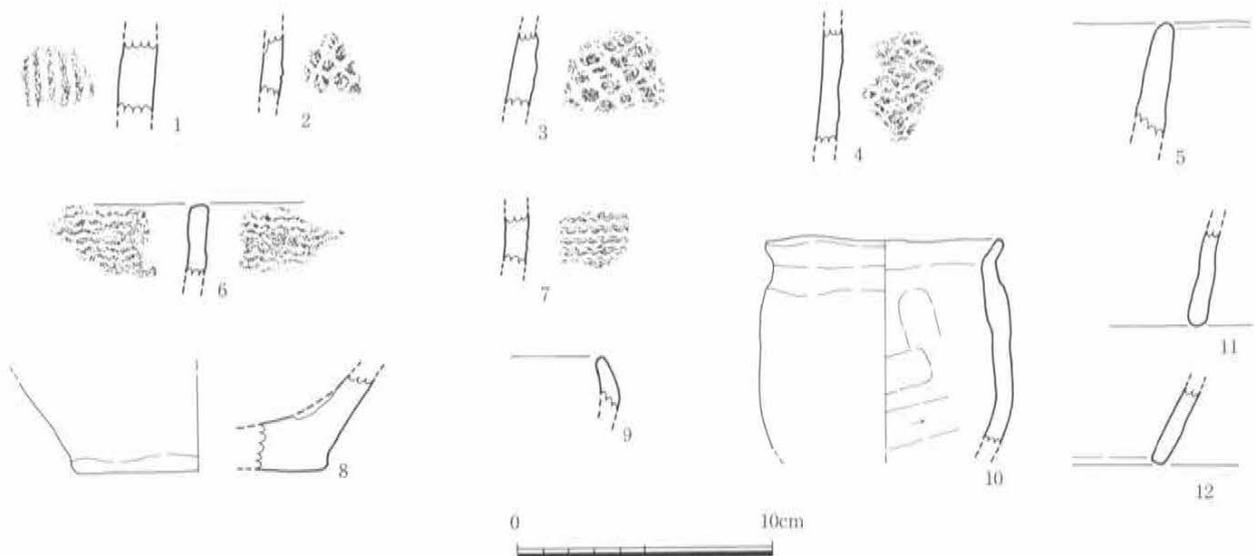


Fig.13 2SI010出土遺物① (1/3)



Fig.14 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査遺構全体図 (1/300)

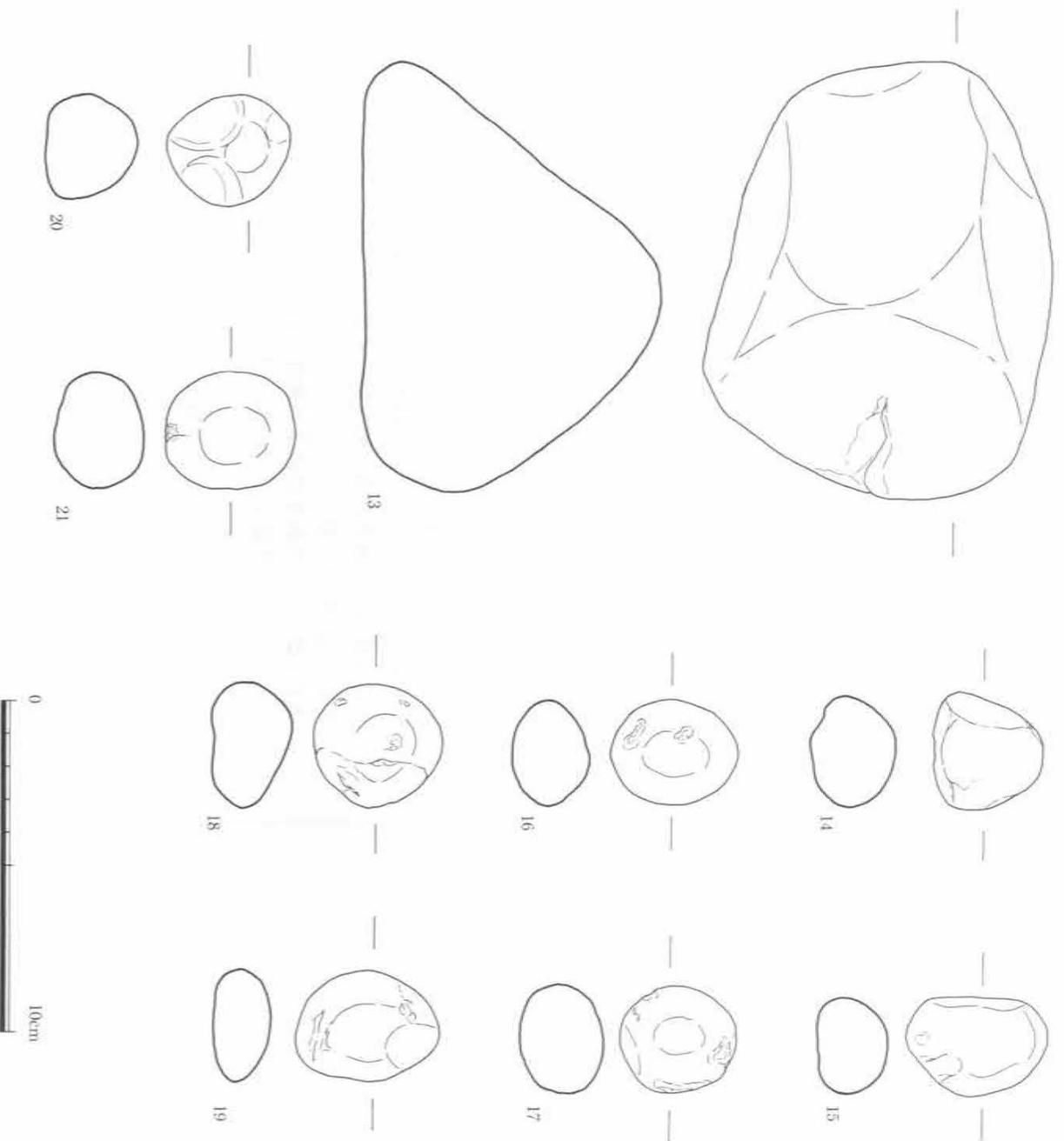


Fig.15 2S1010出土遺物② (1/2)

石製品 (13~21) 13は住居中央の石組みの一つで花崗岩である。2次的に火を受けており、赤褐色を呈している。14~21は不明石製品でいずれも花崗岩である。加工痕はないが法量が同様であることや、住居床面に近い部分から出土しており、生活用具の可能性がある。

2S1010住居内土壙 (Fig.16・17, Pl.6)

土甕器 (22) 平底の甕で、底径9.0cmを測り、残存器高は20.2cmである。器厚は約0.6cm程度である。内外面を刷毛目で、内面に指頭痕が残る。焼成はやや不良で内外面共に淡茶褐色である。

石製品 (23) 住居覆土から出土の (14~21) 石と同様で、花崗岩である。

その他の出土遺物 (Fig.18, Pl.36)

ここに掲載する遺物は、検出したピットや攪乱からの出土遺物であるが、ピットについては包含層の取り残しや木の根であると考えられ、あえて遺構番号を与えていない。S番号は略測図の番号である。茶褐色土は包含層、トレンチは試掘時の出土遺物である。

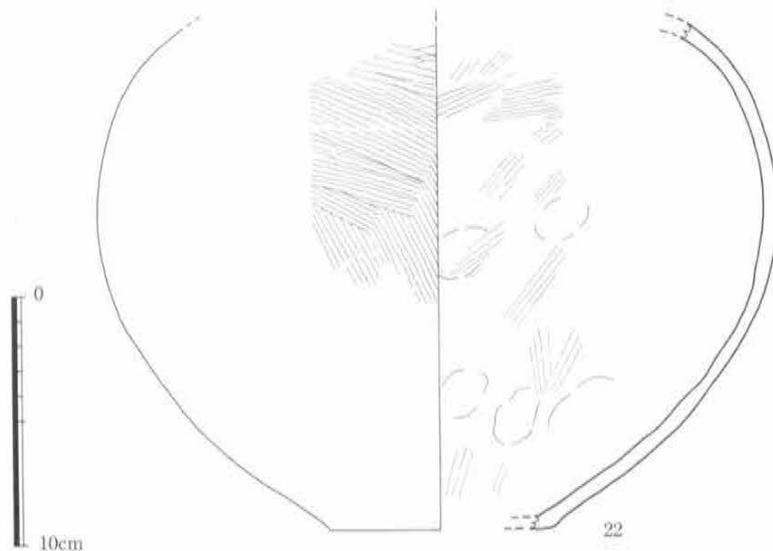


Fig. 16 2SI010住居内土壙出土遺物 (1/3)

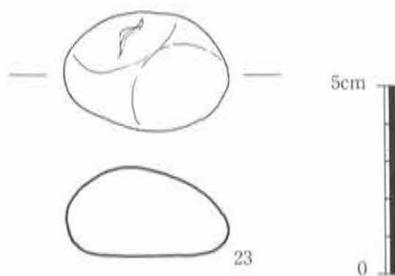


Fig. 17 2SI010住居内土壙出土遺物 (1/2)

S-2 (Fig. 18, Pl. 36)

縄文土器 (24) 口縁部の破片で、直線的に立ち上がり、端部は比較的丸く仕上げられる。内面はナデられ、外面に楕円文の押型がほぼ横方向に施される。胎土には多量の角閃石を含む。

S-3 (Fig. 18, Pl. 36)

縄文土器 (25) 外面に楕円文の押型がほぼ横方向に施される。内面はナデられ、器壁は13mmと厚い。胎土には多量の角閃石を含む。

S-12 (Fig. 18, Pl. 36)

須恵器 (26) 壺の肩部片で外面上位にヘラ削り、下位にヨコナデの調整が残り、内面はヨコナデ。焼成は良好で内面は淡緑灰色、外面は淡青灰色である。

S-17 (Fig. 18, Pl. 36)

陶磁器 (27) 白磁の紅皿。口径4.2cm、器高1.5cm、底径0.8cmを測る。内面と外面の上部に淡緑白色の釉がかかる。

茶褐色土 (Fig. 18, Pl. 36, 37)

縄文土器 (28~40) 押型文土器で、胎土に角閃石が多く入る。28~34は外面に山形文が施され、内面はナデ。施文方向は横位か若干斜位になる。35~40は楕円文が施された押型文土器で、35・36は口縁部片で、端部を丸く仕上げる。楕円文は比較的小さく35は斜位に、36は横位に施す。37~40は楕円文を施した押型文土器で、37は小型、38~40は大型の楕円文であり、内面はナデ。施文方向は38・40が横位、他が斜位である。

陶磁器 (41) 緑釉の陶器皿である。底径4.4cmを測る。内面に深緑の釉を施し、見込みを蛇目に釉をかき取り、目跡が残る。外面には白緑色の釉が高台外面まで施される。

石製品 (42) 黒曜石の剥片である。剥離面の風化が著しく古い時期のもの可能性がある。

トレンチ (Fig. 18, Pl. 37)

縄文土器 (43~48) 43は外面に山形文が施される。施文は横位で内面はナデ。44~47は楕円文の押型が施され、46は楕円が小型で横位に施文される。47は口縁部片で、かなり外反し、壺になる可能性が考えられる。楕円は大型であるが横位に施文する。内面は横方向にナデる。48は底部片で平底である。底径7.2cmを測る。外面に山形文が施され、内面はナデである。

石製品 (49) 結晶片岩製の石包丁である。紐穴の芯心距離は推定で2.6cm、背まで1.7cmを測る。

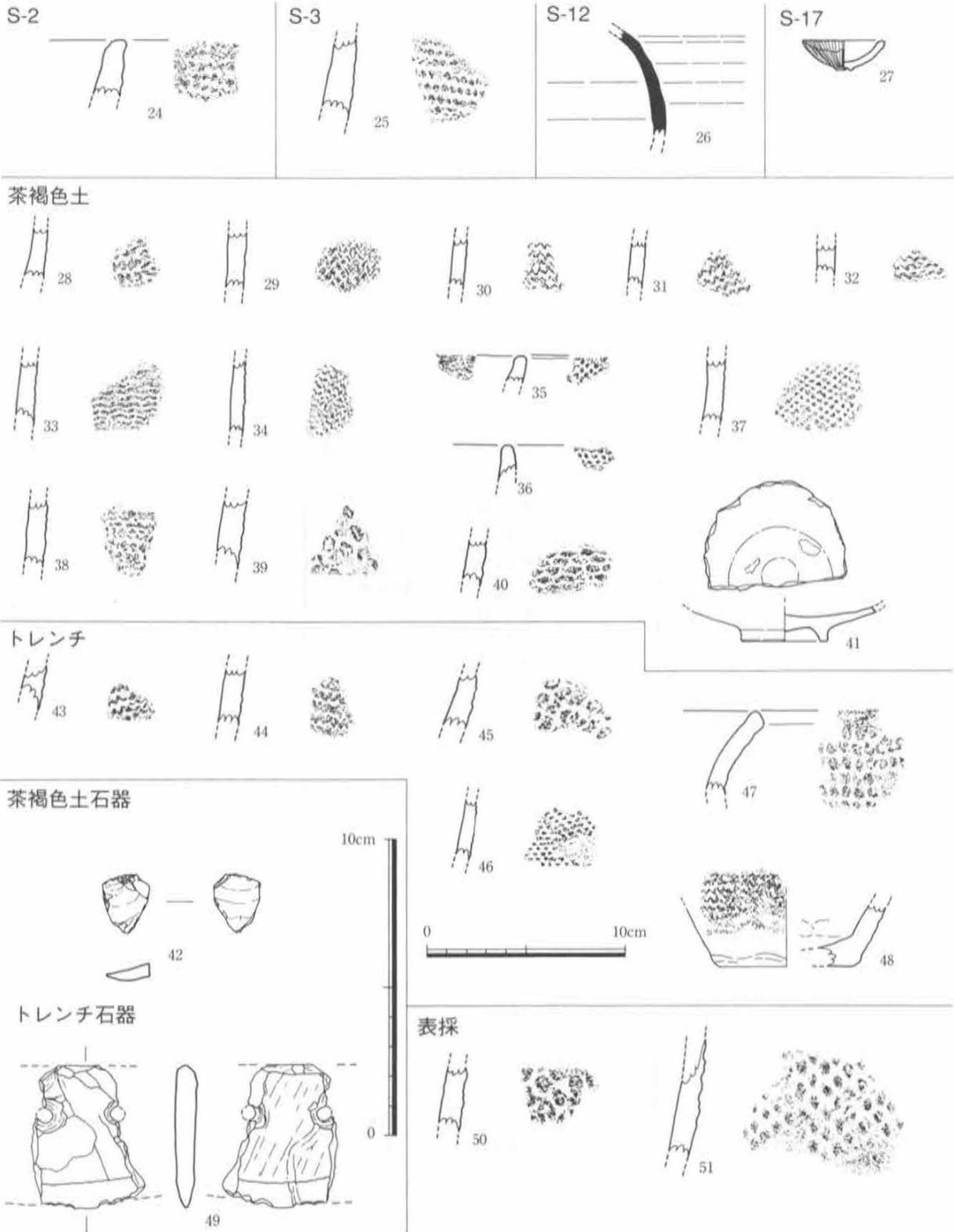


Fig.18 その他の出土遺物（土器1/3、石器1/2）

表採 (Fig.18、Pl.37)

縄文土器（50～51）外面に大型の楕円文を施す押型文土器で内面はナデである。施文方向は斜位である。胎土に多量の角閃石を含む。焼成はやや不良である。

(4) 小結

鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査は1次調査に隣接した調査で標高12m程の台地上に形成されている。周辺地形を見ると、2次調査西側と北側は標高9m程の谷状地形になっており、推定古代官道が南北に走る。1次調査東側と南側には鶴田地区の集落が残る。

今回の調査では竪穴住居1棟、土壙1基を主な遺構として検出しているが、1次調査の遺構と合わせても面積に対して遺構検出数は少ない。遺構の密集地は調査地点から南東に存在する東部地区遺跡群(筑後市第11集、27集)に展開するものと考えられる。以下、竪穴住居に関して若干所見を述べる。

検出した竪穴住居は長軸を南北にとり、ベッド状遺構、住居内土壙を設置しており覆土には建材と考えられる炭化物を検出している。住居規模と施設、出土遺物から考えると古墳時代に該当するであろう。しかし、特異なものとして住居中央で検出された石組みの存在である。住居北側は鶴田牛ヶ池第1次調査が行われており、数十基の縄文早期の石組み炉を検出している。石材や組み方については、ほぼ同様であり、検出レベルもほぼ同様である。石組み自体も2本柱の中心線から東に若干ずれており、住居と石組みの関係については興味深い資料となる。

Tab.6 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査出土遺物一覧表

S-番号	種別	器種
2	縄文土器	鉢
	土師器	甕、高杯
3	縄文土器	鉢
4	石製品	黒曜石剥片
6	縄文土器	鉢
7	土師器	片
8	土師器	片
	石製品	黒曜石剥片
10	縄文土器	鉢
	弥生土器	甕底部
	土師器	甕、飯、鉢、杯
	石製品	不明品
	その他	焼土
11	石製品	黒曜石剥片
12	須恵器	壺片
13	土師器	片
14	土師器	片
16	土師器	片
	石製品	黒曜石剥片
17	磁器	紅皿
	石製品	黒曜石剥片
18	土師器	片
	土師器	片
トレンチ	縄文土器	鉢
	土師器	甕片
	磁器	白磁、染付
	陶器	片
	石製品	石包丁、黒曜石剥片
		サスカイト片
カクラン	土師器	片
茶カツ土	磁器	染付片
	陶器	片
	石製品	黒曜石剥片
表採	縄文土器	鉢
	陶器	片
	石製品	黒曜石剥片
		サスカイト片

Tab 7 鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査遺物観察表

【単位はcm, *は推定値, +は欠損】

遺 構	Fig.	番 号	名 称	器 種	尺 寸 号	器 高	底 径	残 存	備 考
2S1010	13	1	縄文土器	鉢	003			胴部片	外面無文、内面条痕
	13	2	*	*	001			胴部片	栴円文
	13	3	*	*	004			胴部片	栴円文
	13	4	*	*	005			胴部片	栴円文
	13	5	*	*	001			口縁部片	
	13	6	*	*	006			口縁部片	山形文
	13	7	*	*	004			胴部片	山形文
	13	8	*	*	001			底部片	
	13	9	土師器	不明	002			口縁部片	
	13	10	*	甕	001			1/3	
	13	11	*	甕	003			小片	
	13	12	*	*	002			小片	
	15	13	石製品	花崗岩	013			完形	
	15	14	*	*	005			*	舟使用石
	15	15	*	*	006			*	不明石製品
	15	16	*	*	008			*	不明石製品
	15	17	*	*	007			*	不明石製品
15	18	*	*	010			*	不明石製品	
15	19	*	*	011			*	不明石製品	
15	20	*	*	012			*	不明石製品	
15	21	*	*	009			*	不明石製品	
2S1010(住居内土壙)	16	22	土師器	甕	001	* 20.2	* 9.0	1/6	
	17	23	石製品	花崗岩	002			完形	不明石製品
その他									
S-2	18	24	縄文土器	鉢	001			口縁部片	栴円文
S-3	18	25	縄文土器	鉢	001			胴部片	栴円文
S-12	18	26	須恵器	甕	001			体部片	
S-17	18	27	白磁	紅皿	001	0.8	*1.5	1/3	
茶褐色土	18	28	縄文土器	鉢	007			胴部片	山形文
	18	29	*	鉢	009			胴部片	山形文
	18	30	*	鉢	003			胴部片	山形文
	18	31	*	鉢	004			胴部片	山形文
	18	32	*	鉢	005			胴部片	山形文
	18	33	*	鉢	008			胴部片	山形文
	18	34	*	鉢	006			胴部片	山形文
	18	35	*	鉢	011			口縁部片	栴円文
	18	36	*	鉢	012			口縁部片	栴円文
	18	37	*	鉢	010			胴部片	栴円文
	18	38	*	鉢	002			胴部片	栴円文
	18	39	*	鉢	013			胴部片	栴円文
	18	40	*	鉢	001			胴部片	栴円文
	18	41	緑釉	皿	001	*4.4		底部1/2	
トレンチ	18	42	石製品	銅片	014			黒曜石	
	18	43	縄文土器	鉢	005			胴部片	山形文
	18	44	*	*	003			胴部片	山形文
	18	45	*	*	001			胴部片	栴円文
	18	46	*	*	004			胴部片	栴円文
	18	47	*	鉢?	002			口縁部片	栴円文
	18	48	*	鉢	001	*7.2		底部片	平底
	18	49	石製品	石包丁	002			小片	片岩製
表塚	18	50	縄文土器	鉢	001			胴部片	栴円文
	18	51	*	*	002			胴部片	栴円文

4. 鶴田西牛ヶ池遺跡

(1) はじめに

鶴田西牛ヶ池遺跡は筑後市大字鶴田西牛ヶ池に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区第12工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ面と排水路について遺構を検出した為、本調査を行うこととなった。調査対象面積は約2400㎡、調査期間は平成10年12月18日から平成11年3月30日迄である。発掘調査は上村英士が担当し、柴田剛の協力を得た。調査地の鶴田西牛ヶ池遺跡は鶴田西牛ヶ池遺跡第2次調査区の西側台地上に展開する。基本土層 (Fig.19) は耕作土下の淡茶褐色土に堅穴住居跡等が切り込む形で検出され、地山は明黄褐色粘質土である。図面の内、遺構全体図は完掘時の航空測量図を用い、個別遺構図は手測りによる実測図である。赤色ラインは貼り床下のラインである。

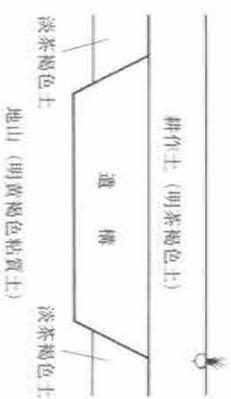


Fig.19 基本土層模式図

S-番号	遺構番号	備考	川→新
1	SI001	堅穴住居	48
2		カクラン	49
3		ベツト	50
4		ベツト	51
5	SX005	周溝状遺構	52
6		カクラン	53
7		カクラン	54
8		ベツト	55
9		カクラン	56
10	SI010	堅穴住居	57
11	SX011	ベツト	58
12		ベツト	59
13		ベツト	60
14		ベツト	61
15	SB015	独立柱建物	62
16		ベツト	63
17		カクラン	64
18		ベツト	65
19		ベツト	66
20	SX020	周溝状遺構	67
21		土堀orベツト	68
22	SX022	ベツト	69
23		ベツト	70
24		土堀orSB065	71
25	SI025	堅穴住居 29→25	72
26		カクラン	73
27		カクラン	74
28		ベツト	75
29		ベツト	76
30	SI030	堅穴住居	77
31		ベツト	78
32	SX032	ベツト	79
33		ベツト	80
34		ベツト 34→35	81
35	SI035	堅穴住居	82
36	SX036	ベツト 36→35	83
37		ベツトSB055	84
38		ベツトSB045	85
39		ベツトSB055	86
40	SB040	独立柱建物	87
41		ベツトSB045	88
42		ベツトSB045	89
43		カクラン	90
44		ベツト	91
45	SB045	独立柱建物	92
46		カクラン	93
47	SX047	ベツト	94
			95
			96
			97
			98
			99
			100
			101
			102
			103
			104
			105
			106
			107
			108
			109
			110
			111
			112
			113
			114
			115
			116
			117
			118
			119
			120
			121
			122
			123
			124
			125
			126
			127
			128
			129
			130
			131
			132
			133
			134
			135
			136
			137
			138
			139
			140
			141

Tab.8 鶴田西牛ヶ池遺跡遺構番号台帳

(2) 検出遺構

竪穴住居

SI001 (Fig. 20, Pl. 9) 検出住居の中では最も東に位置する。検出南北長軸約4.65m、東西長約3.55m、床面深さ約0.15mを測り、長方形のプランを呈する。主軸はN-33°-E。住居中央には炉と考えられる遺構を検出したが、炭化物などは確認していない。埋土は淡黒灰色土。南壁際には住居内土壌が掘り込まれ、小型の鉢が完形で出土。埋土は淡灰黒色土。住居柱穴は確認されなかった。住居覆土から甕型土器片、高坏型土器片、黒曜石剥片、床面下から甕型土器小片を出土している。

SI010 (Fig. 23, Pl. 10~12) 調査区中央に位置する大型の住居である。検出東西長約5.9m、南北長約4.5m、床面深さ約0.27mを測る隅丸長方形のプランを呈する。主軸はN-71°-E。住居内四隅にベット状遺構を検出し、ベッドは地山削りだしに若干の整地をして形成している。また、中央に炉跡を検出し、柱は四本柱である。南壁際には住居内土壌を掘り込んでいる。床面検出時、投げ込まれた石によって土器が破損された状況と、赤褐色粘土と高坏型土器と不明土製品（土製支脚？）を検出している。このような赤褐色粘土や不明土製品は他の住居では全く確認されず、炉跡以外にもかなりの範囲で焼土を検出していることから祭儀的行為が行われた可能性が考えられる。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、器台型土器片、壺型土器片、土師器灯明皿片、坏片、染付皿片、陶器播鉢片、砥石を出土した。住居内土壌からは甕型土器底部片を出土している。床下からは甕型土器片を出土。

SI 001

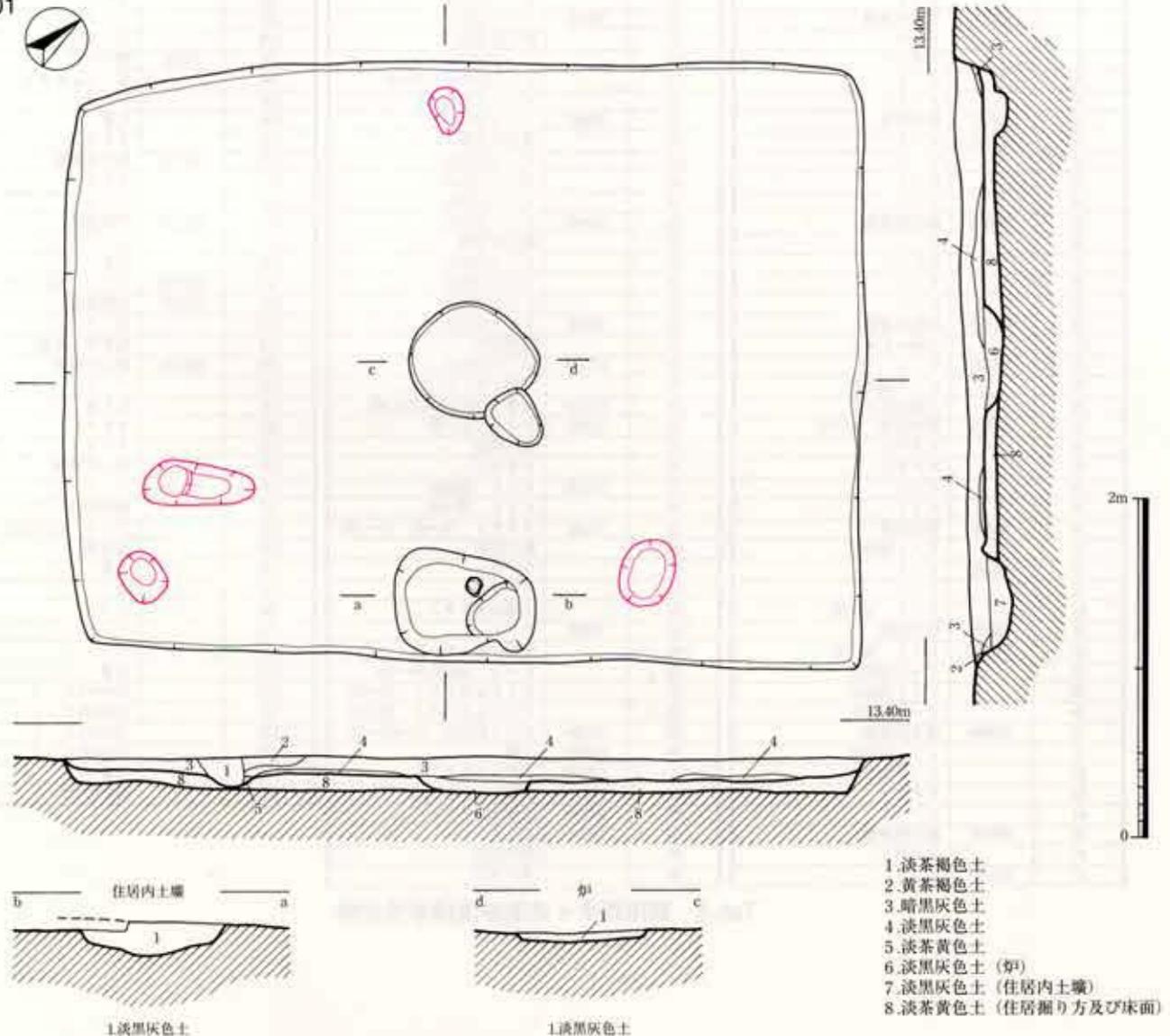


Fig.20 SI001遺構実測図 (1/40)



Fig.21 鶴田西牛ヶ池遺跡略測図 (1/200)



Fig.22 鶴田西牛ヶ池遺構全体図 (1/200)

SI010

明赤褐色粘質土 焼土

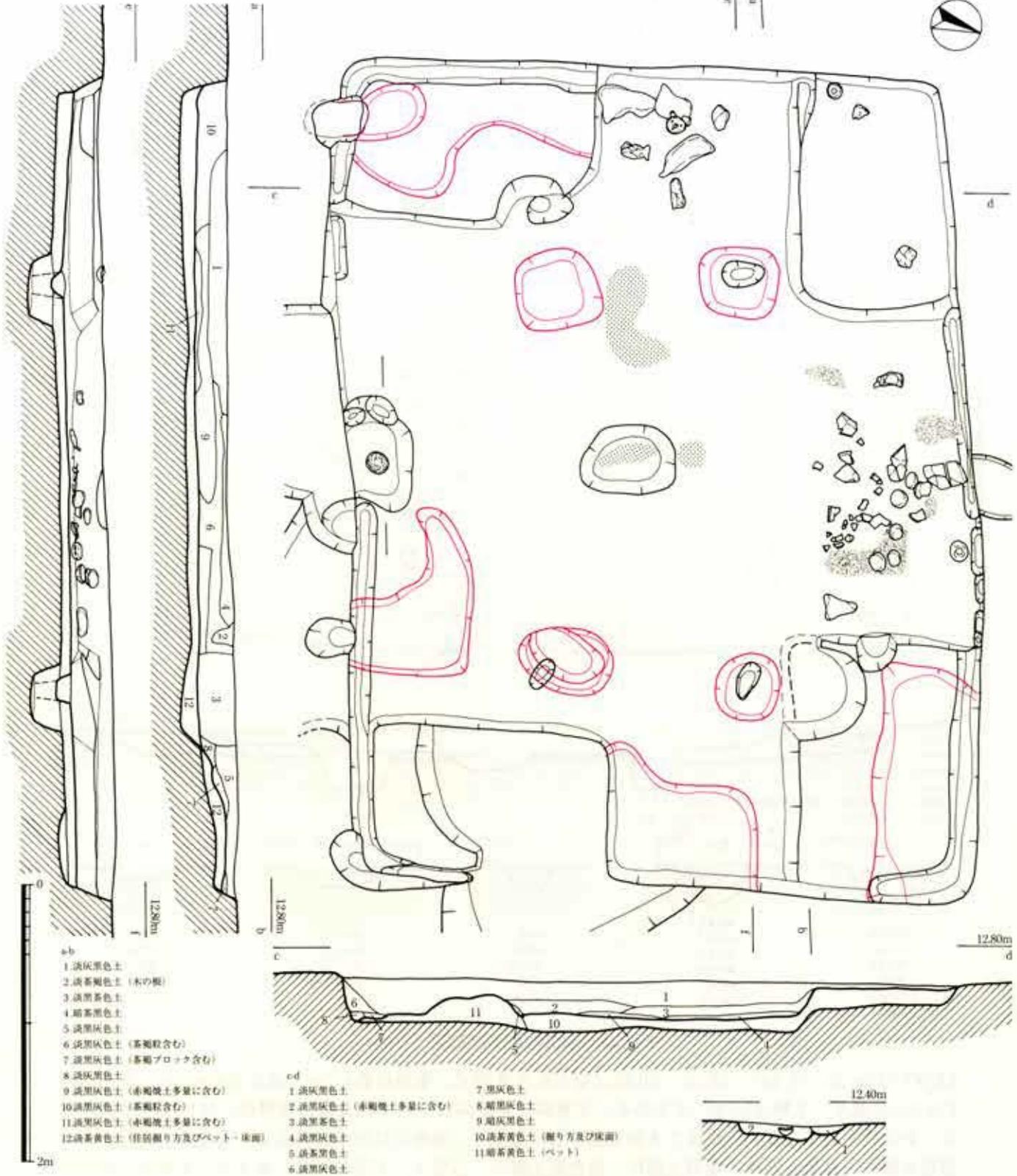


Fig.23 SI010遺構実測図 (1/40)

SI025 (Fig.24, Pl.13) 調査区西端に位置し、SI030を切る。検出南北長約3.1m、東西長約5.7m、床面深さ約0.2mを測り、主軸はN-78°-Eである。東西にベッド状遺構を検出し、南壁際には住居内土壌を掘る。中央に炉跡を検出したが、炭化物等は確認していない。また、東西に2本柱穴を検出している。遺物は住居覆土から壺型土器片、甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、器台型土器片、ミニチュア土器、鉄製鎌、メンコ状土製品、土製柄杓片、不明石製品、床面から甕型土器片、不明石製品、床下から甕型土器片、炉跡から土器小片、住居内土壌から鉢型土器片を出土している。

SI025

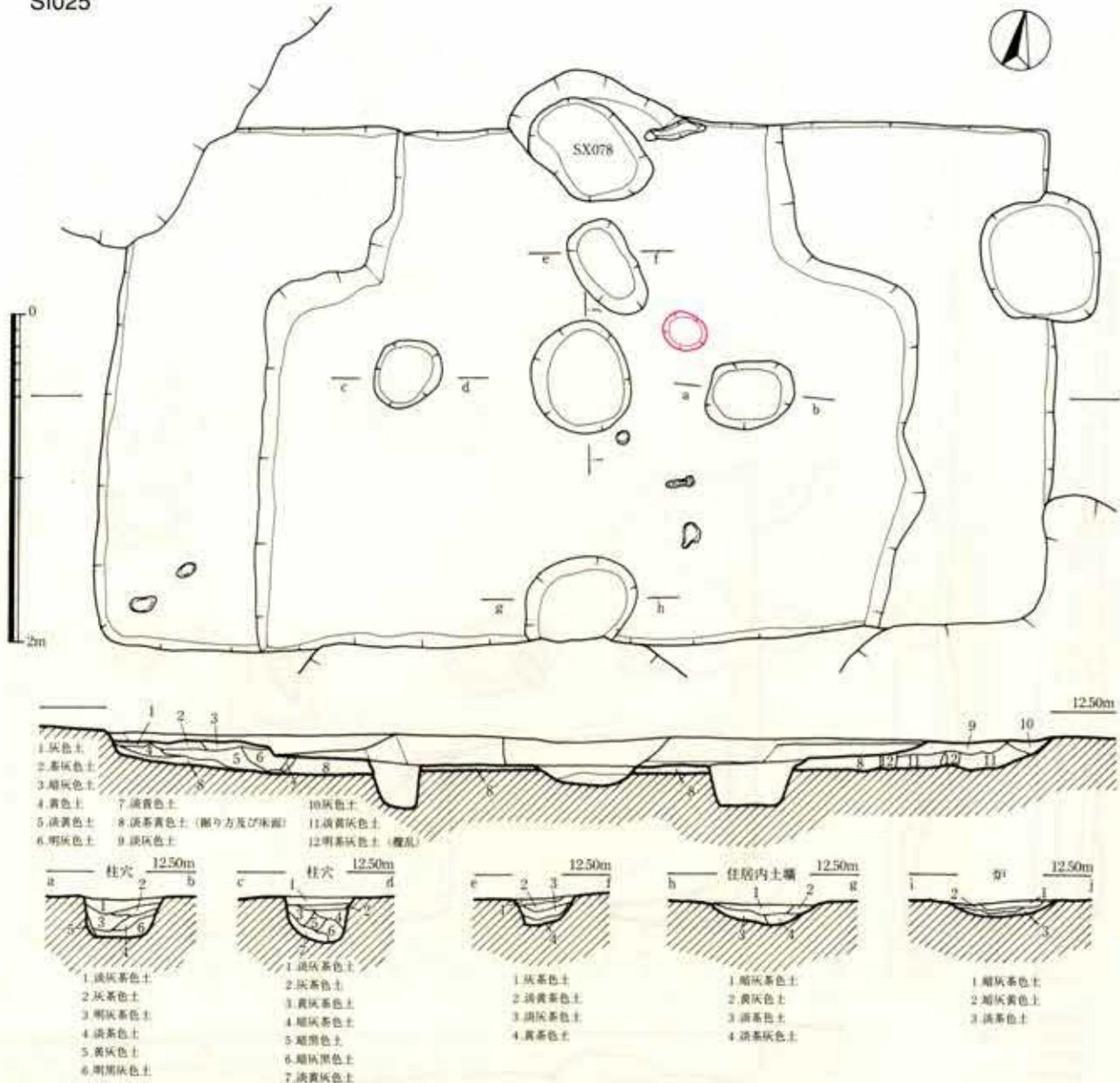
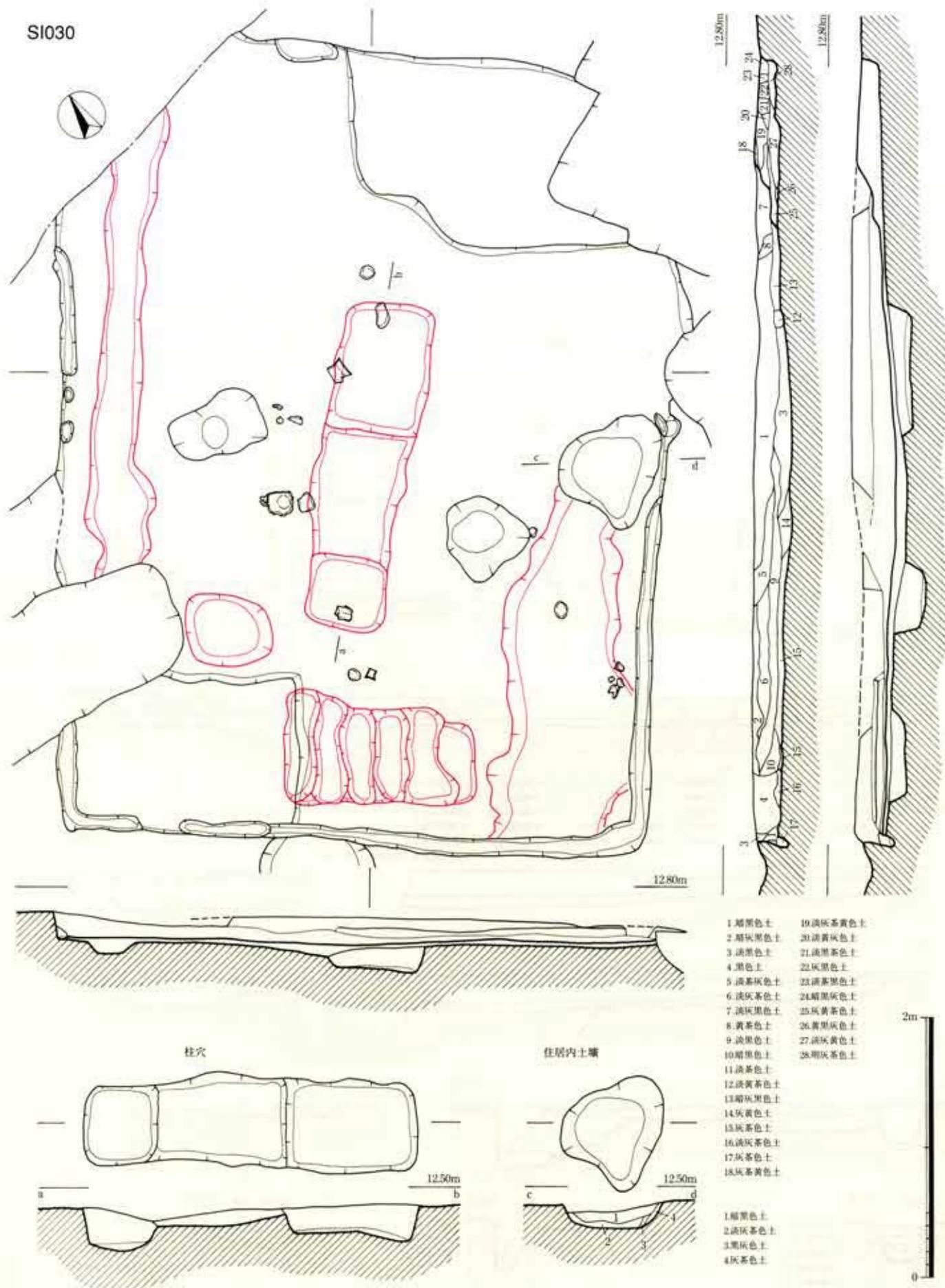


Fig.24 SI025遺構実測図 (1/40)

SI030 (Fig.25, Pl.14) SI025・SI085に切られる住居で、東西長約4.7m、南北長約6.1m、床面深さ約0.2mを測り、主軸はN-30°-Eである。北東隅と南西隅にベッド状遺構、南壁際には住居内土壌を掘る。炉は検出していない。柱は2本柱で掘り方は布掘り、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、壺型土器片、器台型土器片、石包丁、不明石製品、床下から土器片、住居内土壌から土器片を出土している。

SI030



- | | |
|----------|-----------|
| 1 暗黑色土 | 19 淡灰茶黄色土 |
| 2 暗灰黑色土 | 20 淡黄灰色土 |
| 3 淡黑色土 | 21 淡黑褐色土 |
| 4 黑色土 | 22 灰黑色土 |
| 5 淡茶灰色土 | 23 淡茶黑色土 |
| 6 淡灰褐色土 | 24 暗黑灰色土 |
| 7 淡灰黑色土 | 25 灰黄色土 |
| 8 黄褐色土 | 26 黄黑灰色土 |
| 9 淡黑色土 | 27 淡灰黄色土 |
| 10 暗黑色土 | 28 暗灰褐色土 |
| 11 淡褐色土 | |
| 12 淡黄褐色土 | |
| 13 暗灰黑色土 | |
| 14 灰黄色土 | |
| 15 淡灰褐色土 | |
| 16 淡灰褐色土 | |
| 17 灰褐色土 | |
| 18 灰茶黄色土 | |
-
- | |
|---------|
| 1 暗黑色土 |
| 2 淡灰褐色土 |
| 3 暗灰色土 |
| 4 灰褐色土 |

Fig.25 SI030遺構実測図 (1/40)

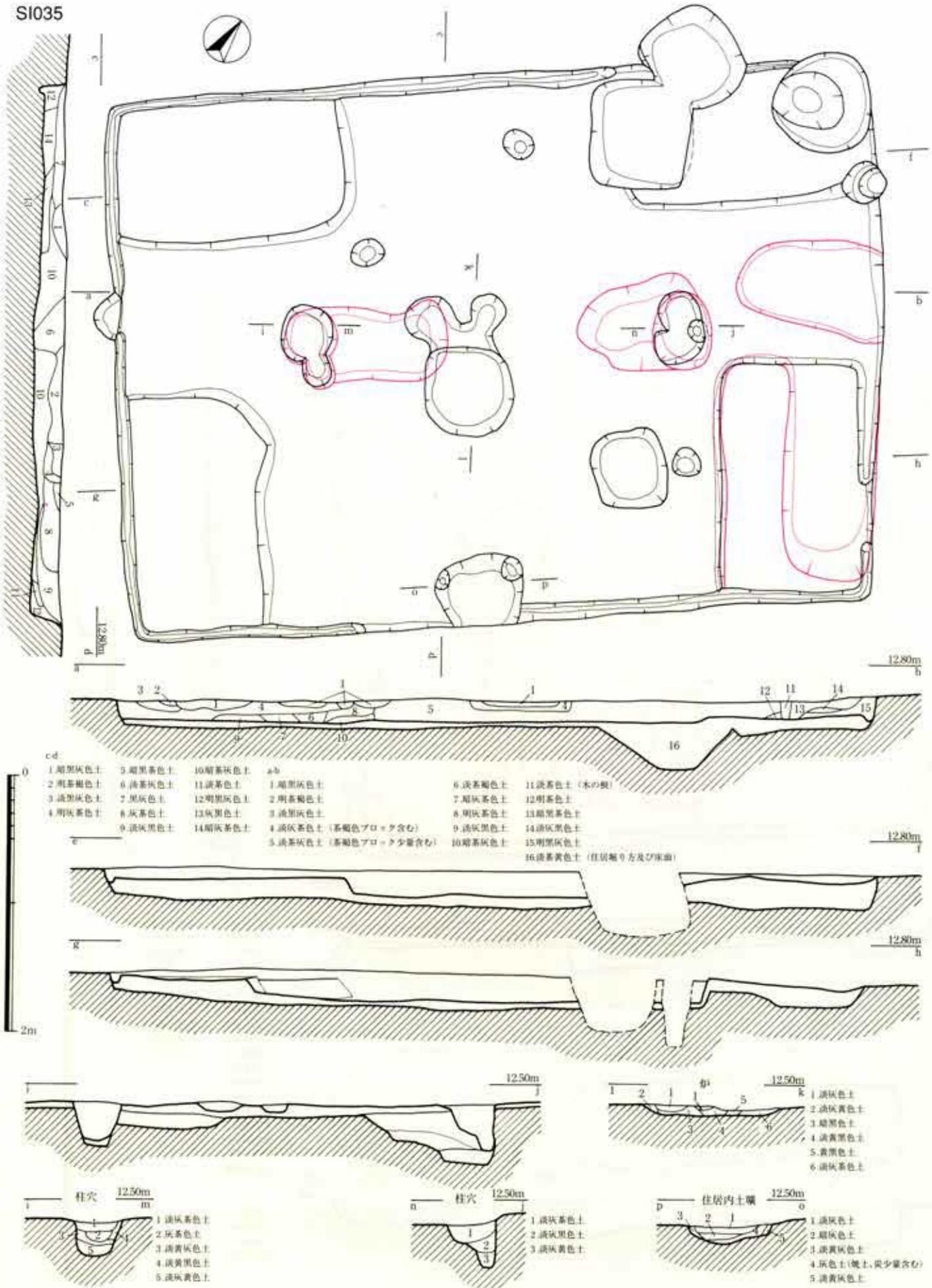


Fig.26 SI035遺構実測図 (1/40)

SI035 (Fig. 26, Pl. 15) SI010の西側に位置し、SB045、SB115、SB120、SB125が切る長方形の住居である。検出南北長約4.3m、東西長約5.95m、床面深さ約0.2m、主軸はN-53°-Eである。住居北辺に東西、南辺に南北に長軸を持つベッド状遺構を配置する。南東ベッドの一部が地山ベッドで他は土盛りをしたベッドである。南壁際に住居内土壘、中央に炉跡、柱を東西に2本検出した。また、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、支脚型土器片、壺型土器片、器台型土器片、不明石製品、床下から甕型土器片、支脚型土器片（覆土中の支脚と接合）、住居内土壘から甕型土器片、焼土塊を出土した。

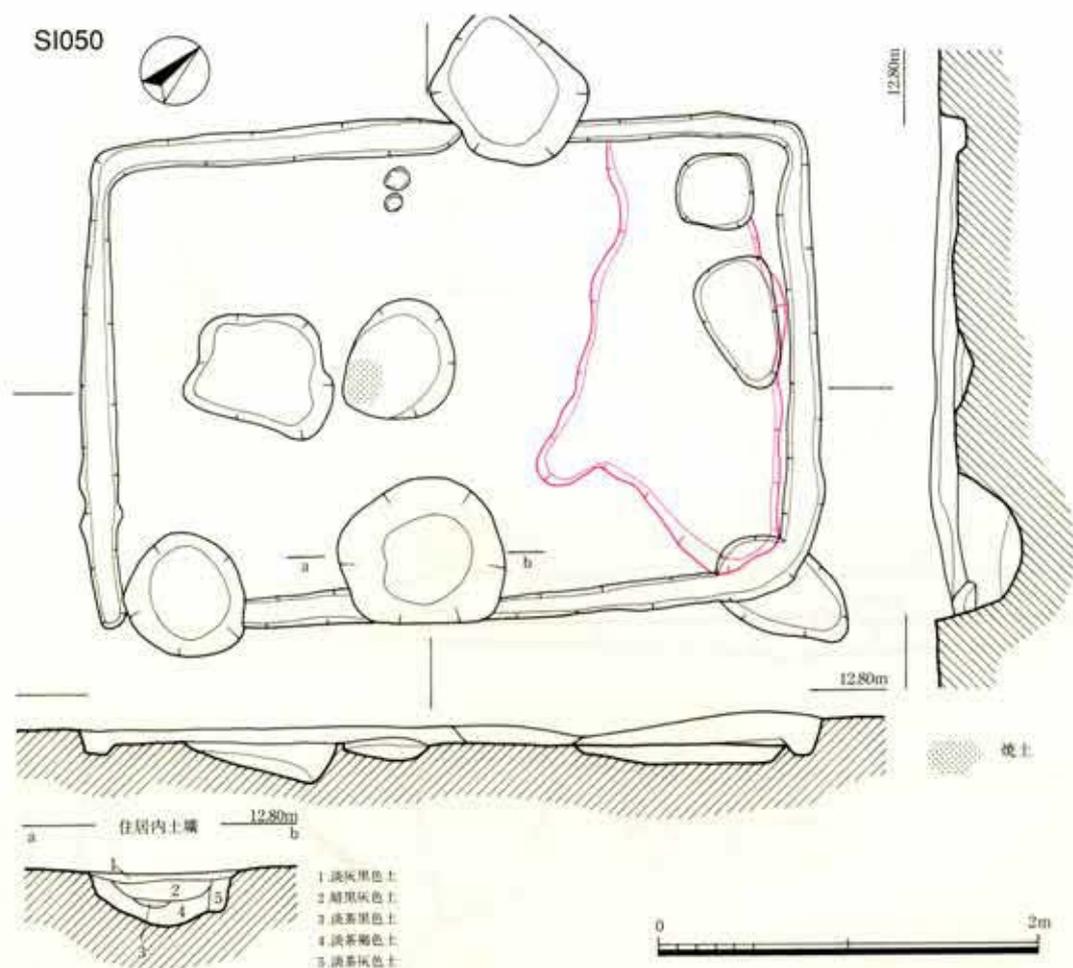
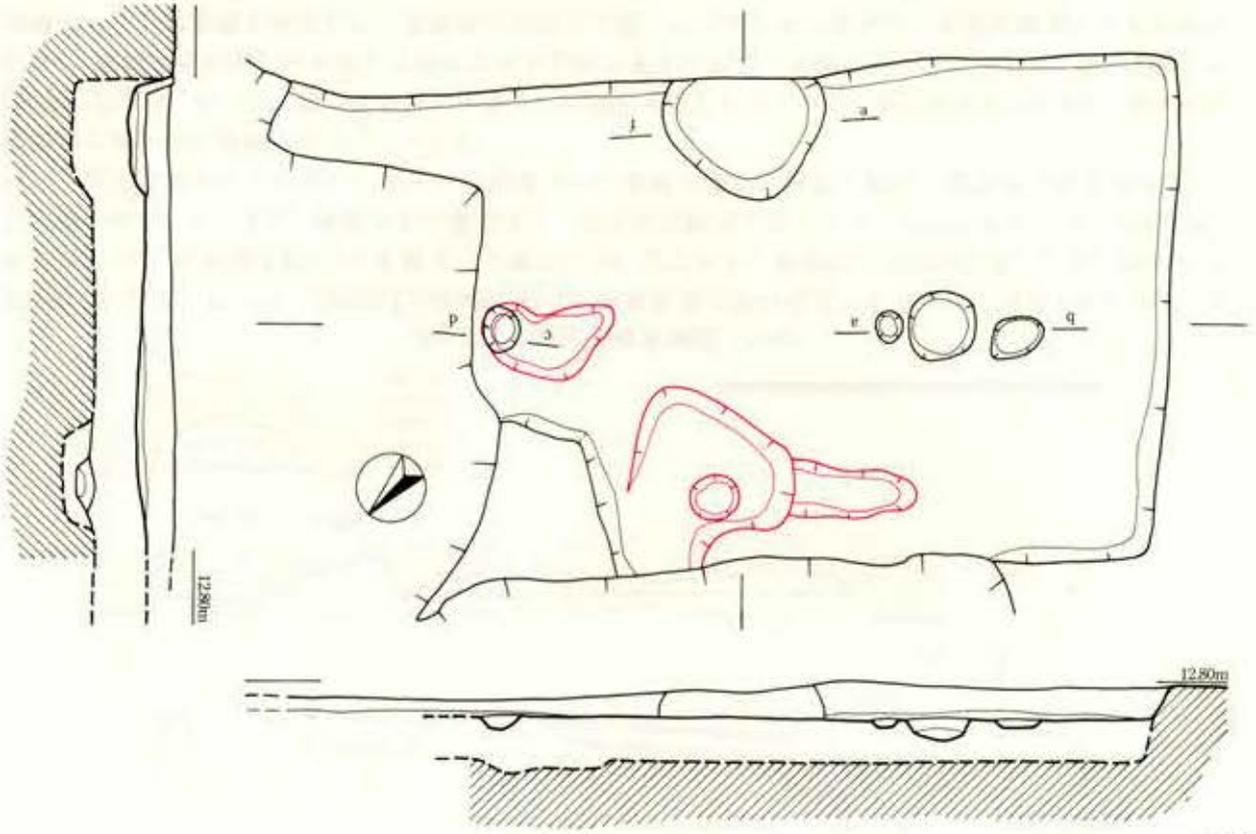


Fig.27 SI050遺構実測図 (1/40)

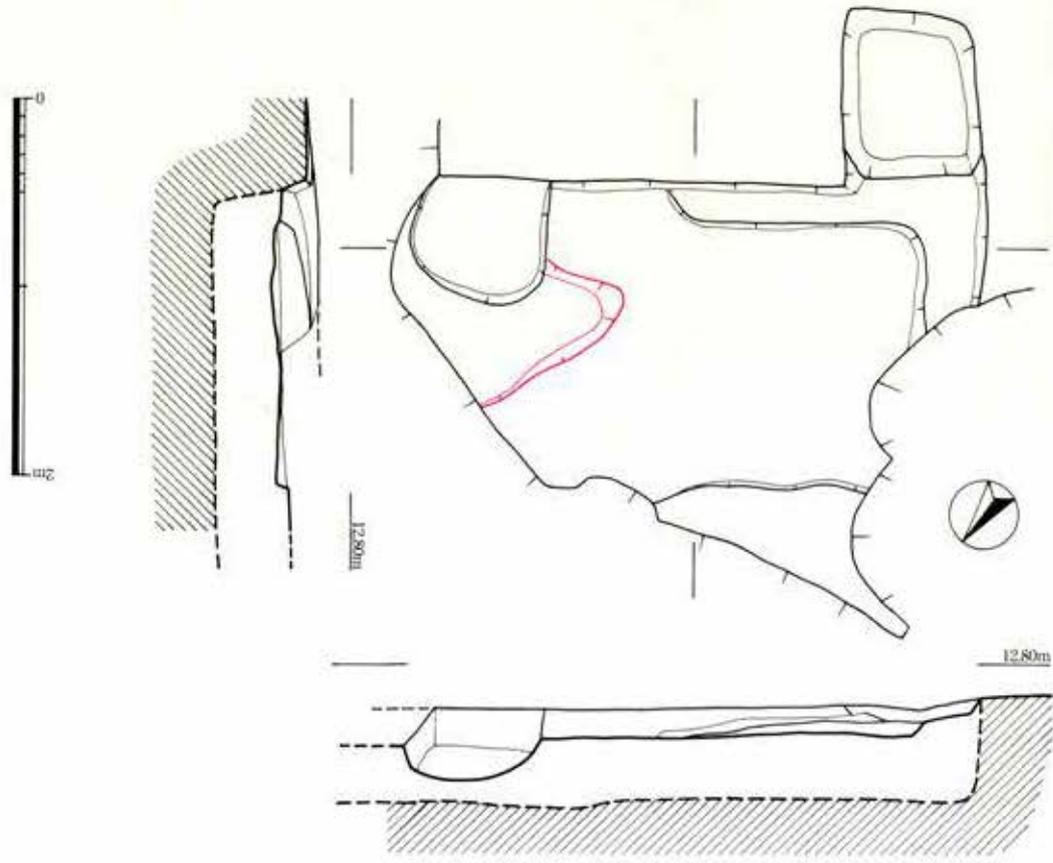
SI050 (Fig. 27, Pl. 16) SB055とSB060に切られる隅丸長方形の住居である。検出南北長約3.9m、東西長約2.7m、床面深さ約0.1mを測り、主軸はN-45°-Eである。南壁際に住居内土壘、中央に焼土を含む炉跡を検出した。また、壁際に壁小溝が巡る。竪穴住居群内で最も小さい住居であり、ベッド状遺構、柱穴、貼床を検出していない。遺物は住居覆土から壺型土器片、甕型土器片、器台型土器片が出土し、住居内土壘からの遺物は出土していない。

SI070 (Fig. 28, Pl. 17) 調査区南西に位置し、大部分を攪乱されていた。検出南北長約2.2m、東西長約3.1m、床面深さ約0.23mを測る方形を呈する住居と考えられる。主軸はN-31°-Eである。南、西壁に小規模のベッド状遺構を検出した。南壁際に住居内土壘、柱穴は不明であるが、床面完掘後に2本の柱穴と考えられる遺構を検出している。床下ラインは掘りすぎている。南西隅にSX072を検出しており、遺構検出時はSX072が住居を切っていると判断したが、住居西側ラインがSX072まで延びており、住居に付帯する施設の可能性がある。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、壺型土器片、メンコ状土製品、床面から甕型土器片、鉢型土器片、高坏型土器片、壺型土器片を出土している。

Fig.28 S1070・075遺構実測図(1/40)



S1075



S1070

SI075 (Fig.28, Pl.17, 18) SI070の北側に位置し、東部分が攪乱を受けていた。長方形を呈するプランで検出南北長約4.8m、東西長約2.7m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-43°-Eで北東隅にベッド状遺構、南壁際には住居内土壌、長軸に2本の柱跡を検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、支脚型土器片、高坏型土器片、土塊、鉄滓、ベッド上から鉢型土器片、甕型土器片、床下から甕型土器片、住居内土壌から高坏型土器片を出土した。

SI080 (Fig.29, Pl.18, 19) 調査区南西隅でSI105を切る長方形を呈する住居である。検出南北長約3.47m、東西長約5.7mを測り、床は2面検出し、深さは約0.25mと0.45mである。主軸は主軸はN-61°-E、住居北西隅で2枚目の床面からベッド状遺構と考えられる痕跡を確認しているがプラン等は不明である。柱は2枚目の床面で東西に2本、炉跡を中央で検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、壺型土器片、器台型土器片、鉢型土器片、染付、陶器、1枚目の床面から甕型土器片、鉢型土器片、ミニチュア鉢、2枚目の床面下から黒曜石石鉄を出土している。

SI085 (Fig.30, Pl.19, 20) SI030を切る検出南北長約3.85m、東西長約4.95m、床面深さ約0.15mを測る。主軸はN-60°-Eで住居北辺と南辺にベッド状遺構、南壁際に住居内土壌、中央に東西の2本柱を検出した。平面形態が不自然な状態で、住居が3軒程度切りあっている可能性が考えられるが、検出時での確認ができなかった。遺物は住居覆土から甕型土器片、不明鉄製品、床下から甕型土器片、住居内土壌から甕型土器片、鉢型土器片を出土している。

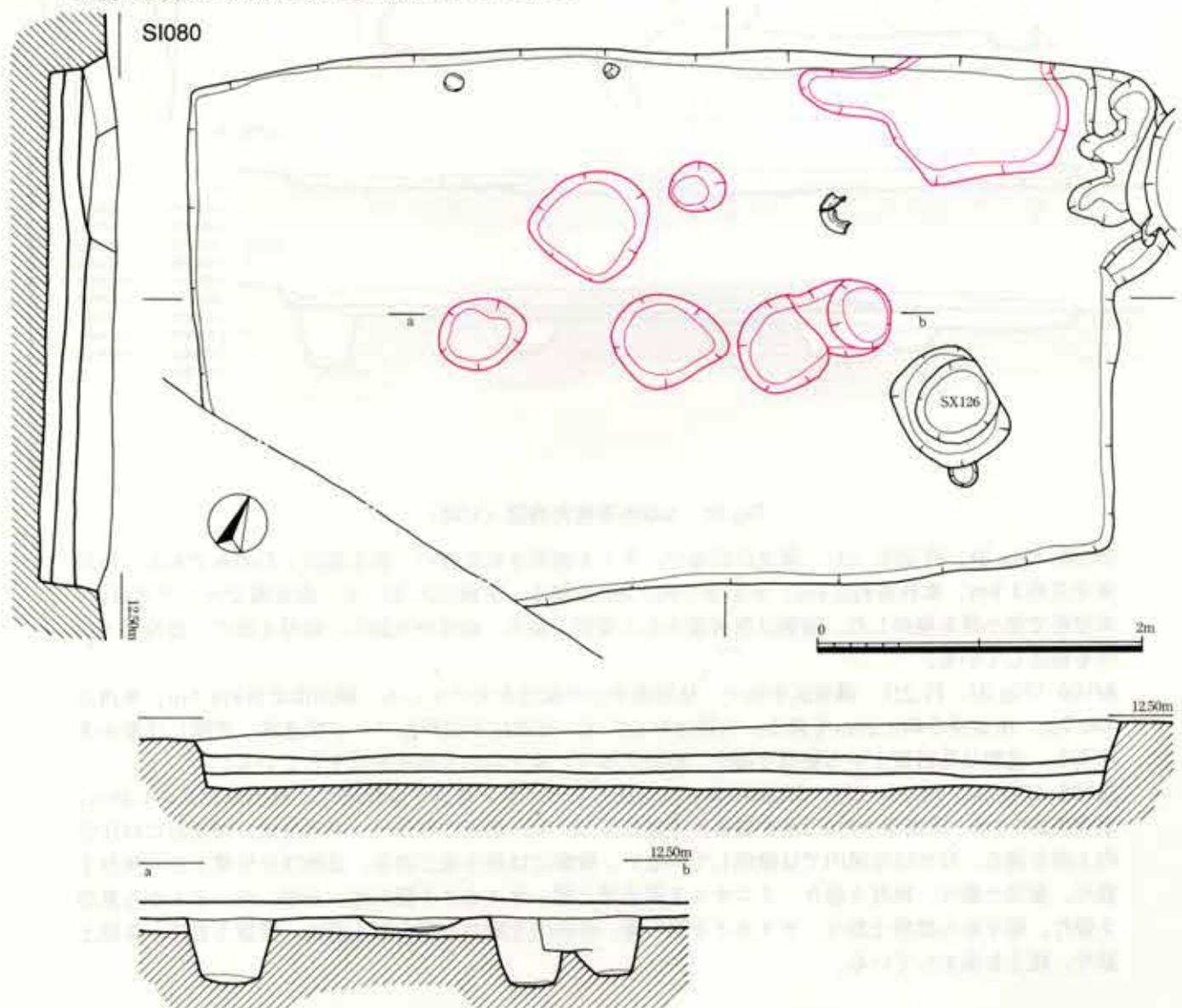


Fig.29 SI080遺構実測図 (1/40)

SI085

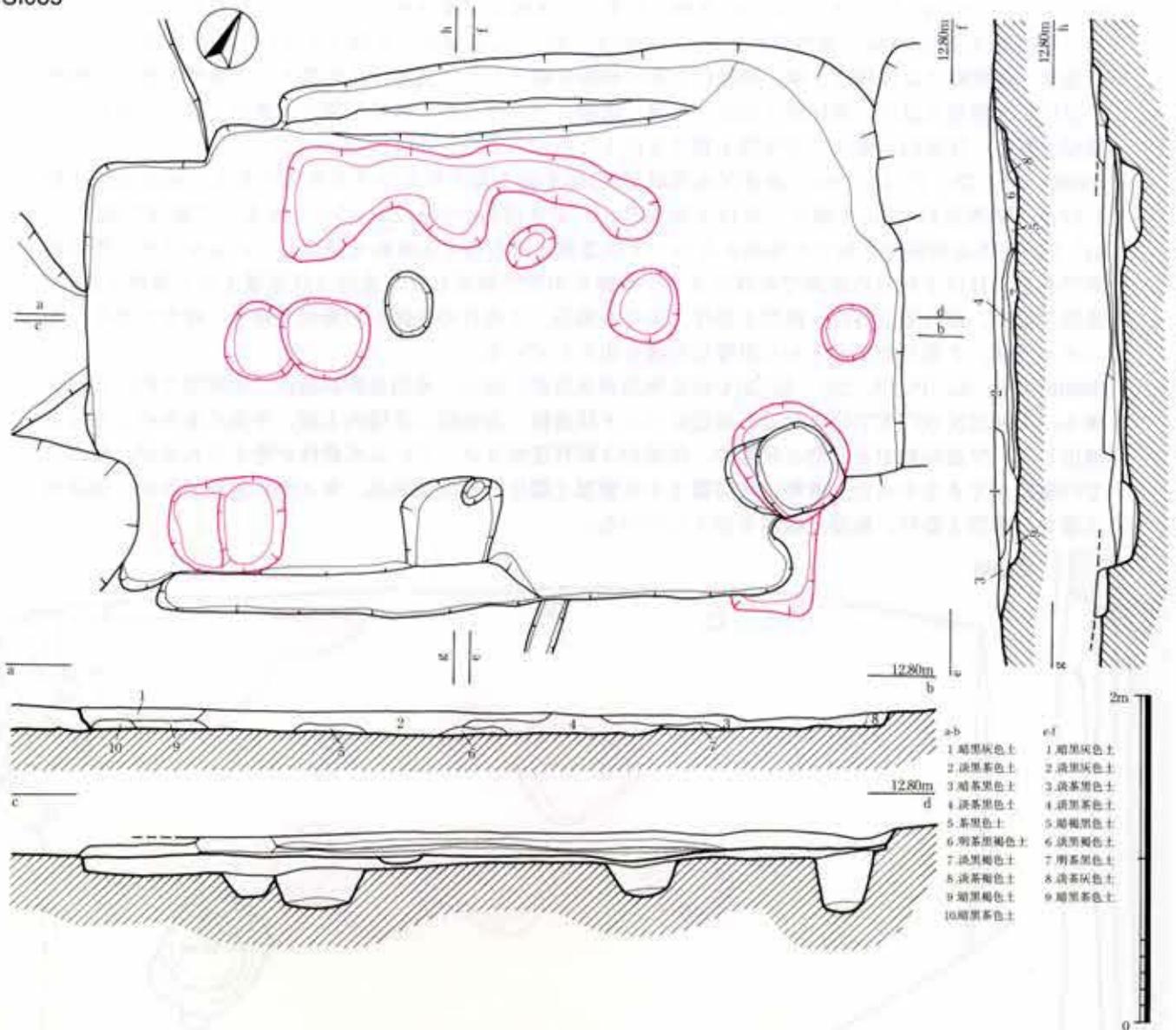


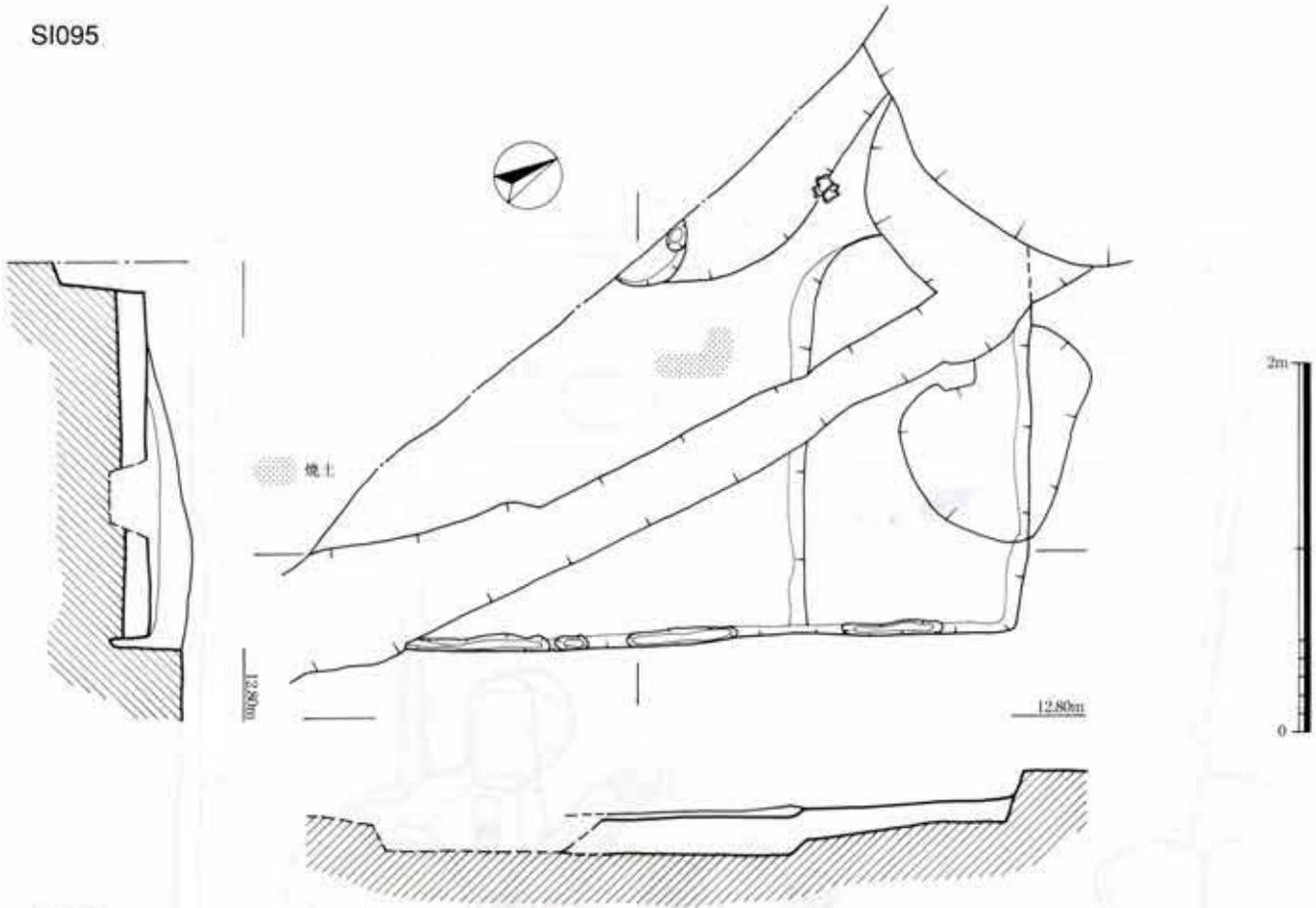
Fig.30 SI085遺構実測図 (1/40)

SI095 (Fig.31、Pl.210、21) 調査区西端で、多くを攪乱され住居の一部を検出したのみである。検出南北長約3.9m、東西長約3.2m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-27°-E、南東隅でベッド状遺構、南壁際で壁小溝を検出した。遺物は住居覆土から甕型土器片、高坏型土器片、鉢型土器片、器台型土器片を出土している。

SI100 (Fig.31、Pl.21) 調査区中央で、住居南半分が攪乱を受けている。検出南北長約3.5m、東西長約6.7m、床面深さ約0.28mを測る。主軸はN-60°-E、東西に不定形なベッド状遺構、壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、鉢型土器片、床下から土器片を出土している。

SI105 (Fig.32、Pl.22、23) SI080に切られる長方形のプランを呈する住居で、検出南北長約4.45m、東西長約6.8m、床面深さ約0.2mを測る。主軸はN-31°-E、東辺にのみベッド状遺構、南壁際には住居内土壌を掘る。柱穴は住居内では検出していない。壁際には壁小溝が巡る。遺物は住居覆土から甕型土器片、壺型土器片、鉢型土器片、ミニチュア器台型土器、サヌカイト製石鏃、石剣、ベッド上から甕型土器片、床下から甕型土器片、サヌカイト製石鏃、住居内土壌から器台型土器片、甕型土器片、鉢型土器片、焼土を出土している。

SI095



SI100

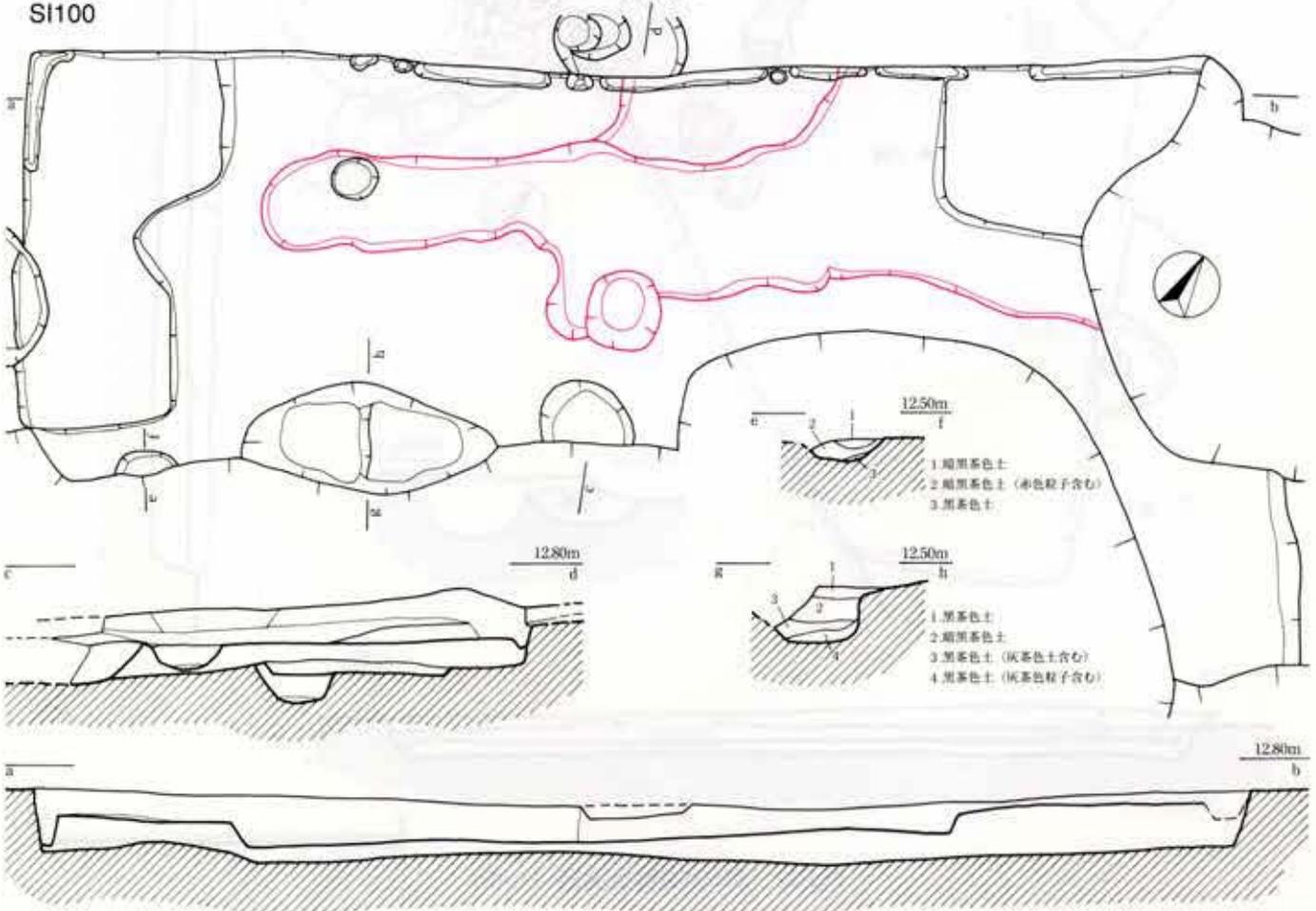


Fig.31 SI095・100遺構実測図 (1/40)

SI105

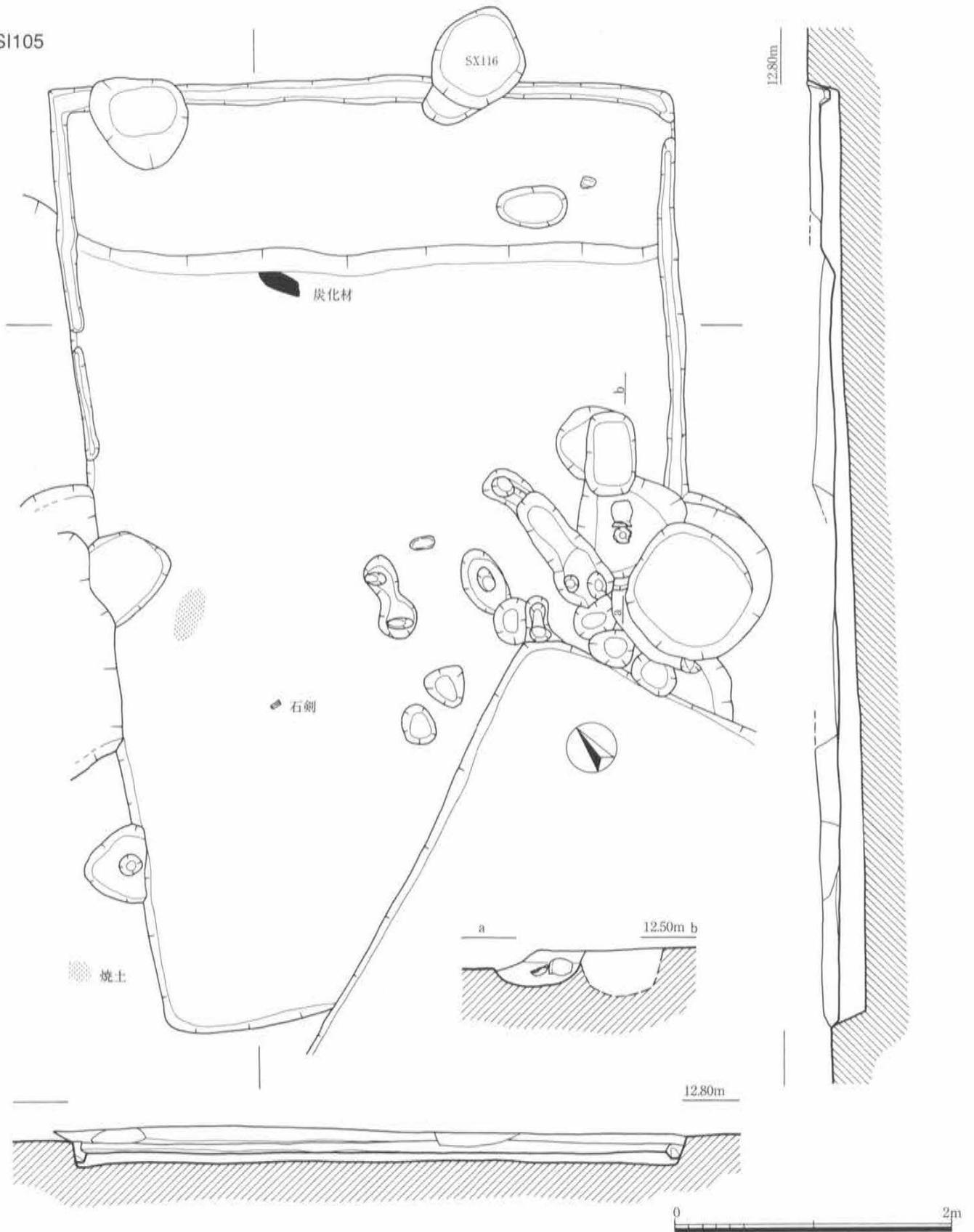


Fig.32 SI105遺構実測図 (1/40)

掘立柱建物

SB015 (Fig. 33) 調査区最東端で検出した1間×1間の建物である。桁行約5.5m、梁行約5.0m、桁行の方位はN-32°24'44"-Eを測る。各柱穴の埋土は単一で暗茶黒色土である。出土遺物はない。

SB040 (Fig. 34, Pl. 24) 調査区北西隅で検出した1間×2間の建物である。柱間総距離は桁行約3.0m、梁行約2.25m、桁行の柱間は約1.35m、1.65mを測る。桁行の方位はN-58°12'4"-Eである。遺物は柱穴aから甕型土器片、鉢型土器片、柱穴bから甕型土器片、鉢型土器片、壺型土器片、柱穴dから甕型土器片、鉢型土器片、柱穴eから甕型土器片、鉢型土器片を出土している。

SB045 (Fig. 35, Pl. 25) SB055、SI035を切る1間×1間の建物である。柱間は3.25m、方位はN-21°25'14"-Eを測る。柱穴bのみ土層で柱痕と考えられるものを検出している。遺物は柱穴aから甕型土器片、鉢型土器片、高環型土器片、柱穴bから甕型土器片、鉢型土器片、柱穴cから甕型土器片、柱穴dから甕型土器片、鉢型土器片を出土。

SB055 (Fig. 35, Pl. 26) ビット平面が隅丸方形を呈する1間×1間の建物で、桁行約3.5m、梁行約2.4m、桁行の方位はN-56°53'19"-Eを測る。柱穴c、dの土層から柱痕と考えられるものを検出している。遺物は柱穴aから甕型土器片、柱穴bから甕型土器片、柱穴cから土器片、柱穴dから鉢型土器片を出土。

SB060 (Fig. 35) SI035を切る1間×1間の建物で、桁行約3.0m、梁行約2.6m、桁行の方位はN-86°41'53"-Eである。出土遺物はない。

SB065 (Fig. 36, Pl. 27) 調査区北西隅で検出した1間×1間の建物であるが、調査区外に延びる可能性がある。桁行約3.0m、梁行約2.86m、桁行の方位はN-20°19'23"-Wである。柱穴cの土層から柱痕と考えられるものを検出している。柱穴b、dのみテラスを設ける。遺物は柱穴aから甕型土器片、柱穴bから甕型土器片、柱穴cから土器片、柱穴dから土師器甕、磁器片、陶器片を出土している。

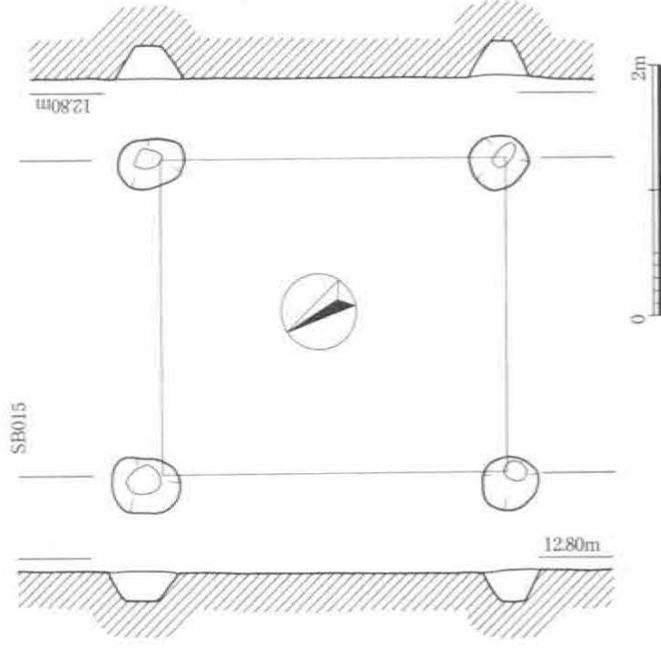


Fig.33 SB015遺構実測図 (1/60)

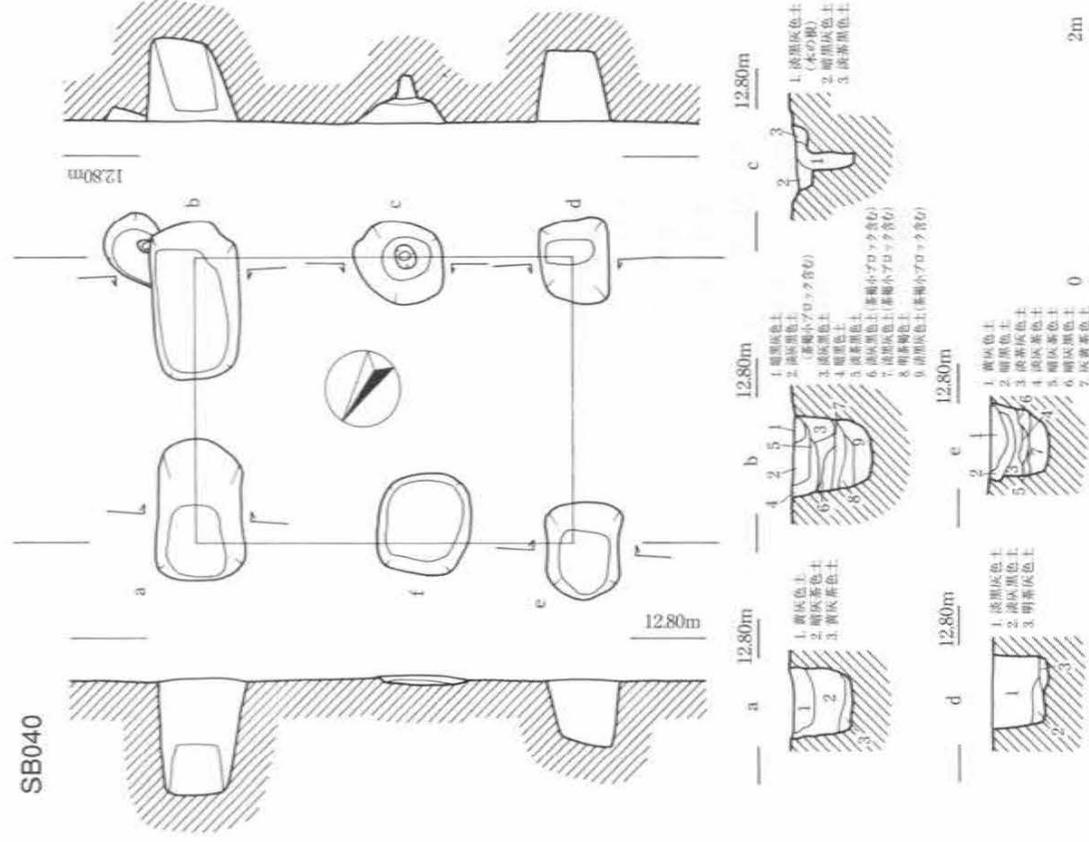


Fig.34 SB040遺構実測図 (1/60)

SB065

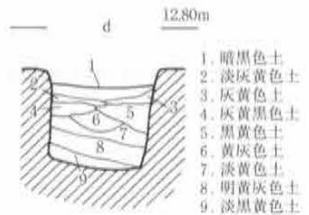
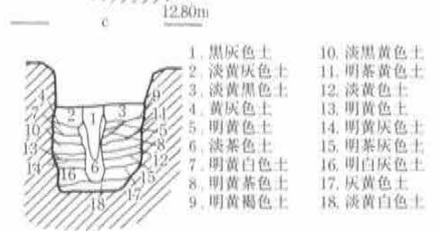
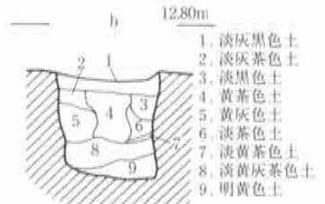
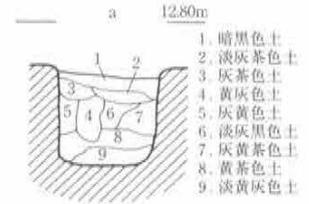
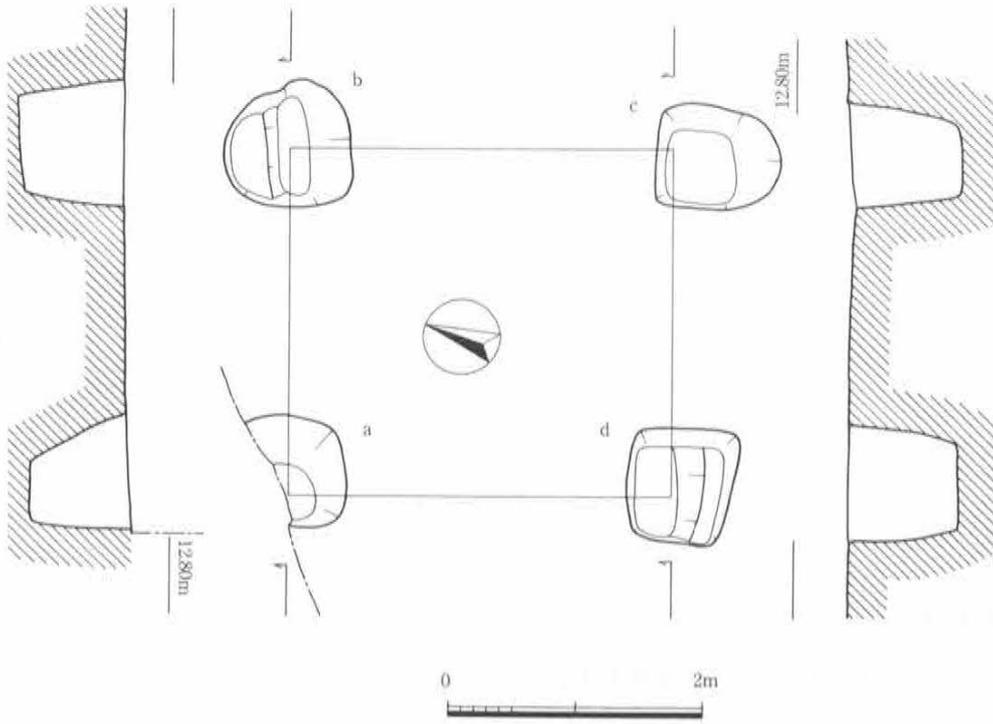


Fig.37 SB065遺構実測図 (1/60)

SB040

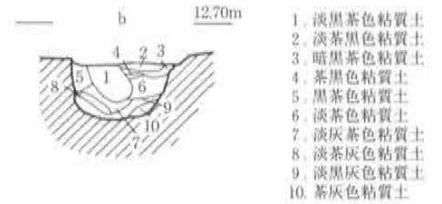
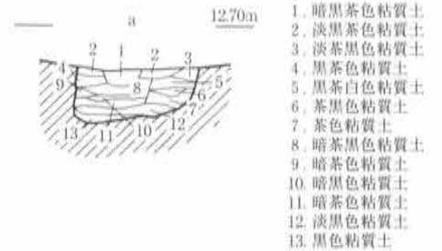
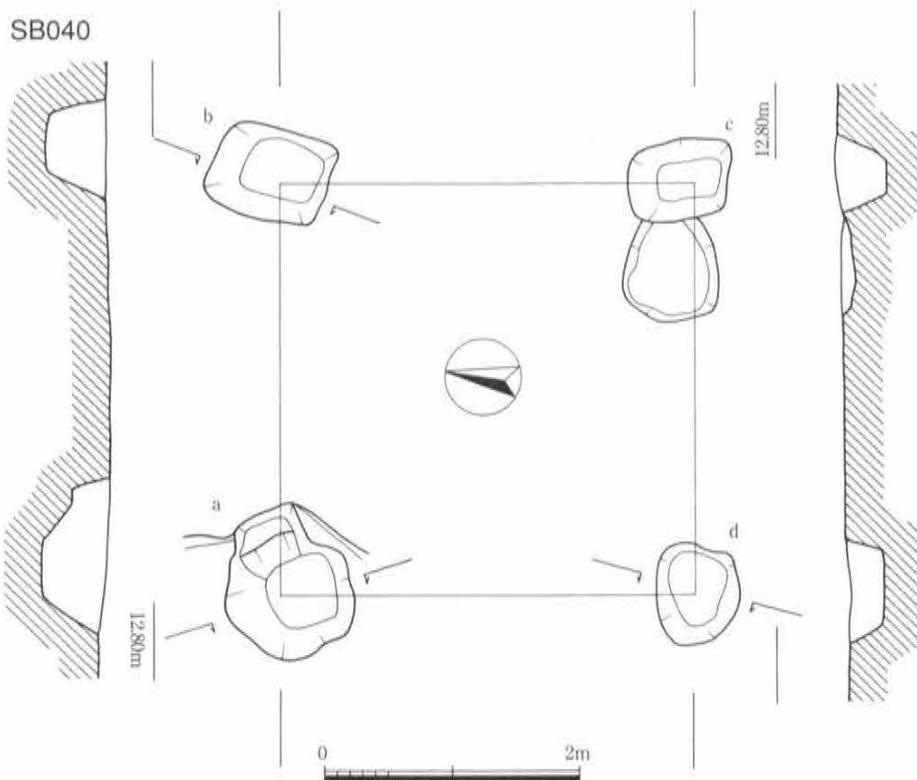


Fig.38 SB110遺構実測図 (1/60)

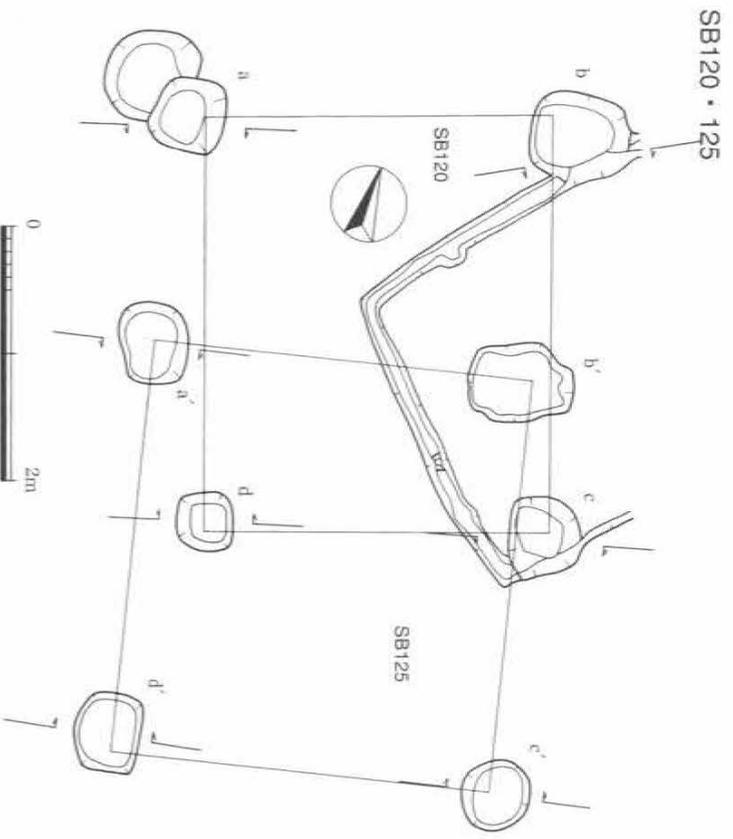
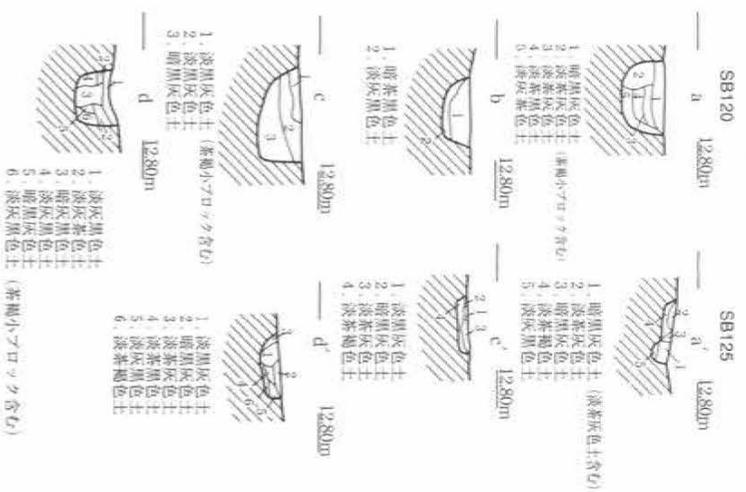


Fig. 39 SB120 • 125遺構実測図 (1/60)



SX005

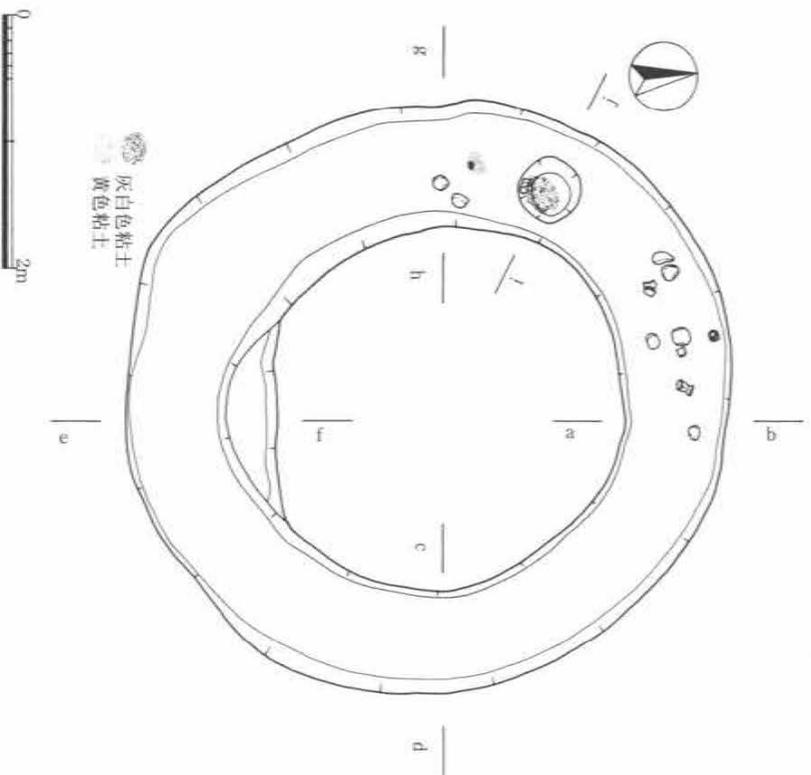
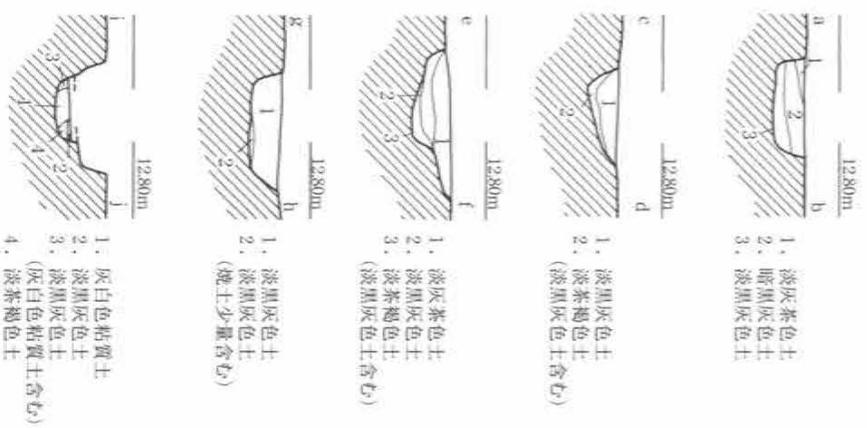


Fig. 40 SX005遺構実測図 (1/60)



SX020

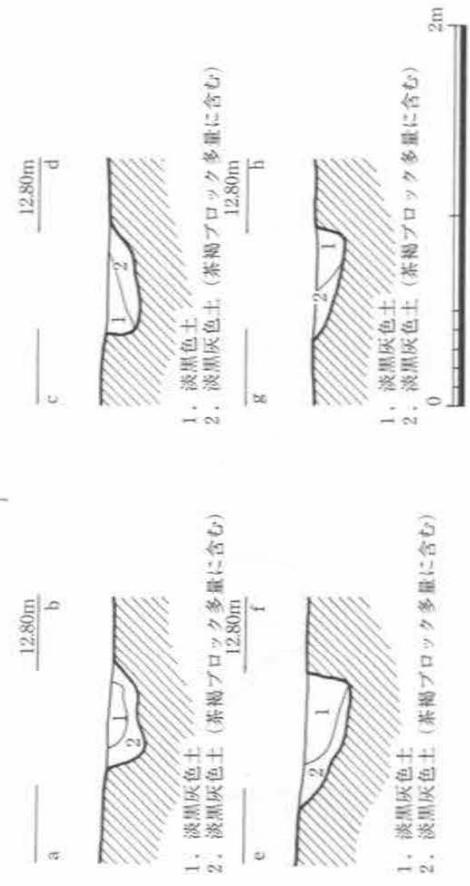
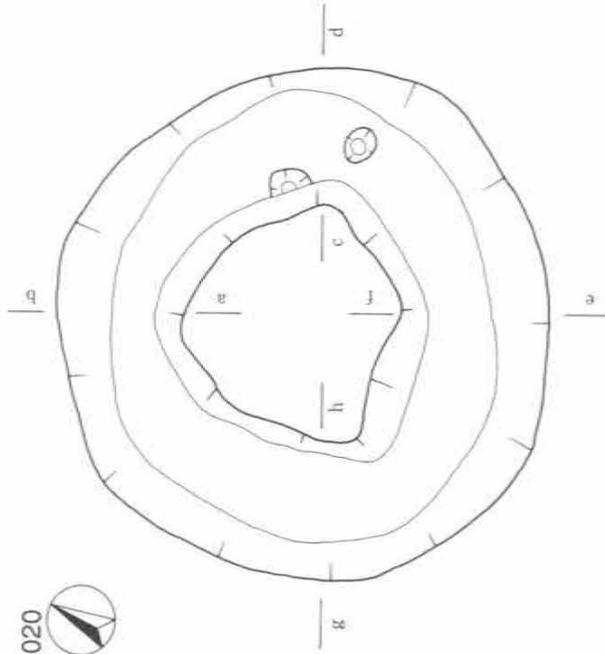


Fig.41 SX020遺構実測図 (1/40)

ら甕型土器片、器台型土器片、淡灰茶色土から甕型土器片を出土している。

SX020 (Fig.41, Pl.32) 調査区中央に位置する周溝状遺構で、遺構全体が木の根に攪乱される。外径約2.6m、内径約1.15m、溝幅約0.75m、深さ0.15~0.25mを測る。溝埋土は淡黒灰色土と淡黒灰色土(茶褐色ブロック混)である。遺物は甕型土器片、磁器片、陶器片、焼土を出土している。

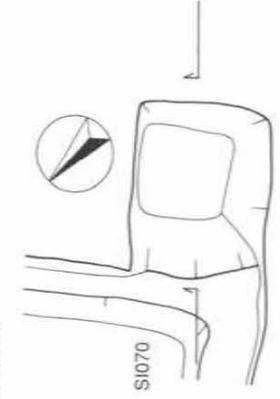
土壙
SK072 (Fig.42, Pl.32) SI070を切る土壙であるが住居に伴う施設の可能性も考えられる。埋土はかなり締まり、平行に堆積する。長軸約0.95m、短軸約0.75m、深さ約0.75mを測る。遺物は甕型土器片、高坏型土器片、器台型土器片を出土している。

SK090 (Fig.42, Pl.32) SI070南側の土壙で、検出面を一部攪乱されていた。長軸約1.3m、短軸約0.75m、深さ約0.15~0.23mを測る。遺物は甕型土器片を出土している。

その他の遺構

SX036 (Fig.43) SI035のベット上で検出した遺構である。住居に伴う土壙の可能性がある、長型土器片軸約0.5m、短軸0.45m、最大深さ約0.45mを測る。遺物は甕型土器片、鉢型土器片、器台型土器片が出土している。

SK072



SK090

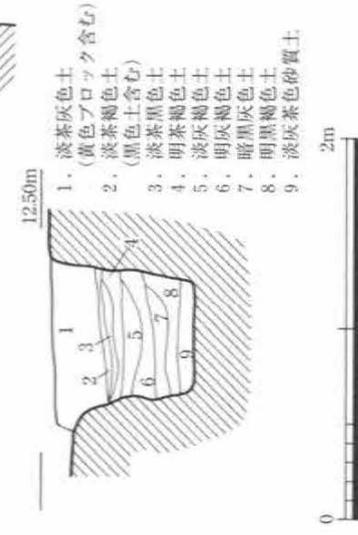
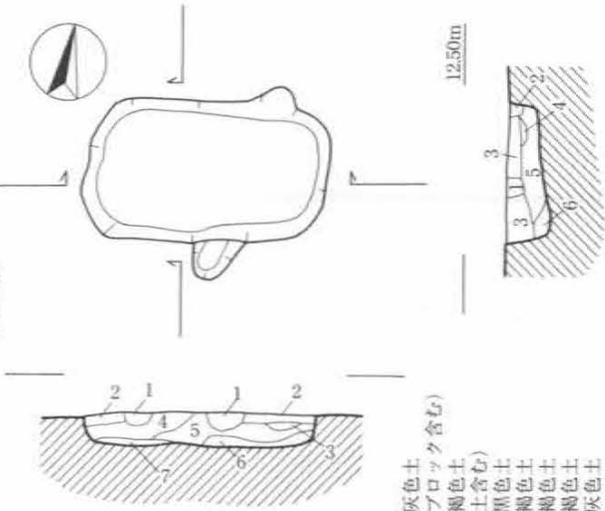


Fig.42 SK072・090遺構実測図 (1/40)

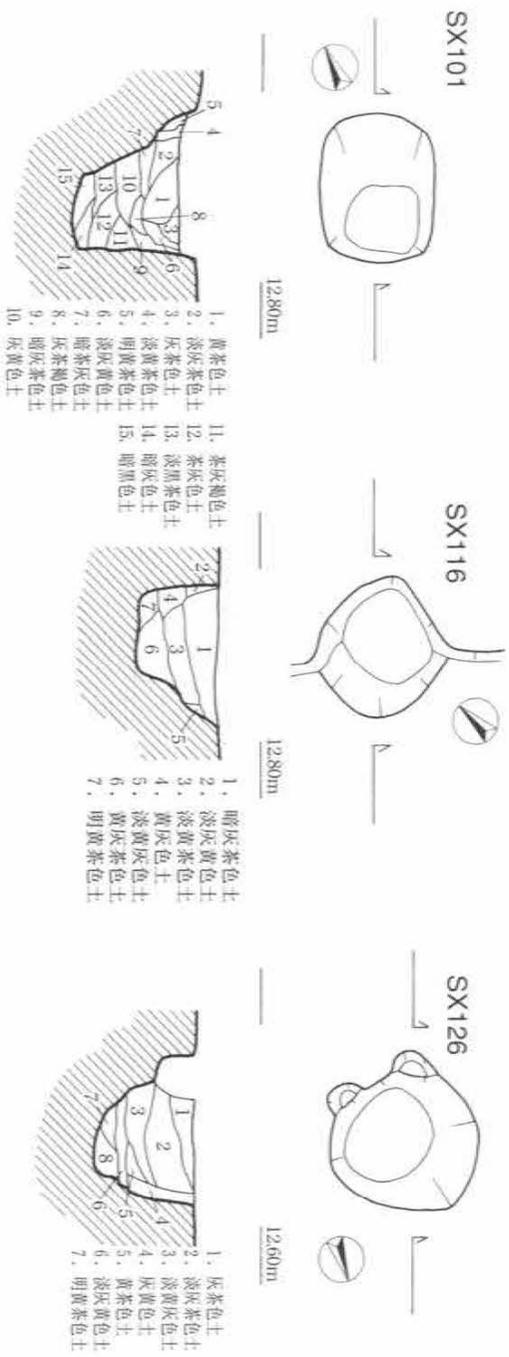
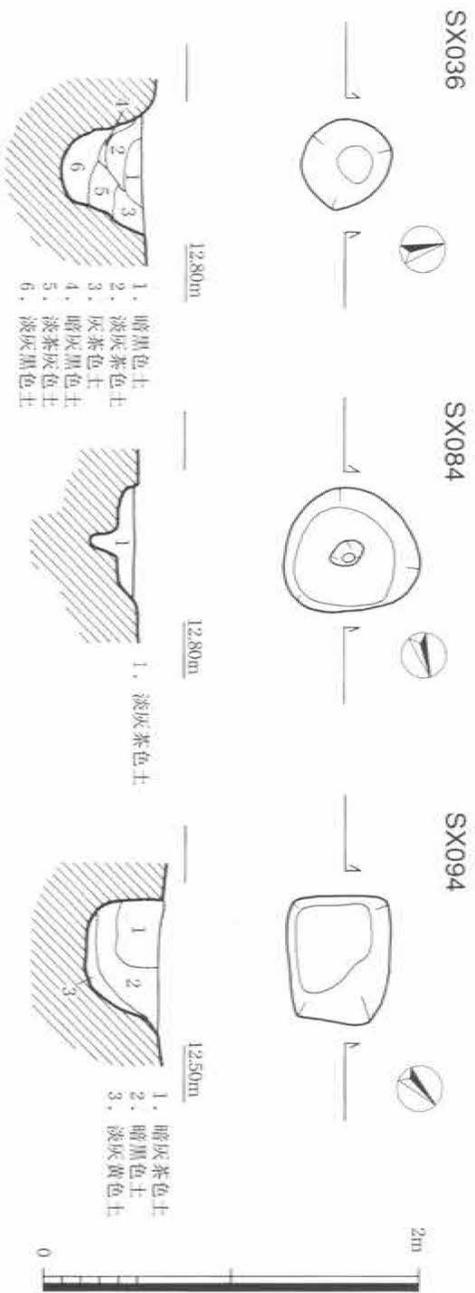


Fig.43 SX036 · 084 · 094 · 101 · 116 · 126 遺構実測図 (1/40)

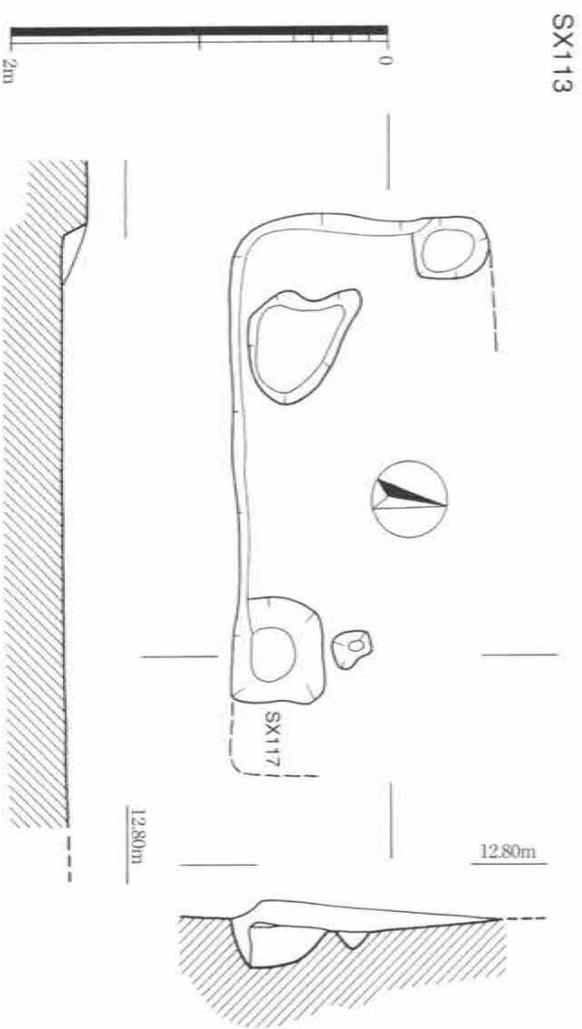


Fig.44 SX113 · 117遺構実測図 (1/40)

SX084 (Fig. 43, Pl. 32) SI035東側で検出した遺構である。遺構中央の小穴は木の根である。長軸約0.75m、短軸約0.65m最大深さ約0.23m、埋土は淡灰色土で、遺物は出土していない。

SX094 (Fig. 43, Pl. 32) SX113の東側にある隅丸方形を呈する遺構で、長軸約0.68m、短軸約0.57m、最大深さ約0.38mを測る。遺物は甕型土器片を出土している。

SX101 (Fig. 43, Pl. 33) SI095の東側で検出した隅丸方形を呈する遺構で、長軸約0.8m、短軸約0.6m、最大深さ約0.55mを測る。遺物は甕型土器片、口縁部に対面する二つの穿孔がある定形の鉢型土器、土製有孔円盤を出土している。

SX116 (Fig. 43, Pl. 33) SII05を切る遺構で、長軸約0.75m、短軸約0.65m、最大深さ約0.45mを測る。遺物は甕型土器片を出土している。

SX126 (Fig. 43, Pl. 33) SI080の床面から検出した遺構で、住居に伴う遺構の可能性がある。長軸約0.78m、短軸約0.77m、最大深さ約0.54mを測る。遺物は甕型土器片、鉢型土器片を出土している。

SX113 (Fig. 44) SI085の南側で検出した遺構で、多くを攪乱されており、一部の検出に留まった。竪穴住居になる可能性があり、検出時の平面プランが隅丸長方形で長軸約2.9m、短軸約1.4m、最大深さ約0.13mを測り、極端に小規模の住居になる。覆土除去後、床面と考えられる硬化面を検出している。遺物は甕型土器片、鉢型土器片、不明土製品を出土している。

SX117 (Fig. 44, Pl. 33) SII13の南壁際で検出した遺構で、SII13が竪穴住居であれば、住居内土壁になる可能性がある。長軸約0.55m、短軸約0.5m、最大深さ約0.2mを測る。遺物は甕型土器片、甕型土器片、ミニチュア鉢型土器片を出土している。

不明遺構

SX011 (Fig. 22) 調査区中央で検出した遺構で、長軸約0.85m、短軸約0.5m、最大深さ約0.08mを測る。遺物は磁器片を出土している。

SX022 (Fig. 22) SB065の東側で検出した遺構で、長軸約0.5m、短軸約0.4m、最大深さ約0.15mを測る。遺物は土器片を出土している。

SX032 (Fig. 22) SB065西側で検出した遺構で、径が約0.72m、最大深さ約0.17mを測る。遺物は鉢型土器片を出土している。

SX047 (Fig. 22) SB120 a を切る遺構で、長軸約0.8m、短軸約0.7m、最大深さ約0.17mを測る。遺物は土師器（糸切り）小皿、磁器片を出土している。

SX074 (Fig. 22) 調査区中央に掘られた攪乱で廃屋の木材や石垣の石、磁器片や陶器片が多量に出土している。

SX078 (Fig. 22) SB025を切る遺構で、長軸約0.75m、短軸約0.6m、最大深さ約0.28mを測る。遺物は甕型土器片、甕型土器片、鉢型土器片、鉢型土器片、土師器鉢、磁器碗片、陶器片、平瓦を出土している。

SX083 (Fig. 22) SI070を切る遺構で、埋土に多量の焼土が入っていたが壁は焼けていない。平面プランは不定形で長軸約4.4m、最大深さ約0.47mを測る。遺物は甕型土器片、鉢型土器片、磁器片、陶器皿、壺、捕鉢、棒状土製品、薬瓶、鉄製刀子を出土している。

SX091 (Fig. 22) 調査区南西で検出した遺構で、北側にテラスを設ける。長軸約3.2m、短軸約2.4m、最大深さ約0.3mを測る。遺物は土師器捕鉢、棒状土製品、土製人形片を出土している。

SX092 (Fig. 22) SII05東側で検出した遺構で中央にテラスを設け、その両端がピットになる。長軸約3.7m、短軸約2.1m、テラスの深さ約0.27m、ピットの深さ約0.53mを測る。遺物は土師器火鉢、鉢、磁器片、陶器片、平瓦を出土している。

SX099 (Fig. 22) SI095を切る遺構で、調査区外に延びる。検出長軸約2.65m、検出短軸約2.0m、最大深さ約0.66mを測る。遺物は土師器坏、磁器片、陶器捕鉢、鉢、皿、簪、棒状土製品、土製人形を出土している。

(3) 出土遺物

SI001 (Fig.45、Pl.38)

甕型土器 (1~3) 1、2は長胴の甕で共に内外面をハケ目で仕上げ。頸部内面の稜は明瞭であり、底部は若干レンズ状で、外面に黒斑が付く。3は平底の甕で、胎土に多量の角閃石が入る。磨耗が激しく調整は不明であるが、底部内面に指頭痕が残る。

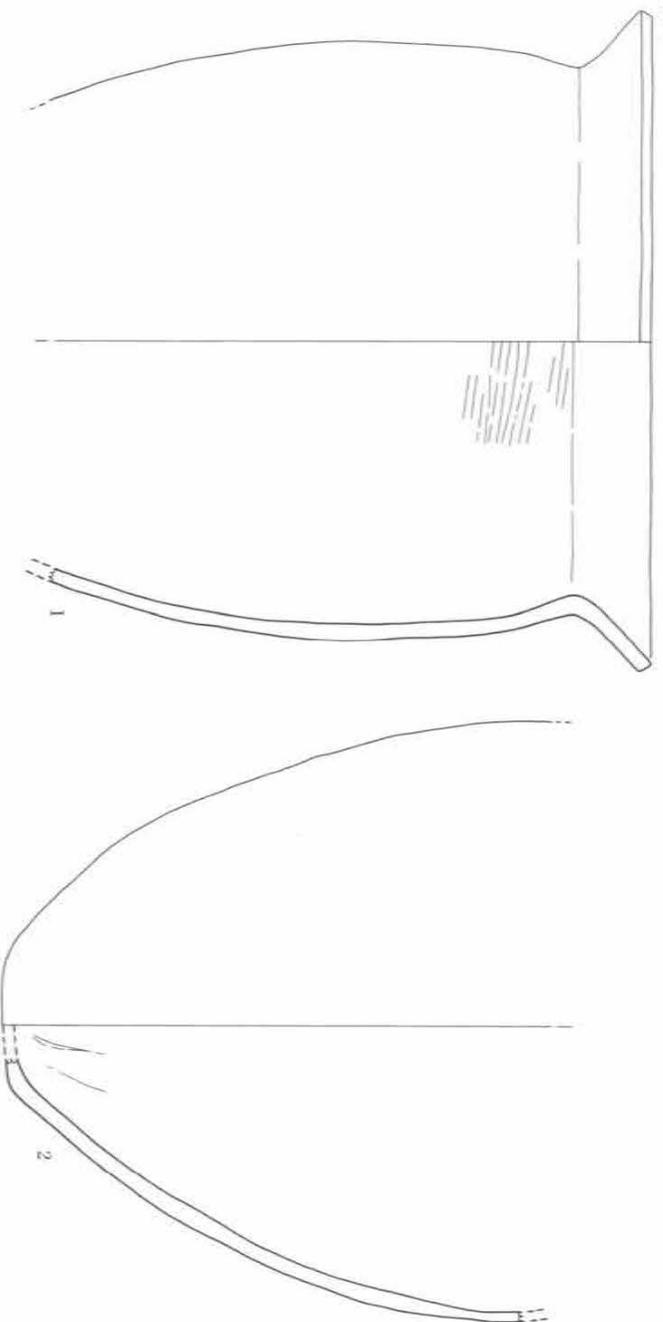
鉢型土器 (4) 口縁が外反するタイアの鉢で体部外面をハケ目、内面は横方向のナデ、体部内面は横方向にナデる。口縁端部を内側に若干つまみ上げる。胎土は精選されている。

高坏型土器 (5) 長脚の脚部のみの資料である。磨耗が激しいため調整は不明。

SI001住居内土壙 (Fig.45、Pl.38)

壺型土器 (6) 小型の手すくねの壺で、ほぼ完形である。内外面共に指頭痕が残り、体部中程と底部の境に粘土接合痕が残る。焼成は良好で内外面ともに淡茶黄色土である。

SI001



SI001住居内土壙

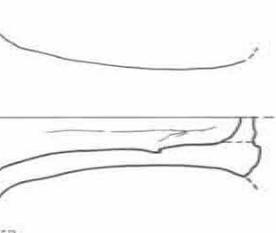
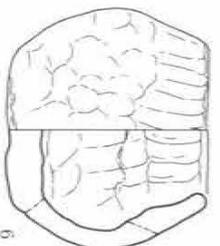


Fig.45 SI001出土遺物実測図 (1/3)

SI010 (Fig.46~49, Pl.38~41)

壺型土器 (7~12) 7は口縁部が直立する壺で、磨耗が激しいが、内外面をハケ目で調整する。8は口縁が外反し、体部内面は縦方向のハケ目、外面は不定方向にハケ目が入り、黒斑が残る。9は内外面全体に粉殻等の植物痕が多量に残り、調整は内外面ともにハケ目である。部分的に2次的な熱を受け灰白色を呈している。10、11は口縁部片で、外面はハケ目、内面はナデが入る。12は底部片で9と同様に粉殻等の植物痕が全面に入り、底部外面は叩き後、絞って底部形成を行う。

甕型土器 (13~26) 13は丸底になる底部をもち、口縁が直に近い形で立ち上がる。体部内外面ともにハケ目が施され、底部に黒斑が見られる。14、15は口縁部片で刻み目が入る。16、17は内外面にハケ目が残る。18は丸底に近い底部をもち、球形の胴部をもち、外面をハケ目、内面は磨耗により不明。19は底部が欠損するが尖り気味の底部をもち、胴長の甕で、口縁部に刻み目を施す。体部外面上半に叩きが残存し、体部中程から縦方向のハケ目が入る。内面は体部上半が不定方向にナデ、下半が縦方向にナデが入る。頸部内側の稜は明瞭である。20から26は口縁部片で、21、22、26は刻み目が入る。

鉢型土器 (27~39) 素口縁とく字口縁があり、27は粗雑な作りで胎土に粉殻等の植物痕が多量に見られ、外面に指頭痕と粗いハケ目、底部内面は強いナデ、若しくはケズリとも捉えられる調整を施す。28は口縁部が内湾し内面に工具痕が残る。29は粗雑な作りで、体部より口縁部を肥厚させる。外面に指頭痕、内面にハケ目を施す。30はほぼ完形の鉢で底部を尖底に、口縁部を内湾させる。外面は丁寧なナデ、内面はハケ目が施される。31は丸底の鉢で外面をナデ、内面にハケ目を施す。32は内外面ともにナデが入り、底部内外面には黒斑が残る。33はかなり歪んだ粗製品で、胎土には粉殻等の植物痕が残り、内外面ともにハケ目を施す。体部外面には黒斑が残る。34はく字口縁をもつ脚環の鉢である可能性があり、口縁端部を内側につまみ上げる。調整は内外面ともにハケ目である。35から39は体部から口縁にかけての片で、35は胎土に角閃石が入り、外面に工具痕が残る。36は外面にナデ、内面にハケ目が入る。37は口縁端部を内湾させる。38、39は小型の鉢で、内外面ともにナデで仕上げる。

高坏型土器 (40~43) 40は坏部片で内外面ともにナデが施され、口唇部には沈線が巡る。41は坏部と脚部の接合部片で、胎土がよく精選されており、外面はハケ目後ナデられており、内面はナデが施される。42は坏部が接合面から取れてしまった脚部で、胎土がよく精選されており、脚上部にハケ目後ミカキが施される。裾部や内面はハケ目で調整され、3ヶ所に穿孔が見られる。43は裾部片で外面はハケ目と端部が横方向のナデ、内面はナデと端部がハケ目調整される。

器台型土器 (44~45) 44は内面に指頭痕が強くなり、焼成不良であるが、外面は不定方向にナデる。45は裾部で外面に指頭痕、内面は指頭痕の上から不定方向にナデを施す。

石製品 (46~53) 46は天草系の砂岩製砥石で2面使用する。47から51は叩き石の類と考えられるが明瞭な使用痕跡を有しない。52は不明石製品で明確な使用痕が見られない。

土製品 (53~62) 53から55は土製の支脚と考えられる。焼成は行われているがもろく、2次的な被熱は受けていない。55は面取りをしている。56は円柱状の不明土製品である。57から62は焼土塊である。

SI010床面 (Fig.50, Pl.41)

鉢型土器 (63) 脚付きの鉢で脚の一部が欠損するが、ほぼ完形である。く字口縁をもち、内外面ともにハケ目、口縁部内面は横方向にナデが施され、外面に黒斑が残る。脚部内外面ともにハケ目で4ヶ所に穿孔がなされる。焼成は良好で内外面ともに淡黄褐色を呈する。

SI010住居内土壇 (Fig.50, Pl.41)

甕型土器 (64) 丸底で体部が球形を呈する。内外面ともに強いハケ目であるが、外面はハケ目後ナデが入る。外面に黒斑が残る。底部付近に打ち欠いたような欠損が認められる。

SI010上面攪乱 (Fig.50, Pl.41) SI010を切る攪乱から出土した遺物である。

壺型土器 (65~66) 65は2重口縁をもち、甕で、口縁外面に櫛目文、他をハケ目で調整する。66は胎土が非常に精選されており、器壁が薄い。外面はハケ目後横方向に丁寧なナデが施され内面はナデが入り、胴部屈曲下には細かいハケ目が斜めに入る。

SI010

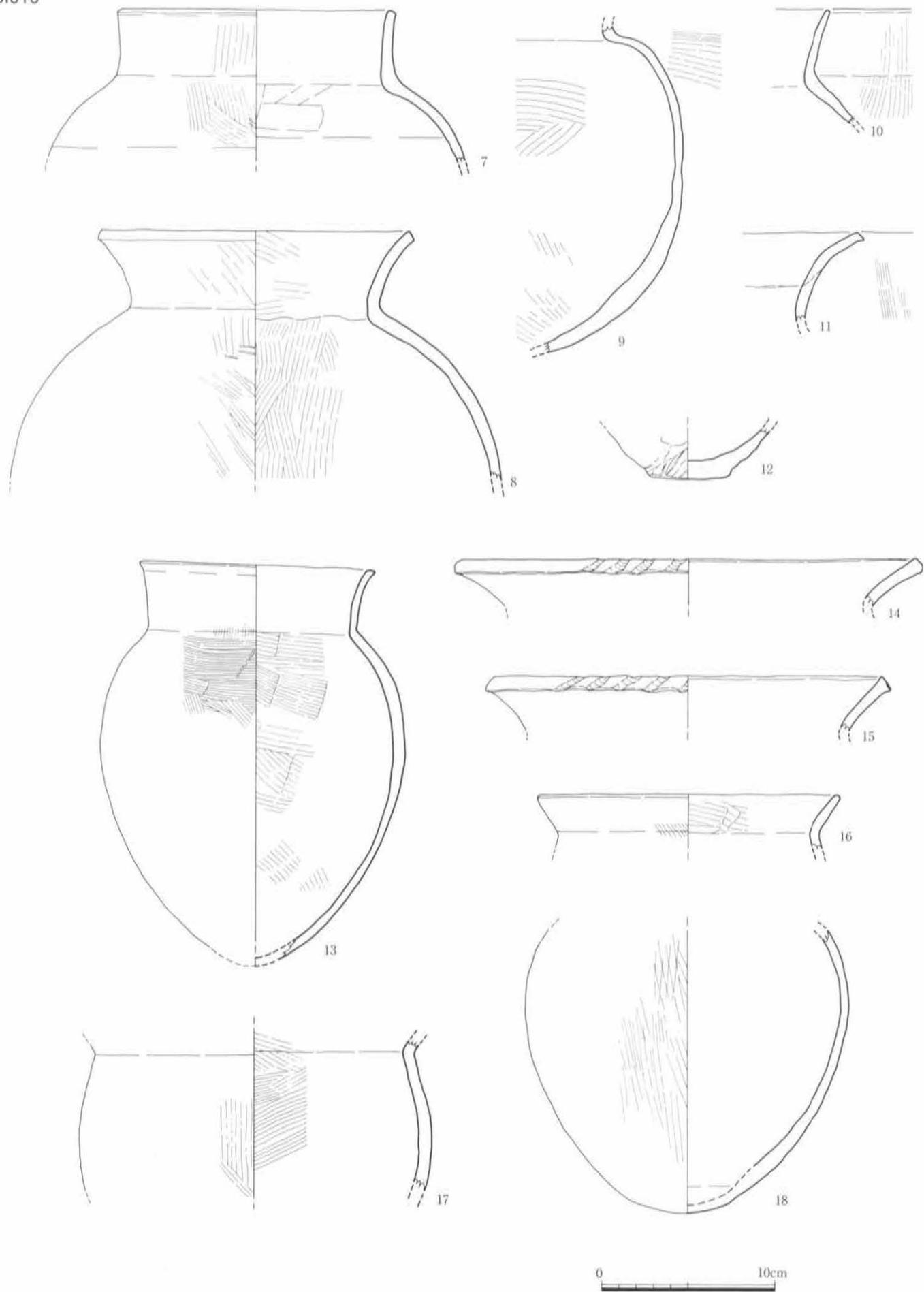


Fig.46 SI010出土遺物実測図① (1/3)

SI010

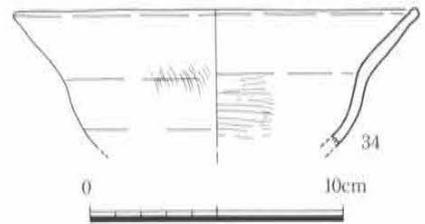
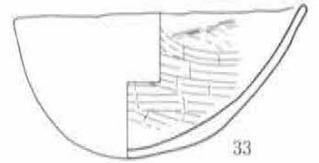
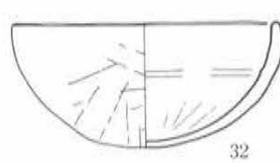
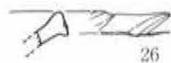
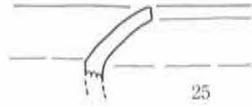
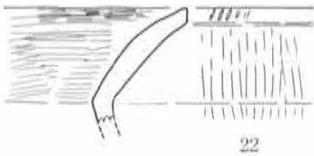
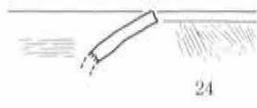
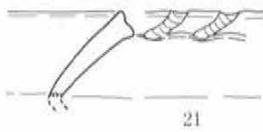
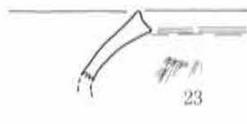
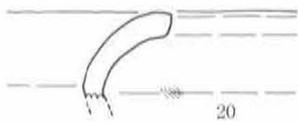
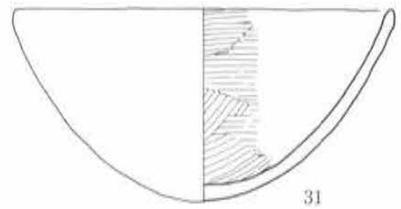
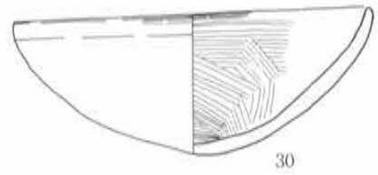
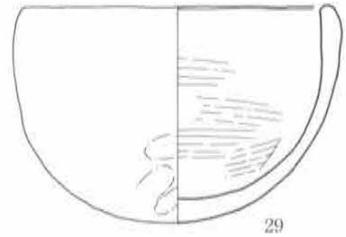
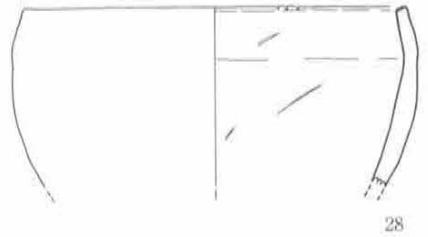
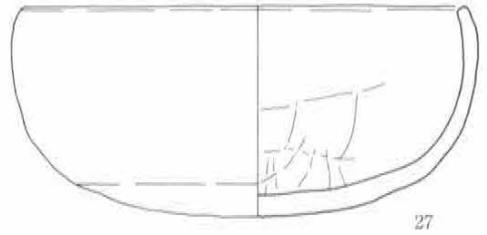
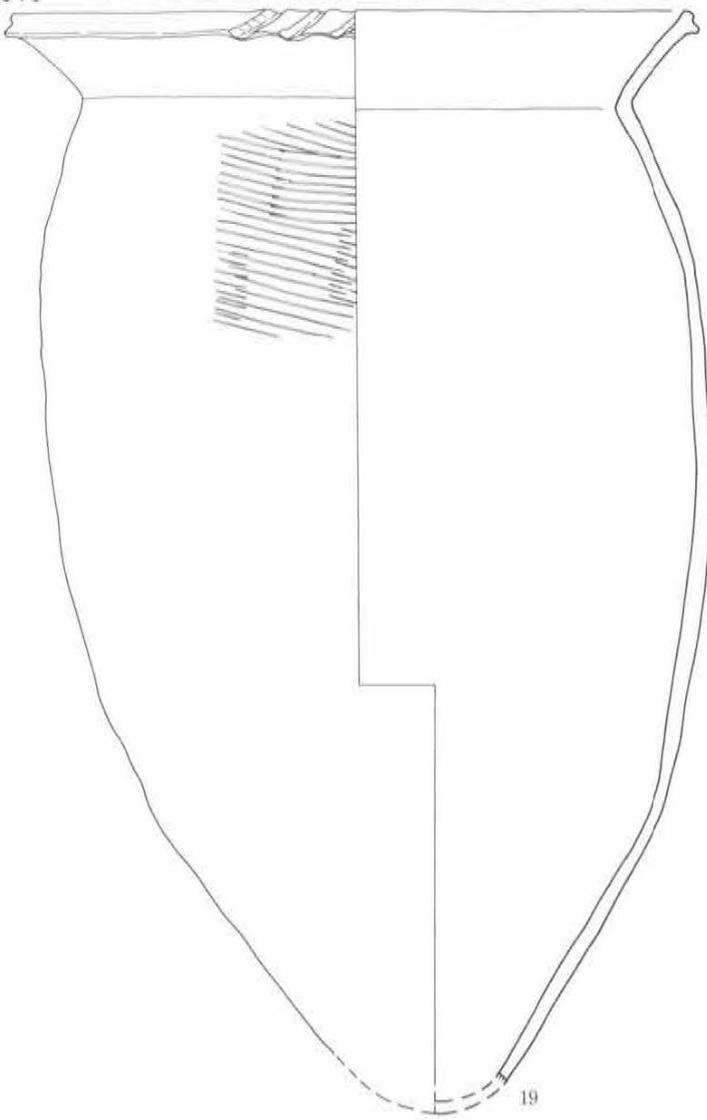


Fig.47 SI010出土遺物実測図② (1/3)

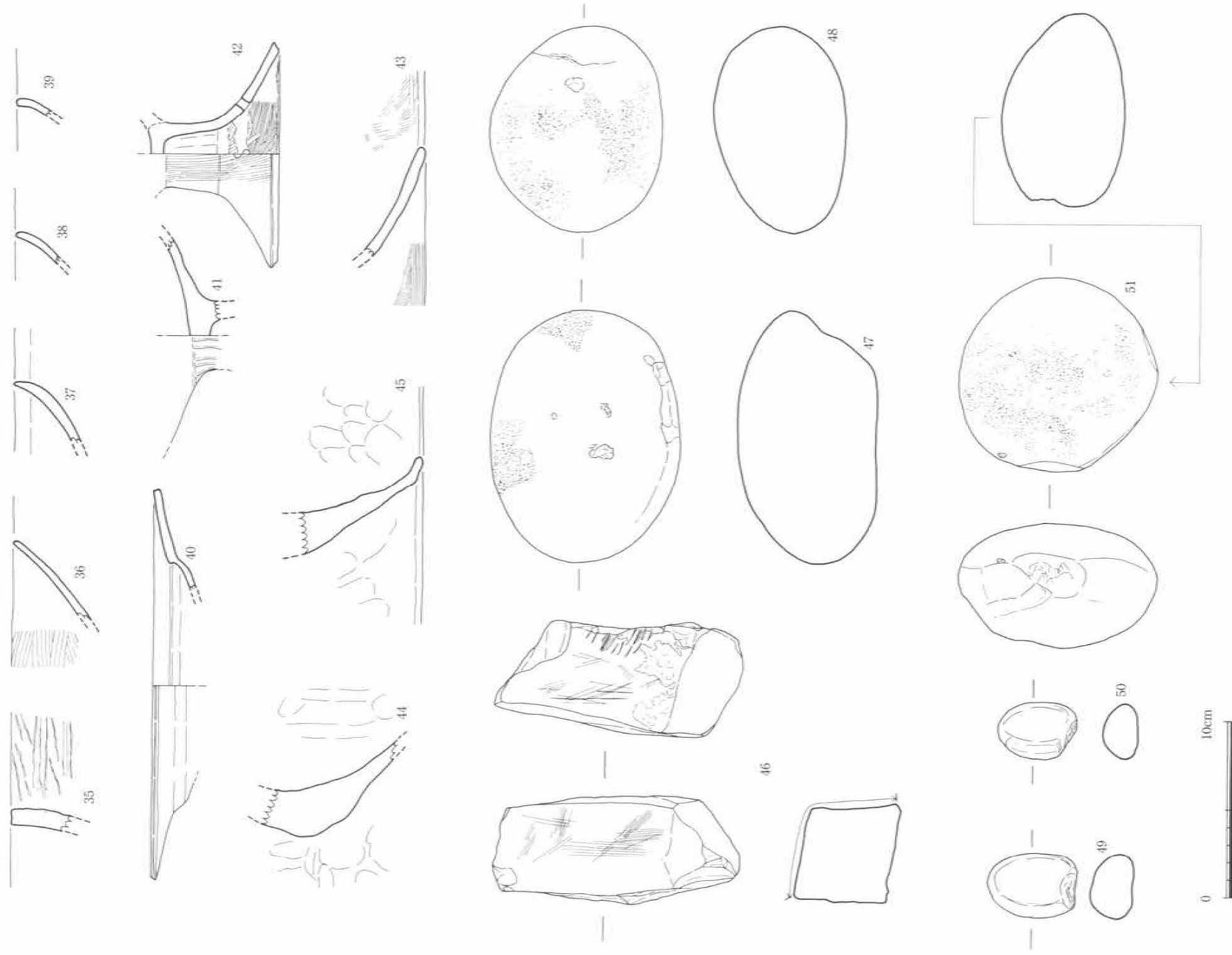
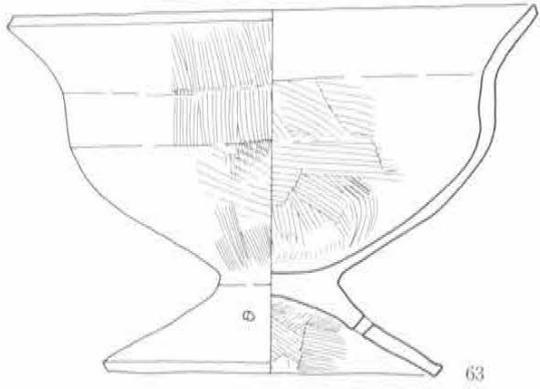


Fig.48 SI010出土遺物実測図③ (1/3)

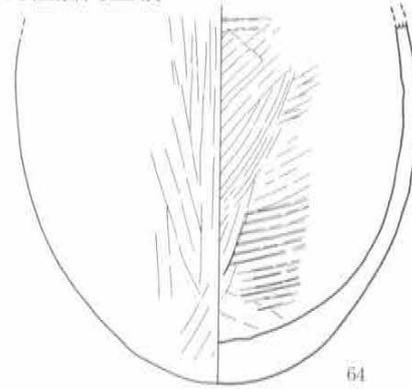


Fig.49 SI010出土遺物実測図④ (1/3)

SI010床面



SI010住居内土壇



SI010カクラン

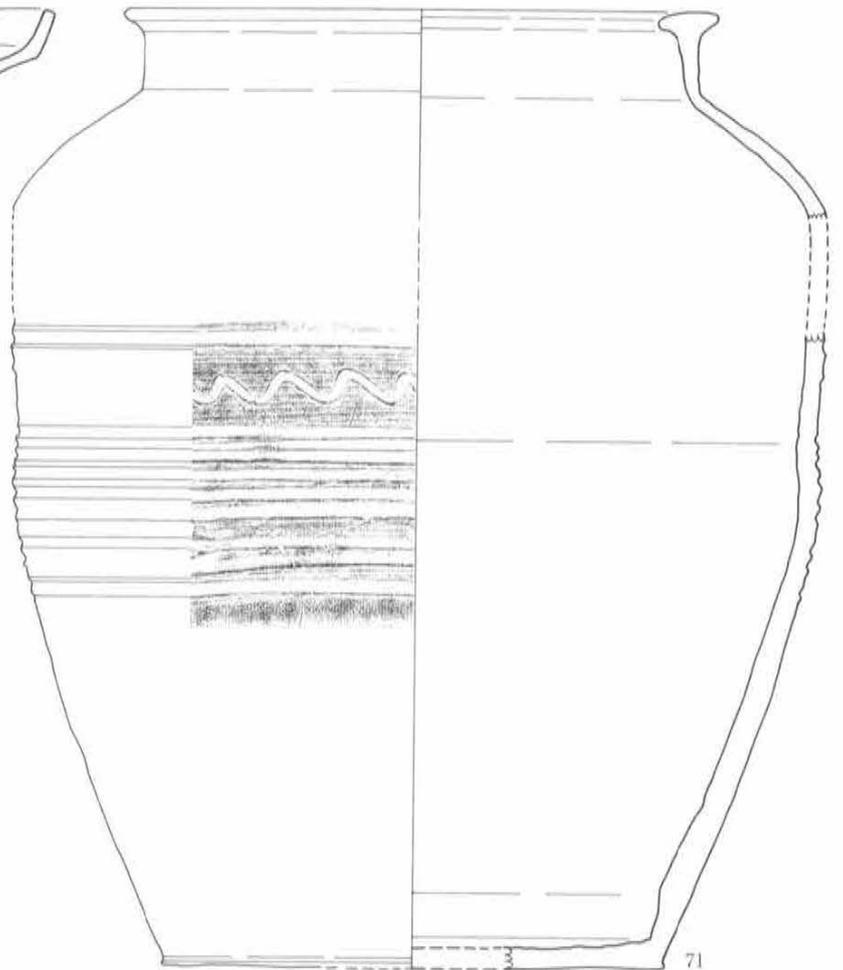
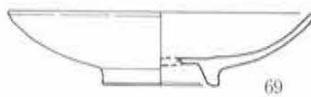
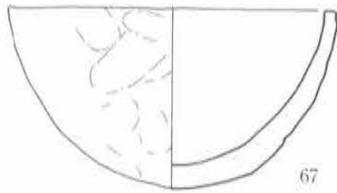
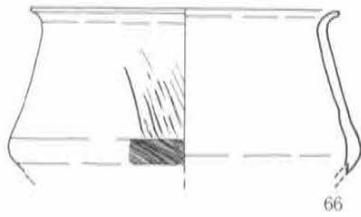
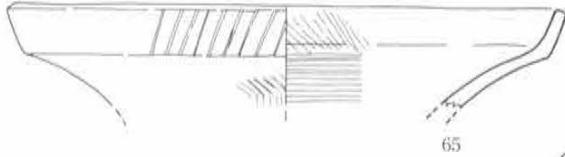


Fig.50 SI010出土遺物実測図⑤ (1/3) 石製品 (1/2)

鉢型土器 (67~68) 67は丸底で肉厚である。口唇部が工具により平坦に面取りされている。外面は指頭痕が残り、内面は不定方向に丁寧なナデられる。68はく字口縁の丸底の鉢で、外面は体部の屈曲まで横方向にナデかミガキのような調整を施し、体部屈曲下から底部が不定方向にナデが入る。内面は横方向に丁寧なナデが施される。

陶器 (69~71) 69は陶器の皿で、高台外面から施釉され見込み部分をカキ取る。胎土は灰色を呈し、透明に近い釉がかかる。70は底部糸切りで口縁付近に油煙が付く。71は陶器の中型甕で口縁は内外に突出し、外面には波状文と沈線が巡る。内面には格子の叩き後ナデ消す。

石製品 (72~73) 共に砥石で72は砂岩製で1面が剥離しているが残りの面は全て使用している。73は砂岩製で4面の使用が認められる。

S1025 (Fig.51~53, Pl.42~44)

壺型土器 (74~78) 74、75、76は丸底で口縁が直に立つ壺で内外面ともにハケ目で、黒斑が残る。75の内面は底部から時計回りに丁寧なハケ目を施す。76は口唇部に沈線が巡る。78は口縁端部に刻み目、口唇部に櫛目に近い文様が入る。

甕型土器 (79~84) 79は内外面ともにハケ目。80は外面ハケ目後ナデ、内面はハケ目、口唇部に沈線が巡る。81は胴長の甕で、外面にタタキ、内面にハケ目を施す。82は胴長で尖り気味の底部で、体部外面上半をタタキ、下半はハケ目、内面はハケ目を施す。外面に黒斑が残る。83、84は底部片で83は尖り気味の丸底で、外面をケズリに近い工具による強いナデが入り、内面も工具によるナデが施される。84は凸レンズ状の底部で内外面ともにハケ目である。

鉢型土器 (85~91) 85から87は口縁がく字になる鉢で、85は口唇部に沈線が入り、内外面ともにハケ目である。86は口縁部外面に横方向のハケ目後、縦方向のハケ目を施す。87はハケ目後、ナデを施す。88は口唇部を平坦に面取りした歪みのない鉢で、内外面を斜めにハケ目を施す。89は肉厚で粗雑なつくりの鉢で、外面は焼成時にひび割れをおこしている。底部外面はケズリとも捉えられる強い工具痕が残り、内面はハケ目である。90、91はミニチュアの鉢である。

高坏型土器 (92~93) 92は坏部で口縁部が大きく開き、鉢の可能性がある。調整は磨耗のため不明。93は脚部で1/3残存の1ヶ所に穿孔が残る。

支脚型土器 (94~95) 94は小型の支脚で天井部が傾斜し、全面ナデを施す。95は天井部が傾斜し、体部外面にはタタキが施される。

器台型土器 (96) 脚部片で、外面はタタキ後ナデを施す。内面はハケ目。裾端部が内側に踏ん張り、平坦に仕上げる。

土製品 (97) 土製の柄杓で坏部が欠損する。握り部分に指頭痕が残り、坏部内面はハケ目を施す。

鉄製品 (98) 鉄製の鎌で、幅2.7cmの鉄板を鋭角に折り曲げており、途中で破損している。着装時の木質等は認められなかった。

石製品 (99~101) 99、100は花崗岩製の磨石と考えられ、中央部分に小さな窪みが残る。101は花崗岩製の敲石である。

S1030 (Fig.54~55, Pl.44~46)

壺型土器 (102~103) 102は平底の底部を有し、内外面共にハケ目である。胎土は小砂粒が多く粗い。103は小砂粒を殆ど含まない精選された胎土の小型壺で、外面は不定方向のナデ、内面は横方向にナデを施す。外面体部に黒斑が残る。

甕型土器 (104~113) 104は大型の甕で、頸部に断面三角形の突帯が張り付く。内外面ともにハケ目、口縁部は横方向にナデを施す。105から109は甕口縁部片で、105は内外面をハケ目、口唇部にもハケ目が残る。106は傾きから壺の範疇に入るが、内外面ともにハケ目、外面に黒斑が残る。焼成不良である。107は内面にハケ目が施され、外面は焼成不良のため不明。108は体部内外面に縦方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施す。頸部から体部にかけて肉厚である。109は体部内面に横方向のハケ目、口縁内面は横方向のナデ、外面は焼成不良のため不明。頸部内側の稜は明瞭である。110は体部外面を縦方向のハケ目、内面を斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施す。111から113は底部片で

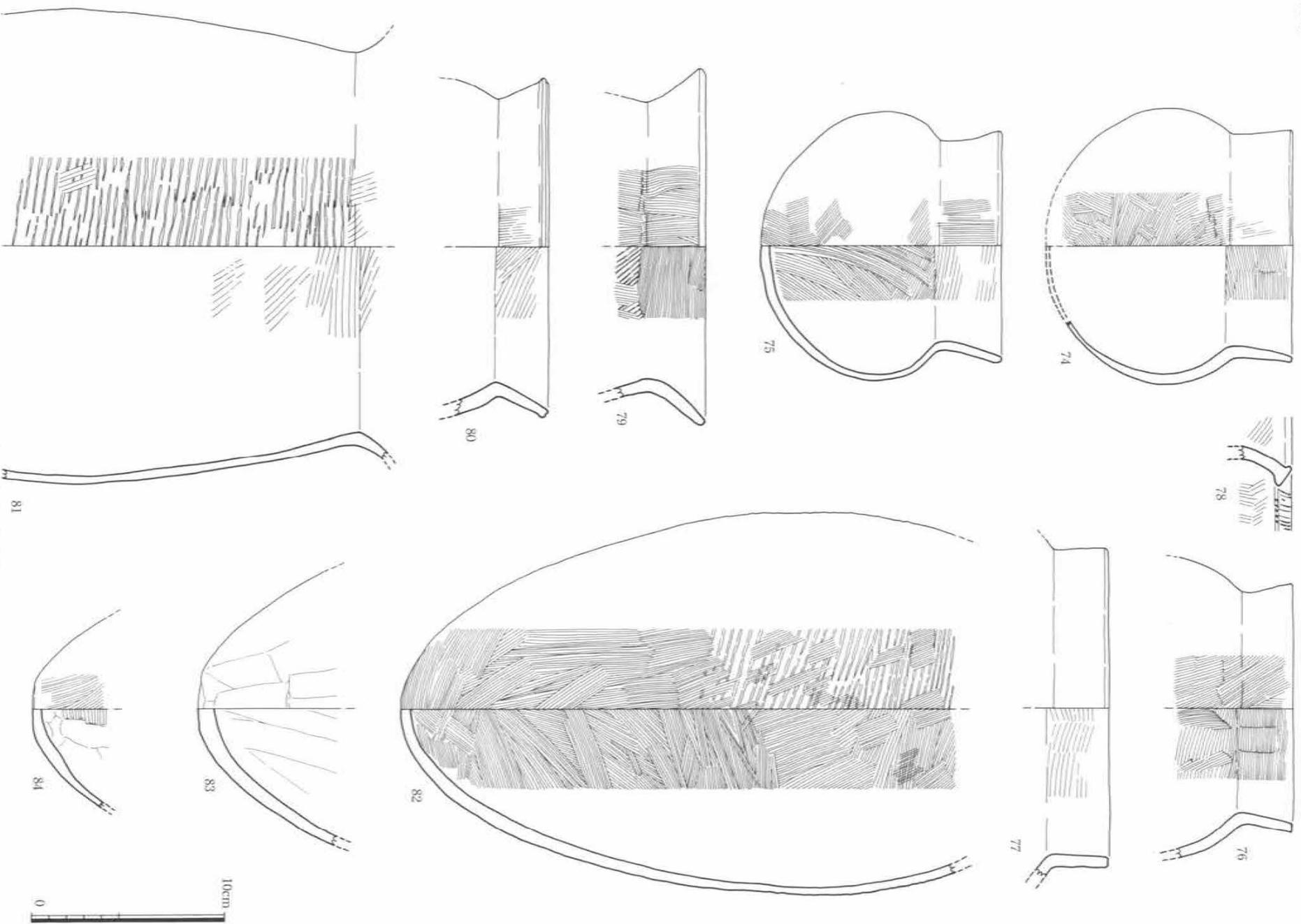


Fig. 51 S1025出土遺物実測図① (1/3)

SI025

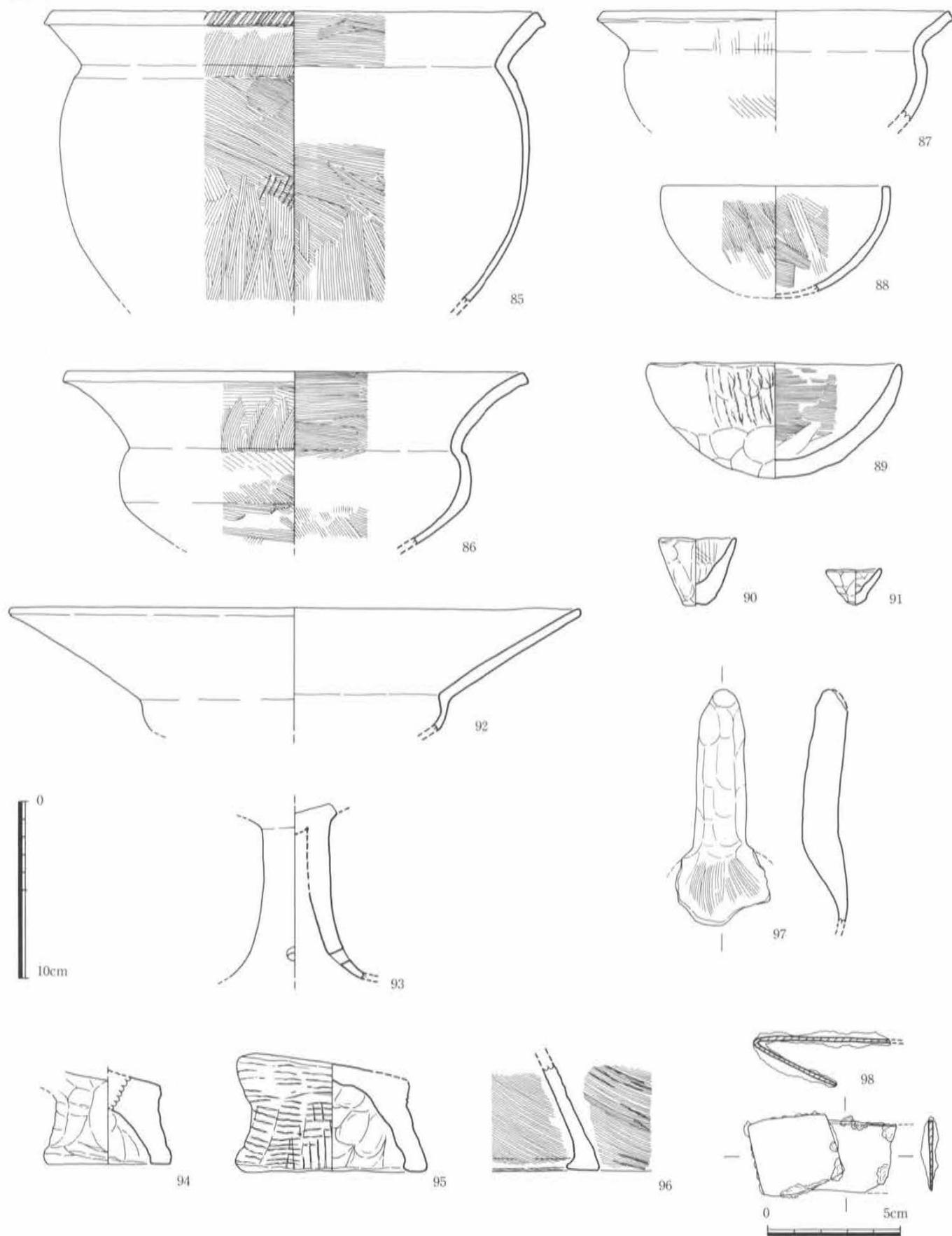


Fig.52 SI025出土遺物実測図② (1/3) 鉄製品 (1/2)

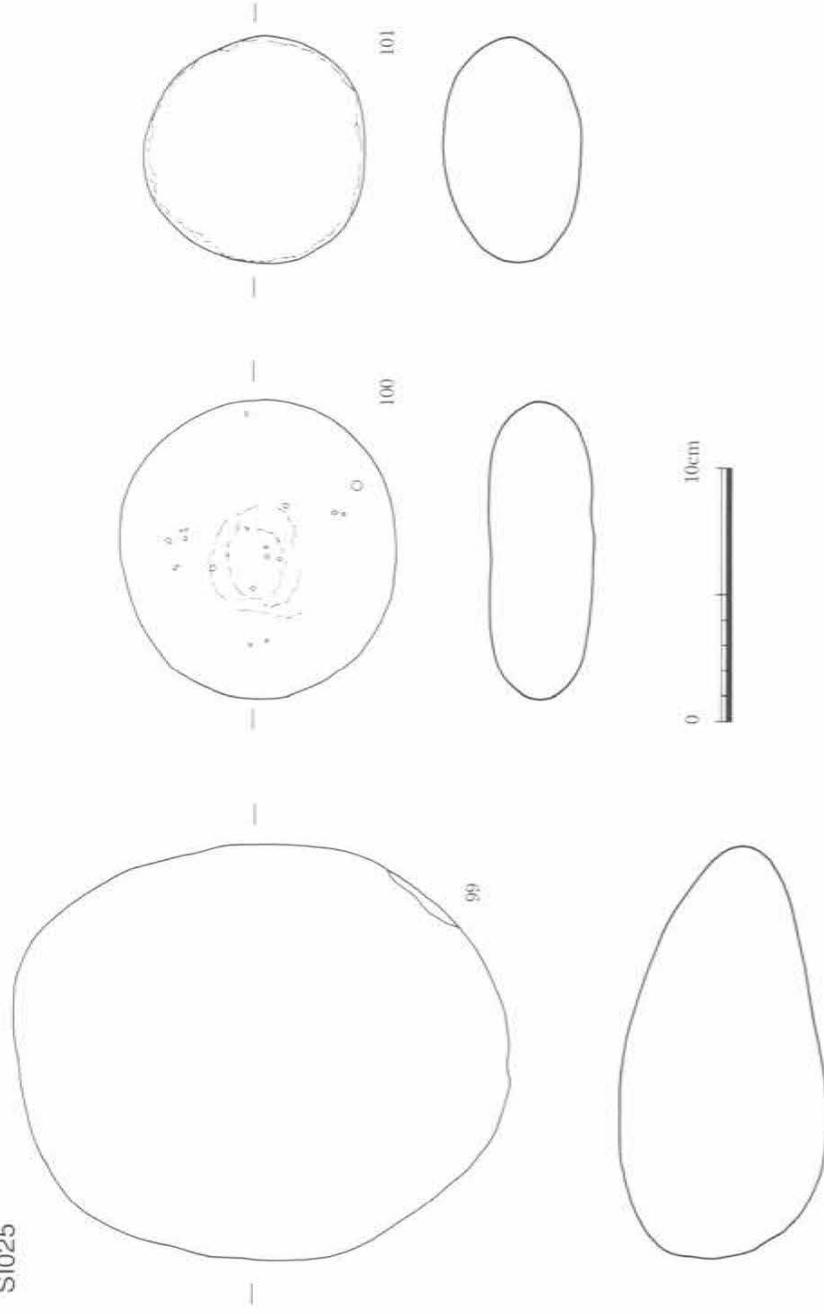


Fig.53 SI025出土遺物実測図③ (1/3)

111は内外面ともに縦方向のハケ目を施す。112、113は平底を呈し、小型である。112は内外面を不定方向のナデ、113は外面を不定方向にナデで調整する。114は甕（壺）の体部片で、上部に断面三角形、下部に断面台形の突起が貼り付けられる。焼成不良で調整は不明。

鉢型土器（115～119） 115、116は平底の鉢で115は外面底部までハケ目、内面は丁寧にナデが入る。焼成は良好で、小砂粒が比較的多く入る。116はほぼ完形で、全体的に黒灰色を呈し、外面に縦方向のハケ目、内面は不定方向にナデを施す。口唇部に沈線が約2/3周する。117は体部外面をハケ目、内面を縦方向にナデが入り、口縁部は横方向にナデする。内外面に黒斑が残る。118は精選された胎土で器壁が薄い丸底になる鉢である。体部外面下半にハケ目後、ナデ調整され、口縁部は横方向にナデが入る。内面は丁寧にナデを施す。119は小型の鉢で平底を呈し、外面はミガキに近い縦方向の工具痕が残る。内面は不定方向にナデを施す。

支脚型土器（120～123） 120は体部から口縁部が直に立ち、121は裾部が直に踏ん張る。外面には指頭痕が残る。122、123は器台に近く、裾部が開き、122は外面を縦方向のハケ目、内面を縦方向のナデで裾端部を横方向にナデで調整する。123は肉厚で外面は縦方向のハケ目、内面は縦方向にナデ、裾端部を横方向にナデする。

石製品（124～127） 124は砂岩製の砥石で1面のみ使用痕が残る。125、126は花崗岩製の小型の磨石である。127は結晶片岩製の石包丁で半分が欠損している。紐穴間の芯々距離は約2.5cm、背までは0.9cmである。

SI035 (Fig.56, Pl.46)

壺型土器（128～130） 128は底部が尖り気味になる丸底で、内外面にハケ目が施され、黒斑が残る。129はレンズ状の底部で、胎土に小砂粒を多く含む、焼成不良のため調整は不明。130は二重口縁甕の口縁部片で接合面から剥離している。内面に横方向のハケ目を施す。

甕型土器（131～133） 131は頸部内側の稜が明瞭で、体部外面中にタタキ後、縦方向のハケ目を施し、口縁外面は斜め方向にハケ目が入る。体部内面は斜め方向にハケ目、口縁内面には横方向のナデを施す。2ヶ所に黒斑が残り、内外面とも淡黄褐色を呈する。

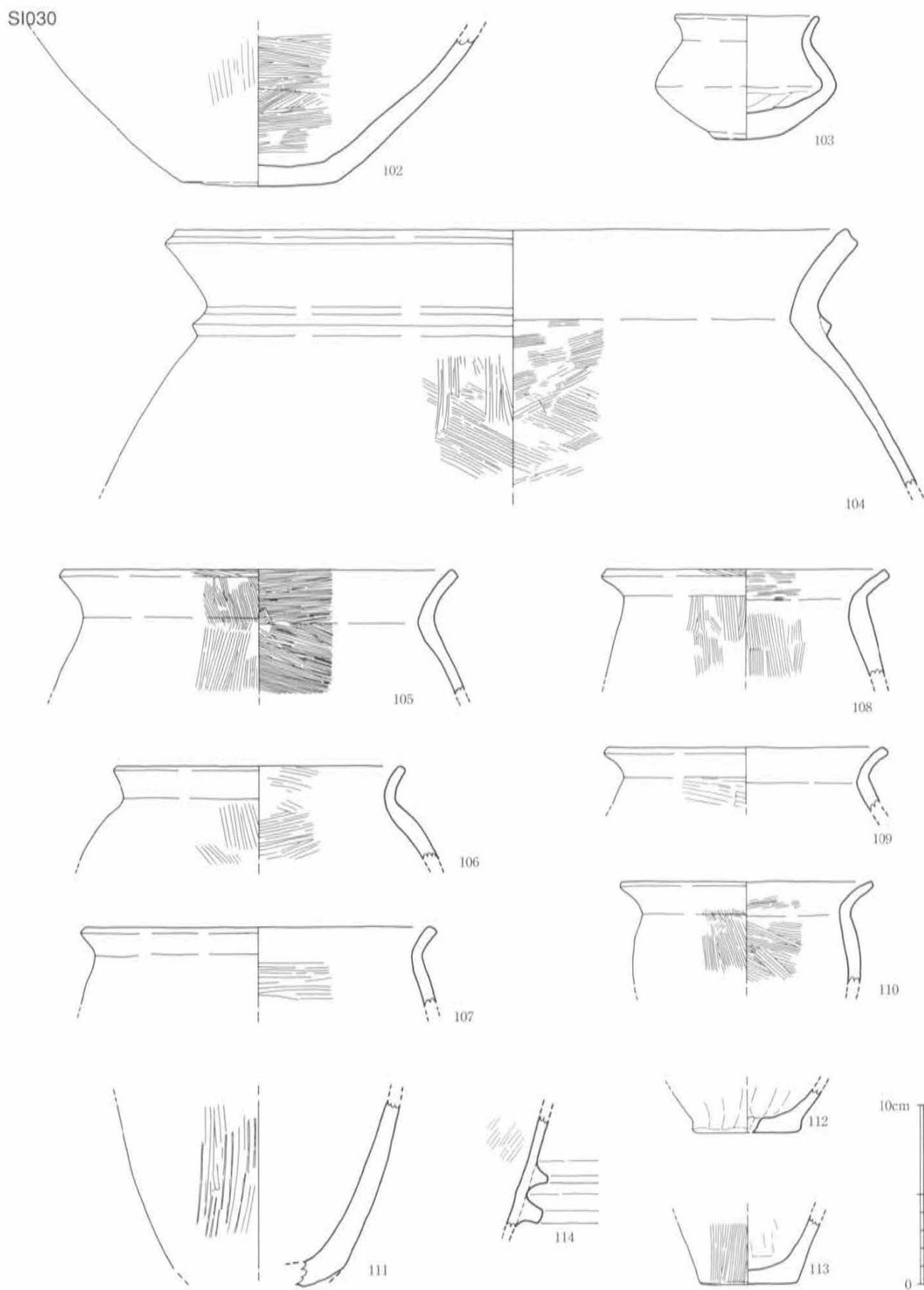


Fig.54 SI030出土遺物実測図① (1/3)

SI030

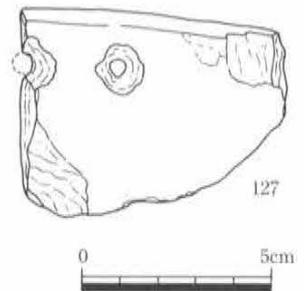
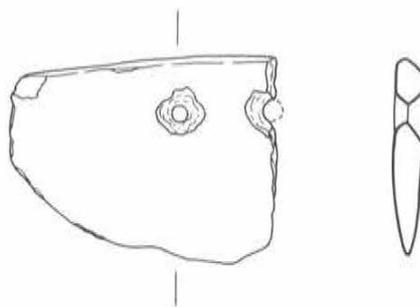
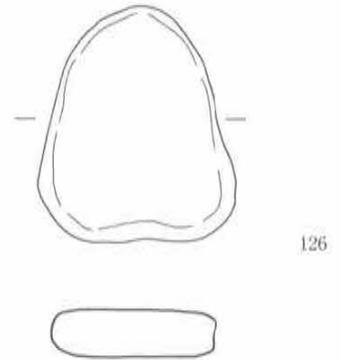
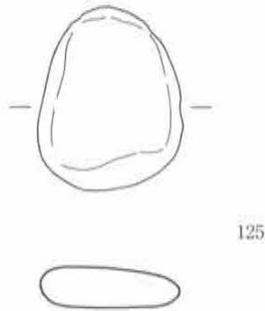
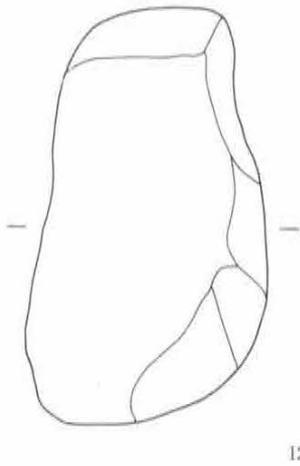
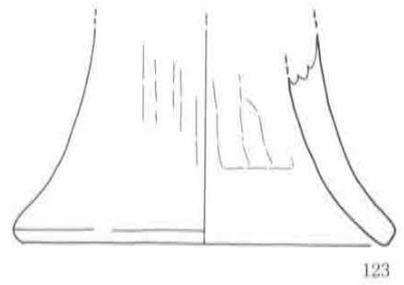
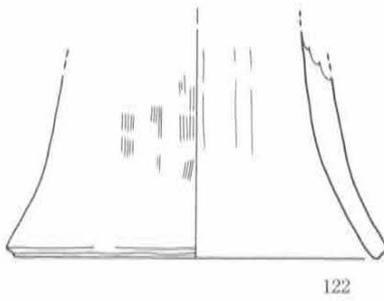
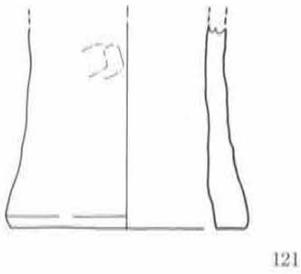
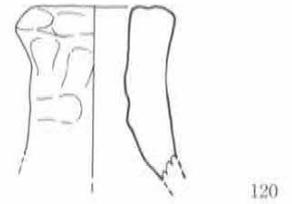
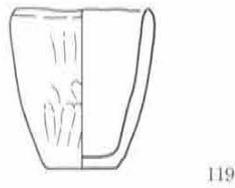
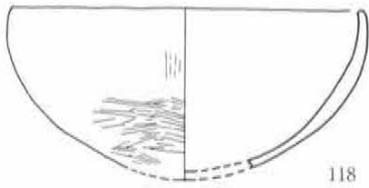
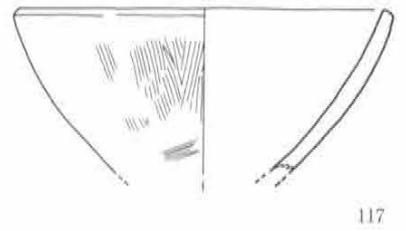
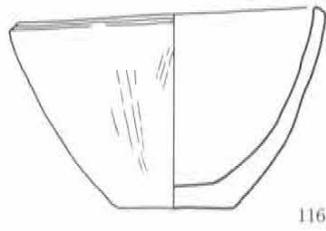
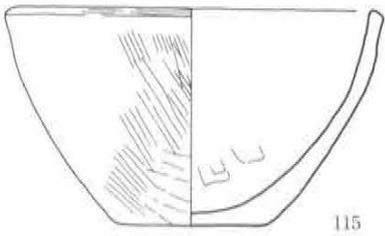


Fig.55 SI030出土遺物実測図② (1/3) 石包丁 (1/2)

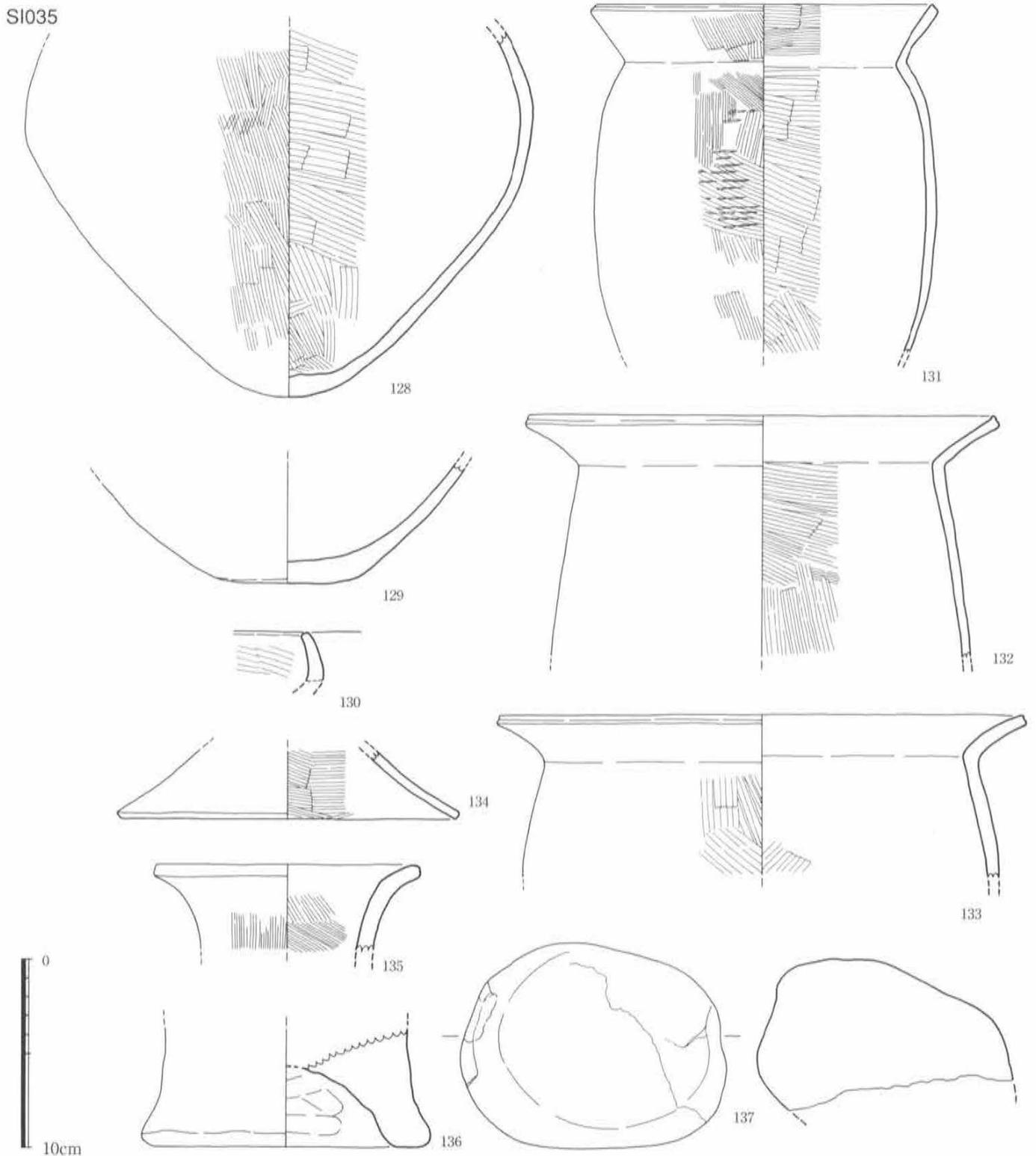


Fig.56 SI035出土遺物実測図③ (1/3)

132は頸部屈曲が明瞭な甕で、外面は磨耗のため調整は不明。内面はハケ目が入る。口唇部に浅い沈線が巡る。133は外面にハケ目、内面にナデを施す。焼成は不良である。

高坏型土器 (134) 外面は縦方向のナデ、内面はハケ目を施す。胎土はよく精選されている。焼成は不良で外面は明橙茶色、内面は淡黄褐色を呈する。

器台型土器 (135) 口縁部片で、内外面ともにハケ目を施す。胎土には小砂粒が多く入り、焼成は不良。
支脚型土器 (136) 粗雑な作りで厚みのある支脚で胎土は精選されており、植物痕が看取できる。内外面にナデを施す。焼成は不良で内外面ともに明赤褐色を呈する。

石製品 (137) 不明石製品で叩き石等の類か。

SI050 (Fig.57、Pl.47)

壺型土器 (138) 複合口縁壺で、口縁が内側に屈曲する。外面は縦方向のハケ目、口縁端部外面は横方向のナデ、内面はハケ目、口縁端部内側は横方向にナデが入る。焼成は良好で、淡黄灰色を呈する。

甕型土器 (139) 口縁屈曲下に稜が入り、胴部が張らない甕で、体部外面はハケ目、内面は縦方向にハケ目が入る。全体的に焼成が不良で調整が不鮮明である。

器台型土器 (140) 肉厚で体部外面に縦方向の強い工具痕が残る。内面は縦方向のハケ目を施す。

SI070 (Fig.57~58、Pl.47、48)

壺型土器 (141) 底部片で、丸底を呈する。胎土に小砂粒が多く入り、内外面ともにハケ目が施される。

甕型土器 (142~147) 142は体部外面にタタキが残り、口縁部は縦方向のハケ目が入る。体部内面はハケ目が施される。淡黄褐色を呈する。143は体部外面に縦方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施す。比較的薄い器壁で、淡茶褐色を呈する。144は外面口縁付近まで縦方向のハケ目、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面は横方向のハケ目を施し、淡黄褐色を呈し、外面に黒斑が残る。145は口縁部屈曲が明瞭で、外面の口縁一部にまでタタキが入り、内面はナデを施す。焼成はやや不良で淡黄灰色を呈する。146は口縁小片で、口縁外面ナデ、内面は横方向のハケ目を施す。147は丸底で内外面ともにハケ目を施す。

鉢型土器 (148~152) 148は体部外面にタタキに似た工具痕が残り、ナデ消している。内面は横方向のナデを施す。149はく字口縁をもつ鉢で、口縁屈曲が明瞭である。調整は磨耗のため不明。150はく字口縁の鉢で、体部外面は口縁部までハケ目、底部に近い部分でハケのような工具痕が残る。内面はハケ目を施す。内外面に黒斑が残る。152は口縁部が直に立つ小型の丸底(壺)で、外面底部から体部の屈曲までをヘラケズリに近い工具痕が残り、体部の屈曲から頸部にかけて斜め方向のハケ目、口縁部は縦方向のハケ目後、横方向にナデを施す。内面はハケ目である。

高坏型土器 (153~154) 153は脚部片で磨耗が著しいため調整は不明であるが、胎土は精選されている。154は脚裾部片で内外面ともにハケ目を施す。

土製品 (155~156) 共にメンコ状土製品で甕片である。

SI070床面 (Fig.58、Pl.48)

壺型土器 (157~158) 157は外面屈曲下半は不定方向のハケ目、内面はナデ、口縁内外面は横方向のナデ。158は口縁が直に近い立ち上がりをもつ壺で器壁が薄い。焼成不良で調整は不明。

SI070住居内土壙 (Fig.58、Pl.48)

甕型土器 (159) 甕小片で、口縁屈曲が明瞭である。磨耗のため調整は体部外面にハケ目が看取できるのみである。小砂粒を若干含み、淡黄褐色を呈する。

鉢型土器 (160~162) 160は口縁を端部を内湾させ、体部外面から底部にかけてミガキ、ケズリとも捉えられる工具痕が残る。内面はハケ目後、ナデで仕上げる。161は小型の鉢で、体部外面にケズリのような工具痕が残り、口縁内外面は横方向にナデを施す。162はミニチュアの鉢で外面をハケ目、内面をナデで調整する。

SI075 (Fig.58~59、Pl.48~50)

壺型土器 (163~168) 163は体部外面をハケ目、内面を斜め方向のハケ目、口縁外面は縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目を施す。165は底部が凸レンズ状を呈し、体部外面縦方向のハケ目、内面はハケ目、底部はナデで調整する。164は無頸壺で口縁が内側に入る。体部内外面をハケ目、口縁内外面を横方向にナデ。166は丸底の壺で、球形を呈する。外面は内外面ともにハケ目を施す。167、168はく字口縁の壺で胴部最大径部分に縦方向のハケ目、体部下位に横方向のミガキが入る。内面上位は横方向のハケ目、下半に不定方向のハケ目を施す。2点は同一個体の可能性があるが接合面がない為、あえて

別図にしている。

甕型土器 (169~175) 169は外面を斜め方向のハケ目、内面は横方向のハケ目。170は外面ハケ目、内面はナデ。171は口縁端部を内側に摘み上げる。外面は縦方向のハケ目後、横方向のナデ、内面は横方向のハケ目を施す。172は口縁部屈曲が明瞭で体部外面ハケ目、内面は不定方向のナデ、口縁外面は縦方向のハケ目後、横方向のナデを施す。173は体部内外面にハケ目を施す。174は胴部片で内外面ともにハケ目を施す。175は底部片で丸底を呈するものと考えられ、内外面ともにハケ目を施す。

鉢型土器 (176~186) 176から179は丸底の鉢で、176は体部外面が焼成時にひび割れしている。内外面共にナデ調整。177は内面をナデ、外面は磨耗により不明。178は体部外面から底部をケズリを施したような工具痕が残り、内面はナデを施す。坏の範疇に入れてよいのではないか。179は尖り気味の底部を有する鉢で、底部外面から体部の一部分にケズリのような工具痕が残り、内面はハケ目後、ナデが入る。180は底部が厚く、体部外面は焼成時にひび割れをおこしている。体部下半から底部にかけて、ケズリのような工具痕が残る。内面は不定方向のナデ。181は大ぶりの鉢で、口縁部が肉厚で口唇部を平坦に仕上げる。内外面ともにハケ目、外面に黒斑が残る。182、183は壺とも捉えられる小片である。外面は縦方向のハケ目、内面は口縁部が横方向のハケ目、体部がナデである。184は無頸の甕で体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。体部内外面ハケ目、口縁部は横方向のナデが入り、外面には黒斑が残る。185はく字に開く鉢で、脚付きの可能性はある。内面をナデ、外面は磨耗のため不明。186は小型の鉢で、口縁部を外側に摘み出す。焼成不良で磨耗のため調整は不明。

高坏型土器 (187~189) 187は外面を刷毛目を施す。188、189は脚裾部で188は内外面ともにハケ目を施す。189は2ヶ所に穿孔が施され、欠損部分を復元すると4ヶ所の穿孔が想定される。内外面ともにハケ目、焼成は不良である。

土製品 (190~191) 不明粘土塊で、190は精選された胎土で淡黄褐色を呈する。191は淡黄褐色である。SI080 (Fig.60, Pl.50)

壺型土器 (193~194) 口縁がく字に開く壺で、口唇部に刻み目を施す。外面はハケ目、内面はナデを施す。194は口縁が直に近い立ち上がりの壺で、体部内外面はケズリに近い工具痕が残る。口縁部は内外面共に横方向のナデを施す。

鉢型土器 (195~201) 195は完形の平底鉢で、全体的に黒灰色を呈し固く焼き締まっている。外面はハケ目であるが、底部付近にケズリが入る。内面は丁寧なナデを施す。196から201はほぼ完形の丸底鉢で、196、197、198は焼成時のひび割れが残る。196外面を不定方向のハケ目、内面はコテ当てのような工具によるナデが残り、底部には黒斑が残る。197、198は体部下半から底部にかけてケズリが入り、内面は不定方向のナデを施す。200の外面はハケ目後、ナデ消している。斜め方向のハケ目を施す。199、201は薄いつくりで、内外面をハケ目で仕上げている。共に土師器坏の範疇に入るものである。

SI080柱穴 (Fig.60, Pl.51)

甕型土器 (203) 口縁部小片で、内外面ともに横方向のナデ。淡茶褐色を呈する。

鉢型土器 (202) 小型のく字口縁になる鉢で、内外面ともにハケ目で淡黄褐色を呈する。

SI080第1床面 (Fig.60, Pl.51)

甕型土器 (204) 平底の甕で、内外面ともにハケ目。外面は淡茶黒色、内面は淡茶褐色を呈する。

鉢型土器 (205) ミニチュアの鉢で皿に近い。内外面に指頭痕が残り、ナデで調整する。黒斑が残る。

SI080第2下床面 (Fig.60, Pl.51)

壺型土器 (206) 193に近似した壺で内外面にハケ目を施す。口唇部に刻み目を有する。

石製品 (207~208) 207は不明石製品で磨石の類か。208は黒曜石製の剥片鏃で抉り部分を丁寧にする。

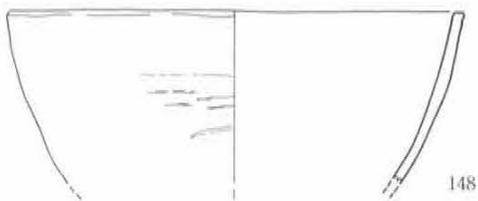
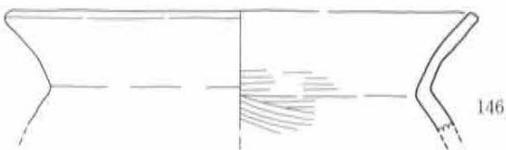
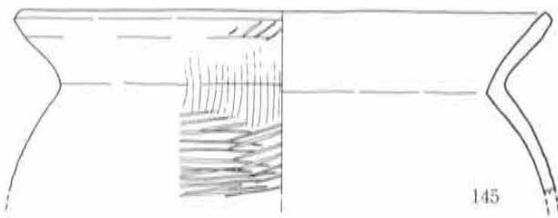
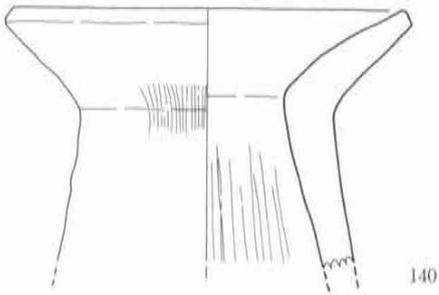
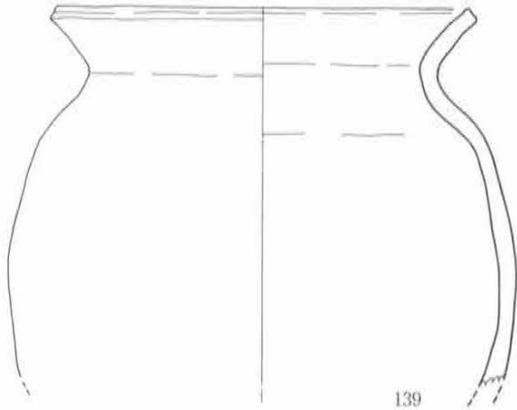
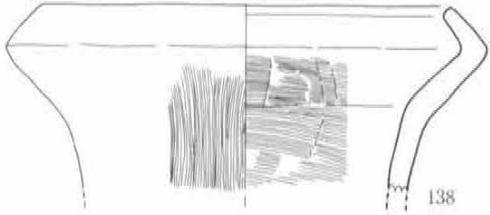
SI080住居内土壇 (Fig.60, Pl.51)

鉢型土器 (209) 小片であるが、体部外面に横方向のケズリが入り、口縁は斜め方向のハケ目、内面は横方向にナデを施す。

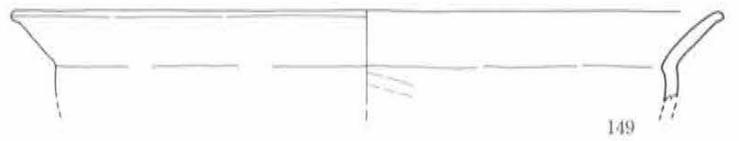
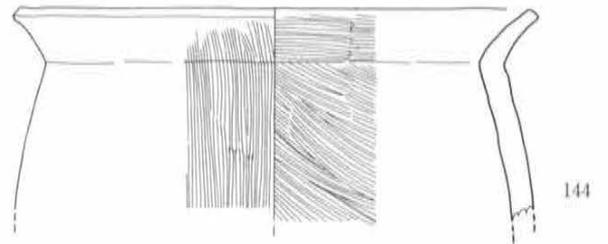
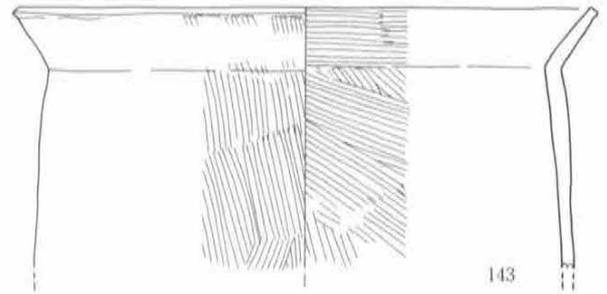
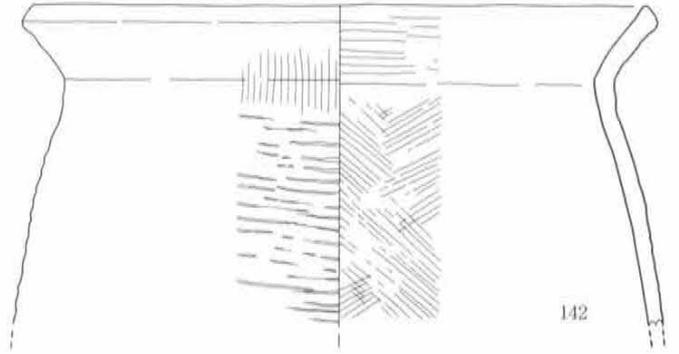
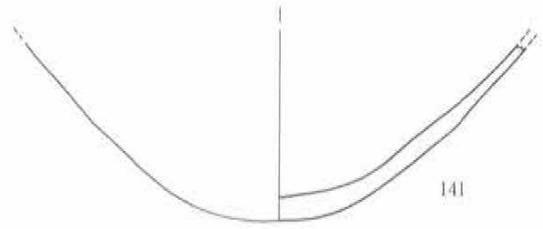
石製品 (210) 210は不明石製品で磨石の類か。

土製品 (211) 不明土製品で、棒状のもので穿孔されたような痕跡が残る。

SI050



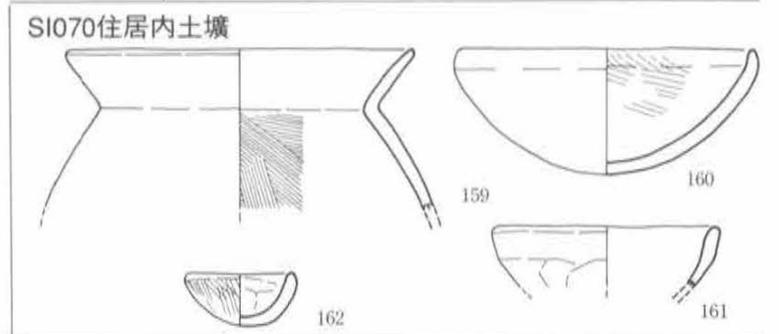
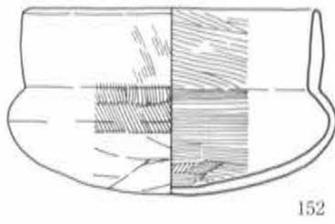
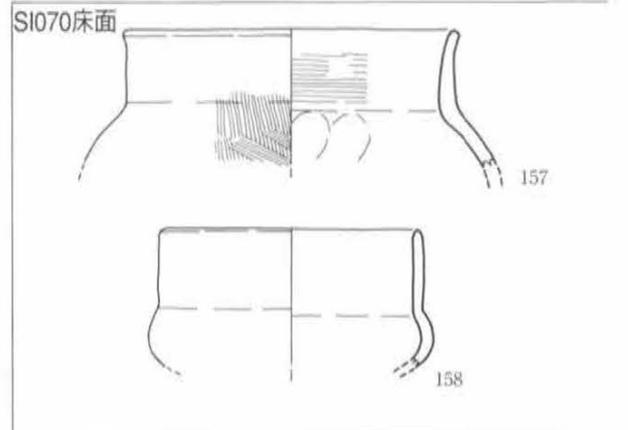
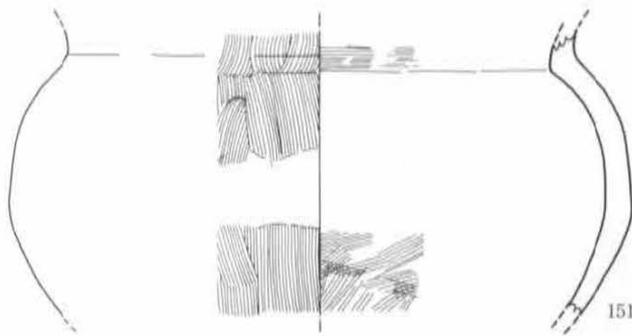
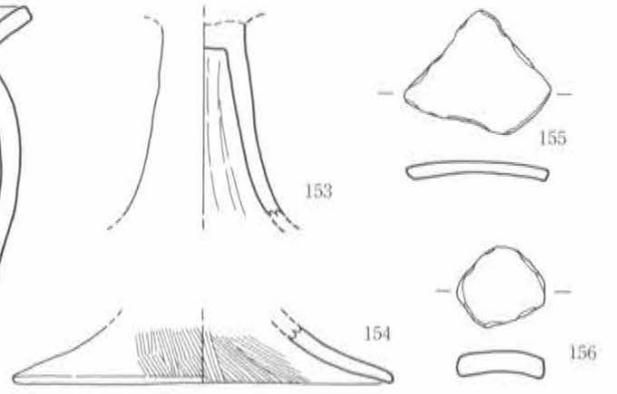
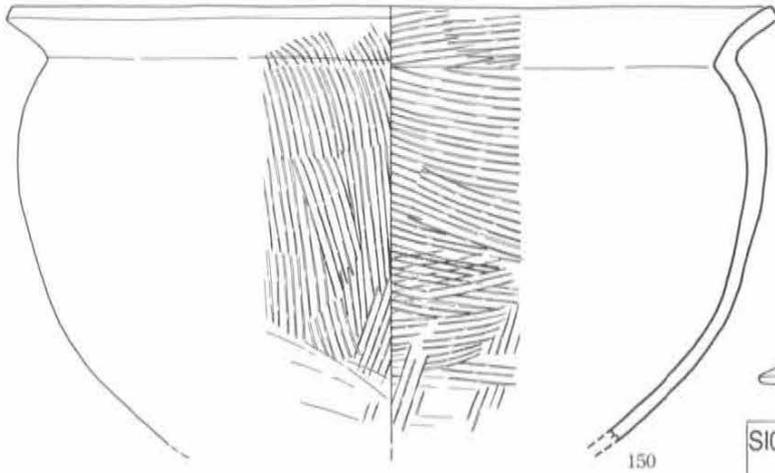
SI070



0 10cm

Fig.57 SI050・070出土遺物実測図① (1/3)

SI070



SI075

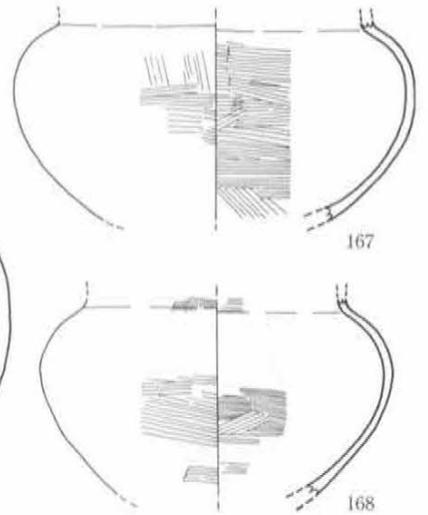
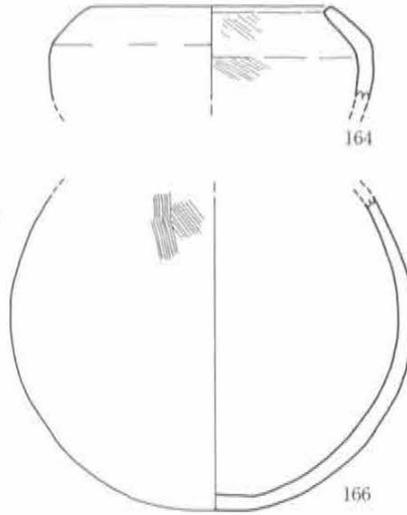
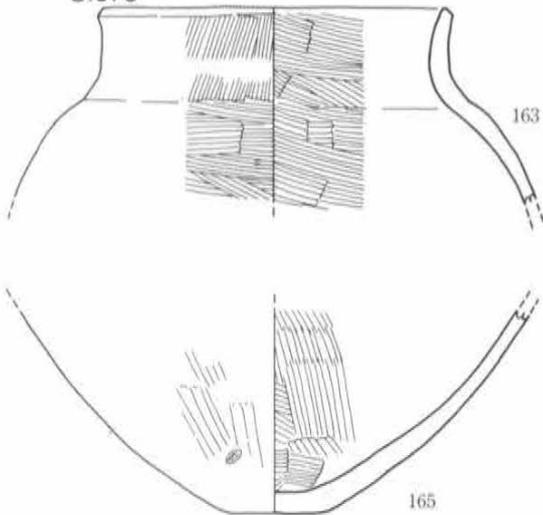


Fig.58 SI070・075出土遺物実測図② (1/3)

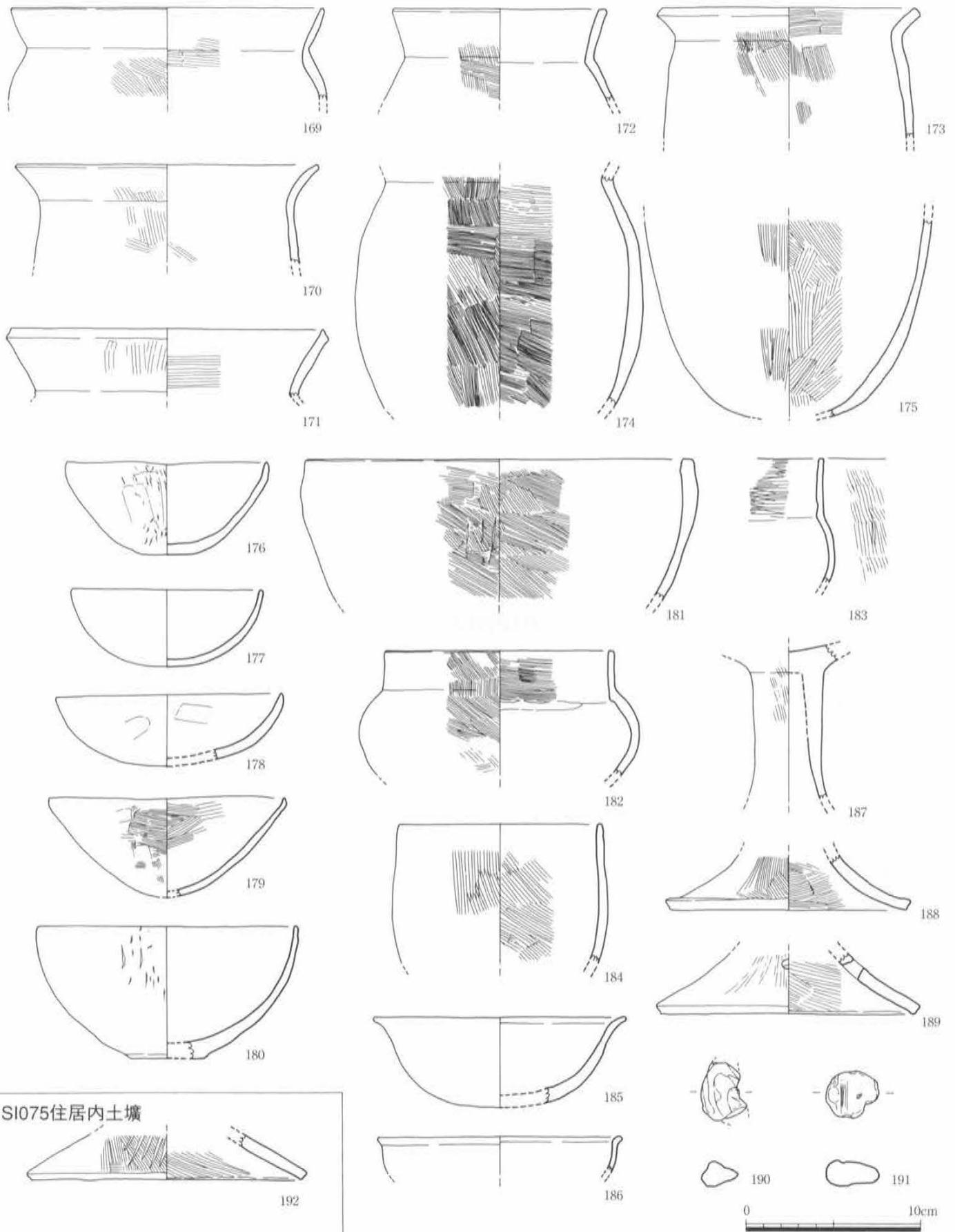
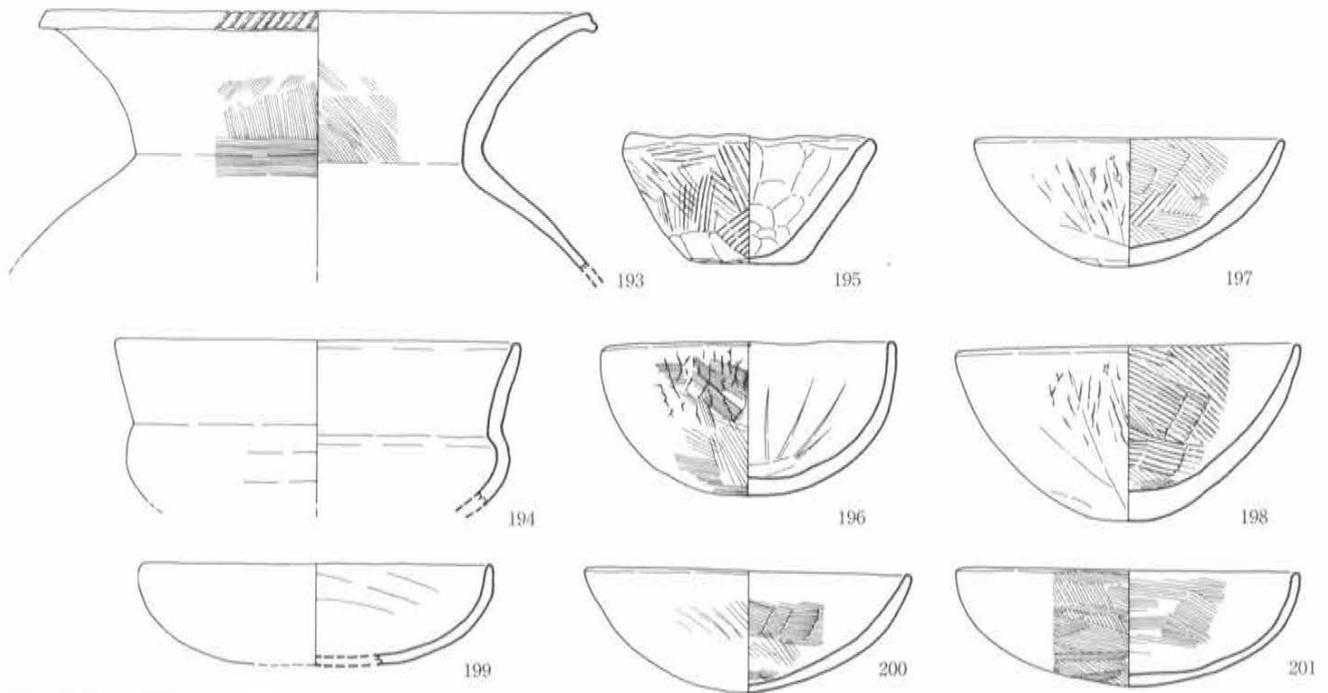
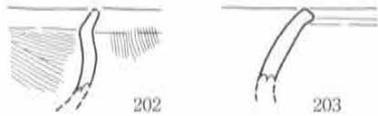


Fig.59 SI075出土遺物実測図③ (1/3)

SI080



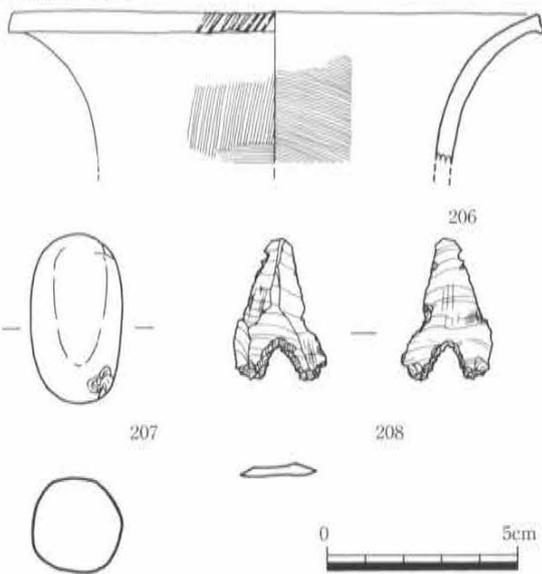
SI080 柱穴



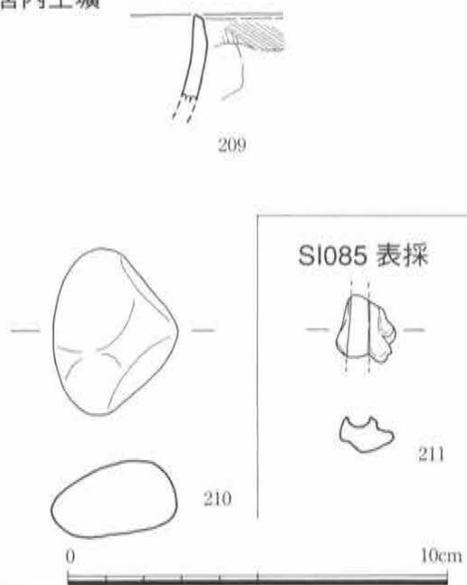
SI080 第1床面下



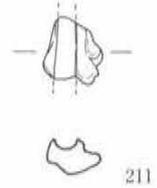
SI080 第2床面下



SI085 住居内土境



SI085 表採



SI095

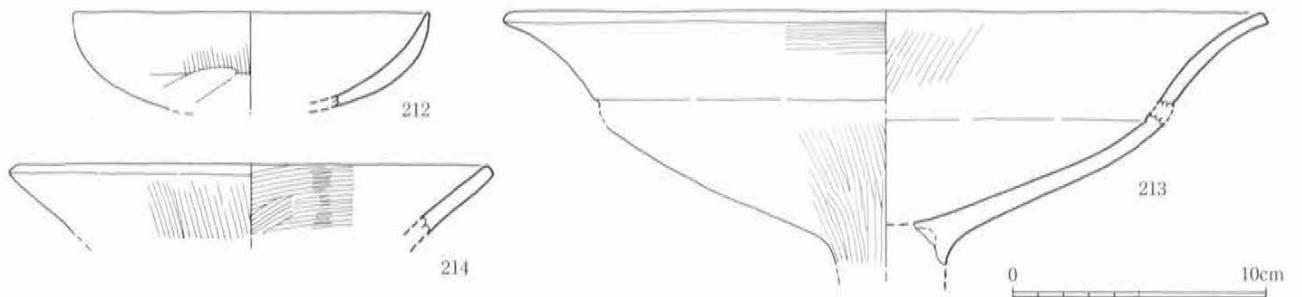


Fig.60 SI080・085・095出土遺物実測図 (1/3) 石製品・土製品 (1/2)

SI095 (Fig. 60, Pl. 51)

鉢型土器 (212) 胎土がよく精選されており、外面は底部ケズリ、体部ハケ目、口縁横方向のナデ、内面は横方向のナデで調整する。焼成は良好で淡赤褐色を呈する。

高坏型土器 (213) 口縁部が屈曲し外反する高坏で、坏部外面に縦方向のハケ目、内面はナデを施す。器台型土器 (214) 口縁部片で外面はハケ目後、ナデ、内面は横方向にナデを施す。

SI100 (Fig. 61, Pl. 51, 52)

甕型土器 (215~217) 215は頸部が若干縮まる甕で、体部内外面をハケ目、口縁内外面を横方向にナデで調整し、淡赤褐色を呈する。216は外面を縦方向のハケ目、体部内面を斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を施す。217は口縁屈曲が明瞭で、体部外面を縦方向のハケ目、口縁は横方向のナデ、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を丁寧に施す。

鉢型土器 (218~219) 218は外面に指頭痕が残り、ナデを施し、内面は不定方向にナデ、口縁内外面は横方向のナデを施す。内面に黒斑が残る。219は平底の鉢で口縁が歪んでいる。淡黒灰色を呈し固く焼き締まり、体部外面屈曲下に工具痕が残り、全体的にナデを施す。内面はハケ目後、ナデを施している。

SI105 (Fig. 61~62, Pl. 52)

甕型土器 (222~223) 222は底部片で平底を呈す。体部内外面にハケ目を施す。底部内外面はナデを施す。223は底部片で平底を呈する。内外面ともにハケ目を施す。

甕型土器 (220~221) 220、221は同一個体と考えられるが接合面がない為、別図にしている。口縁屈曲の稜は明瞭である。体部外面を縦方向のハケ目、口縁は横方向のナデ、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁は横方向のハケ目を施す。

鉢型土器 (224) 平底の鉢で、内外面底部にまでハケ目を施す。底部外面に黒斑が残る。

高坏型土器 (225) 坏部片で口縁が屈曲し外反して、口縁端部で更に外反する。内面に横方向のミガキ、外面には波状の暗文と横方向のミガキを施し、淡茶褐色を呈する。

器台型土器 (226) ミニチュアの器台で、内外面を縦方向にナデを施す。

石製品 (227~230) 227は頁岩製の石剣で切先部を欠損する。研ぎの方向に縞が出ており、基部を折損した後2次加工をして再利用している。残存長約7.1cm、幅3.2cm、厚さ0.7cmを測り、2本の筋は明瞭で、丁寧な作りである。228はサヌカイト製の石鎌である。229、230は不明石製品で磨石の類か。

SI105床面 (Fig. 62, Pl. 53)

石製品 (231) 緑泥片岩である。

SI105住居内土壇 (Fig. 62, Pl. 53)

鉢型土器 (232) ほぼ完成形の鉢で、外面をハケ目、内面の口縁部を横方向のナデ、底部から体部にかけてを不定方向のナデを施す。焼成良好で淡茶黒色を呈する。外面に黒斑が残る。

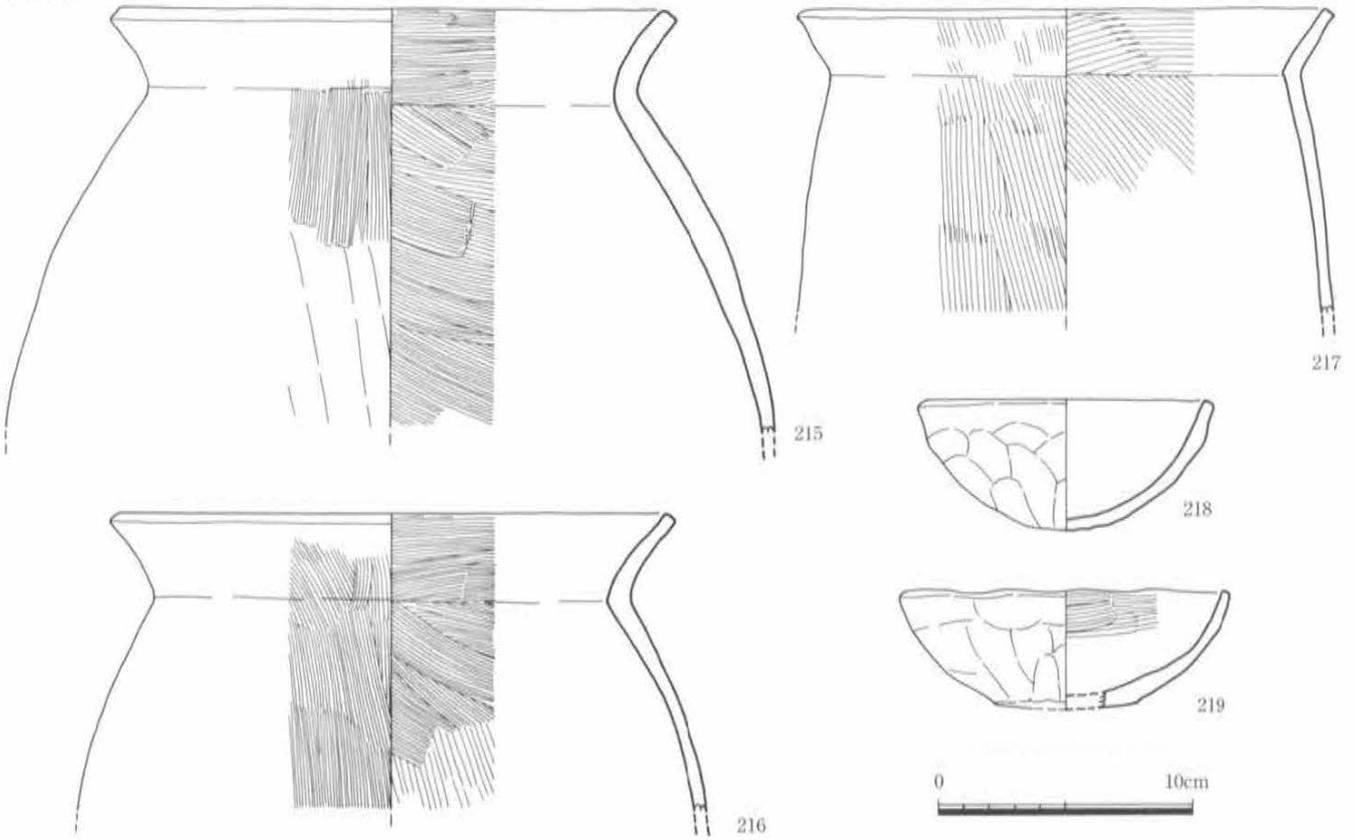
甕型土器 (233) 口縁部が若干欠けた甕で、平底を呈する。体部外面を縦方向のケズリ、底部をケズリ、口縁部にナデを施す。内面は縦方向に工具痕が残り、口縁部は横方向のハケ目を施す。固く焼き締まり、黒灰色を呈する。

石製品 (234) 不明石製品で磨石の類か。

SI105床下 (Fig. 62, Pl. 53)

石製品 (235) サヌカイト製の石鎌で、切先部を欠損する。粗い作りで袂部が退化している。

SI100



SI105

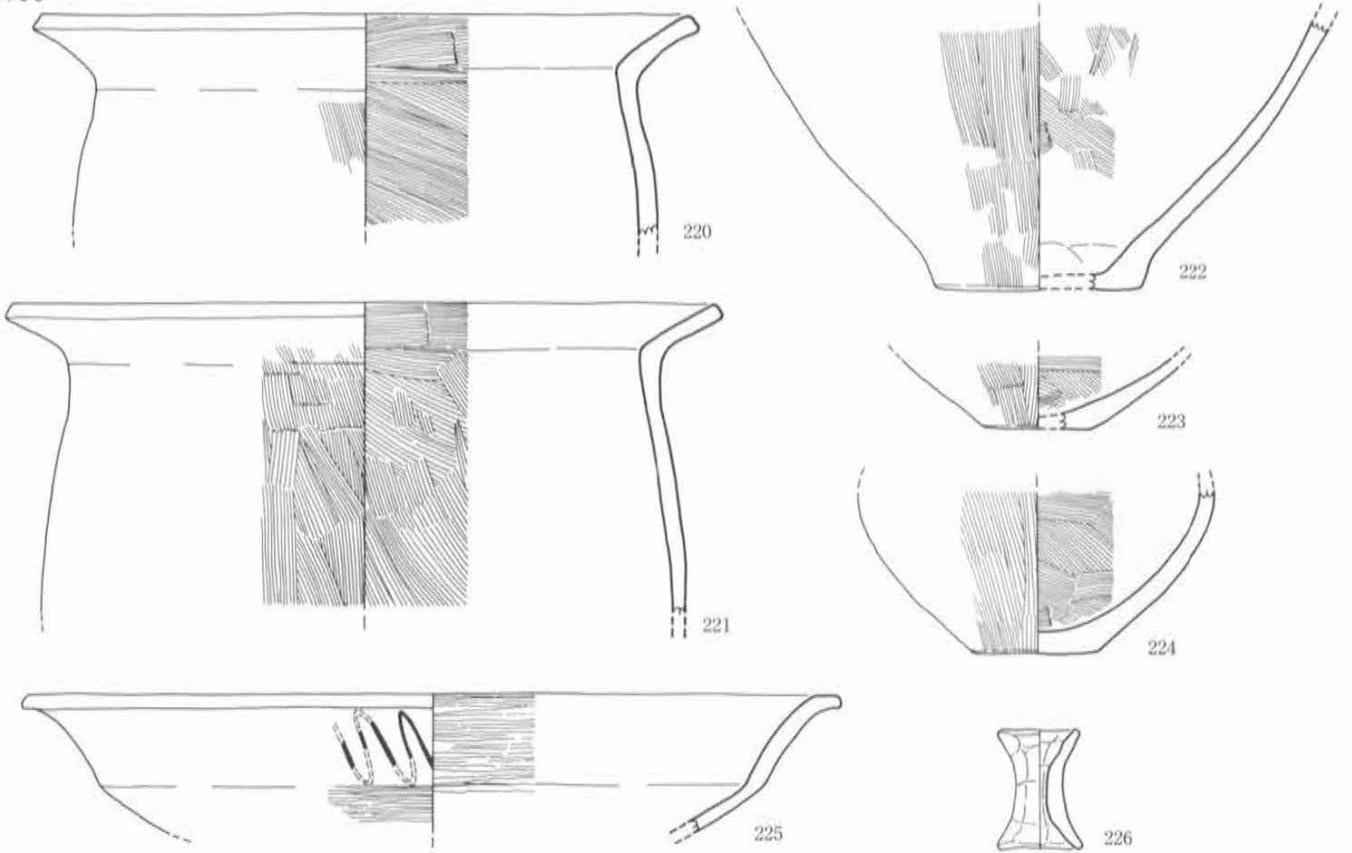
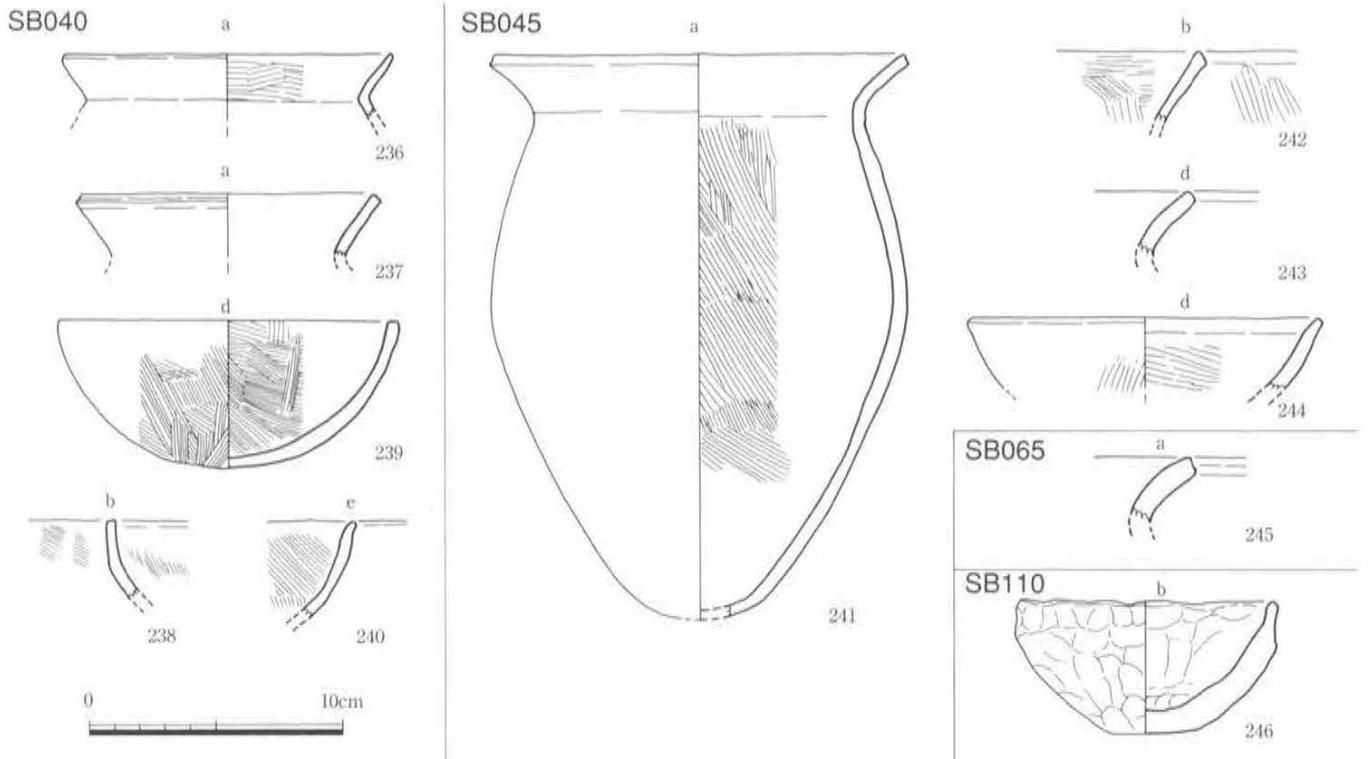
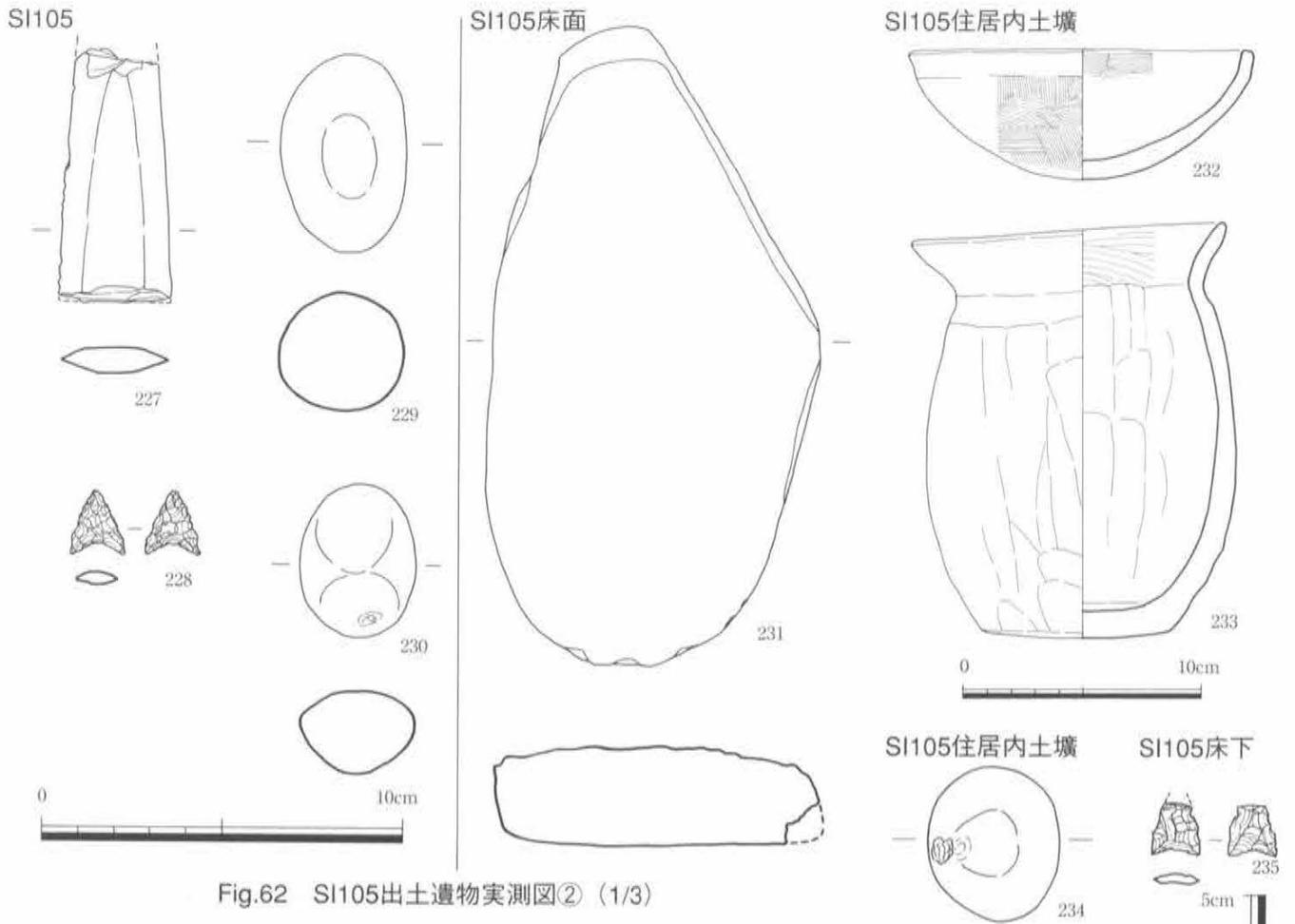


Fig.61 SI100・105出土遺物実測図① (1/3)



SB040 (Fig. 63, Pl.53)

ピット a (略測図No.S-66)

甕型土器 (236~237) 236、237ともに小型の甕で、236は口縁部内面は横方向のハケ目、外面は横方向のナデを施す。口縁屈曲の稜は明瞭である。237は内外面ともに横方向のナデを施す。

ピット b (略測図No.S-61)

甕型土器 (238) 内外面にハケ目を施す薄手のつくりである。内外面ともに淡黄褐色である。

ピット d (略測図No.S-63)

鉢型土器 (239) 体部内外面を不定方向のハケ目を施し、口縁内外面は横方向のハケ目を施す。

ピット e (略測図No.S-64)

鉢型土器 (240) 内面にハケ目を施し、磨耗のため外面の調整は不明である。

SB045 (Fig. 63, Pl.53, 54)

ピット a (略測図No.S-42)

甕型土器 (241) 口縁部と底部の破片資料で、尖り気味の丸底を呈する。外面は底部から体部中位までケズリ、口縁は横方向のナデ、内面は体部が不定方向のハケ目、口縁部は横方向のナデを施す。

ピット b (略測図No.S-41)

甕型土器 (242) 外面を縦方向のハケ目、内面を横方向のハケ目を施す。口唇部に工具による段が入る。

ピット d (略測図No.S-77)

甕型土器 (243) 磨耗が著しく内外面ともに調整は不明。

鉢型土器 (244) 体部が内湾し、口縁部で若干反する。磨耗が著しく調整は不明。

SB065 (Fig. 63, Pl.54)

ピット a (略測図No.S-68)

甕型土器 (245) 外面を横方向にナデ、内面は磨耗が著しいため不明。

SB110 (Fig. 63, Pl.54)

ピット b (略測図No.S-48)

鉢型土器 (246) ほぼ完形の鉢で、凸レンズ状の底部を呈し、外面は指頭痕と焼成時のひび割れが残り、内面は不定方向のナデを施す。内面が暗黒灰色を呈し、外面は淡黄褐色を呈する。

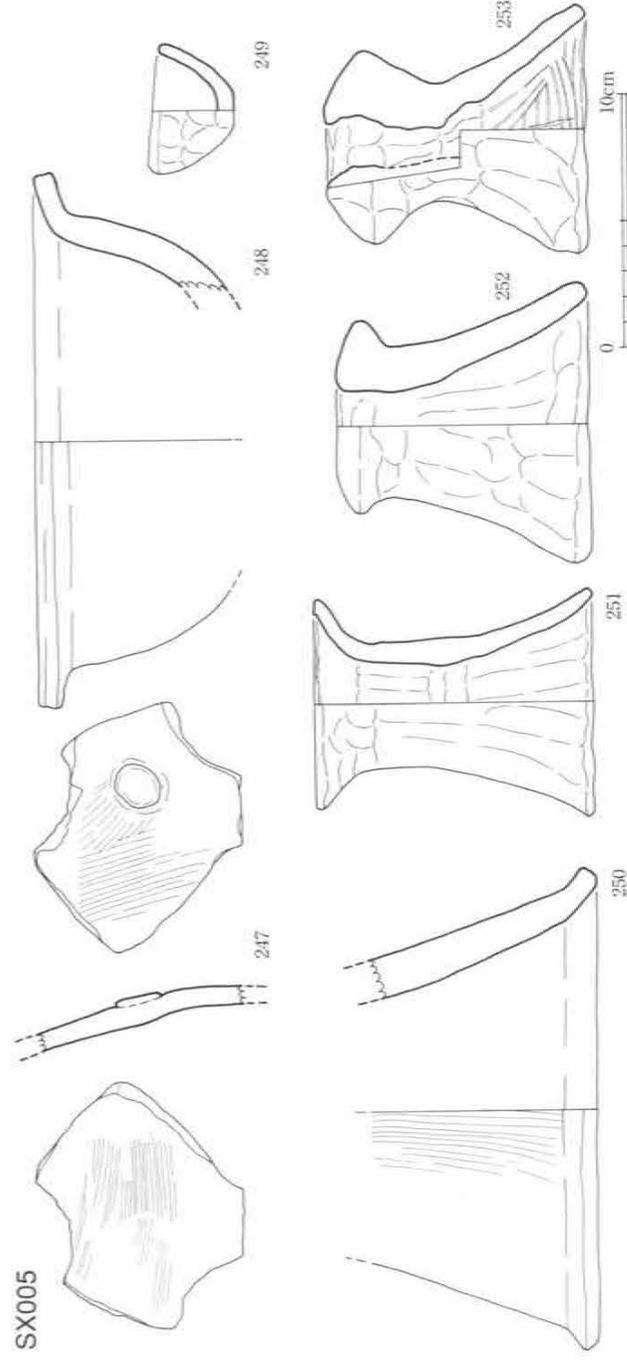


Fig.64 SX005出土遺物実測図 (1/3)

SX005 (Fig. 64, Pl. 54) 甕型土器 (247) 胴部片と考えられ、外面にボタン状の粘土を貼り付けている。胎土は3mm程度の小砂粒を多く含み、内外面に不定方向のハケ目を施す。

鉢型土器 (248~249) 248は土器内面が剥離しており、接合している。内外面ともに磨耗が著しく不明で、淡橙褐色を呈する。249はほぼ完形のミニチュアの鉢で、内外面ともにナデを施す。外面に黒斑が残る。丁寧なつくりである。

器台型土器 (250~251) 250は外面を縦方向のハケ目、内面をナデで仕上げる。裾端部の内外面は横方向のナデを施す。外面は淡灰茶色、内面は淡灰黒色を呈する。251は内外面を縦方向のナデ、口縁端部を平滑に仕上げた為、粘土が内側に移動している。

支脚型土器 (252~253) 252、253ともに天井部に円形の穿孔があり、天井部をナデ、外面体部から裾部にかけて縦方向のナデ、内面は横方向のハケ目に近い工具痕が残る。253は完形である。

SX011 (Fig. 65, Pl. 55) 磁器 (254) 白磁碗で、全面に青みがかった釉をかけ、高台皿付が露胎。胎土はきめ細かく精良である。

SX022 (Fig. 65, Pl. 55) 土師器 (255) 鉢の口縁と考えられ、外面を縦方向の工具痕が残り、内面をヨコナデを施す。

SX036 (Fig. 65, Pl. 55) 鉢型土器 (256~257) 256は口縁部にかけて内湾する鉢で、外面は底部をケズリ後、ナデ、体部を斜め方向の工具痕、口縁部に横方向のナデを施す。内面には不定方向に工具によるナデが入る。丁寧な作りで薄い。257は脚付鉢の坏部片で、外面は体部を縦方向のハケ目、口縁部を横方向のナデ、内面は不定方向にナデ、口縁部は磨耗が著しいため不明。

SX047 (Fig. 65) 土師器 (258~259) 共に小皿で、体部内外面をヨコナデ、底部糸切りである。258は復元口径7.8cm、器高1.8cm、底径4.2cm、259は復元口径6.8cm、器高1.7cm、底径3.6cmである。

磁器 (260) 染付碗片で外面に文様を入れる。呉須はくすんだ青色を呈する。復元口径9.6cm。

SX072 (Fig. 65, Pl. 55) 甕型土器 (261) 器台の可能性があるが、外面は磨耗が著しいため不明、内面は横方向のナデ。

鉢型土器 (262) 内外面に横方向のナデを施す。外面を淡橙褐色、内面は淡黄褐色を呈する。

SX074 (Fig. 65, Pl. 55) 土師器 (263) 口縁が外側に屈曲し、外面にスタンプが入るが磨耗が著しいため不明。内面は暗紫橙色の付着物が見られる。外面は淡橙褐色である。

陶器 (264) 碗片で、外面体部に淡黄茶褐色の釉がかかり、高台外面は露胎、内面には透明釉がかかり、見込みにカキ取りが見られる。

土製品 (265~266) 265は軒平瓦片で、内外面ともにナデを施し、淡橙褐色を呈し、焼成不良。266は棒状土製品で4面をナデで仕上げ、2次的に1面のみ火を受けており、鈹物が融解した付着物が残る。

SX078 (Fig. 65) 甕型土器 (267~269) 267の外面は体部を縦方向のハケ目、口縁をナデ、内面の体部は横方向にナデ、口縁部は横方向のハケ目を施す。口唇部に沈線が巡る。268、269は口縁外面をナデ、口縁内面を横方向のナデを施す。269は口唇部に浅い刻み目を有する。

鉢型土器 (270) 体部から口縁部にかけて内湾する鉢で、外面をハケ目、内面をナデで仕上げる。

SX083 (Fig. 66, Pl. 55~57) 磁器 (271) 白磁碗で粗製品である。全面施釉で、高台皿付をカキ取る。高台径4.4cmを測る。

陶器 (272~274) 272は灯明皿で、内面と口縁外面に鉄釉、底部外面に白灰色の釉がかかり、口縁端部に煤が付着する。273は壺の底部片で内面と外面に施釉しており、高台内側をケズリ出ししている。胎土は小砂粒を含み粗い。274は搦鉢で、全面に暗紫黒色の釉を施す。胎土は若干小砂粒が混じるが精良である。

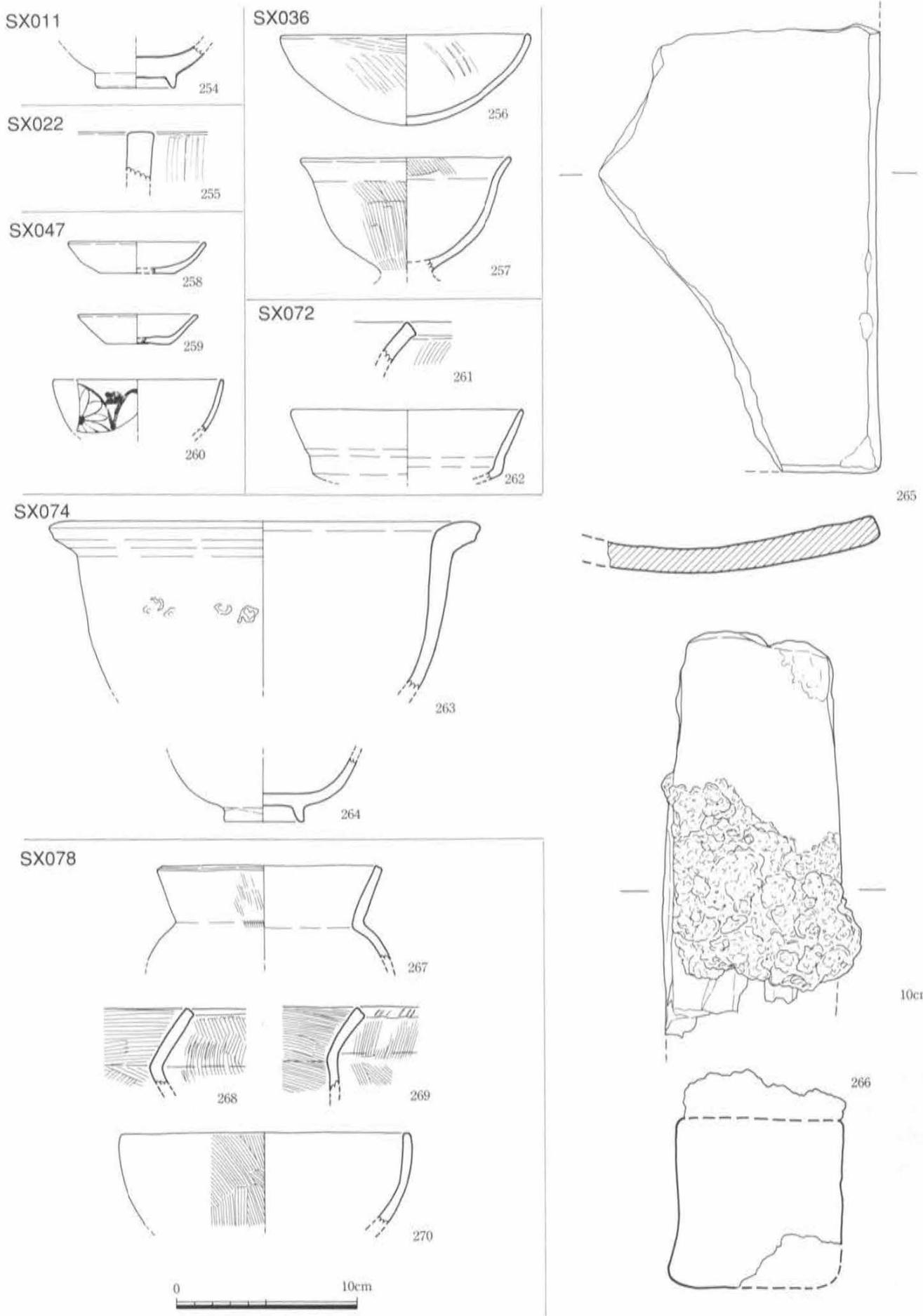
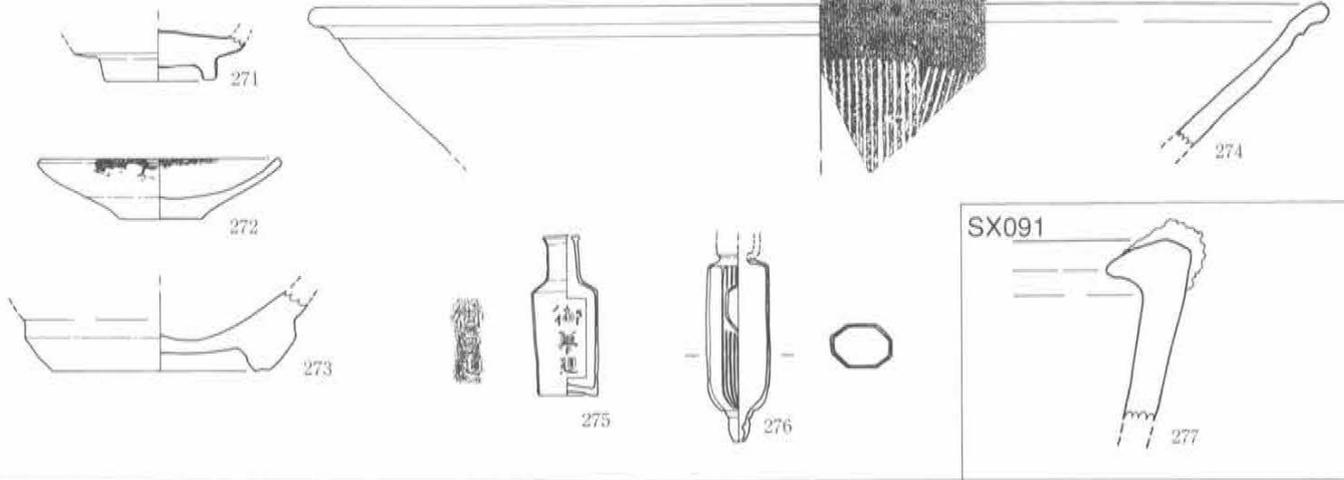


Fig.65 その他、不明遺構出土遺物実測図① (1/3)

SX083



SX092

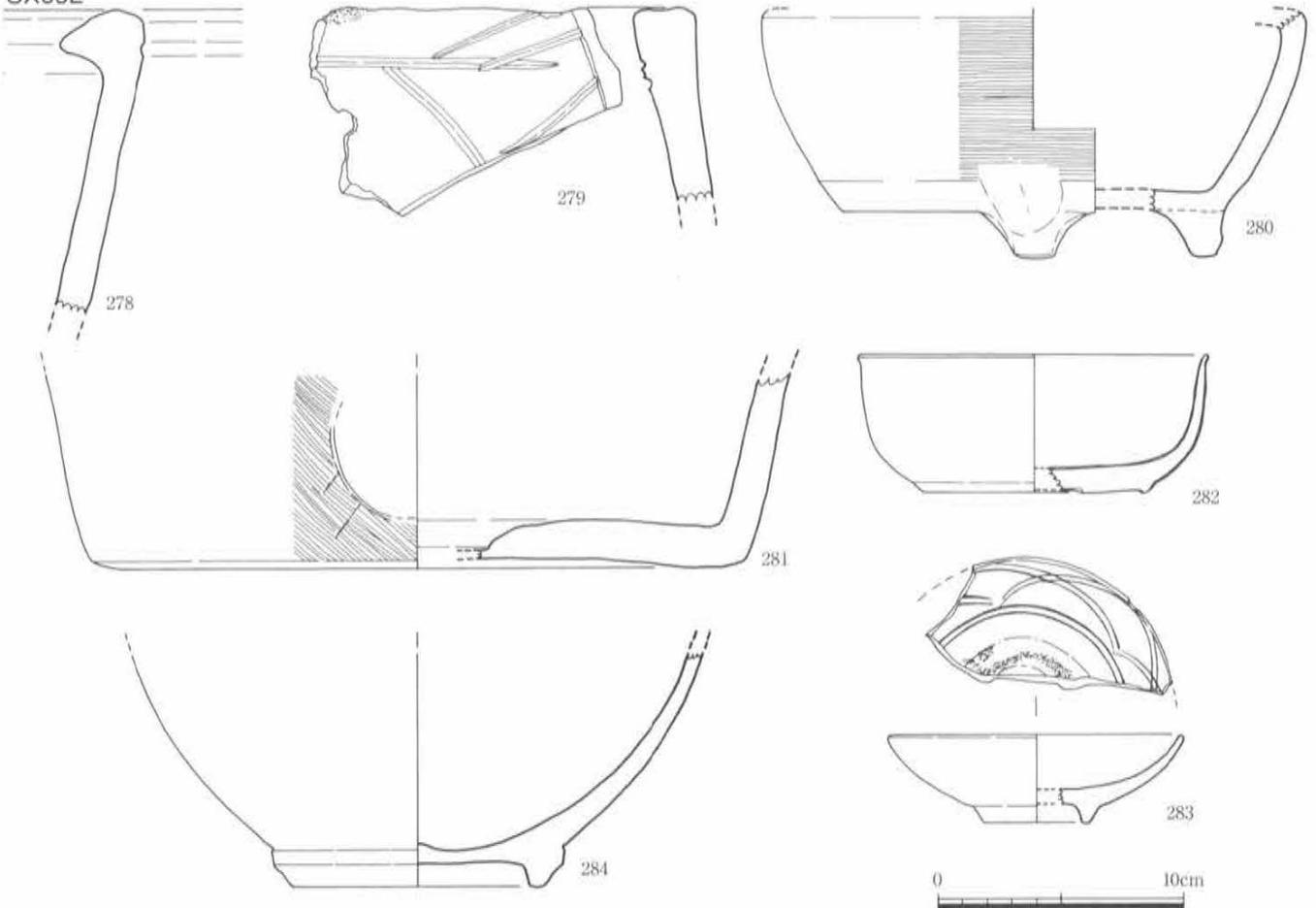


Fig.66 その他、不明遺構出土遺物実測図② (1/3)

ガラス製品 (275~276) 275は透明の化粧瓶か薬瓶と考えられ、体部に「御夢旭」若しくは「御夢想」の文字が浮き出される。276は青色の目薬瓶である。

SX091 (Fig.66、Pl.56)

土師器 (277) 火鉢と考えられ、口縁外面に棒状土製品と同様な付着物が見られ、全面に2次的に熱を受ける。

SX092 (Fig.66、67、Pl.56)

土師器 (278~281) 278は鉢で、火鉢の一種か。内外面ともにナデで仕上げる。279は内面にヘラで沈線を描く。内面に277と同様の付着物が見られる。280は火鉢で体部内外面をヨコナデを施す。281は体

部外面を不定方向のナデ、内面にヨコナデを施す。体部に円孔の一部が見られる。

磁器 (282~283) 282は白磁碗で、外面の高台内側を蛇の目に釉をカキ取る。胎土は精良で青みがかつた透明釉をかける。283は染付の皿で内面に施文し、全面に白味がかった釉をかけ、内面見込み部分の釉をカキ取る。呉須はくすんだ青色を呈する。

陶器 (284) 甕になる可能性もあるが、高台以外に暗紫黒色の釉を施す。

土製品 (285~288) 棒状土製品で各面をナデで調整している。2次的に火を受けており、鉾物が融解した付着物が付く。小型から大型まで幾種類が存在している。

SX094 (Fig.68, Pl.57)

甕型土器 (289) 口唇部に刻み目を施し、外面は体部をタタキ後、斜め方向のハケ目、口縁部を縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目、口縁部は横方向にハケ目を施す。焼成良好で淡茶褐色である。

SX099 (Fig.68~70, Pl.57~59)

土師器 (290~291) 290は坏で、外面は底部を不定方向のナデ、体部から口縁部をはヨコナデ、内面は底部から体部にかけて不定方向のナデ、口縁部付近にヨコナデを施す。胎土がよく精製品である。291は土鍋で、口縁部を丸く仕上げ、その下に突帯を貼り付ける。外面は真黒に煤が^レ付着しており調整は不明。内面はヨコナデを施す。

磁器 (292~310) 292は白磁皿で、口縁部を外反させ輪花状に摘み出す。全面施釉であるが、底部内面と高台接地面は釉をカキ取り、全面に貫入が入る。293から300は染付皿である。293は内面に丸文を入れ、口縁部は波状に仕上げる。294は口縁端部を玉縁状に仕上げ、内面に砂目跡が残る。295は内面に梅と竹、外面に唐草文様を描く。296は口縁を玉縁状に仕上げ、内面にくすんだ呉須で文様を入れ、底部と高台内面の釉をカキ取り、内面には緑灰色の呉須で文様を描く。299は底部を蛇の目状に釉をカキ取り、底部内面に山水文を描き、重ね焼き跡が3ヶ所残る。300は内面に濃い青色の呉須で文様を入れ、外面には手描きの文が入る。301から307は染付碗である。301は小碗(坏)で外面にくすんだ青色の呉須で文様を入れ、高台接地面には砂目跡が残る。302はくらくらんか碗で外面に文様を描くが緑青色を呈し不良である。内面に針支え跡が残る。303はくらくらんか碗で外面に文様を描き、透明に近い釉をかけるが全体的に灰色を呈する。304は広東碗で外面に文様を描き、高台端部は露胎する。305は乳白色の釉を施し、外面に文様を描く。306は口縁が若干外反する端反り碗で、内外面に文様を描く。307は外面と底部内面中央に二重斜格子の文様を描く。308は湯呑碗でほぼ完形。外面に青黒色の文様を描く。309は筒茶碗で底部内面に崩れた五弁花文を入れ、高台接地面には砂目跡が残る。310は蓋で内外面に文様を入れる。

陶器 (320~325) 320は小皿で、底部糸切り、内外面をヨコナデ、内面に釉が薄くかかる。321は皿で、内外面に黒茶褐色の釉をかけ、内面見込み部分を蛇の目に釉をカキ取る。高台は釉だれしているが、露胎である。ほぼ完形。322は透明に近い釉が施され、高台は露胎。323は小碗で、内外面に透明に近い釉が施される。底部は露胎。324は壺の底部片で、内外面に暗紫黒色の釉が施される。325は播鉢で内外面に暗紫黒色の釉が全面に施される。

土製品 (311~318) 311から317は棒状土製品である。2次的に熱を受けており、赤褐色に変色し、鉾物が融解した付着物が付く。318は水田焼の素焼きの人形で、一部欠損しているが、ほぼ完形である。

鉄製品 (319) 銅製の簪で一部欠損しているがほぼ完形である。玉は水晶製である。

SX101 (Fig.70, Pl.60)

甕型土器 (326) 小型の甕で外面を縦方向のハケ目、内面を斜め方向のハケ目を施す。

鉢形土器 (327~328) 327はミニチュアの鉢で、内面に横方向のハケ目、外面はナデを施す。328は完形の鉢で2ヶ所に成型時の穿孔が見られる。外面は不定方向にハケ目を施し、内面はハケ目後、ナデを施す。外面に黒斑が残る。

土製品 (329) 土製の有孔円盤で中央に穿孔があり、ほぼ完形である。

SX113 (Fig.70, Pl.60)

甕形土器 (330) 底部片で、平底を呈し、内面はナデ、外面は成型時の粗い調整が残る。

土製品 (331~332) 331、332は不明土製品で、331は端部に穿孔の痕跡が残る。調整は磨耗のため不明。332は右手で粘土を握っただけの成形で焼かれた土製品で一部に欠損が見られる。

SX117 (Fig.70, Pl.60)

壺形土器 (333~334) 333は小型の壺で内面に粘土接合痕跡が残りハケ目を施し、外面は磨耗のため不明。334は壺ないしは鉢の底部片で外面は磨耗のため調整は不明、内面は工具によるナデの痕跡が残る。鉢形土器 (335~337) 335は手すくねの小型鉢で、尖底である。外面は全体的に指頭痕が残り、調整は内外面ともにナデである。336はミニチュアの鉢で指頭痕が残り、粗雑なつくりである。337は小型の口縁がく字になる鉢片で内外面に指頭痕が残る。

石製品 (338) 砂岩製の砥石である。

茶褐色土 (Fig.70, Pl.60, 61) 遺構上面の包含層出土遺物である。

壺形土器 (339~340) 339は凸レンズ状の底部片で外面は磨耗のため調整は不明、内面は縦方向の工具痕が残る。外面に黒班が残り、胎土には角閃石が入る。340は口縁部片で端部外面にに刻み目を施し、外面を横方向のナデ、内面はハケ目を施す。胎土がよく精選されている。

甕型土器 (342~345) 342は内外面を不定方向のハケ目、外面に黒班が残る。343は外面をハケ目、内面はケズりに近い工具痕が残る。焼成不良である。344は体部内外面をハケ目、口縁部は内外面を横方向にナデを施す。345は口縁部外面を縦方向のナデ、内面を横方向のハケ目、口唇部に浅い刻み目を施す。体部は外面は斜め方向のハケ目、内面はナデを施す。

鉢形土器 (341) 口縁がく字になる鉢で、内面をナデ、外面は磨耗のため不明。

石製品 (346) 黒曜石製の石鉢で、先端と抉り部を欠損する。

攪乱出土遺物 (Fig.71~72, Pl.61~63) S番号は略測図番号である。

S-9

壺形土器 (347) 複合口縁壺で、横方向のナデを施す。

鉢形土器 (348) 小型の口縁が若干内湾する鉢で、外面には指頭痕が残り、内面はナデである。

S-27

土師器 (349) 鉢の口縁片で外面に波状文が施される。内外面ともにヨコナデである。

磁器 (350) 染付碗で外面に斜格子の文様を描き、呉須は淡灰緑色で、透明に近い釉を施す。

陶器 (351) 片口鉢で全面施釉をするが、焼成不良である。

S-32

鉢形土器 (352) 外面は磨耗のため不明。内面は横方向のナデを施す。

S-34

甕型土器 (353) 口縁部片で、内面を横方向のナデを施す。外面は磨耗のため不明。

S-76

鉢形土器 (354) く字口縁の鉢で外面を口縁近くまでタタキ後、ハケ目を施し、体部内面は斜め方向のハケ目、口縁内面はナデを施す。

土師器 (355) 火鉢片で脚が欠損する。内外面をヨコナデ調整する。

磁器 (356) 染付皿で、内面に文様を描き、底部中央に五弁花文を入れ、透明に近い釉を施し、内面見込みの釉をカキ取る。

陶器 (357) 壺の口縁部で全面に鉄釉が施される。

S-79

土師器 (358) 坏片で、口縁内外面をヨコナデ、体部外面を不定方向にナデ、体部内面には工具によるナデの痕跡が残り、焼成良好。胎土がよく精選されたもので外面には黒班が残る。

S-93

甕型土器 (359) 内外面ともに磨耗が著しいため調整は不明であるが、口唇部に浅い刻み目を有する。

高坏形土器 (360~361) 短脚の高坏の脚部片で、内面をハケ目、外面はハケ目後、ナデ調整する。

S-102

鉢形土器 (362) く字口縁の鉢で、体部外面をハケ目、口縁内外面と体部内面はナデを施す。
支脚型土器 (363) 天井部が傾斜する支脚で、外面をタタキ後、ナデ、内面は縦方向にナデを施す。
磁器 (364~366) 364は染付皿片で内面に文様を描き、外面には針支えが削り取りられず、そのまま残る。
365は内外面に施文される。366は仏飯具と考えられ、外面に丸文が描かれる。

陶器 (368~369) 368は褐釉で、内面見込みを蛇の目状に釉をカキ取る。高台は露胎。369は全面に灰釉を施し、褐釉を一部に施す。内面見込み部分の釉を蛇の目状にカキ取る。

S-103

磁器 (370) 染付碗で外面に草花文を描く。

陶器 (371~376) 371は不明製品で外面に暗褐色の釉が施される。372、373は長頸の瓶で372は褐色の釉がかかり、白色の釉で波状に文様を描く。373は頸部から口縁にかけて鉄釉、体部は透明に近い釉をかける。374から376は土瓶で374は外面に淡緑色の釉が施され、375、376は灰釉が施され底部には煤が付着する。

石製品 (377) 頁岩製の砥石で、表面に落書きのような痕跡が残る。

S-109

甕型土器 (378~379) 378は体部外面を縦方向のハケ目、内面を横方向のハケ目を施す。379は大型の甕で、口縁屈曲部に断面三角形の突帯を貼る。口縁内外面を横方向のナデ、体部内外面をハケ目。

鉢形土器 (380) く字口縁の鉢で、体部外面を縦方向のハケ目、内面にナデを施す。

土製品 (381) 土製の玉で中央部に穿孔される。

表土出土遺物 (Fig.72, Pl.63) 調査区での表採遺物である。

鉢形土器 (382) 体部外面を縦方向のハケ目、内面は口縁までハケ目を施す。焼成不良。

器台形土器 (383) 天井部を強いハケ目が残り、体部外面は頸部から体部中位の下方向にハケ目、裾部までを上方向にケズリに近い工具痕が残る。内面はハケ目後、ナデを施す。

土師器 (384・389) 384は瓦質の土器片で、外面に「西郷村」の押し型が入る。内面はヨコナデ。389はサナで穿孔が2ヶ所残る。

磁器 (385~387) 385は碗で、外面に緑青色の釉が全面に厚くかかる。386、387は染付皿で、386は内面に文様を描き、見込み部分の釉をカキ取る。387無高台の皿で、内面に文様を描き、釉は淡緑白色の釉を施し、外面は淡白色の釉を施す。

陶器 (388) 底部糸切りの灯明皿で、内面から口縁外面にかけて茶褐色の釉が施される。口縁端部に油煙が残る。

土製品 (390) 土製の紡錘車と考えられ、中央に穿孔され、完形品である。

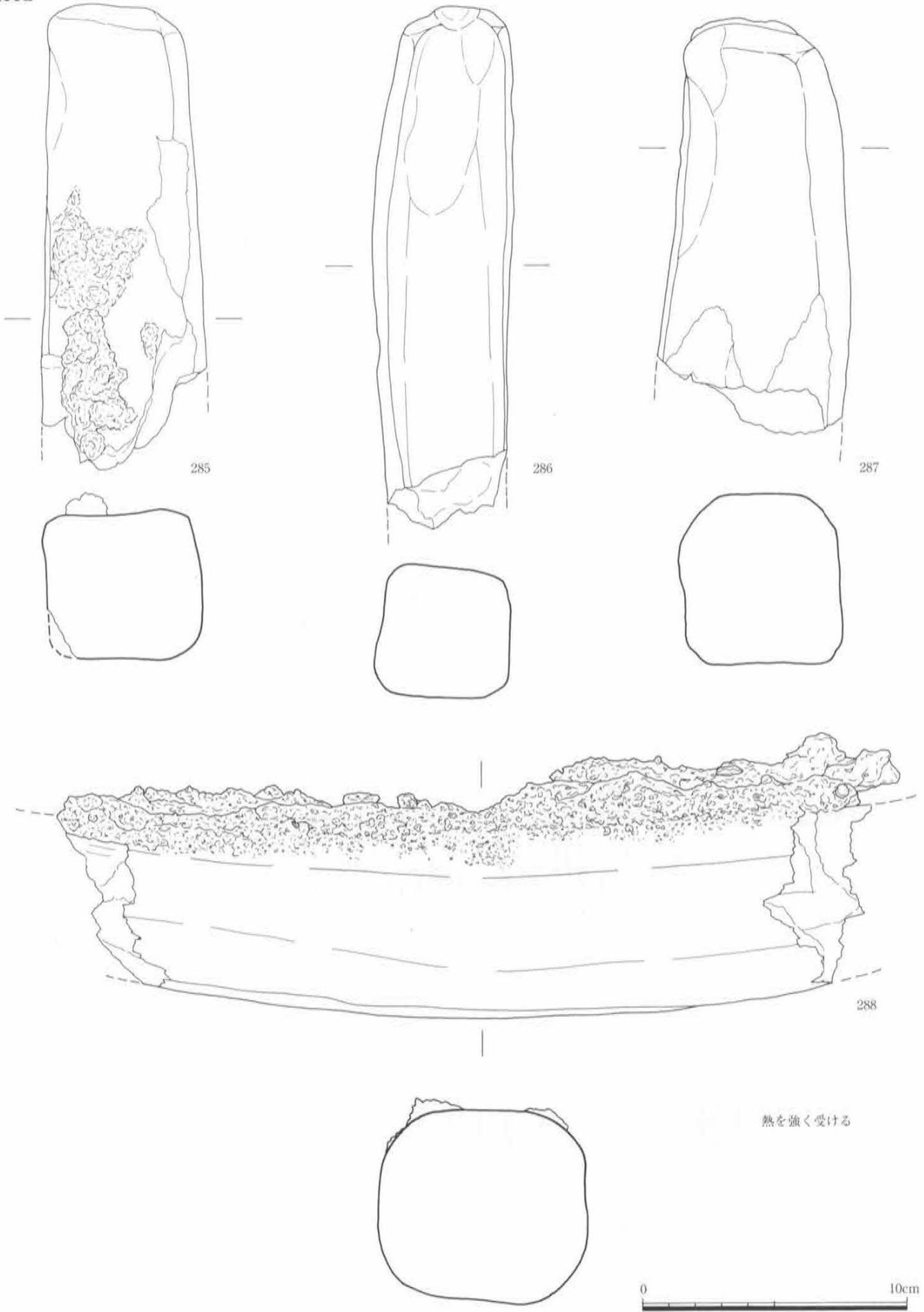
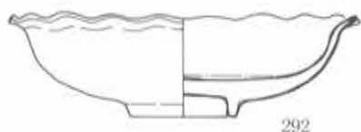
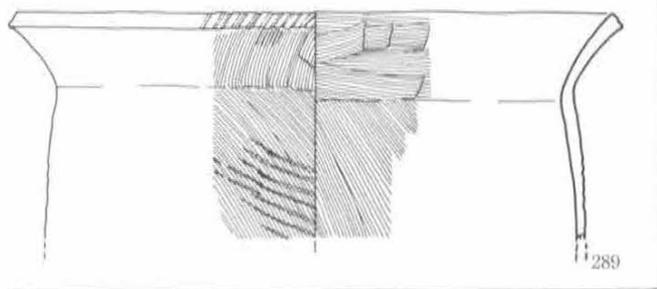


Fig.67 その他、不明遺構出土遺物実測図③ (1/2)

SX094



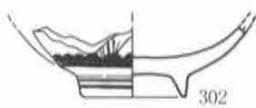
292



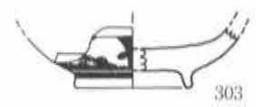
295



300



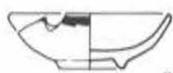
302



303



304



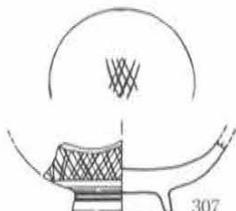
301



305

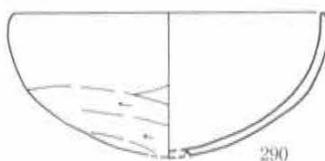


306



307

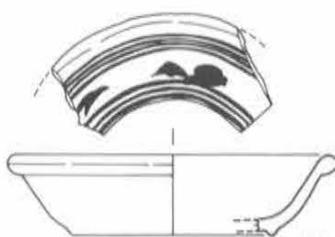
SX099



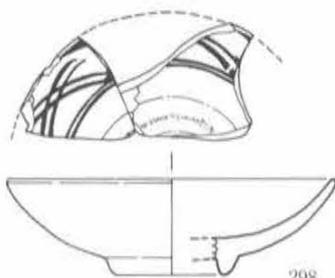
290



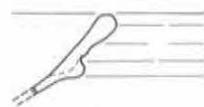
293



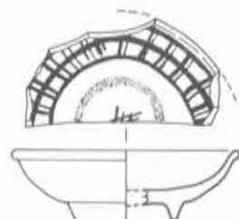
296



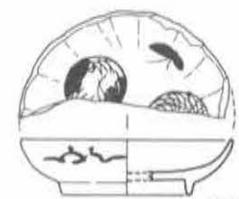
298



291



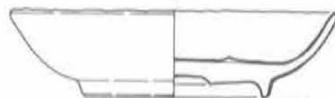
294



297



299



310



Fig.68 その他、不明遺構出土遺物実測図④ (1/3)

SX099

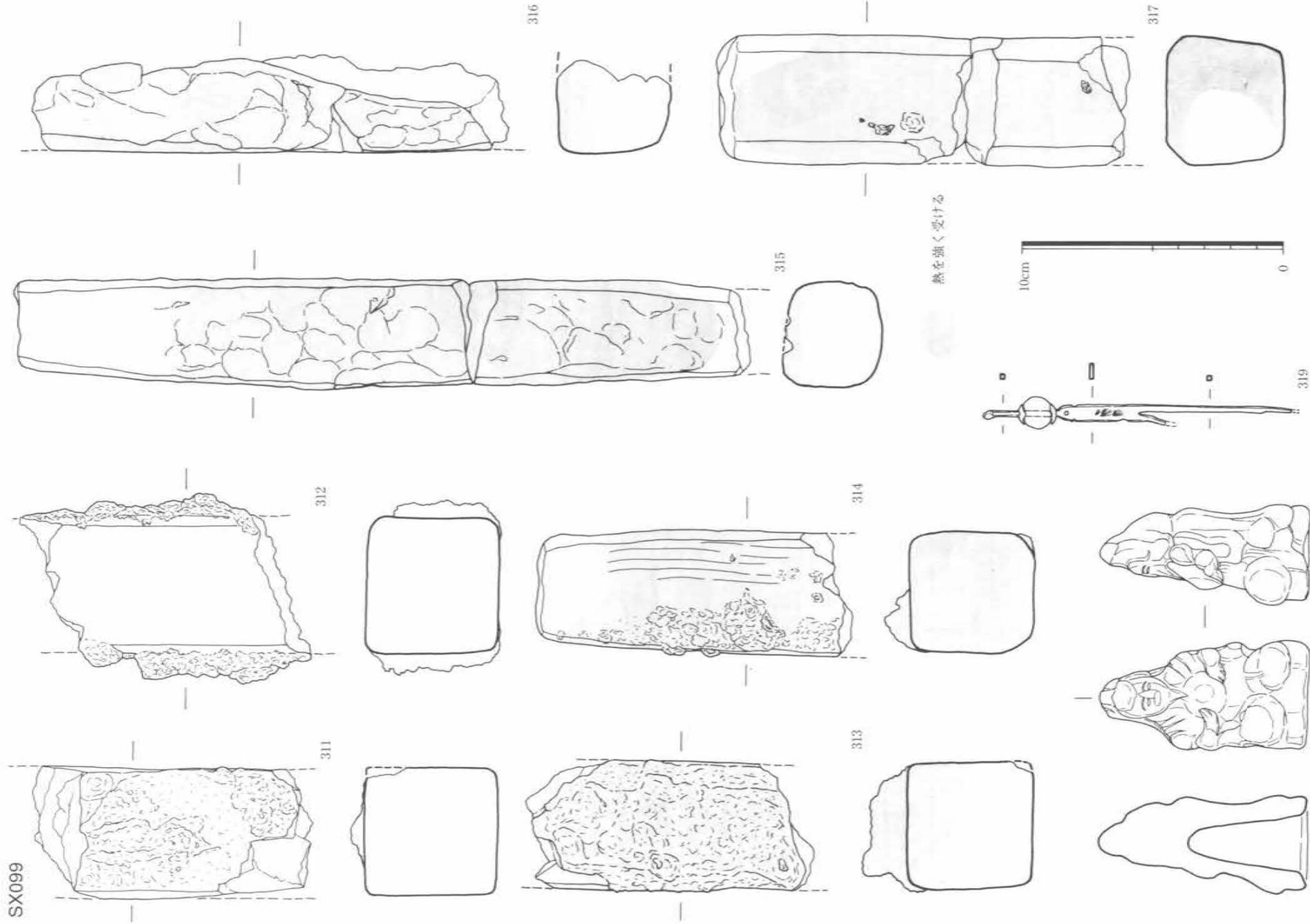


Fig.69 その他、不明遺構出土遺物実測図⑤ (1/2)

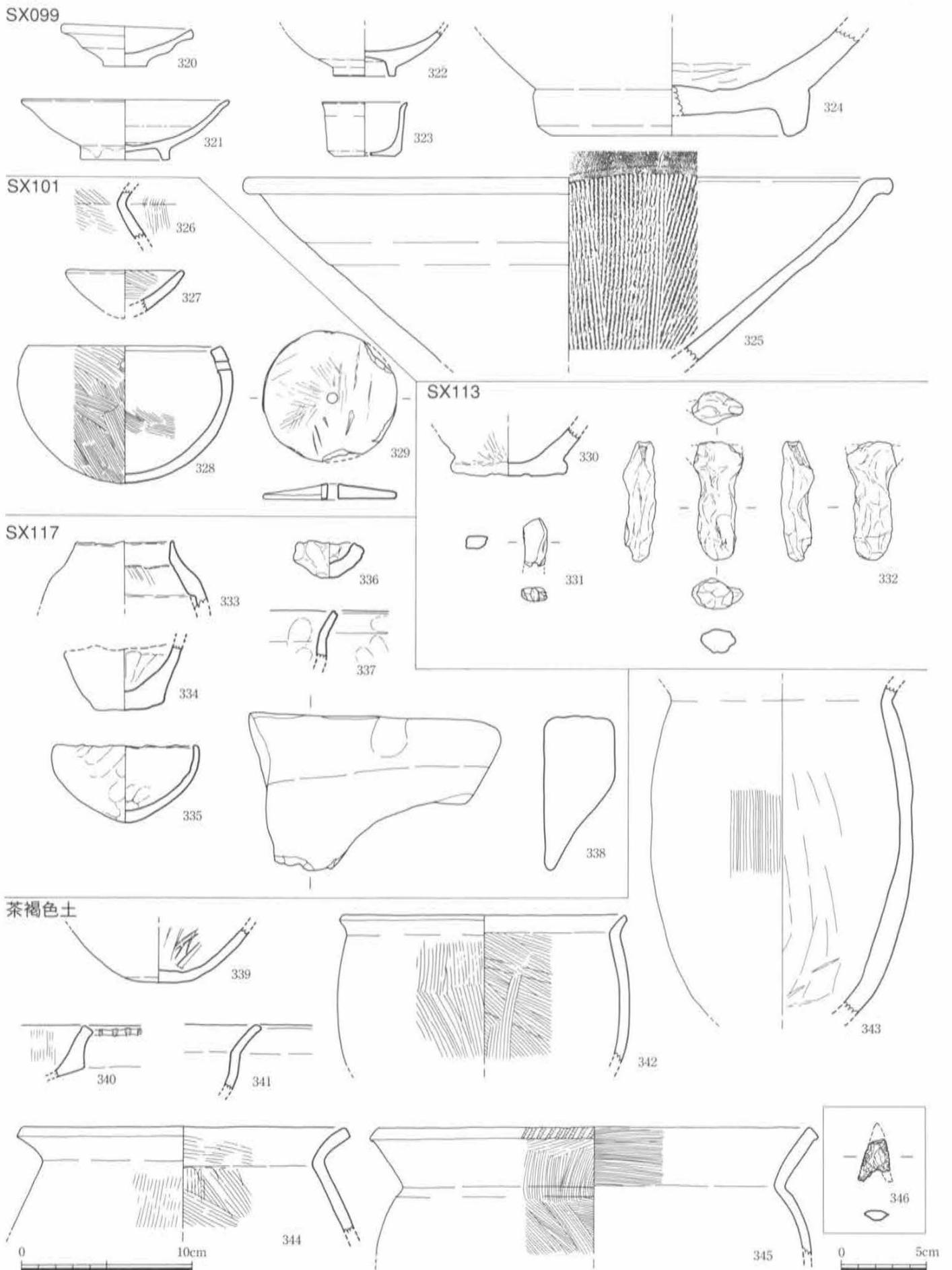


Fig.70 その他、不明遺構、茶褐色土出土遺物実測図 (1/3)(石鏃1/2)

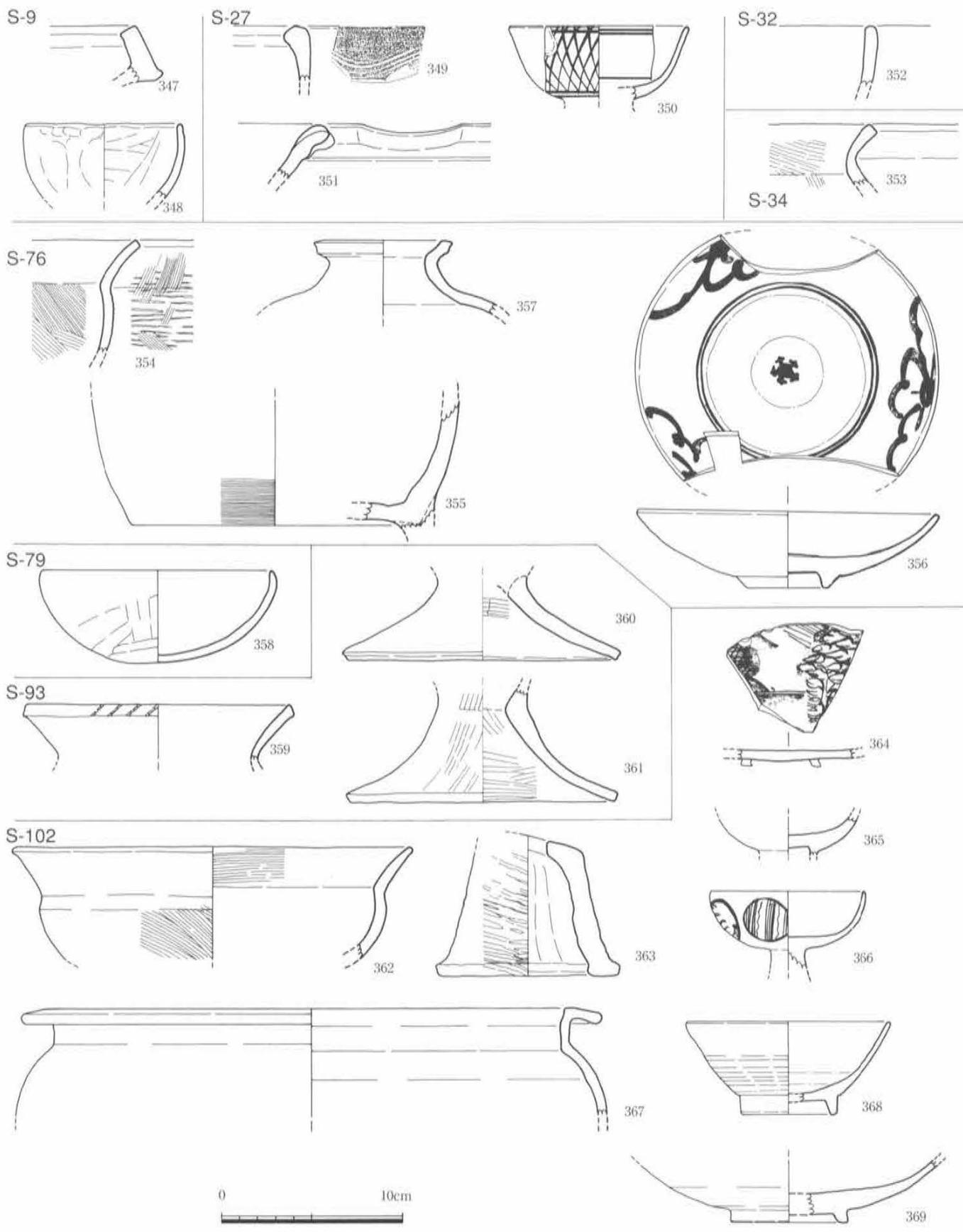
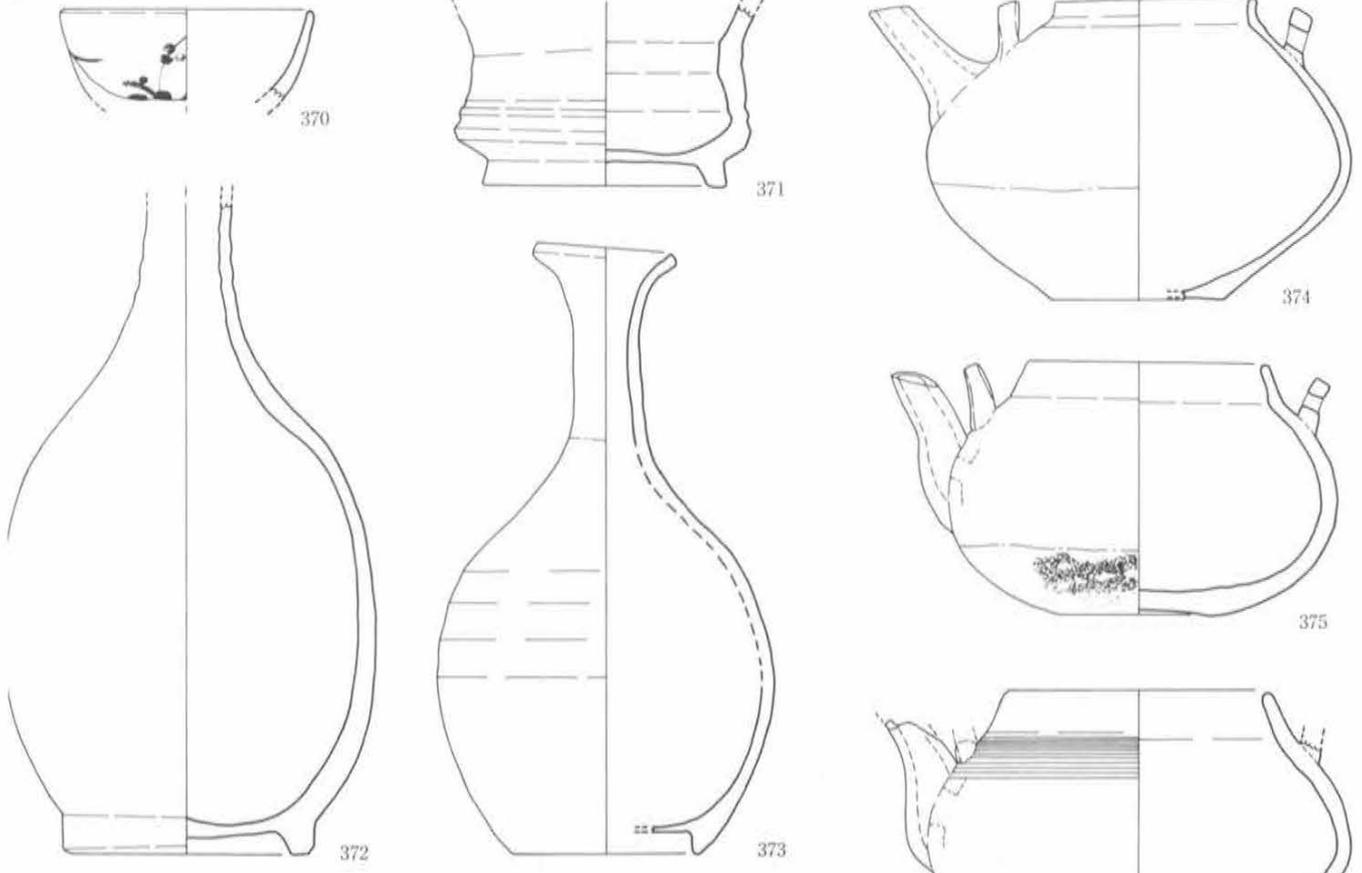


Fig.71 搅乱出土遺物実測図 (1/3)

S-103



S-109

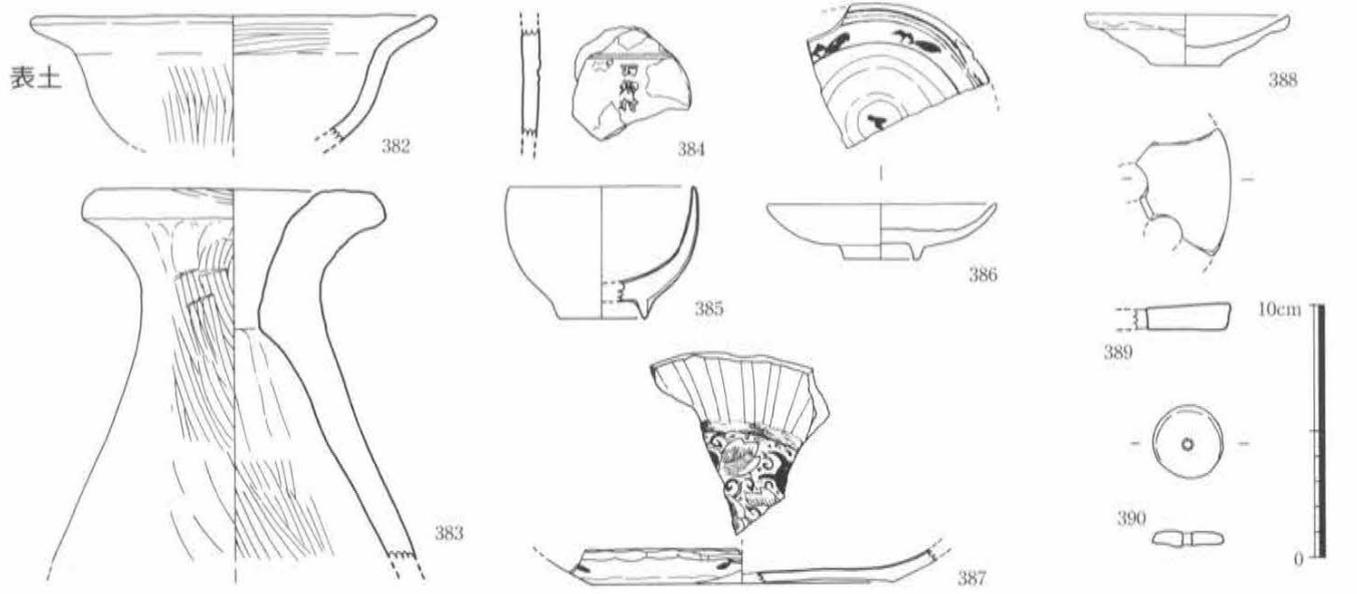
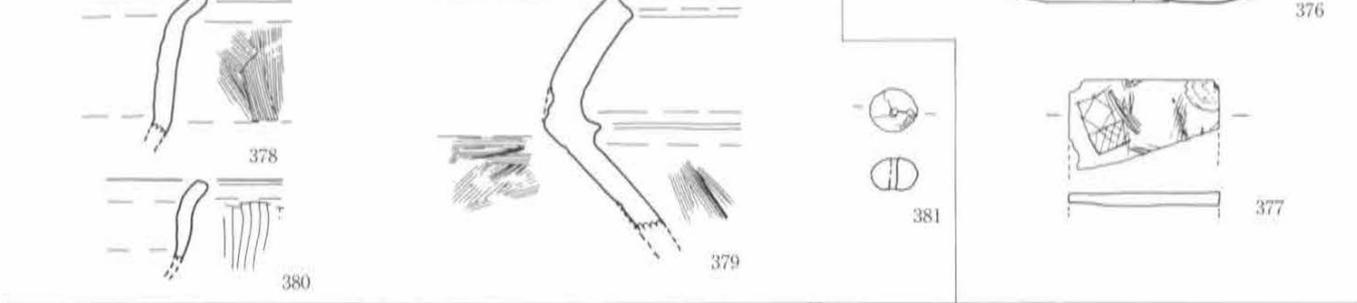


Fig.72 攪乱、表土出土遺物実測図 (1/3)

(4) 小結

今回の発掘調査では13棟の竪穴住居と9棟の掘立柱建物、2基の周溝状遺構など弥生時代後期末を中心とした遺構を検出している。また攪乱等の出土であるが、近世の遺物も多量に出土している。以下に遺構と遺物に分けて述べてみる。

I. 遺構

1. 竪穴住居の形態と規模について (Tab. 9, 10)

13棟の竪穴住居を検出したが平面プランについては、概ね長方形である。規模は、大型ではSI105の6.8m×4.45m、小型ではSI050の3.9m×2.7mになり、床面積から4グループ程に分けられる。

床面積	約25m ²	約20m ² ～約15m ²	約15m ² ～約10m ²
aグループ	bグループ	cグループ	dグループ
SI100	SI1010 (26.5)	SI001 (16.5)	SI050 (10.5)
SI105 (30.2)	SI035 (25.5)	SI025 (17.6)	SI075 (12.9)
SI030 (30.8)		SI080 (19.7)	
		SI085 (19.0)	

1グループ	2グループ	3グループ	4グループ	5グループ
N-80°～70°-E	N-69～60°-E	N-59°～50-E	N-49°～40-E	N-39°～25-E
SI010 (b) (71°)	SI080 (c) (64°)	SI035 (53°)	SI001 (c) (45°)	SI030 (a) (30°)
SI025 (c) (79°)	SI085 (c) (63°)	SI070 (c) (57°)	SI050 (d) (45°)	SI095 (27°)
SB065	SI100 (a) (60°)	SB040 (58°)	SI075 (d) (45°)	SI105 (a) (31°)
SB120		SB055 (56°)		
SB125				

2. 竪穴住居・掘立柱建物の方位と切り合い関係について (Fig. 73)
方位から5グループに分けられる。

1グループ	2グループ	3グループ	4グループ	5グループ
N-80°～70°-E	N-69～60°-E	N-59°～50-E	N-49°～40-E	N-39°～25-E
SI010 (b) (71°)	SI080 (c) (64°)	SI035 (53°)	SI001 (c) (45°)	SI030 (a) (30°)
SI025 (c) (79°)	SI085 (c) (63°)	SI070 (c) (57°)	SI050 (d) (45°)	SI095 (27°)
SB065	SI100 (a) (60°)	SB040 (58°)	SI075 (d) (45°)	SI105 (a) (31°)
SB120		SB055 (56°)		
SB125				

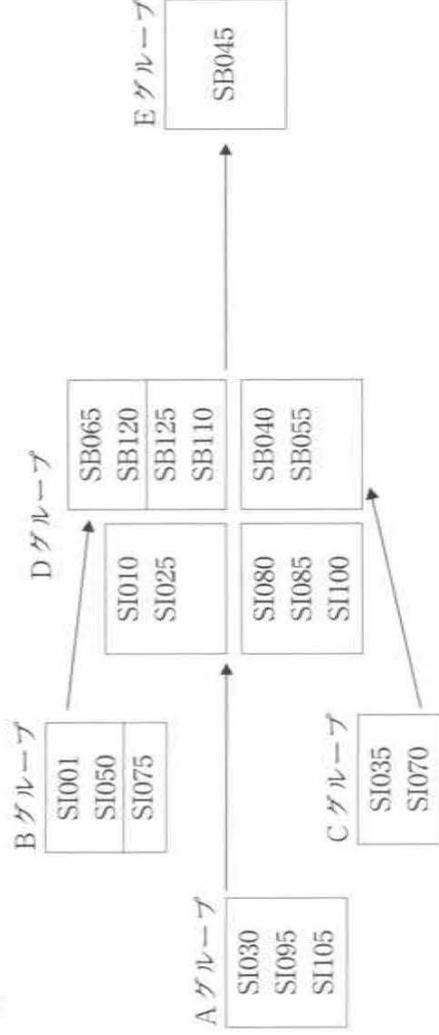
検出時の切り合い関係は以下のとおりである。(カッコ内は、1、2のグループ分け)

旧	→	新
SI001 (b・4)	→	SB120・125 (1)
SI030 (a・5)	→	SI025 (c・1)
	→	SI085 (c・2)
SI035 (c・3)	→	SB055 (3) → SB045
SI105 (a・5)	→	SI080 (c・2)

3. 遺構から捉えられる住居群の変遷

住居の規模、切り合いと方位から考えると、住居の変遷が概ね5グループに分けらる。

旧→新



Tab.9 竪穴住居一覧表

遺構番号	Fig.番号	主 軸	平面プラン	長 軸	短 軸	竪	ベッド	柱	壁小溝	住居内土境
001	20	N-45°-E	長方形	4.65m	3.55m	○	×	×	-	南壁
010	23	N-71°-E	隅丸長方形	5.90	4.50	○	4	4	○	南壁
025	24	N-79°-E	長方形	5.70	3.10	○	2	2	-	南壁
030	25	N-30°-E	長方形	6.10	4.70	×	2	2	○	南壁
035	26	N-53°-E	長方形	5.95	4.30	○	4	2	○	南壁
050	27	N-45°-E	隅丸長方形	3.90	2.70	○	×	×	○	南壁
070	28	N-57°-E	方形	*3.1	*2.2	-	*1	2	×	南壁
075	28	N-45°-E	長方形	4.80	2.70	×	*1	2	×	南壁
080	29	N-64°-E	長方形	5.70	3.47	○	?	2	×	×
085	30	N-63°-E	隅丸長方形	4.95	3.85	×	?	2?	×	南壁
095	31	N-27°-E	方形	*3.9	*3.2	-	*1	-	○	-
100	31	N-60°-E	長方形	6.70	*3.5	-	*2	-	○	-
105	32	N-31°-E	長方形	6.80	4.45	×	1	×	○	南壁

*は残存・検出長、×は遺構なし、-は調査区外

Tab.10 掘立柱建物一覧表

遺構番号	Fig.番号	主 軸	桁×梁	総 数	総 梁	桁柱間	桁柱間
015	33	N-33°24'44"-E	1×1	5.5m	5m	-	-
040	34	N-58°12'4"-E	1×2	3.00	2.25	1.35m	1.65m
045	35	N-21°25'14"-E	1×1	3.25	3.25	-	-
055	35	N-56°53'19"-E	1×1	3.50	2.40	-	-
060	35	N-86°41'53"-E	1×1	3.00	2.60	-	-
065	37	N-20°19'23"-W	1×1	3.00	2.86	-	-
110	38	N-7°52'59"-W	1×1	3.25	3.25	-	-
120	39	N-18°9'10"-W	1×1	3.30	2.75	-	-
125	39	N-12°9'18"-W	1×1	3.25	3.00	-	-

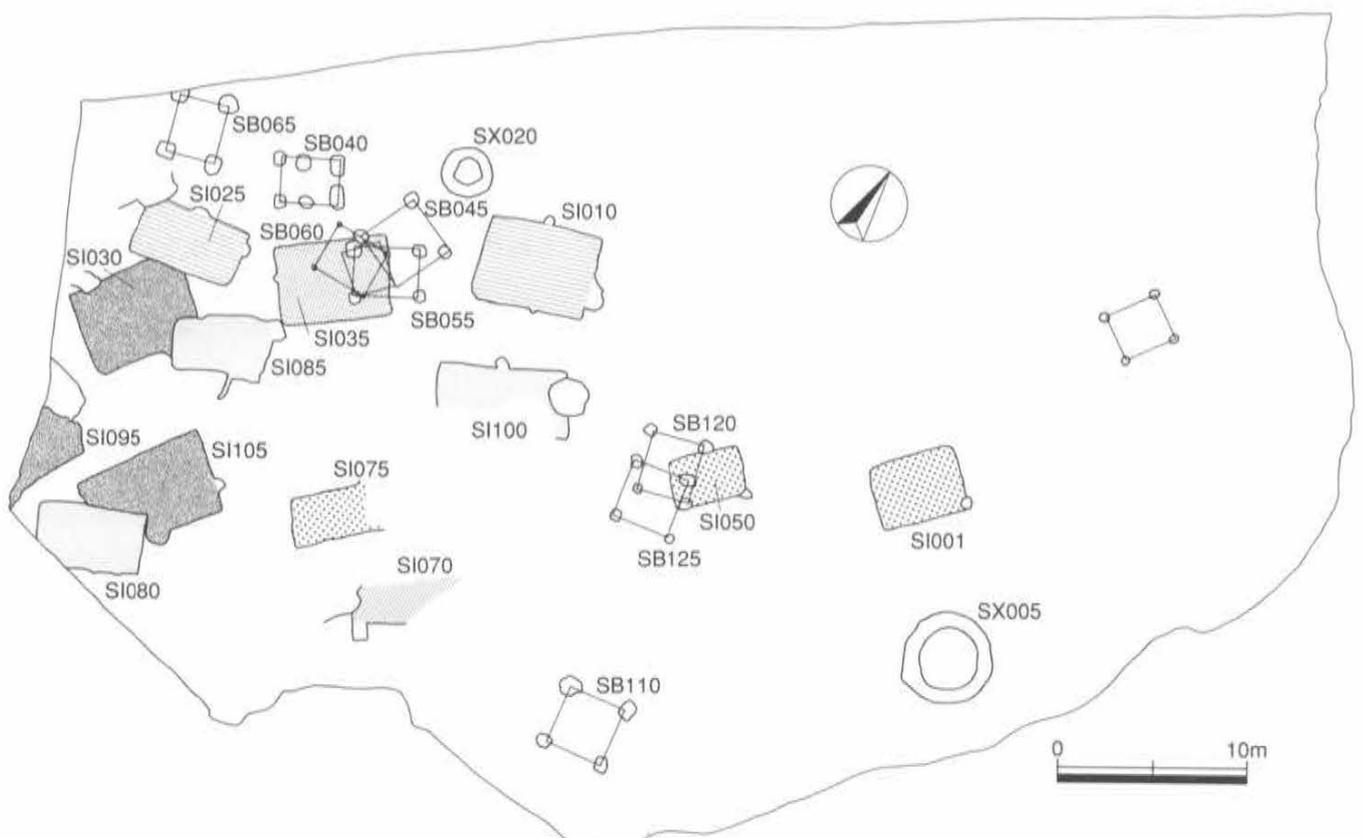


Fig.73 主要遺構配置模式図 (1/400)

4. 竪穴住居内の諸施設について

(1) 炉跡

13棟中6棟から検出している。住居中央に設けるが、比較的浅く窪んでいるだけで、埋土には焼土を確認したものはあるが、炉の床面が焼けている痕跡は殆ど検出していない。

(2) ベッド状遺構

検出した住居の9棟から検出しており、5種の形態を呈している。

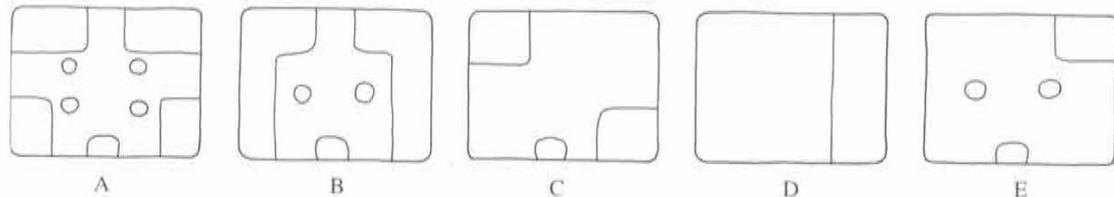


Fig.74 ベッド状遺構の配置

ベッドの構築については、1.盛り土による貼付、2.地山削り出し+盛り土貼付の2種類が存在する。

1. SI030	2. SI010
SI075	SI025
SI095	SI035
SI105	SI085
	SI100

左図のように分けられ、1についてはA・Bグループ、2についてはC・Dグループに分けられ、この事からベッドは盛り土によるものから地山削り出し+盛り土貼付に変化していることが解る。また、SI035の南東隅のベッドは右半分を盛り土貼付、左半分を地山削り出しになり、変則的な構築方法である。

(3) 柱穴

SI010では4本柱を検出し、他は長軸に2本柱の構成である。しかし、小型の住居であるSI001、050、大型住居であるSI105からは柱穴を検出していない。田佛遺跡7号住居では住居外の南北にピットが設けられており、SI001、SI050、SI105についても住居外に柱を据えている可能性が考えられるが検出に至っていない。また、SI030の柱穴は東西に溝状に掘り、両端を深く掘り窪め柱穴(布掘り)としている。

(4) 壁小溝

7棟の住居から検出しており、4棟からは確認できなかった。溝はSI050のみ住居全辺を巡り、他は間隔が開くものや小さいピット等を検出している。また、住居内土壌との関係については、接続しているもの、離れているもの等混在している。

(5) 住居内土壌

10棟の住居から検出している。全て南方向の壁際で検出しており、土壌上部に床の硬化面を持たず、埋土も住居覆土と同様であることから住居内の生活空間に存在していたと考えられる。使用目的を屋内貯蔵や出入口に伴う梯子の設置等諸説を明確に裏付ける資料は確認していないが、SI035土壌からは両端に小ピットを検出している。

(6) 貼床

SI050以外の住居からは硬化面を持つ床面を検出している。SI080については2面の硬化面を確認しているが、最初の床面では柱穴や炉を検出しておらず、床面も凹凸が激しい状態で検出しており床面として認識出来るのかは疑問である。

(7) その他の施設

SI035の北東隅ベット状遺構にピットを検出している。プランが円形を呈しており、他の掘立柱建物の柱穴と並ばない事や住居覆土除去後、ベット確認時に検出していることから住居内の施設の可能性が考えられ、甘木市立野遺跡135号住居等での検出例と同様である。使用目的についても立野遺跡での報告から諸説論じられており、貯蔵・保管施設の可能性が指摘できる。

5. 竪穴住居・掘立柱建物出土遺物について

3. で分けられたグループ毎に遺物を概観していく。カッコ番号は挿図番号である。

A グループ

(SI030)

小型の壺 (103) は特異性のある遺物であるが、突帯の付く大型甕 (104、114)、平底を呈する甕 (112、113) は畿内五様式系の遺物であり、平底の鉢は底部外面にハケ目が残る。出土した土器の中では古い様相を呈する。

(SI095)

出土遺物が少なく資料に欠けるが、底部にケズリを施す鉢ないしは坏 (212)、坏部が中位で屈曲反転し、口縁部で外反する鉢 (213) 等SI030に比べて新しい様相を示す。

(SI105)

壺の底部は平底 (222、224)、レンズ状 (223) を呈し、底部外面にハケ目が入り、甕は胴部より口縁部径が最大を測るタイプ (220、221)、高坏は坏部で屈曲反転し口縁端部で大きく外反する (225) が挙げられ、下大隈段階の遺物ではないか。

B グループ

(SI001)

壺は手ずくねの小型の平底 (6) のみで、甕は長胴で底部はレンズ状で径が小さくなる (1、2、3)、鉢は口縁がく字になり端部をつまみ (4)、高坏は脚部が長く (5) なる。

(SI050)

壺は複合口縁で (138) 器壁は厚い。甕は口縁部より胴部に最大径を測り (139)、器台は口縁部がく字で器壁が厚い (140)。

(SI075)

壺の口縁は直に立ち (163、168)、内湾する無頸壺 (164)、底部がレンズ状 (165)、丸底 (166、175) があり、甕も口縁が直に近く立つ (169、172)、口縁屈曲が殆どない (170) 等がある。鉢は甕として捉えられる直立口縁の (182、183)、は古式土師器の範疇に入れてもよいが、調整にケズリは用いていない。

C グループ

(SI035)

壺は丸底で胴部が張る (128) やレンズ状底部を呈する (129)、複合口縁の (130)、甕には外面に叩きが入り長胴である (131)。高坏はつくりが希薄で裾が開く (134) 等がある。

(SI070)

壺は直立口縁で (152、158)、布留系古段階の遺物である。甕は外面に叩きが入り (142、145) 丸底である (147)、鉢は在地の外面に叩きが入る (150) がある。

D グループ

(SI010)

壺は直立口縁の (7)、頸部径が小さく胴部が張るもの (8)、甕も口縁が直に近い立ち上がり、丸底を呈し、肩部に横ハケを呈する五様式系の (13)、甕は口縁に刻み目のある (14、15、19)、外面に叩きがあり丸底を呈するもの (19)、鉢は丸底 (30~33)、く字口縁で脚付き (63)、高坏は短脚で精製品である (42) は布留系、坏部が浅く口縁が開く (40) がある。

(SI025)

壺は直立口縁で完全に丸底化し (74~76)、甕は長胴で外面に叩きが入り、丸底である (81~84)、鉢はく字で口縁に最大径を求めると在地の (85~87)、高坏は坏部が屈曲部から口縁まで長く直線的な

(92) は布留系の遺物である。器台は裾部が開くが踏ん張るタイプ (96)、支脚は外面に叩きが残り天井部の傾斜があるタイプ (95) がある。

(SI080)

甕は頸部径が小さく口縁に刻み目のある (193、206)、直口縁で丸底の (174) は布留系、鉢は平底の (175) 以外は丸底で (196～198)、土師器の坏の範疇に入る (199、201) がある。

(SI085)

出土資料が少なく、鉢は直に立つ (209)。

(SI100)

甕は頸部に最大径を測り長胴になる (216、217)、胴部に最大径を測る (215)、鉢は手づくねで平底に近く器壁が厚手の (218、219) がある。

(SI065)

資料が少なく甕の口縁片 (245)。

(SI110)

平底の鉢 (246) 出土。

(SI040)

甕は直立口縁 (238)、甕の口縁屈曲が明瞭で (236)、鉢は丸底 (239)、口縁端部が若干開く (240) がある。

Eグループ

(SI045)

甕は口縁が緩やかに立ち (242)、胴部中位が最大径を測り、底部は丸底に近く径が小さく、(241)、鉢は口縁がつまみ出される (244) がある。

6. 堅穴住居・掘立柱建物出土遺物の時期について

筑後地域での弥生時代後期の土器については、狐塚遺跡、室岡遺跡群で編年が示されている。狐塚は堅穴住居の重複関係 (切り合い) から器種のセット関係を用い、室岡遺跡では筑前での各遺跡から併行関係を求め、狐塚はⅢ期、室岡はⅣ期に分けられた。各編年の後期の土器は筑前で基礎となる森貞次郎氏の「高三瀬」「下大隈」「西新」に對比しており、室岡と狐塚 (上北島式) が古式土師器の時期に設定されている。

弥生時代	後期前半	後期中～後半	後期終末
筑前地域	高三瀬	下大隈	西新町
室岡遺跡群	室岡Ⅰ(古)・Ⅱ(新)	室岡Ⅲ	
狐塚(上北島式)			上北島Ⅰ・Ⅱ

上記の編年を基に鶴田西牛ヶ池住居出土遺物を観察してみると、以下の現象を指摘できる。

1. 下大隈期の複合口縁甕が狐塚遺跡と同様に極端に少ない。また、長頸甕もない。
2. 甕の体部はハケ目から叩きを施すようになる。また、器台や支脚にも叩きが残る。
3. 高坏は口縁部が屈曲し直に立つものがない。坏部の口縁部が屈曲し反転して外反するタイプ。
4. 平底を呈する甕、甕がSI030、105を除いて殆ど存在しない。レンズ状か丸底を呈している。
5. 無頸の鉢は平底で体部器壁が厚く、直線的に立ち上がるタイプと土師器坏に近い丸底の口縁部が内湾するタイプが混在するが、手づくね系の平底鉢は調整や焼成が同様である。
6. 無頸の鉢の外面にケズリの痕跡を若干認めるが、内外面にケズリ調整する遺物は殆どない。
7. 外来系と言われる遺物が殆ど入っていない。

以上の点を考慮して各竪穴住居出土遺物の時期的幅は以下の様になる。(カッコのアルファベットは遺構グループである。)

弥生後期	中頃	後半	終末/庄内・布留併行期
筑前	下大隈		西新町/庄内・布留
筑後	室岡Ⅲ		上北島 (*1)
		(A) SI001	-----
			(D) SI010 -----
			(D) SI025 -----
	(A) SI030	(C) SI035	-----
	(B) SI050		(C) SI070 -----
			(B) SI075 -----
			(D) SI080 -----
	(A) SI105	(D) SI100	
			(A) SI095 -----
		(D) SI040	-----
			(E) SI045 -----

(*1) 狐塚遺跡 1.2.3.11.12.16.19.21号住居出土遺物

7. 鶴田西牛ヶ池遺跡

調査地は狐塚遺跡から東南に約900mの地点にあり、裏山遺跡^{Ⅱ7}から北東に約600mの位置に展開する。遺構に関しては調査区西寄りに密集する。特に弥生時代後期を中心に竪穴住居、掘立柱建物が検出され、当該期の主要な市内遺跡としては狐塚遺跡、蔵数森ノ木遺跡^{Ⅱ8}、田佛遺跡^{Ⅱ9}での調査例が報告されている。

先述した遺構、遺物の報告から蔵数森ノ木のV～VIに該当するが、蔵数森ノ木では複合口縁の壺の出土頻度が高く、様相としては狐塚遺跡に類似している。また、以前から狐塚遺跡のⅢ期区分設定に関する前後関係の疑問点が指摘されてきたが、鶴田西牛ヶ池遺跡では遺物時期幅が狭く後期を全体的に包括する遺物資料が提示できず、器種の系譜等を追える資料提示ができなかった。八女市室岡遺跡群での編年では、SI025・070出土遺物が室岡Ⅲ期の後にくる資料になるのではないかと。しかし、遺物の扱いについては全て住居覆土遺物であり、遺構のグルーピングによる結果との時期差が狭い範囲であるが生じており、遺構時期の判断についての危険性は否めない。調査時の遺物廃棄のグループをある程度掴んで取り上げる等、綿密な調査方法を取ることは遺物を正確に判断し取り扱う絶対条件であることを痛感した。

また、周溝状遺構が2基検出されており、SX005については、溝底部にピットを検出しているが溝埋土との前後関係を掴んでおらず、埋土も灰白色粘土であること等、不明な点を残した。遺物は体部にボタン状の貼付がある甕が特異な遺物として挙げられる。

近世の遺物も多量に出土している。これらは攪乱(重機で掘られたもの)出土や不定形の土壌からの出土であるが、18世紀後半から幕末にかけての資料である。その中でも土製の棒状土製品については、久留米市で中世(13世紀)の土器と出土しており、瓦器焼成等の窯道具や工房に関する道具の一種とされている。しかし、今回出土した棒状土製品は近世の遺物と出土(一部攪乱のため現代遺物も混じるが)しており、付着物痕等を観察すると、かなりの高温(1000°以上)で2次的に熱を受けている事や、法量が大型から小型まであり、久留米市の出土遺物と一種趣を異にしている。

以上、鶴田西牛ヶ池遺跡の調査成果である。遺構は調査区から西側に広がりをもつと考えられ、筑後市内での周辺遺跡の調査成果や資料の増加により今後、筑後地区での弥生時代後期の生活の実態や土器相の成果を期待するところである。

(註) 参考文献

- 註1. 『大野原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第48集 佐賀市教育委員会 1993
- 註2. 『田佛遺跡』筑後市文化財調査報告書第5集 筑後市教育委員会 1988
- 註3. (1)「まがたま」福岡県立小倉高等学校創立八十周年記念 福岡県立小倉高等学校 1988
- (2)『九州縄貫自動車道埋蔵文化財調査報告書XIX』
八女市室岡所在遺跡の調査 福岡県教育委員会 1977
- (3)石野博信『日本原始・古代住居の研究』 吉川弘文館 1990
- 註4. 『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-8-』
甘木市立野遺跡の調査 (3) 福岡県教育委員会 1986
- 註5. 『狐塚遺跡』筑後市文化財調査報告書第2集 筑後市教育委員会 1970
- 註6. 註3. (2) に同じ
- 註7. 『裏山遺跡』筑後市文化財調査報告書第1集 筑後市教育委員会 1966
- 註8. 『蔵敷遺跡群』筑後市文化財調査報告書第6集 筑後市教育委員会 1990
- 註9. 岩永省三『土器から見た弥生時代社会の動態』
-北部九州地方の後期を中心として- 『柳山浩一先生退官記念論集』 1989
- 柳田康雄『三・四世紀の土器と鏡』
-「伊都」の土器から見た北部九州- 『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』 1982
- 註10. 『三沢栗原遺跡Ⅲ・Ⅳ』小都市文化財調査報告書第23集 小都市教育委員会 1985
- 『大善寺北部地区遺跡群Ⅲ』久留米市文化財調査報告書第92集 久留米市教育委員会 1994

参考文献

- 『西新町遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第79集 福岡市教育委員会 1982
- 浦原宏行『古墳時代初頭前後の土器編年』『調査研究書第16集』 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 1991
- 『太宰府・佐野地区遺跡群Ⅵ』太宰府市の文化財第31集 太宰府市教育委員会 1996
- 久住猛雄『北部九州における庄内式併行期の土器様相』『庄内式土器研究XIX』 庄内式土器研究会 1999

Tab.11 鶴田西牛ヶ池遺跡出土遺物一覧表

1	薬型土器	薬、小薬	21	石製品	ヤマガキ土刺片
	鉢型土器	鉢	22	土師器	鉢
	高坏型土器	高坏			小片
11住居内土壙	帯型土器	帯	23		小片
1床下					
2	薬型土器	小片	24	薬型土器	薬型土器
3	磁器	薬	25	帯型土器	帯
4	薬型土器	薬付		薬型土器	薬
5	鉢型土器	薬		鉢型土器	鉢、ミニチュア鉢
	鉢型土器	鉢		高坏型土器	高坏
	器台型土器	器台		器台型土器	器台
	鉢形土器	ミニチュア鉢		支脚型土器	ミニチュア支脚
	支脚型土器	支脚		土製品	メソコ、焼土、釉朽
6	磁器	小片		眞鍮品	鏝
7		小片	25床下	石製品	不明石
8		小片	25床下	薬型土器	薬
9	鉢形土器	小片	25住居内土壙		小片
	鉢型土器	ミニチュア鉢		薬×鉢型土器	薬×鉢
	帯型土器	帯	26	薬型土器	薬
10	薬型土器	薬		陶器	小片
	鉢型土器	鉢、小鉢	27	土製品	瓦、焼土、眞漆
	高坏型土器	高坏		薬×鉢型土器	薬×鉢
	器台型土器	器台		磁器	薬付、白磁
	土製品	メソコ、焼土、支脚	28	陶器	片口鉢
		不明土製品	29	土製品	瓦
		不明石、紙石	30	薬型土器	小片
10上面掘乱	石製品	薬		薬型土器	薬
	薬型土器	薬		薬型土器	薬
	鉢形土器	鉢		鉢形土器	ミニチュア鉢
	土師器	小皿、坏		器台型土器	器台
	磁器	薬付、青磁	30床下	土製品	焼土
	陶器	播鉢、碗		石製品	石包丁
	石製品	紙行	30住居内土壙	土師器	小片
10E住居内土壙	薬型土器	薬	31	磁器	碗
10床下	薬型土器	小片		陶器	碗
10<ネット	薬型土器	薬	32	鉢型土器	鉢
11	磁器	白磁		鉢型土器	小片
12	器台型土器	器台	33	土製品	焼土
	陶器	碗	34	薬型土器	薬
	土製品	焼土	35	帯型土器	帯
13	薬型土器	薬		薬型土器	薬
	鉢型土器	鉢		鉢型土器	鉢
	器台×鉢型土器	器台×鉢		高坏型土器	高坏
14	帯型土器	帯		器台型土器	器台
16		小片		支脚型土器	支脚
17	薬型土器	薬		石製品	不明石
	磁器	薬付	35床下	薬型土器	薬
	陶器	鉢		支脚型土器	支脚
	土製品	焼土	35住居内土壙	薬型土器	薬
18	薬型土器	薬	36	土製品	焼土
19	陶器	小片		鉢型土器	脚内鉢
20	薬型土器	薬	37	薬型土器	薬
	磁器	薬付			小片
	陶器	小片	38	薬型土器	薬
	土製品	焼土	39	薬型土器	薬
21	薬型土器	薬	41	薬型土器	薬

41	鉢×器台型土器	鉢×器台	76	甕型土器	甕
42	甕型土器	甕		鉢形土器	鉢
42	鉢型土器	鉢		土師器	火鉢
	高坏型土器	高坏		磁器	染付
44	石製品	黒曜石剥片		陶器	甕
46		小片		土製品	平瓦
47	土師器	小皿	77	甕型土器	甕
	磁器	染付		鉢形土器	鉢
48	鉢型土器	鉢	78	甕型土器	甕
49		小片		甕型土器	甕
50	甕型土器	甕		鉢形土器	鉢
	甕型土器	甕		高坏型土器	高坏
	器台型土器	器台		土師器	鉢
	石製品	不明石		磁器	碗片
51	甕型土器	甕		陶器	碗片
	鉢型土器	鉢		土製品	平瓦
	高坏型土器	高坏		石製品	不明石
52	甕型土器	甕	79	土師器	耳
	鉢型土器	小鉢		鉄製品	洋
53	甕型土器	甕		銅製品	銭
54	甕型土器	甕	80	甕型土器	甕
56	甕型土器	甕		甕型土器	甕
57		小片		鉢形土器	鉢
61	鉢形土器	鉢		器台型土器	器台
	甕×鉢型土器	甕×鉢		磁器	染付
63	甕型土器	甕		陶器	片
	鉢型土器	鉢	80第1床面	甕型土器	甕
64	甕型土器	甕		鉢形土器	鉢
	鉢型土器	鉢	80床下	石製品	黒曜石剥片
66	甕型土器	甕	81	甕型土器	甕
	鉢型土器	鉢		土製品	漆土規
68	甕型土器	甕	82	甕型土器	甕
69	甕型土器	甕		土製品	平瓦
70	甕型土器	甕	83	甕型土器	甕
	鉢型土器	鉢		鉢形土器	鉢
	高坏型土器	高坏		磁器	白磁
	陶器	小片		陶器	甕、皿、楯鉢
	土製品	メノコ状土製品		土製品	棒状土製品
70床面	甕型土器	甕		鉄製品	刀子、洋
	鉢型土器	鉢	84	ナラヌ製品	薬瓶、日薬瓶
	高坏型土器	高坏	85	なし	
72	甕型土器	甕	85床下	甕型土器	甕
	高坏型土器	高坏	85住居内土蔵	甕型土器	甕
	器台型土器	器台		鉢形土器	鉢
73	甕型土器	甕		石製品	不明石
	鉢型土器	鉢、ミニチュア鉢	85表採	甕型土器	甕
74	土師器	鉢	86		小片
	磁器	碗、小片	87		小片
	陶器	甕、小片	88		小片
	土製品	棒状土製品、平瓦	89	鉢形土器	鉢
75	甕型土器	甕	90	甕型土器	甕
	鉢型土器	鉢	91	土師器	鉢
	鉢型土器	鉢		土製品	棒状土製品、人形片
	高坏型土器	高坏	92	土師器	甕、火鉢、鉢
	器台型土器	器台		磁器	染付
75ペット	その他	炭化物		陶器	鉢
75床下	甕型土器	甕、小片		土製品	
75住居内土蔵	高坏型土器	高坏	93	甕型土器	平瓦、棒状土製品

93	高坏型土器 磁器 陶器	高坏 染付 片	109	鉢形土器 器台型土器 土製品	鉢 器台 玉、瓦、焼土 小片
94	土製品 土製土器 土製土器	黒曜石割片 葉	111	葉型土器	葉
95	土製土器 鉢形土器 器台型土器	葉 鉢 器台	112 113	葉型土器 鉢形土器	葉 前
96	高坏型土器 鉢形土器	高坏 鉢	114 116	葉型土器 鉢形土器	葉 葉
97	葉型土器	葉	117	葉型土器	葉
98	鉢形土器 陶器	鉢 鉢		鉢形土器 土製品	ミニチュア鉢 黒曜石割片 焼土
99	土製品 土師器 磁器 陶器	ミニチュア土製品 坏、鉢 染付、青磁、白磁 描鉢、皿	118 119 121	土製品 葉型土器	小片 葉 小片
100	土製品 銅製品 葉型土器 鉢形土器	土製品 青 葉 鉢	122 123 124	葉型土器 磁器 土製品	葉 染付 小片 小片
100末下	葉型土器	小片	125	葉型土器	葉
101	鉢形土器 土製品	鉢 有孔円盤	127 128	鉢形土器 葉型土器	鉢 葉
102	葉型土器 鉢形土器 支脚型土器	葉 鉢 支脚	129 131	葉型土器 葉型土器	葉 葉
	磁器	染付	132	葉型土器	葉
	陶器	碗、葉	133	葉型土器	葉
103	陶器 土製品	長頸壺 焼土	134 136	葉型土器 鉢形土器	葉 葉
104	石製品 なし	砥石		鉢形土器 器台型土器 土製品	鉢 器台 ミニチュア土製品 不明石
105	葉型土器 鉢形土器 高坏型土器 器台型土器 石製品	葉 鉢 高坏 ミニチュア器台 サヌカイ卜石 石剣、不明石	137 138 139	石製品 葉型土器 鉢形土器 石製品 鉢形土器	不明石 葉 鉢 不明石
105模乱	土師器 銅製品	釘	141	鉢形土器	鉢
105住居内土藏	葉型土器 鉢形土器 土製品	葉 鉢 土	茶褐色土	葉型土器 鉢形土器 高坏型土器	葉 葉 高坏
105<ス>ット	葉型土器	不明石		土師器	鉢、描鉢
105床前	石製品	不明石		磁器	染付
105末下	葉型土器	不明石		陶器	葉、前、蓋、土瓶
	石製品	サヌカイ卜石藏		土製品	瓦、焼土
106	葉型土器	葉		銅製品	鏡
107	葉型土器	葉		葉型土器	葉
108	鉢形土器 土師器	鉢 葉、鍋、小皿		鉢形土器 器台型土器	鉢 器台
	磁器	染付		土師器	サナ、鉢(瓦製)
	陶器	葉、碗		磁器	染付、青磁
109	葉型土器	葉		陶器	皿

Tab.12 鶴田西牛ヶ池遺跡遺物観察表

遺構	位置	扉号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残存	備考
S1001	45	1	甕型土器	甕	001	*26.0	*23.8		1/4	
	45	2	甕型土器	甕	003		*21.9	*5.0	3/4	
	45	3	甕型土器	甕	004		*12.0	*6.0	底部片	
	45	4	鉢形土器	鉢	005	*17.5	*6.3		口縁1/8	
	45	5	高坏型土器	高坏	006				胴部片	
	S1001住居内土壙 S1010	45	6	甕型土器	甕	007	6.5	8.0	5.8	ほぼ完形
46		7	甕型土器	甕	005	*16.0	*8.9		小片	
46		8	甕型土器	甕	006	*18.2	*14.6		1/6	
46		9	甕型土器	甕	007		*19.0		胴部1/8	
46		10	甕型土器	甕	011				口縁部片	
46		11	甕型土器	甕	024				口縁部片	
46		12	甕型土器	甕	022		*3.0	*5.0	底部片	
47		13	甕型土器	甕	013	*32.0			口縁部片	
46		13	甕型土器	甕	055	*13.6	*22.5		2/3	
46		14	甕型土器	甕	008	*27.0			口縁部片	
46		15	甕型土器	甕	009	*23.4			口縁部2/5	
46		16	甕型土器	甕	010	*17.6			口縁部片	
46		17	甕型土器	甕	045		*8.5		胴部1/6	
46		18	甕型土器	甕	001		*16.5		胴部1/2	
47		19	甕型土器	甕	040	*27.3	*43.0		4/5	
47		20	甕型土器	甕	014				口縁部片	
47		21	甕型土器	甕	012	*26.0			口縁部片	
47		23	甕型土器	甕	016				口縁部片	
47		24	甕型土器	甕	017				口縁部片	
47		25	甕型土器	甕	015				口縁部片	
47		27	鉢形土器	鉢	051	*16.2	8.4		1/5	
47		28	鉢形土器	鉢	053	*15.0	*7.2		口縁部片	
47		29	鉢形土器	鉢	004	*11.9	8.5		3/4	
47		30	鉢形土器	鉢	041	14.2	6.0		ほぼ完形	
47		31	鉢形土器	鉢	003	*14.6	7.6		2/5	
47		32	鉢形土器	鉢	050	10.5	4.9		ほぼ完形	
47		33	鉢形土器	鉢	049	*11.6	6.1		1/2	
47		34	鉢形土器	鉢	042	*16.0	*5.5		口縁1/6	
48		35	鉢形土器	鉢	018				口縁部片	
48		36	鉢形土器	鉢	002				口縁部片	
48		37	鉢形土器	鉢	019	*18.0			口縁部片	
48		38	鉢形土器	鉢	020	*17.0			口縁部片	
48		39	鉢形土器	鉢	021	*15.0			口縁部片	
48	40	高坏型土器	高坏	039	*22.0	*2.4				
48	41	高坏型土器	高坏	025				坏部片		
48	42	高坏型土器	高坏	048		*7.5	12.8	脚部片		
48	43	高坏型土器	高坏	026				胴部小片		
48	44	器台型土器	器台	028				胴部小片		
48	45	器台型土器	器台	027				胴部小片		
48	46	石製品	砥石	057	14.0	6.1	6.1			
48	47	石製品	不明石	046						
48	48	石製品	不明石	047						
48	49	石製品	不明	037	5.1	3.6	2.4			
48	50	石製品	不明	038	4.5	3.3	2.3			
48	51	石製品	不明石	044						
47	52	甕型土器	甕	052					口縁部片	
49	53	土製品	支脚	059		24.3				
49	54	土製品	支脚	056		19.6				
49	55	土製品	支脚	043		21.4			小片	
49	56	土製品	不明	023						
49	57	土製品	粘土塊	030						
49	58	土製品	粘土塊	029						
49	59	土製品	粘土塊	031						

【単位はcm。*は複原値、°は欠損】

	49	60	土製品	粘土塊	032					
	49	61	土製品	粘土塊	033					
	49	62	土製品	粘土塊	034					
SI010床面	50	63	鉢型土器	鉢	062	20.9	14.8	*13.4	4/5	
SI010住居内土壙	50	64	壺型土器	壺	061		*15.0		1/2	
SI010上面攪乱	50	65	壺型土器	壺	072	*22.0			口縁部片	
	50	66	壺型土器	壺	065	12.2	*6.6		口縁部片	
	50	67	鉢型土器	鉢	063	13.0	7.2		ほぼ完形	
	50	68	鉢型土器	鉢	064		*6.1		1/6	
	50	69	陶器	皿	067	*12.0	2.9	*4.6		
	50	70	陶器	皿	068	*9.5	2.5	*3.8		
	50	71	陶器	甕	066	*23.4		*19.8	1/4	
	50	72	石製品	砥石	070					
SI025	50	73	石製品	砥石	069					
	51	74	壺型土器	壺	007	*13.0	*14.0		上半 1/2	
	51	75	壺型土器	壺	025	13.0	13.7		ほぼ完形	
	51	76	壺型土器	壺	006	*14.0			口縁部 1/2	
	51	77	壺型土器	壺	005	*18.0				
	51	78	壺型土器	壺	004					
	51	79	壺型土器	壺	003	*20.0				
	51	80	壺型土器	壺	002	*19.0				
	51	81	壺型土器	壺	001					
	51	82	壺型土器	壺	026		*32.0		体部 2/3	
	51	83	壺型土器	壺	014				底部片	
	51	84	壺型土器	壺	015		3.2		底部片	
	52	85	壺型土器	壺	013	*28.0			口縁部 1/4	
	52	86	鉢形土器	鉢	009	*26.0			口縁部片	
	52	87	鉢形土器	鉢	008	*20.0			口縁部片	
	52	88	鉢形土器	鉢	010	*13.0	*6.4		1/2	
	52	89	鉢形土器	鉢	011	*14.4	6.5		口縁 1/3欠	
	52	90	鉢形土器	鉢	022	*4.4	3.8	1.3	1/2	
	52	91	鉢形土器	鉢	023	*3.2	2.0		1/3	
	52	92	高坏型土器	高坏	016	*32.0			口縁部片	
	52	93	高坏型土器	高坏	017				脚部片	
	52	94	支脚型土器	支脚	020		*7.2		1/2	
	52	95	支脚型土器	支脚	021	9.5	6.7	10.6	ほぼ完形	
	52	96	器台型土器	器台?	019					
	52	97	土製品	柄杓	024		*13.3		坏部欠損	
	52	98	鉄製品	鎌	027					
	53	99	石製品	不明石	028					
	53	100	石製品	不明石	029					
SI030	53	101	石製品	不明石	030					
	54	102	壺型土器	壺	022			8.6	底部片	
	54	103	壺型土器	壺	012				1/2	
	54	104	壺型土器	壺	013	*38.2			口縁部 1/3	
	54	105	壺型土器	壺	014	*22.0			口縁部 1/8	
	54	106	壺型土器	壺	020	*16.2			口縁部 1/6	
	54	107	壺型土器	壺	019	*19.6			口縁部 1/8	
	54	108	壺型土器	壺	017	*16.0			口縁部 1/6	
	54	109	壺型土器	壺	015	*15.8			口縁部 1/8	
	54	110	壺型土器	壺	016	*14.0			口縁部 1/8	
	54	111	壺型土器	壺	021					
	54	112	壺型土器	壺	011			*5.8	底部 1/2	
	54	113	壺型土器	壺	010			*5.4	底部片	
	54	114	壺型土器	壺	018					
	55	115	鉢形土器	鉢	001	*15.0	8.6	6.1	1/3	
	55	116	鉢形土器	鉢	004	12.5	7.7	4.8	ほぼ完形	
	55	117	鉢形土器	鉢	003	*15.0				
	55	118	鉢形土器	鉢	005	13.8	*6.8	*1.3	底部欠	
	55	119	鉢形土器	鉢	002	*5.8	6.4	*2.8	1/3	ミニチュア
	55	120	器台型土器	器台	008	6.3				
	55	121	器台型土器	器台	009	*9.6			1/6	

	55	122	器台型土器	器台	907				*150	底部片	
	55	123	器台型土器	器台	006				*150	底部1/3	
	55	124	石製品	砥石?	025						
	55	125	石製品	不明石	023						
	55	126	石製品	不明石	024						
	55	127	石製品	右立子	025						
	56	128	甕型土器	甕	001					胴部片	
	56	129	甕型土器	甕	005				*77	底部片	
	56	130	鉢形土器	鉢	006					口縁部片	
	56	131	甕型土器	甕	002	*183				上半部片	
	56	132	甕型土器	甕	004	*25.0				口縁部1/6	
	56	133	甕型土器	甕	003	*27.8				口縁部1/6	
	56	134	高坏型土器	高坏	007				*180	胴部1/3	
	56	135	器台型土器	器台	008	*140				口縁部片	
	56	136	支脚型土器	支脚	009				*152	底部1/4	
	56	137	石製品	不明石	010						
	57	138	甕型土器	甕	001	*160				口縁部1/4	
	57	139	甕型土器	甕	002	*16.8				上半1/4	
	57	140	器台型土器	器台	003	*16.0				1/4	
	57	141	甕型土器	甕	011					底部片	
	57	142	甕型土器	甕	003	*25.0				口縁部1/6	
	57	143	甕型土器	甕	004	*23.0				口縁部1/6	
	57	144	甕型土器	甕	001	*20.6				口縁部1/4	
	57	145	甕型土器	甕	002	*21.0				口縁部1/4	
	57	146	甕型土器	甕	005	*18.6				底部片	
	57	147	甕型土器	甕	012					口縁部1/6	
	57	148	鉢形土器	鉢	009	*18.0					
	57	149	鉢形土器	鉢	010	*28.0				上半1/4	
	58	150	鉢形土器	鉢	006	*30.2					
	58	151	鉢形土器	鉢	007					1/2	
	58	152	鉢形土器	鉢	008	*11.6				胴部片	
	58	153	高坏型土器	高坏	014					底部1/4	
	58	154	高坏型土器	高坏	013						
	58	155	土製品	メソコ	015	5.0	5.8	0.5			
	58	156	土製品	メソコ	016	3.2	3.4	0.9			
	58	157	甕型土器	甕	018	*13.2				口縁部片	
	58	158	鉢形土器	鉢	017	*10.0				上半1/6	
	58	159	甕型土器	甕	001	*15.8				口縁部片	
	58	160	鉢形土器	鉢	002	*11.6	5.0			1/5	
	58	161	鉢形土器	鉢	003	*9.0				口縁部1/4	
	58	162	鉢形土器	鉢	004	*4.4	2.1			一部欠	ミニチエテ
	58	163	甕型土器	甕	001	*13.8				口縁部1/2	
	58	164	甕型土器	甕	019	*9.6				口縁部1/4	
	58	165	甕型土器	甕	009			*4.2		底部1/2	
	58	166	甕型土器	甕	012					胴部片	
	58	167	甕型土器	甕	011					胴部片	
	58	168	甕型土器	甕	010					胴部片	
	59	169	甕型土器	甕	006	*17.7				口縁部1/5	
	59	170	甕型土器	甕	003	*17.4				口縁部1/3	
	59	171	甕型土器	甕	002	*16.4				口縁部1/2	
	59	172	甕型土器	甕	005	*12.2				口縁部1/6	
	59	173	甕型土器	甕	004	*15.0				口縁部1/8	
	59	174	甕型土器	甕	008					胴部片	
	59	175	甕型土器	甕	007					胴部片	
	59	176	鉢形土器	鉢	018	*11.7	5.3	3.7		2/3	
	59	177	鉢形土器	鉢	020	*11.0	4.4	1.8		1/4	
	59	178	鉢形土器	鉢	015	13.0	*4.1			1/2	
	59	179	鉢形土器	鉢	016	*13.6	5.7			1/3	
	59	180	鉢形土器	鉢	013	*15.0	7.6	*4.8		1/3	
	59	181	鉢形土器	鉢	014	*22.0				口縁部1/3	
	59	182	鉢形土器	鉢	021	*13.2				口縁部1/6	
	59	183	鉢形土器	鉢	024						

	59	184	鉢形土器	鉢	022	*11.8				口縁部 1/6	
	59	185	鉢形土器	鉢	017	*14.4	5.2			1/2	
	59	186	鉢形土器	鉢	023	*14.0				口縁部 1/8	
	59	187	高坏型土器	高坏	031					脚部片	
	59	188	高坏型土器	高坏	026			*14.0		裾部 1/6	
	59	189	高坏型土器	高坏	025			*15.0		裾部 1/2	
	59	190	土製品	粘土塊	027						
	59	191	土製品	粘土塊	028						
SI075住居内土壙	59	192	高坏型土器	高坏	032					裾部細片	
SI080	60	193	壺型土器	壺	001	21.8				口縁部片	
	60	194	壺型土器	壺	008	*16.0				上半 1/5	
	60	195	鉢形土器	鉢	002	10.0	5.2	4.6		完形	
	60	196	鉢形土器	鉢	003	11.7	6.1			ほぼ完形	
	60	197	鉢形土器	鉢	004	12.2	5.1			ほぼ完形	
	60	198	鉢形土器	鉢	005	13.7	7.0	2.0		完形	
	60	199	鉢形土器	鉢	010	*14.0	*4.0			1/3	
	60	200	鉢形土器	鉢	006	12.9	4.8			ほぼ完形	
	60	201	鉢形土器	鉢	007	13.6	4.6			一部欠	
SI080柱穴	60	202	鉢形土器	鉢	002					口縁部片	
	60	203	甕型土器	甕	001					口縁部片	
SI080第一床面	60	204	甕型土器	甕	012			*4.3		底部片	
	60	205	鉢形土器	鉢	011	7.2	2.3			ほぼ完形	
SI82第二床面下	60	206	壺型土器	壺	001	*21.0				口縁部片	
	60	207	石製品	不明石	002						
	60	208	石製品	石鏃	013					完形	
SI085住居内土壙	60	209	鉢形土器	鉢	001					口縁部片	
	60	210	石製品	不明石	002						
	60	211	土製品	不明品	003						穿孔有り
SI095	60	212	鉢形土器	鉢	001	*14.0				口縁部片	
	60	213	高坏型土器	高坏	004	*30.0				口縁部片	
	60	214	器台型土器	器台	002	*19.0				口縁部片	
SI100	61	215	甕型土器	甕	003	*22.0				口縁部片	
	61	216	甕型土器	甕	002	*22.0				口縁部 1/4	
	61	217	甕型土器	甕	001	*21.0				口縁部 1/5	
	61	218	鉢形土器	鉢	004	*11.6	5.1			2/3	
	61	219	鉢形土器	鉢	005	*13.0	*4.8	*5.8		1/2	
SI105	61	220	甕型土器	甕	012	*26.0	17.6	7.8		口縁部片	
	61	221	甕型土器	甕	001	*28.0				口縁部 1/4	
	61	222	壺型土器	壺	002			*8.0		底部 1/3	
	61	223	壺型土器	壺	004			4.2		底部片	
	61	224	鉢形土器	鉢	003			4.8		底部片	
	61	225	高坏型土器	高坏	005	*32.0				口縁部 1/6	
	61	226	器台型土器	器台	006	*3.3	4.7	*3.3		1/2	ミニチュア
	62	227	石製品	石剣	007	3.0	7.1			一部欠	
	62	228	石製品	石鏃	008					完形	サスカイト
	62	229	石製品	不明石	010						
	62	230	石製品	不明石	011						
SI105床面	62	231	石製品	不明石	017						
SI105住居内土壙	62	232	鉢形土器	鉢	014	14.5	5.6			ほぼ完形	
	62	233	甕型土器	甕	013	*13.2				一部欠	
	62	234	石製品	不明石	015						
SI105床下	62	235	石製品	石鏃	016						サスカイト
SB040 (S-66)	63	236	甕型土器	甕	001	*13.0				口縁部片	
	63	237	甕型土器	甕	002	*12.0				口縁部片	
(S-61)	63	238	壺型土器	壺	001					口縁部片	
(S-63)	63	239	鉢形土器	鉢	001	*13.4	5.9			1/5	
(S-64)	63	240	鉢形土器	鉢	001					口縁部片	
SB045 (S-42)	63	241	甕型土器	甕	001	*16.4	*22.3			1/2	
(S-41)	63	242	甕型土器	甕	001					口縁部片	
(S-77)	63	243	甕型土器	甕	001					口縁部片	
	63	244	鉢形土器	鉢	002	*14.0				口縁部片	
SB065 (S-68)	63	245	甕型土器	甕	001					口縁部片	

SB110 (S-48)	63	246	鉢形土器	鉢	001	10.2	5.3	3.5	ほぼ完形	
SX005	64	247	甕型土器	甕	003				体部片	ボタン状付着
	64	248	鉢形土器	鉢	007	*21.0				
	64	249	鉢形土器	鉢	005	5.1	3.4	0.9	ほぼ完形	ミニチュア
	64	250	器台型土器	器台	002			*19.0		
	64	251	器台型土器	器台	001	*8.2	11.0	*9.0	一部欠	
	64	252	支脚型土器	支脚	006	7.6	10.0	*11.0	ほぼ完形	
	64	253	支脚型土器	支脚	004	7.6	10.4	9.8	完形	
SX011	65	254	白磁	碗	001				底部片	
SX022	65	255	土師器	鉢	001				口縁部片	
SX036	65	256	鉢形土器	鉢	001	*14.0	5.1		1/2	
	65	257	鉢形土器	鉢	002	*11.8			口縁部1/2	
SX047	65	258	土師器	小皿	001	*7.8	1.8	*4.2	1/4	
	65	259	土師器	小皿	002	*6.8	1.7	*3.6	1/3	
	65	260	磁器	染付碗	003	*9.6			口縁部1/6	
SK072	65	261	甕型土器	甕	001				口縁部片	
	65	262	鉢形土器	鉢	002	*13.0				
SX074	65	263	土師器	鉢	001	*24.0		4.4		
	65	264	陶器	碗	002				底部1/2	
	65	265	土製品	平瓦	003					
	65	266	土製品	棒状土製品	004	6.4	6.4	*15.0		
SX078	65	267	甕型土器	甕	003	*13.0			口縁部片	
	65	268	甕型土器	甕	001				口縁部片	
	65	269	甕型土器	甕	002				口縁部片	
	65	270	鉢形土器	鉢	004	*16.0			口縁部1/6	
SX083	66	271	白磁	碗	004			4.4	底部片	
	66	272	陶器	小皿	002	*9.6	2.4	3.2	2/3	
	66	273	陶器	壺	003			8.6	底部片	
	66	274	陶器	播鉢	001	*40.0			口縁部片	
	66	275	ガラス製品	瓶	005	1.4	6.4	2.4	完形	
	66	276	ガラス製品	瓶	006		*8.0		一部欠	
SX091	66	277	土師器	鉢	001				口縁部片	火鉢か?
SX092	66	278	土師器	鉢	001				口縁部片	
	66	279	土師器	甕	002				口縁部片	
	66	280	土師器	火鉢	003			*15.5	1/4	
	66	281	土師器	不明品	004			*26.4	底部1/2	穿孔あり
	66	282	白磁	碗	007	*14.2	5.6	*9.0	1/6	
	66	283	磁器	染付皿	006	*12.0	3.6	*4.3	1/3	
	66	284	陶器	鉢	005			*10.0	底部1/2	
	67	285	土製品	棒状土製品	009	5.7	*17.5	5.8	一部欠	
	67	286	土製品	棒状土製品	008	5.2	*20.0	5.1	一部欠	
	67	287	土製品	棒状土製品	010	6.5	6.0	*15.8	一部欠	
	67	288	土製品	棒状土製品	011	8.0	7.4	*31.0	一部欠	
SX094	68	289	甕型土器	甕	001	*24.0			口縁部片	
SX099	68	290	土師器	坏	008	*12.6	*5.8		1/3	
	68	291	土師器	土鍋	009				口縁部片	
	68	292	白磁	皿	038	*13.8	4.1	4.2	1/2	
	68	293	磁器	皿	031	9.5	2.0	5.4	3/4	
	68	294	磁器	皿	030	*9.0	2.8	*4.0	1/2	
	68	295	磁器	皿	035	*21.0	3.2	*13.2	1/6	
	68	296	磁器	皿	032	*13.0	3.2	*8.0		
	68	297	磁器	皿	029	*8.4	2.2	*6.2	1/3	
	68	298	磁器	皿	033	*13.0	3.8	*4.4		
	68	299	磁器	皿	034	*13.0	3.4	7.3	口縁部3/4欠	
	68	300	磁器	皿	036				底部片	
	68	301	磁器	坏?	028	6.4	2.2	2.5	口縁部3/4欠	
	68	302	磁器	染付碗	021			4.2	底部片	
	68	303	磁器	染付碗	022			*4.7	底部片	
	68	304	磁器	染付碗	019			*5.8		
	68	305	磁器	染付碗	023	*11.2	5.5	*4.8	1/4	
	68	306	磁器	染付碗	024	*10.0			1/6	
	68	307	磁器	染付碗	025			*3.9	底部1/2	

	68	308	磁器	染付碗	026	6.6	5.1	3.2	一部欠	
	68	309	磁器	染付碗	020			*3.8	底部 1/2	
	68	310	磁器	蓋	037	*8.4	2.3	3.6	口縁部一部欠	
	69	311	土製品	棒状土製品	006	5.1	4.8		一部欠	
	69	312	土製品	棒状土製品	007	5.0	5.2		一部欠	
	69	313	土製品	棒状土製品	005	4.8	4.8		一部欠	
	69	314	土製品	棒状土製品	002	4.8	4.6		一部欠	
	69	315	土製品	棒状土製品	001	3.7	4.0		一部欠	
	69	316	土製品	棒状土製品	004	4.4			一部欠	
	69	317	土製品	棒状土製品	003	4.5	5.0		一部欠	
	69	318	土製品	人形	010				口縁部	
	69	319	銅製品	替	039	*11.8			一部欠	
	70	320	陶器	皿	014	*7.8	2.4	2.6	口縁部2/3欠	
	70	321	陶器	皿	015	12.2	3.5	5.3	一部欠	
	70	322	陶器	皿	016				底部片	
	70	323	陶器	碗	027	*5.0	3.2	*3.6	1/4	
	70	324	陶器	鉢	018			*1.60	底部 1/2	
	70	325	陶器	搦鉢	017	*38.0			口縁 1/4	
SX101	70	326	薬型土器	壺	004					
	70	327	鉢形土器	鉢	003	*7.0		*2.8	完形	
	70	328	鉢形土器	鉢	001	11.3		8.1	一部欠	
	70	329	土製品	有孔円盤	002	7.8	0.9		一部欠	
SX113	70	330	薬型土器	壺	001		3.0	*6.9	底部片	
	70	331	土製品	不明品	002					
	70	332	土製品	不明品	003					
SX117	70	333	薬型土器	壺	004	*5.8			口縁部片	ニニチエテ
	70	334	鉢形土器	鉢	005				底部片	ニニチエテ
	70	335	鉢形土器	鉢	001	8.7	4.6		2/3	ニニチエテ
	70	336	鉢形土器	鉢	003	4.1	2.1		2/3	ニニチエテ
	70	337	鉢形土器	鉢	002				口縁部片	ニニチエテ
	70	338	石製品	不明石	006					
茶褐色土	70	339	薬型土器	壺	007				口縁部片	
	70	340	薬型土器	壺	006				口縁部片	
	70	341	鉢形土器	鉢	005				口縁部片	
	70	342	鉢形土器	鉢	004	*16.8			口縁部片	
	70	343	薬型土器	壺	003				口縁部片	
	70	344	薬型土器	壺	002	*19.4			口縁部片	
	70	345	薬型土器	壺	001	*26.0			口縁部片	
S-9	70	346	石製品	石楯	001				一部欠	サニチエテ
	71	347	薬型土器	壺	002					
	71	348	鉢形土器	鉢	001	*8.8				
S-27	71	349	土師器	火鉢	003					ニニチエテ?
	71	350	磁器	染付碗	001	*10.0				
	71	351	陶器	片口鉢	002					
S-32	71	352	鉢形土器	鉢	001				口縁部片	
S-34	71	353	薬型土器	壺	001				口縁部片	
S-76	71	354	鉢形土器	鉢	001				口縁部片	
	71	355	土師器	火鉢	002			*1.60	底部片	
	71	356	磁器	染付皿	004	16.8	4.4	4.5	3/4	
	71	357	陶器	壺	003	*7.6			口縁部 1/2	
S-79	71	358	土師器	环	001	12.8	5.2		一部欠	
S-83	71	359	薬型土器	壺	001	*15.0			口縁部片	
	71	360	高环型土器	高环	002			*15.4	脚部 1/2	
	71	361	高环型土器	高环	003			*15.0	脚部片	
S-102	71	362	鉢形土器	鉢	001	*22.0				
	71	363	支脚型土器	支脚	002	*6.0		1.00		
	71	364	磁器	染付皿	003				底部片	
	71	365	磁器	染付碗	005				底部片	
	71	366	磁器	仏飯具	004	*8.6			1/4	
	71	367	陶器	壺	007	*32.0			口縁部片	
	71	368	陶器	碗	006	*11.4	5.2	*5.4	1/4	
	71	369	陶器	鉢	008			*6.5	底部 1/4	

S-103	72	370	磁器	染付碗	002	*10.0			9.5	底部片	
	72	371	陶器	不明品	003				10.0	底部 1/2	
	72	372	陶器	長頸壺	005	5.6	*25.8		24.2	*7.5	底部 1/2
	72	373	陶器	長頸壺	004	8.0	12.0		7.0	1/2	
	72	374	陶器	土瓶	006	*9.5	10.0		6.0	1417完形	
	72	375	陶器	土瓶	006	*10.4	9.9		6.6	1/2	
	72	376	陶器	土瓶	007						
	72	377	石製品	硯石	001						
S-109	72	378	薬用土器	薬	002						
	72	379	薬用土器	薬	001						口縁部片
	72	380	鉢形土器	鉢	003	1.4	1.3		1.1	完形	
	72	381	土製品	玉	004	*16.0				口縁部片	
表土	72	382	鉢形土器	鉢	002	12.0				底部欠	
	72	383	器台型土器	器台	001						
	72	384	土師器	鉢	008						瓦質
	72	385	磁器	青磁碗	003	*7.4	5.3		*3.4	1/4	
	72	386	磁器	染付皿	004	*9.0	2.2		*3.0	1/4	
	72	387	磁器	青磁染付皿	005				*12.0		
	72	388	陶器	皿	006	8.1	2.0		2.8	一部欠	
	72	389	土師器	中子	007						
	72	390	土製品	駒蹄車	009						

5. 鶴田木屋ノ角・鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査

(1) はじめに

今回報告する鶴田木屋ノ角遺跡は筑後市大字鶴田字木屋ノ角549外に、鶴田牛ヶ池遺跡は筑後市大字鶴田字牛ヶ池814外に、それぞれ所在する。調査は永見が担当し、一部で小林の協力を得た。調査面積は合計で2,727㎡で、調査期間は平成10年11月1日から平成11年2月10日であった。この調査は、古代官道「西海道」の路線確認を主たる目的として実施した。事前の工事主体との協議の結果、遺構を破壊しない内容の工事を実施することで合意していたため、水路が新設される北端の80㎡を除いて遺跡の平面プランの確認にとどめた。したがって、水路予定地内以外にある遺構は完型に到っていない。



Fig.75 鶴田木屋ノ角遺跡鶴田牛ヶ池遺跡 (第2次調査) 調査区位置図 (1/2,500)

(2) 検出遺構

今回は西海道の路線確認のための調査であるため、当然のことながら道路跡を検出している。鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査で検出が予想されたが、明確な遺構は確認できなかったため、全体図のみを報告する。また、水路予定地内で土壙を2基検出したので併せて報告する。以下、鶴田木屋ノ角遺跡の検出遺構を遺構種別ごとに記載する。

道路状遺構

SF20 (SD01・SD05・SD10)

今回の調査で確認した道路跡である。SD01とSD05が、それぞれ西と東の側溝にあたると思われる。また、路盤の中央にSD10が縦走しているが、道路との関係は確認できない。SD10の残存する深さは、最大で0.25m程である。側溝の断面形状は、東西ともに大きく崩れた逆台形で、極めて不整形である。

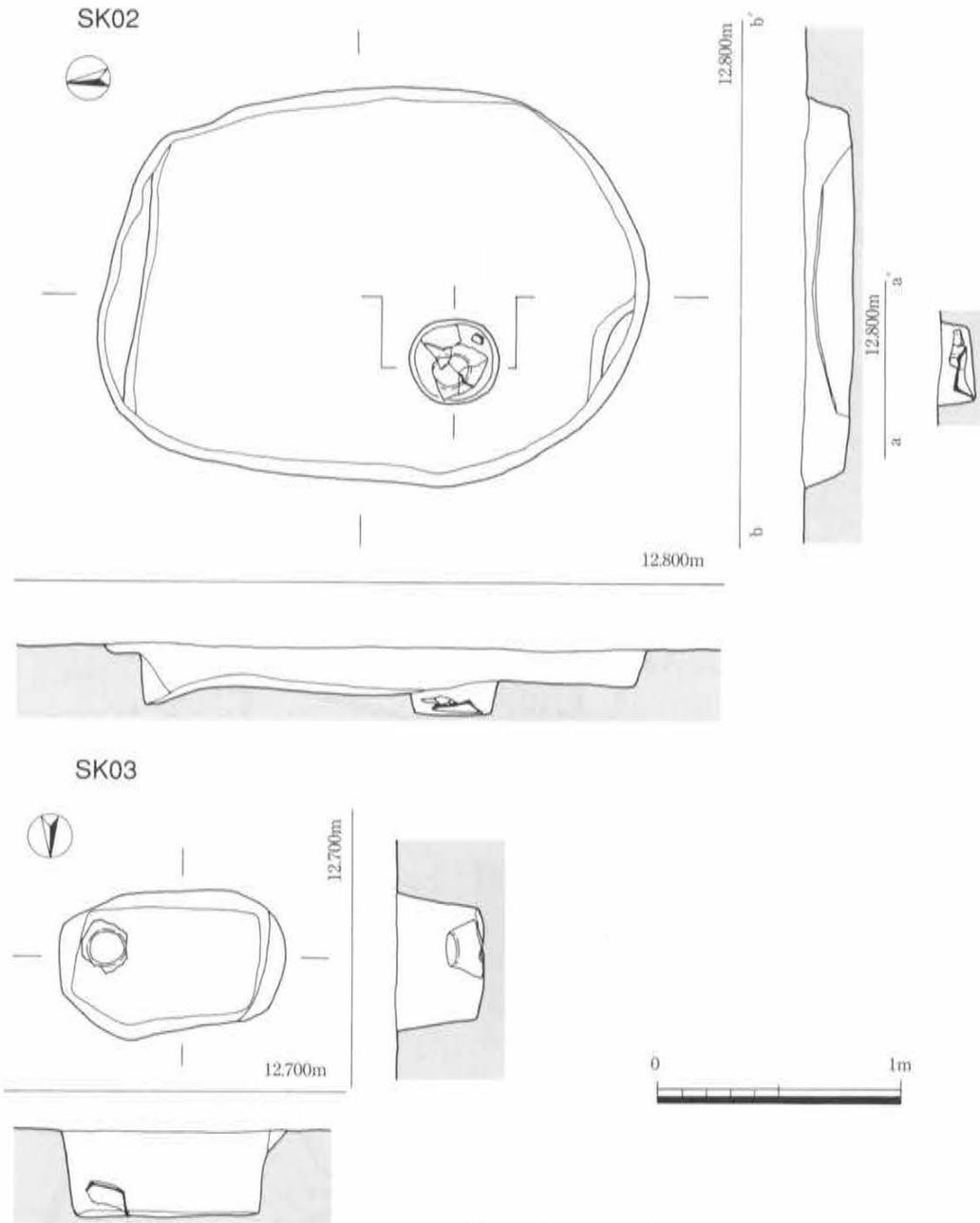


Fig.76 土壙実測図 (1/30)

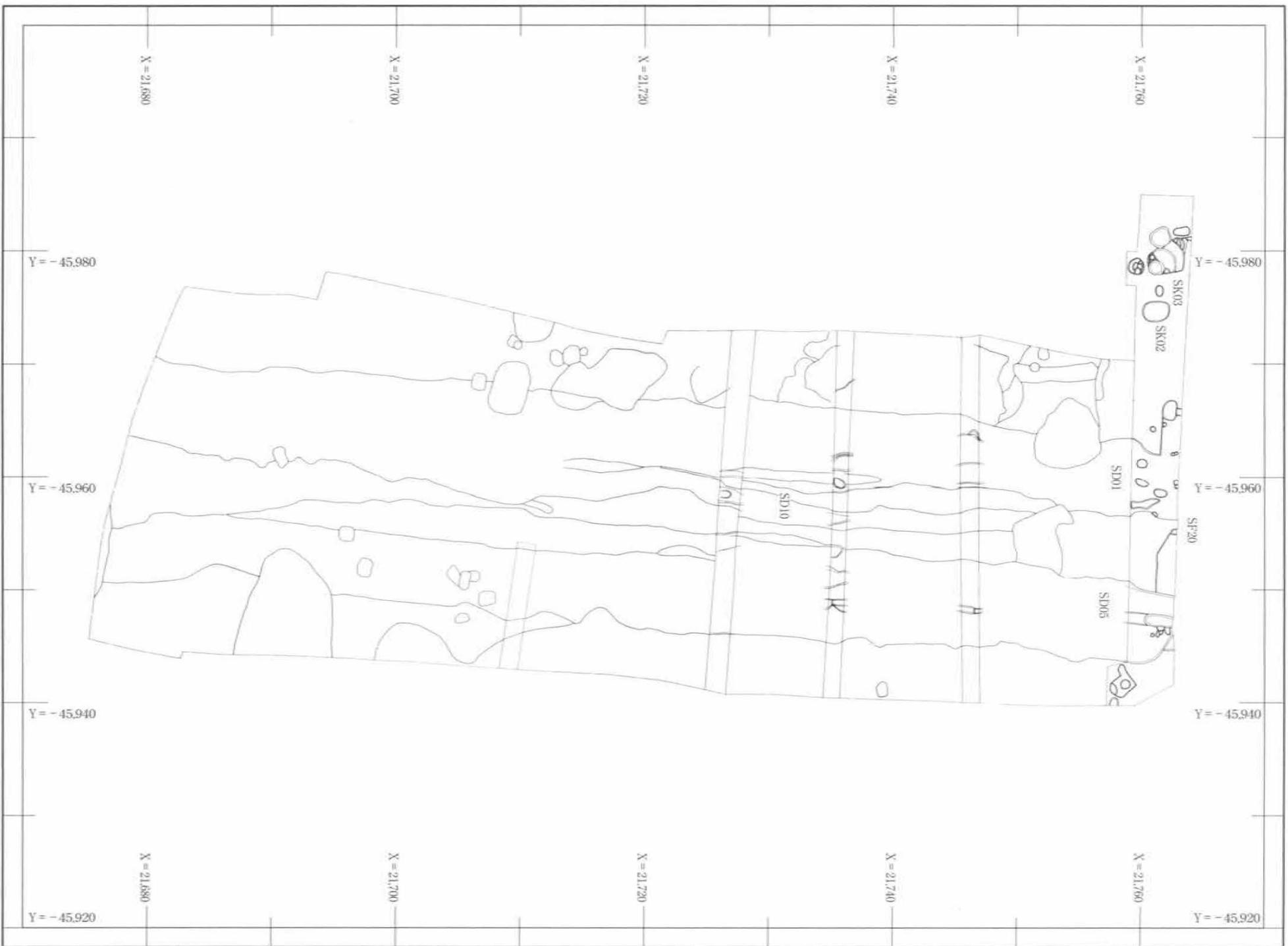


Fig.77-1 鶴田木屋ノ角遺跡遺構配置図 (1/400)

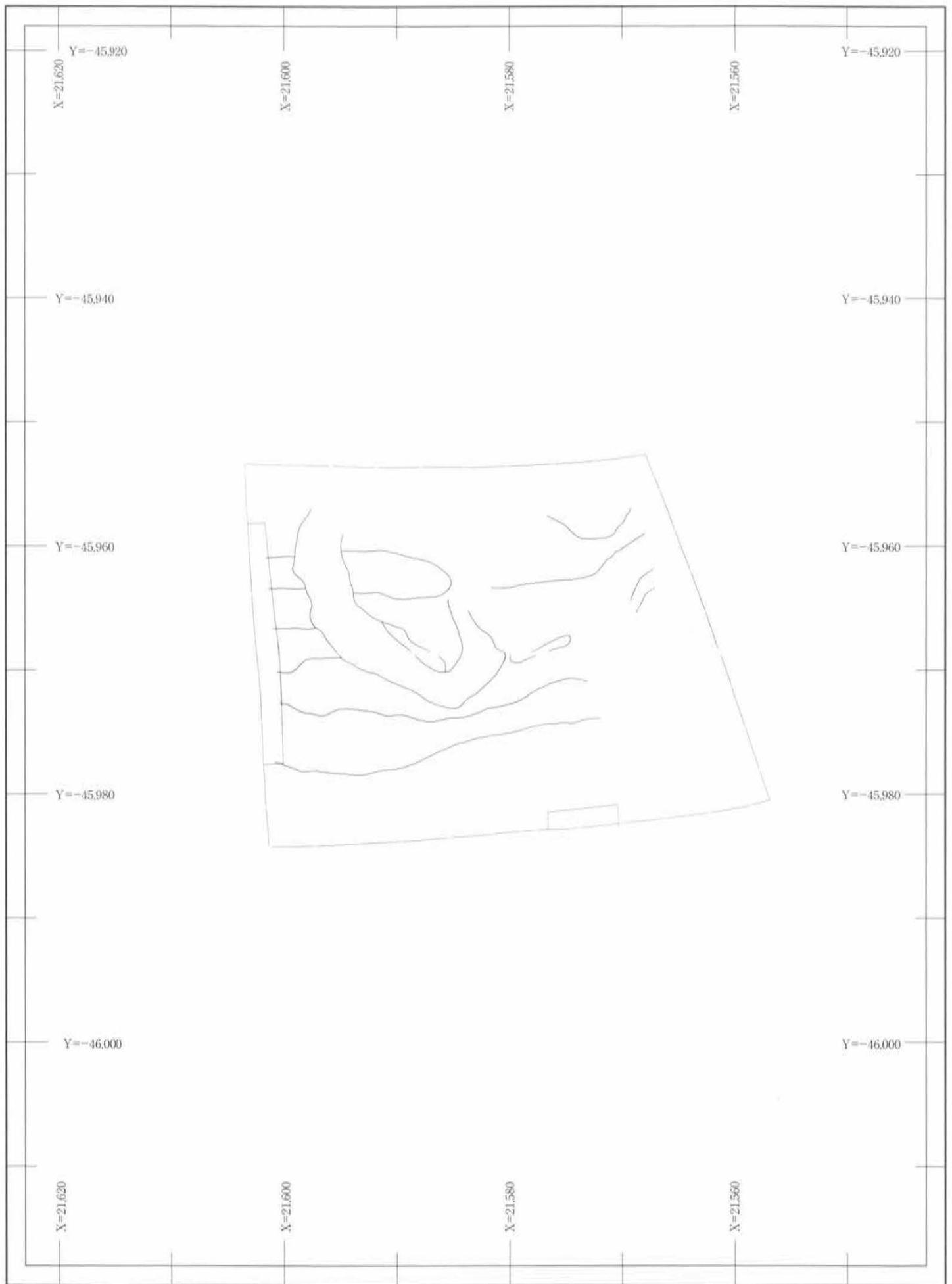


Fig.77-2 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）A調査区遺構配置図（1/400）



Fig.77-3 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）B調査区遺構配置図（1/400）

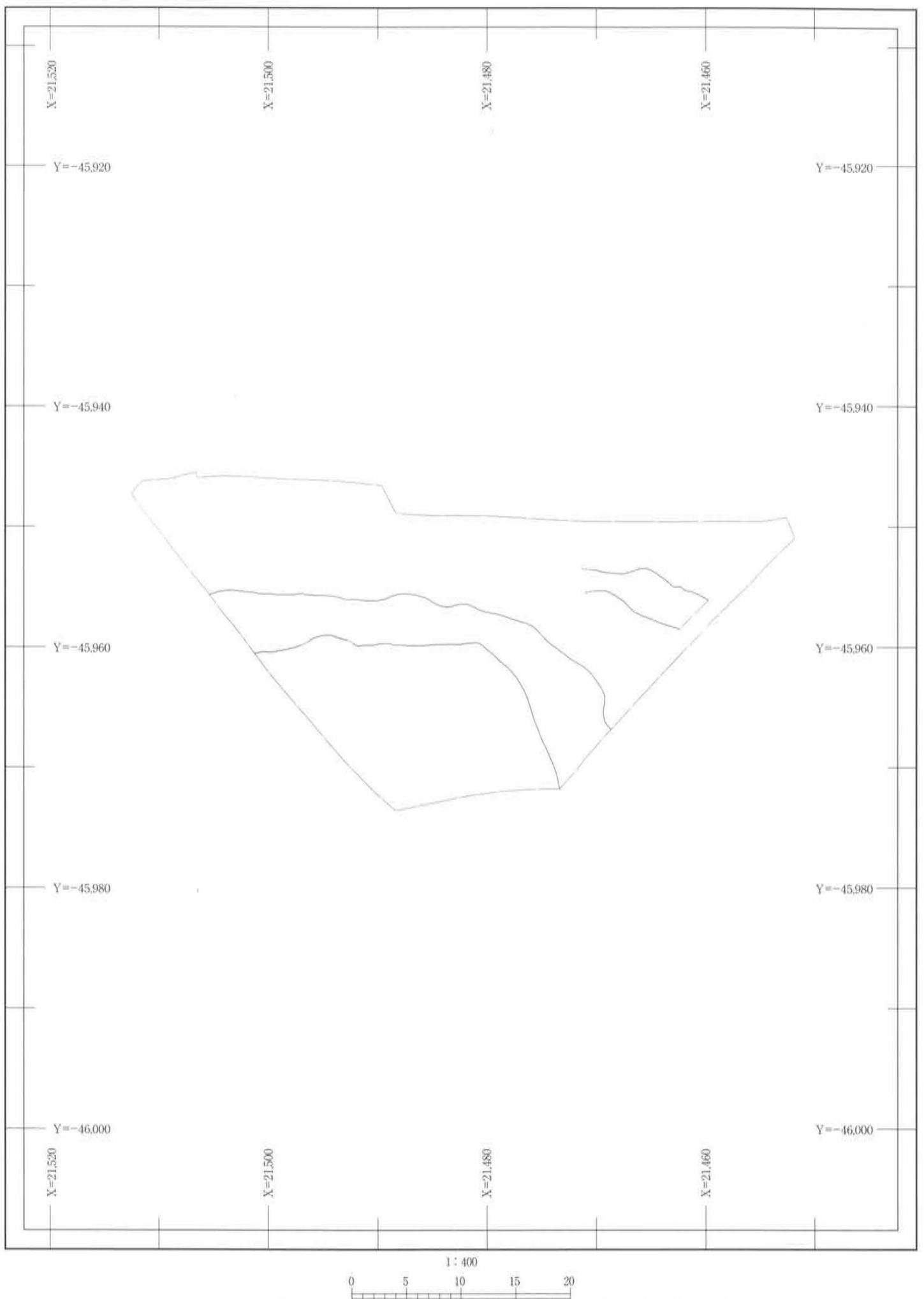


Fig.77-4 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）C調査区遺構配置図（1/400）



Fig. 78 筑後市内西海道関連遺跡分布図 (1/50,000)

土壌

SK02 (Fig.76・Pl.65)

調査区の北端西寄りに位置する。平面形は、ほぼ円形である。規模は南北2.3m、東西1.7m、深さ0.2mをはかる。

SK03 (Fig.76・Pl.66)

調査区の北端西寄りに位置し、SK02の西隣にあたる。平面形は、隅丸方形である。規模は南北0.6m、東西0.8m、深さ0.65mをはかる。

(3) 出土遺物

今回の調査では土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器を出土した。以下、出土遺構別に報告する。

SK02 (Fig.79・Pl.67)

土師器・須恵器が出土した。1・2は土師器の甕である。1は口縁部が外反し、2は緩く外反する口縁部を丸くおさめている。

3は須恵器の坏蓋である。体部外面に不明瞭ながら墨書が認められる。「林家」ではないかと思われるが、一文字目は「北」二文字目は「寶」の可能性もある。一文字は二文字目と比べて肉太に書かれている。但し、不明瞭なため図示していない。また、内面は硯として使用されて平滑になっていて、墨痕も認められる。4は須恵器の壺の体部である。高台径は11.0cmを測る。

SD02 (Fig.79・Pl.67)

瓦質土器が出土した。5は瓦質土器のすり鉢である。1ヶ所に口が残存しているが他にあったかどうかは不明である。

SD03 (Fig.79・Pl.67)

瓦質土器・陶磁器が出土した。6は瓦質土器のすり鉢である。1ヶ所に口が残存しているが他にあったかどうかは不明である。7は白磁の合子蓋である。体部外面に呉貝による施文が認められる。8は、染付の皿である。内底見込みに施文されるが、図柄は不明である。

(4) 小結

遺構の報告文でも触れたが、鶴田牛ヶ池遺跡第2次調査では西海道関連の遺構は明確な形では確認できなかった。溝状の遺構の中には、道路側溝の可能性を否定しきれないものもあるが、現時点での明確な判断はつかない。遺構全体図を報告しているので、各方面からの御教示を賜われれば幸いである。

ここでは、鶴田木屋ノ角遺跡第1次調査での成果を中心に若干の考察を試みたい。現在のところ、筑後市内で確認されている西海道と思われる道路状遺構はTab.13のとおりである。今回の調査で確認された路線は、山ノ井川口遺跡と鶴田中市ノ塚遺跡との間にあたる。側溝の断面形状を比較すると、山ノ井川口遺跡では比較的逆台形の形が整っているが、鶴田木屋ノ角遺跡では肩部が不明瞭になり、随分と崩れた断面形状である印象を受ける。

また、出土遺物から道路側溝の埋没時期は、8C後半を中心とした年代が与えられると思うが、今回の調査は道路側溝のごく一部を掘ったに過ぎないので、今後の周辺調査の結果を踏まえて議論することが重要であろう。

西海道の路線については、木下良氏の研究が現状ではもっとも説得力があると思われる。(註1)筑後市付近の路線は、筑後市大字一条・熊野・前津の字車路(および車地)の大字界の延長をそれと考へ、筑後市内は大字藏数の1ヶ所で僅かに屈曲する以外は、ほぼ直線に走るとしている。また、筑後市内に比定される葛野駅は大字前津字車路付近とされている。

路線については、市の中央部付近では西寄りの大字和泉を迂回するとした意見もあるが、今日までの発掘調査の成果を照らし合わせると説得力に欠ける。なお、今日までに発掘調査で確認した官道クラスの道路状遺構は、すべて木下氏の推定路線上で確認されている。

また、葛野駅についても同様で、筑後中学校屋内運動場建設の際に調査した羽犬塚中道遺跡では、大

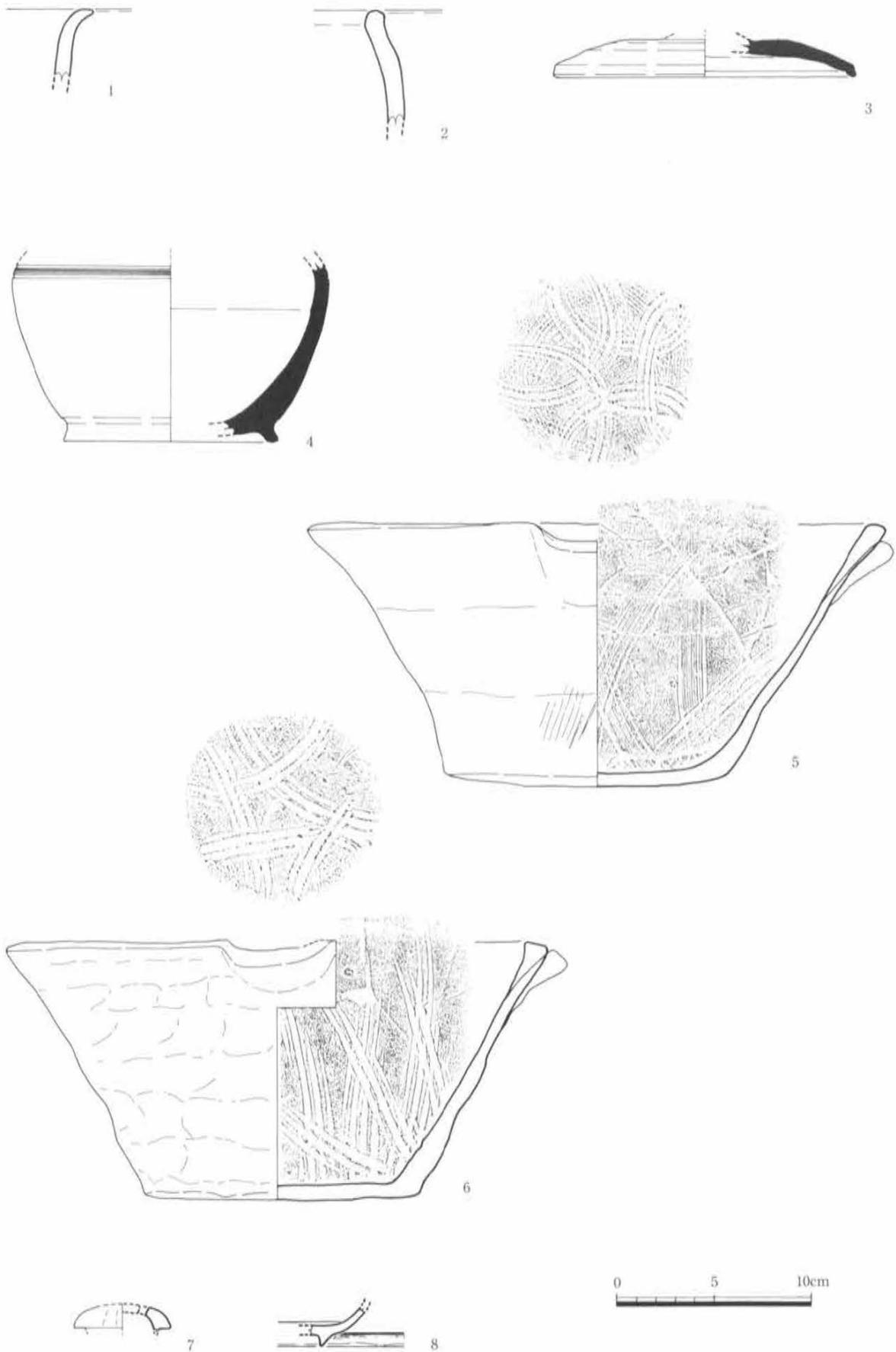


Fig.79 鶴田木屋ノ角遺跡出土遺物実測図 (1/3)

NO.	遺 跡 名	主な検出遺構	主な出土遺物	調査面積	調査年度	備 考
1	鶴田木屋ノ角遺跡 (第1次調査)	古代官道	須恵器・土師器	1,400m ²	平成10年度	「林家」? 墨書土器
2	鶴田牛ヶ池遺跡 (第2次調査)	溝	なし	1,327m ²	平成10年度	
3	鶴田中市ノ塚遺跡 (第1次調査)	古代官道	土師器	2,600m ²	平成5年度	
4	鶴田中市ノ塚遺跡 (第3次調査)	古代官道	土師器	1,000m ²	平成7年度	「□郡為?葛□」「東」墨書土器
5	山ノ井川口遺跡 (第1次調査)	古代官道	須恵器・土師器	1,400m ²	平成10年度	「祝」鏡書土器
6	羽大塚中道遺跡 (第2次調査)	掘立柱建物・ 竪穴式住居	須恵器・土師器	1,400m ²	平成8年度	
7	前津中ノ玉遺跡 (第1次調査)	竪穴式住居・ 掘立柱建物	須恵器・土師器	1,600m ²	昭和60年度	
8	前津中ノ玉遺跡 (第2次調査)	竪穴式住居・ 掘立柱建物	須恵器・土師器	1,383m ²	平成9年度	
9	若菜森坊遺跡 (第1次調査)	竪穴式住居・ 掘立柱建物	須恵器・土師器・ 緑釉陶器	12,000m ²	平成4年度	

Tab.13 筑後市内西海道関連遺跡

型の掘立柱建物が確認され、大量の墨書土器が出土している。大半は「東」の字が書かれているが、須恵器の坏体部に「□郡為葛□」と思われる墨書も確認している。

今回の調査でも墨書土器が1点出土している。この墨書土器は官道の側溝と考えられる遺構から出土した、須恵器の坏蓋である。宝珠つまみをもつタイプである。体部上面の篋削りが施されないところから、8C中頃から後半の年代が与えられると思われる。墨書は、不鮮明ながら「林家」ではないかと思われる。この墨書の示す意味は現状では判然としなが、律令期に「林」姓の存在は知られており、そのあたりがひとつの可能性を示唆しているのではないだろうか。また、「家」は役所等の意味を持つことから、「林」氏が管理する役所的なものの存在を考えることも可能である。いずれにしても現在は推測の域を出ない。

なお、今回の報告にあたり、墨書の判読については太宰府市文化ふれあい館・太宰府市教育委員会・太宰府市市史編纂室の協力を得た。末筆ではあるが、記して謝意を表したい。

註

- 1 木下良 「車路考」藤岡謙二郎退官記念論集 1978

Tab.14 鶴田木屋ノ角・牛ヶ池2次調査遺物観察表

No.	遺構番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備 考	R.No
1	ISD01		土師	壺				口縁部 細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	外反		1
2	ISD01		土師	壺				口縁部 細片	不明	不明	不明			明橙褐色	赤色粒子多	不良	緩く外反		2
3	ISD01	DIV	須恵	坏蓋	15.8			1/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ			淡青灰色	ほぼ精良	ほぼ良	端部にかえりあり	上面に「林家」の墨書あり 転用俵	8
4	ISD01		須恵	壺		11.0		体部 1/4	篋削り 横ナデ	横ナデ	ナデ	横ナデ		淡青灰色	精良 黒色粒子含	良		肩部に沈線とカキ目をめぐらす	3
5	ISK02		瓦質	すり鉢	30.0	14.5	13.7	口縁1/2 欠損	横ナデ	ナデ	ナデ すり目	ナデ すり目	粗い 刷毛目	暗黒褐色	上部精良 底部細砂粒多	やや良	直線的にひらく 口付	すり目は曲線を多用したもの	4
6	ISK03		瓦質	すり鉢	28.0	14.0	13.5	上部2/3 欠損	横ナデ	ナデ	ナデ すり目	ナデ すり目	未調整	暗黒灰色	上部精良 底部細砂粒多	やや良	直線的にひらく 口付	すり目は曲線を多用したもの	5
7	ISK03		白磁	合子	5.0			1/3	施軸	施軸	施軸			乳白色	精良	良好		体部に穿孔有	7
8	ISK03		染付	皿				底部細片		施軸	施軸	施軸	施軸	乳白色	精良	良好		内底見込みの図柄は不明	6

6. 鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査

(1) はじめに

当遺跡は、筑後市大字鶴田字牛ヶ池に所在し、標高11.0m位の中段段丘上にある。調査は、平成10年度に施工された県営ほ場整備事業筑後東部地区12工区内において、遺構が掘削・削平を受ける約420mを実施した。調査期間は平成11年2月17日から同年3月31日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。調査は小林勇作が担当し、高田知恵の協力を得た。

調査の結果、調査区からはピット等を検出し、以下はその成果について報告する。

(2) 検出遺構

ピット群

調査区のはほぼ全面から、円形及び楕円形状のピットが多数確認された。ピットの殆どは黒褐色土の埋土で、深さは10cm未満と浅いものであった。遺構としての可能性は低く、遺構面の凹部に堆積した痕跡、若しくは植物等による根痕と考えられる。遺物はSP1及びSP2から縄文土器片を1点づつ出土している。

(3) 出土遺物

3SP1 (Fig.80)

縄文土器

鉢 (1) 口縁部の細片で、口縁部は大きく外反する。外面には粗大楕円の押型文、内面及び口縁端部には原体による条痕文を施文する。胎土は雲母、角閃石を少量含む。

(4) 小結

調査区からは主要と思われる遺構は確認されず、遺物は縄文土器片を僅かに認めただけである。

本来、調査の成果を記すところであるが、同事業である「鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査」の(4)小結で触れることとしたい。



Fig.80 3SP1出土土器実測図 (1/3)



Fig.81 鶴田牛ヶ池遺跡 (第3次調査) 遺構全体実測図 (1/300)

7. 鶴田牛ヶ池遺跡第4次調査

(1) はじめに

当遺跡は、筑后市大字鶴田字牛ヶ池に所在し、標高11~12m位の中位段丘上にある。調査は、平成10年度に施工された県営ほ場整備事業筑後東部地区12工区内において、遺構が掘削・削平を受ける2,791㎡を実施した。調査期間は平成11年2月17日から同年3月31日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影等を行った。なお、遺構全体実測図は(株)写測エンジニアリング、空中写真は(有)写真企画に委託した。調査は小林勇作が担当し、高田知恵の協力を得た。

調査の結果、調査区からは竪穴式住居、甕棺墓、溝、土壙等を検出し、以下はその成果について報告する。

(2) 検出遺構

竪穴式住居

4SI20

調査区のほぼ中央の南部で確認した。住居の南西側は現代のカクランを受けており、平面プランは不明であるが、隅丸形状を呈するものと思われる。北東壁長は3.70mを測り、深さは0.10mと遺存状態が非常に悪いものであった。床面上までの埋土は黒色土が堆積し、住居の底部には黒色土と茶色土の混合土(やや締まった埋土)で貼床を施していた。住居の方位はN-52°-Wを示す。住居内からは南東部と北西部の壁に近い部分から2基の屋内土壙を検出した。南東部の屋内土壙は楕円形状の平面プランを呈し、深さは床面から0.36mを測る。出土遺物はない。一方、北西部の屋内土壙は隅丸形状の平面プランを呈し、土壙内からは土師器(甕)が出土した。土師器(甕)は土壙の中位から出土し、上層部は黒色土、下層部は淡茶灰色粘土が堆積していた。深さは床面から0.46mを測る。

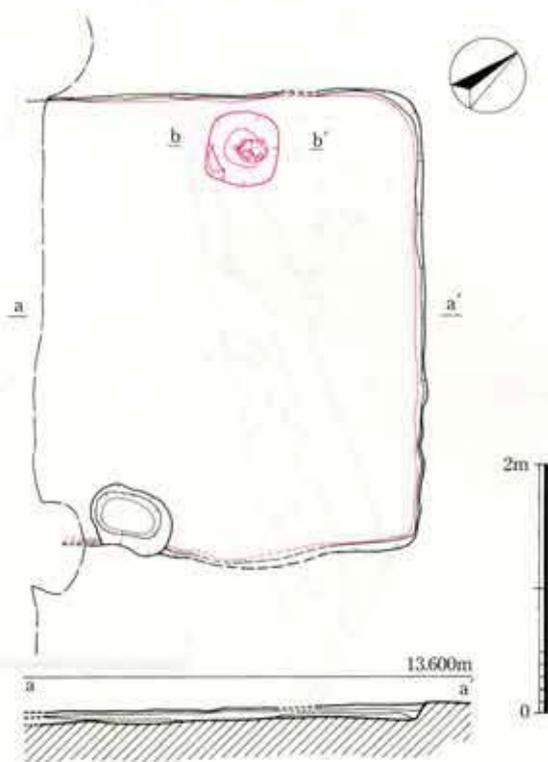


Fig.82 4SI20実測図 (1/40)

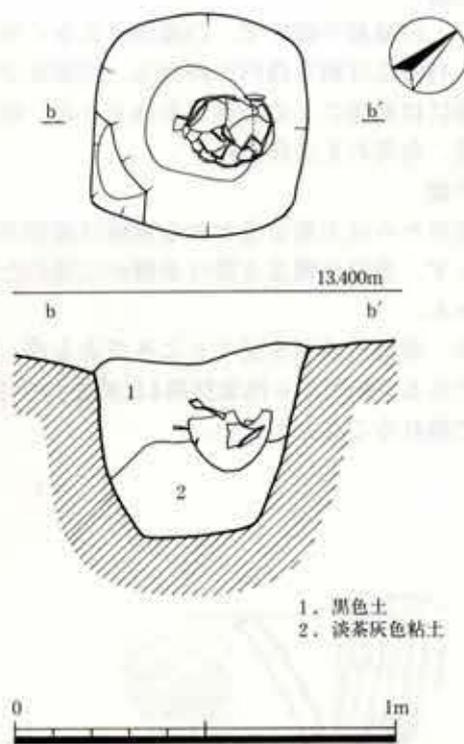


Fig.83 4SI20屋内土壙実測図 (1/20)



Fig.84 鶴田牛ヶ池遺跡遺構全体実測図 (1/300)

甕棺墓

4ST10

調査区の北東部で検出した。遺構は現代のカクランを著しく受けており、検出時においては平面プランを確認することができなかった。しかし、カクラン土を徐々に除去していくと甕が上位からの圧力によって押しつぶされたかのような状態で確認され、平面プランを抑えることができた。接口式の成人棺と思われ、口縁の合わせ口には灰色粘土の目張りを施している。甕棺の主軸はN-83°-Eを示し、埋置角度は+2°30′である。甕棺内からの出土遺物はなかった。

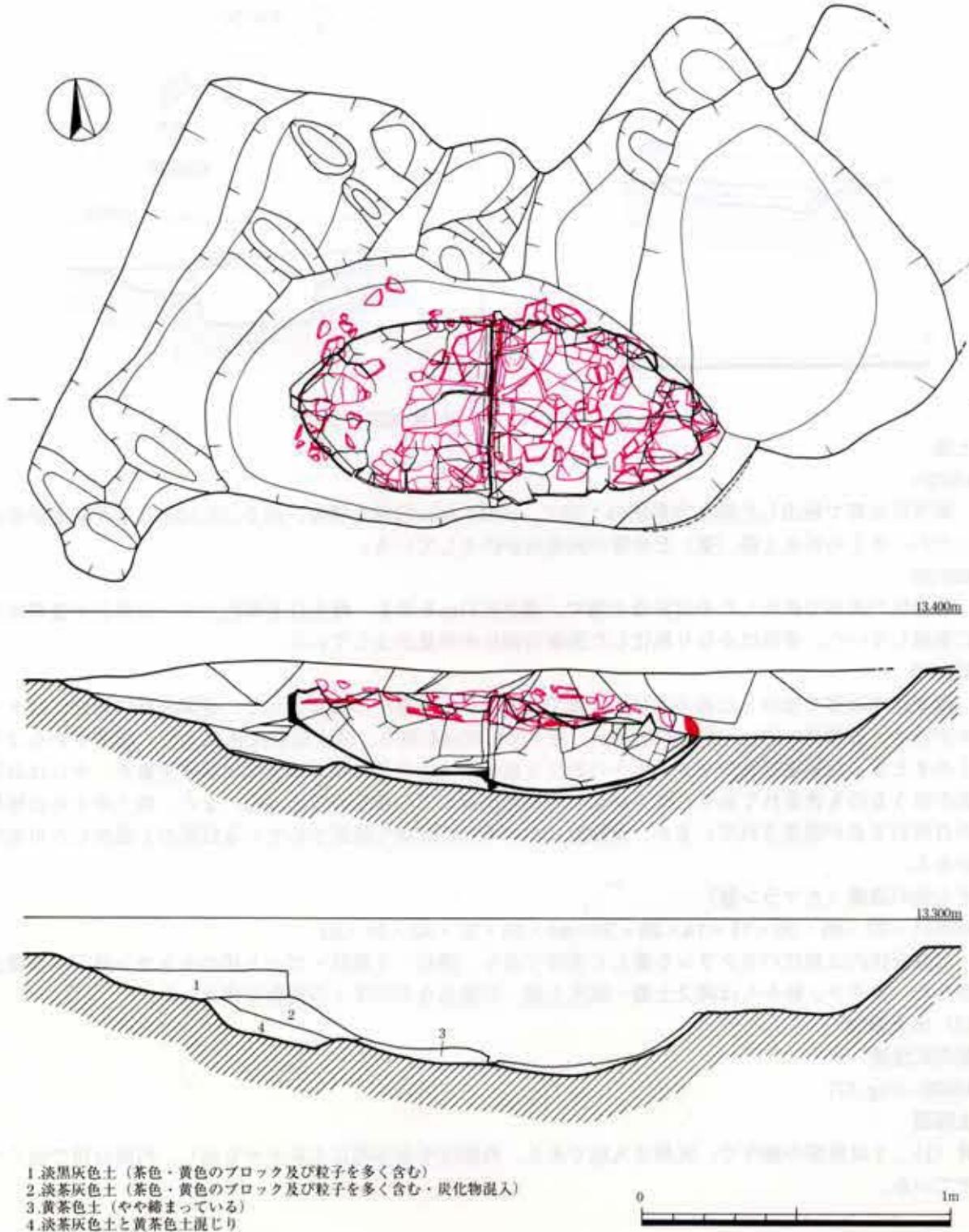


Fig.85 4ST10実測図 (1/20)

4SK21

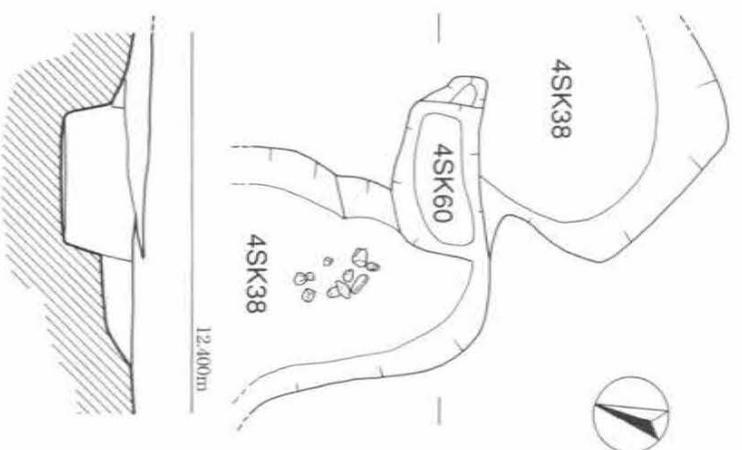
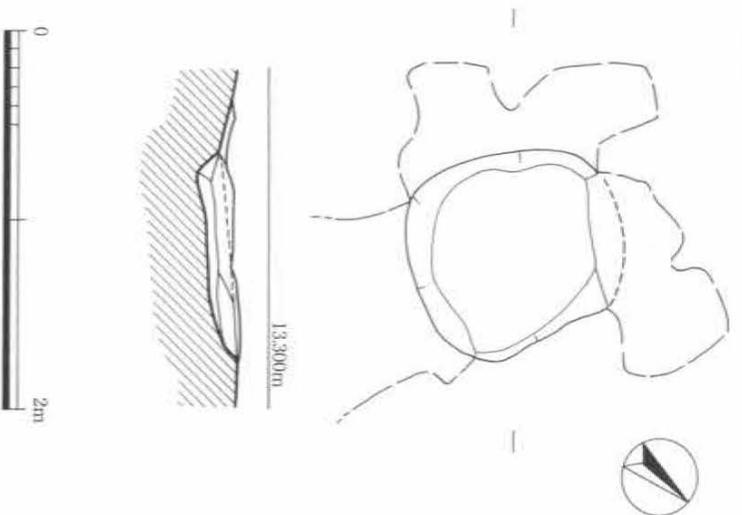


Fig. 86 4SK21・38・60実測図 (1/40)

土壌

4SK21

調査区北部で検出した隅丸方形形状の土壌で、径は1.00m前後を測る。深さは0.15mと遺存状態が悪かったが、多くの弥生土器（甕）と少量の河原石が出土している。

4SK38

調査区の西部で検出した不定形な土壌で、深さ0.11mを測る。埋土は茶褐色土で、自然石が遺構底部に集積していた。遺物はかなり風化した黒曜石剥片が多量出土している。

4SK60

調査区の西部で検出した長方形形状の土壌で、4SK38の下端から確認された。遺構内部の西側にはテラスがあり、長軸は0.95m、短軸は0.46m、深さは0.37mを測る。埋土は淡灰色粘土で、埋土中からは多くのまとまった黒曜石及びササカイトの剥片を認めた。出土した剥片は全部で30点を数え、中には剥離面の合うものも含まれており、全てかなりの風化が進んでいるものであった。また、埋土中からは棒状の自然石2点が確認されているが、遺物取り上げ時に4SK38で確認されている自然石と混在した可能性がある。

その他の遺構（カクラン跡）

4SX01・02・05・06・11・14・26・32～34・36・37・42・51・53

当調査区内は現代のカクランを著しく受けており、溝状・土壇状・ピット状のカクラン跡が多数確認された。カクラン跡からは縄文土器・弥生土器・石製品などの多くの遺物が出土した。

(3) 出土遺物

竪穴式住居

4S120 (Fig.87)

土師器

鉢 (1) 1は底部の細片で、底部は丸底である。外面は不定方向に工具ナデを施し、内面は指で強くナデている。

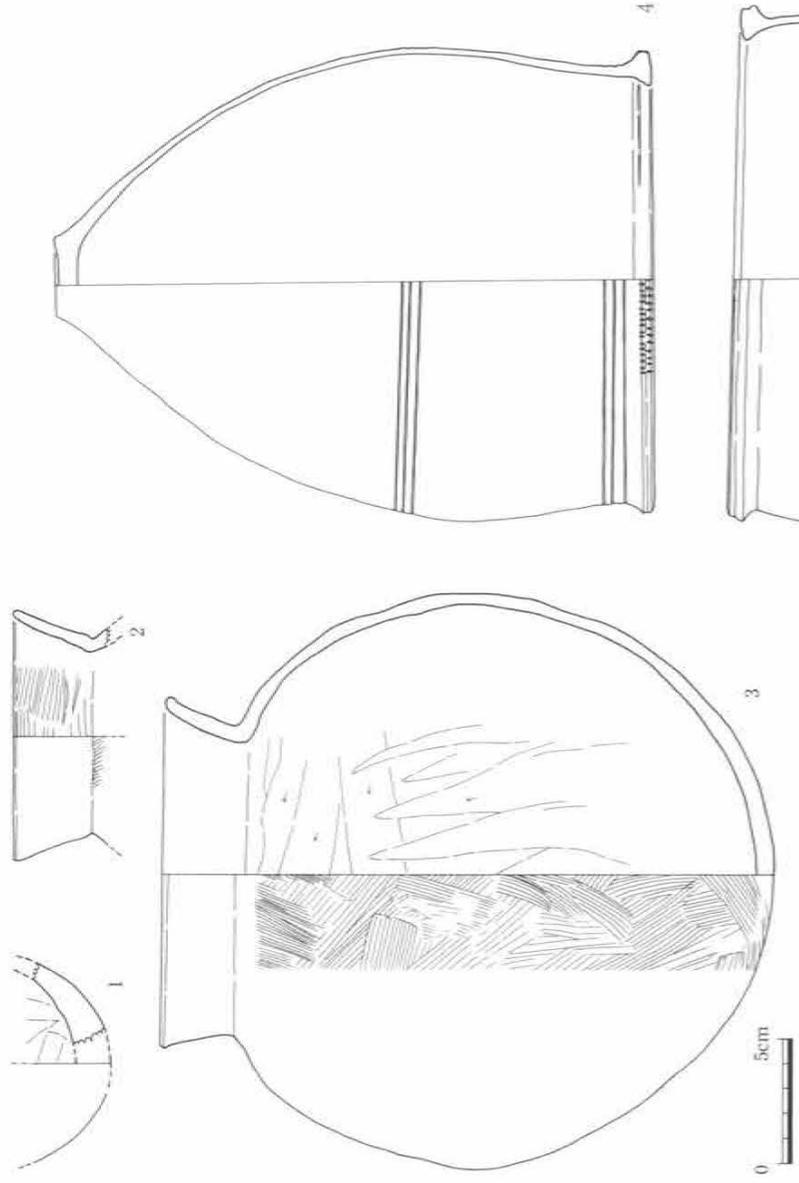


Fig.87 4SI20出土土器実測図 (1/3)

甕 (2・3) 2は「く」字形口縁甕の口縁部細片で、口径10.0cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、口縁部内面及び体部外面は刷毛目の調整を施す。3は屋内土壙から出土した土器で、「く」字形口縁甕のほぼ完形品である。体部が張るタイプで、口径13.9cm、器高24.7cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部及び底部の内面はヘラケズリ、底部外面はナデの調整を施す。甕の体部内面下位から底部にかけて、更に体部外面中位から口縁部にかけては、煤が厚く付着しているのが看取される。

甕棺臺

4ST10

弥生土器

上甕 (4) ほぼ完形品で口径は48.5cm、底径

は8.6cm、器高は63.5cm、器壁は8mm前後を測る。

口縁部に粘土帯を貼り付けたもので、口縁部外面には1条の沈線と沈線上位及び下位にはランダムに刻み目を施している。また、口縁部外面のすぐ下位と体部外面のほぼ中位には3条の沈線を施す。内外面ともナデ調整を行っている。

下甕 (5) ほぼ完形品で、口径54.0cm、底径9.7cm、器高75.0cm、器壁8mm前後を測る。口縁部に粘土帯を貼り付けたもので、口縁部外面には1条の沈線を施す。体部外面のほぼ中位には断面が三角形の貼付突帯を施し、外面は工具によるナデ、内面はヘラミガキの調整を行っている。

Fig.88 4ST10出土土器実測図 (1/8)

土壙

4SK21

弥生土器

甕 (6~9) 6は口縁部に断面が三角状の貼付け突帯を施した甕で、口径は22.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。胎土は1~2mm程度の砂粒を多く含む。7は口縁部に断面が三角状の貼付け突帯を施した甕で、口径は24.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目の後浅い沈線を施し、体部内面はナデの調整である。胎土は1mm程度の砂粒を含む。8は底部の破片で、底径7.5cmを測る。底部は厚く、やや「ハ」字形状に開き、底面の窪みは浅い。9は底部のみの細片で、底径は6.2cmを測る。底部は厚く、底面の窪みはやや浅い。

4SK60

石器

使用剥片 (25) 石材は黒曜石製で、縦長の剥片を利用している。ポジティブな裏面右側部には自然面を残しており、表面の右縁を使用しているものと思われる。

その他の出土遺物 (カクラン跡及び表採)

4SX01・02・05・06・11・14・26・32~34・36・37・42・51・53、表採

前項の(2) 検出遺構でも述べたが、当調査区内は著しく現代のカクランを受けた跡が確認され、カクラン跡からは多くの遺物が出土した。ここでは、カクラン跡及び表採から出土した遺物の中で図示できるものについて報告する。

縄文土器

深鉢 (10~18) 10~15は楕円押型文土器の細片である。10は外面及び内面上位に同一原体による小さな楕円文を横走施文し、内面下位はナデ調整を施す。11・12は外面及び内面上位に同一原体による粗大楕円文を施文し、内面下位はナデ調整を施す。施文の方向は不明である。11の外面には煤が付着している。13~15は外面及び内面上位に同一原体による粗大押型文を施文し、内面はナデ調整を施す。施文の方向は不明である。16は山形押型文土器の口縁部細片で、口縁部外面には原体による条痕文、口縁部外面下位及び体部内面には同一原体による山形文を施文する。体部外面及び口縁部はナデの調整を施し、口径は26.0cmを復原する。17・18は外面に微隆起線文を施文した細片で、内面はナデの調整である。18の外面には煤が付着している。10は4SX02、11は4SX42、12は4SX11、13は4SX01、14は4SX26、15は4SX51、16は表採、17は4SX14、18は4SX05の出土である。

弥生土器

鉢 (19) 4SX37から出土した口縁部の細片である。

甕 (20~23) 20・21は口縁端部に突帯を貼り付けたもので、21は4SX14、22は4SX36から出土した口縁部の細片である。23は4SX36、24は4SX53から出土した底部の細片で、共に底部外面に窪みを呈するタイプである。底径は23が6.6cm、24が6.2cmを測る。

土師器

高坏 (24) 脚部の細片で、脚部底径は12.0cmを復原する。4SX53から出土した。

石器

ナイフ形石器 (26) 4SX06から出土した。石材はサヌカイト製で、表面の左上辺には細かく刃部を作り出している。表面の右上辺及び左下辺に細かく平坦面の整形加工を施す。

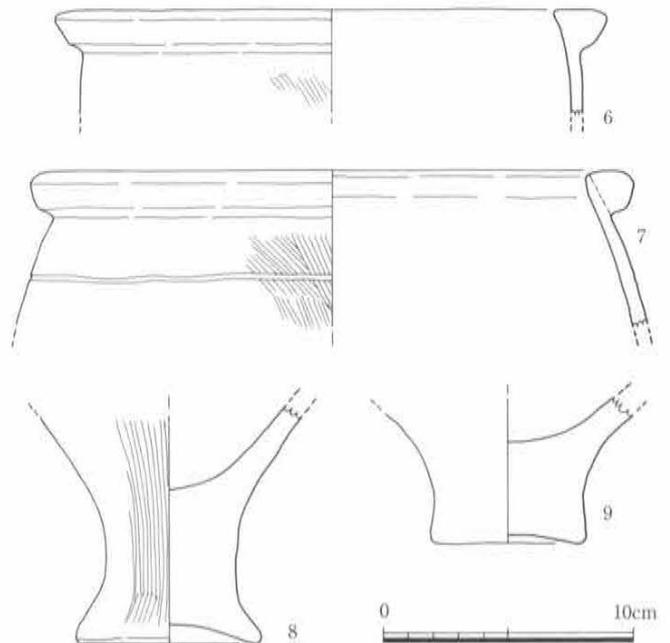


Fig.89 4SK21出土土器実測図 (1/3)

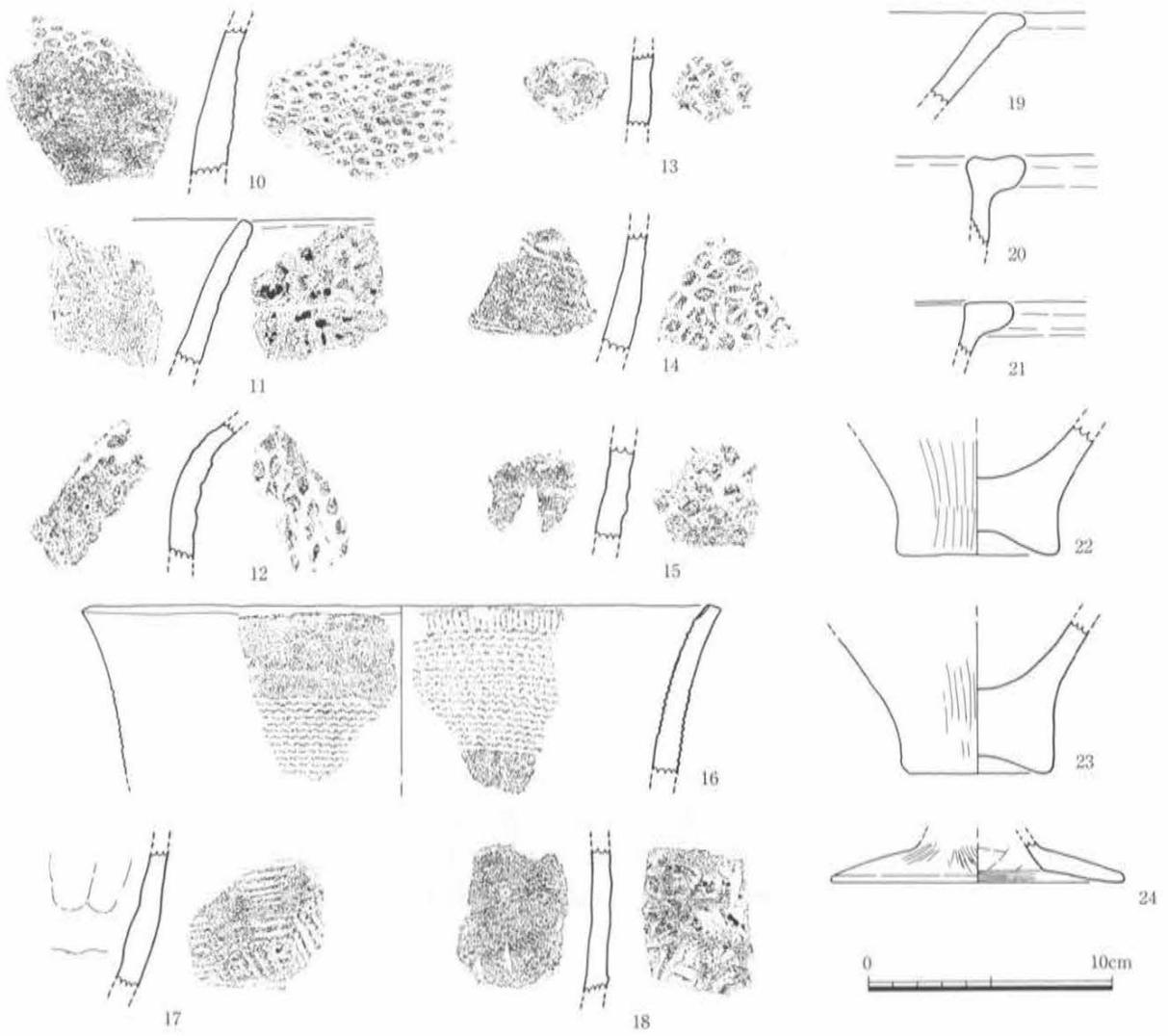


Fig.90 その他の出土土器実測図 (1/3)

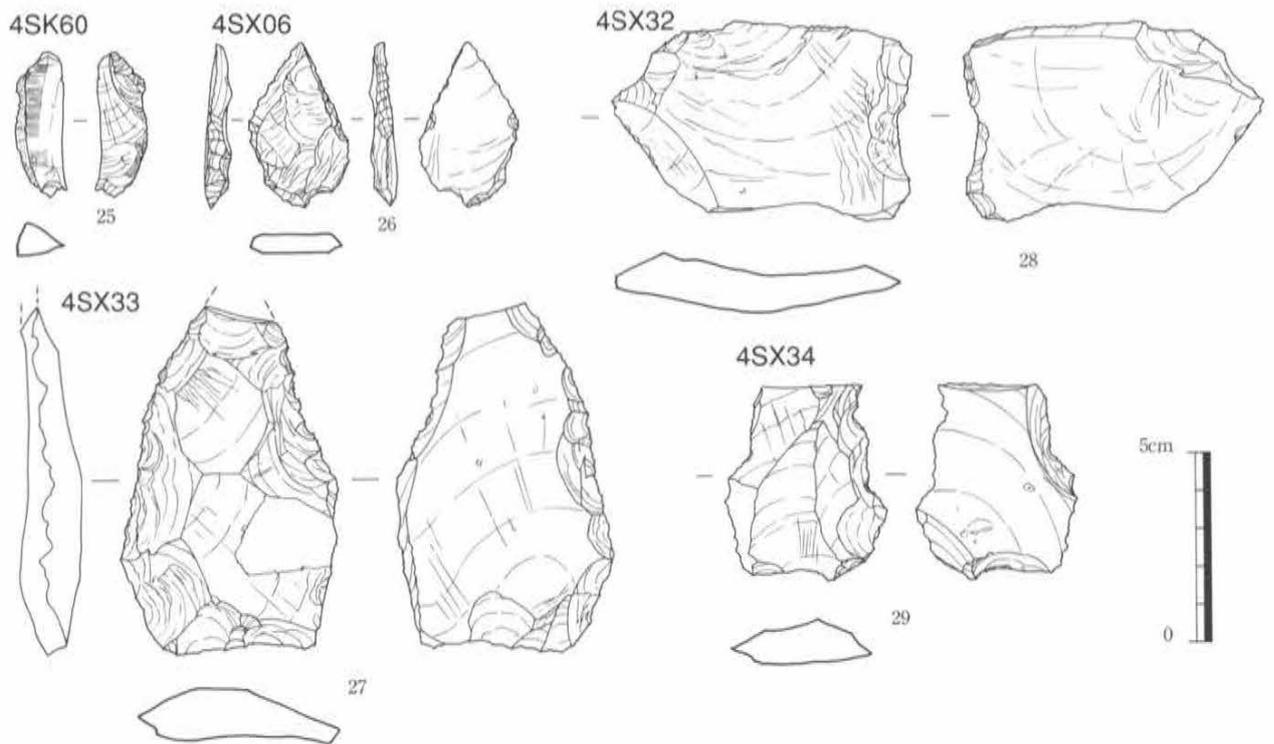


Fig.91 石器実測図 (1/2)

石槍 (27) 4SX33から出土した。石材はサヌカイト製で、尖頭部を欠損する。角礫ないしは重角礫から剥離された剥片を素材としたものと思われ、表面のほぼ全体には調整加工を施し、表面左縁には刃部を作り出している。制作途中の未製品と思われ、裏面には大剥離面を大きく残す。

二次加工石器 (28・29) 共にサヌカイトを石材とし、風化が進んでいる。28は五角形状の剥片を素材とした石器で、表面左下辺に若干の二次加工を施し、刃部を作り出している。4SX32からの出土である。29は縦長形状の剥片を素材とし、裏面左下辺に打面を残す。裏面下縁に若干の二次加工を施し、刃部を作り出す。4SX34から出土した。

(4) 小結

当調査区からは旧石器～古墳時代にかけての遺構や遺物が確認された。

ここでは、当調査区南側に位置する「鶴田牛ヶ池遺跡第3次調査」の成果とあわせて各時代について概観することとする。(遺構番号の頭に記載している番号は次数を示す。)

旧石器時代

市内で確認されている旧石器は、蔵敷遺跡G地点(大字蔵敷数字坂口)で出土した角錐状石器、鶴田東大坪遺跡第1次調査(大字鶴田字東大坪)から出土したナイフ形石器の僅か2点である。何れも明確な遺構や包含層からの出土ではなく、周辺地域においても市ノ上北屋敷遺跡(久留米市)、大草平遺跡(星野村)などで僅かに例があるにすぎない。

さて、今回出土した旧石器は、4SK60から多量に出土した黒曜石及びサヌカイトの剥片と使用剥片(25)、4SX06から出土したナイフ形石器(26)、4SX34から出土した二次加工石器(29)で、先述した例に次ぐものとなった。4SX06及び4SX34の旧石器はカクラン跡からの出土であるが、注目されるのは、4SK60出土の旧石器は淡灰色粘土中から出土しており、仮にこの地区における旧石器包含層が「淡灰色粘土層」だったとすると、今後旧石器の発見において有力な手がかりとなることであろう。

旧石器は、現時点ではほんの数例に止まっているが、整理作業が進むにつれて今後更に増加していくことであろう。

縄文時代

今回確認された縄文時代の遺構は3次・4次共に確認されておらず、出土した遺物は全てカクラン跡から出土したものである。出土遺物をみていくと、石器では楕円型文土器・山形押型文土器・条痕文土器があり、既知の編年からは早水台式と田村式を含むもので、早期後半期の良好な資料となった。また、石器では4SX33出土の石槍(27)、4SX32出土の二次加工石器(28)があり、石器と同様の時期が与えられるものと考えられる。

弥生時代

この時期における遺構は、甕棺墓である4ST10と土塚である4SK21である。

甕棺墓は1基のみの検出に止まり、甕棺内からの出土遺物はない。出土した甕棺は上甕、下甕共に橋口氏の編年によるKⅡa式に相当し、中期前半頃と考えられる。また、4SK21から出土している甕からも当該期に比定されよう。

古墳時代

当該期の遺構は竪穴式住居4SI20の1軒がある。

住居の南西側は残念ながら現代のカクランにあり、全体プランを確認することができなかったが、一辺4m位の隅丸方形形状の住居であったものと想定される。支柱穴並びに壁体溝は設けておらず、カマドは検出されていない。また、住居内からは2基の屋内土壇を確認しており、内1基からは時期を比定できる良好な資料を認めている。時期は4C後半～5C前半頃が考えられよう。

【参考文献】

- 富永直樹 「筑後市史 第一巻」筑後市史編纂委員会 1997
- 柴田 剛 「筑後東部地区遺跡群Ⅲ」筑後市教育委員会 2000
- 山崎純男 「日本土器事典」雄山閣 1996
- 橋口達也 「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告31 中巻」福岡県教育委員会 1979

IV. まとめ



Fig.92 筑後東部地区遺跡群 平成10年度鶴田地区調査分布図 (1/2500)

平成10年度に行った東部地区遺跡群発掘調査で鶴田牛ヶ池地域では旧石器時代から近世まで幅広い時期の調査を行っている。

旧石器時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑥からナイフ型石器等、市内では2例のみであった旧石器遺物を出土することとなり、今後筑後市内での旧石器時代遺跡調査の手がかりとなる資料である。

縄文時代

鶴田東牛ヶ池遺跡1・2次調査①・②、鶴田牛ヶ池遺跡3次・4次調査⑤・⑥から縄文早期の土器を出土している。調査地は低地である市南部の中でも比較的標高の高い11m前後の台地上に形成される。市内の縄文早期の遺跡も市南部に集中するが、その殆どは標高8m～9mの低地に展開しており、関連が注目される。

弥生時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑥で中期前半の甕棺墓を検出している。しかし、調査区からは1基しか検出されておらず、周辺での試掘調査でも確認されておらず、当該期の墓域には問題が残った。

鶴田西牛ヶ池遺跡③からは、後期の竪穴住居等の良好な資料を得られた。今後、周辺遺跡の出土例と比較検討が課題である。

古墳時代

鶴田牛ヶ池遺跡4次調査⑥では4世紀後半から5世紀前半の竪穴住居を検出している。周辺には当該期の集落は単独で検出される例が多数を占め、今回の調査地は削平は受けているが同様である。また、鶴田東牛ヶ池遺跡2次調査②でも竪穴住居を検出している。

歴史時代

鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡2次④で推定官道跡の確認調査を行っている。しかし、調査地は東西が台地上になり谷部での検出例であるが、確認のみの為、路面構造の成果は同年調査している山ノ井川口遺跡に委ねる。しかし、溝出土の土器の中に須恵器の墨書土器を出土していることは重要な点である。

近世・近代・現代

鶴田西牛ヶ池遺跡③での出土遺物は豊富である。時期的には18世紀後半が中心になり幕末までの遺物が出土している。

以上が鶴田牛ヶ池地区周辺の調査実績を概略でまとめた。今後、これらの資料を生かすべく、新たな調査事例や調査実績の再検討、資料調査等の成果を期待するところである。

筑後東部地区遺跡群では平成5年度から県営ほ場整備事業として発掘調査を実施してきた。平成10年度までに40遺跡の調査を行い、数多くの成果を挙げてきた。しかし、「遺跡保存」の名の下に地権者や事業主には多大なご協力とご理解を頂いたことは感謝の意に堪えない。また、調査された遺跡によって筑後市の歴史を紐解く資料が蓄積され、その資料が文化財の保護、活用の材料となれば幸いである。

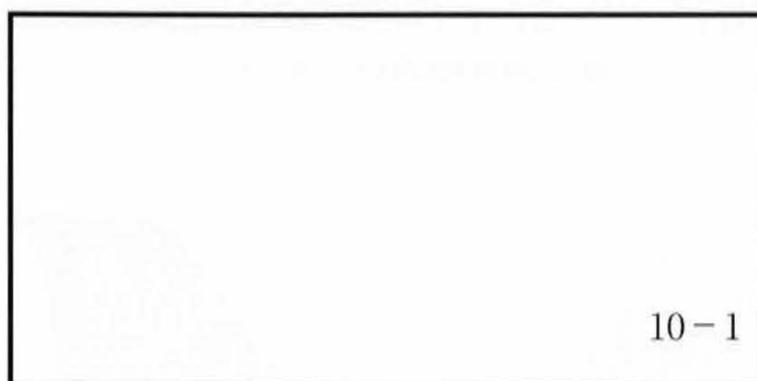
参考文献

- 註1.『筑後市史 第1巻』筑後市史編纂委員会 1997
- 註2.『筑後西部第2地区遺跡群(Ⅲ)』筑後市教育委員会 2000
- 註3.『筑後東部地区遺跡群Ⅲ』筑後市教育委員会 2000

P L A T E

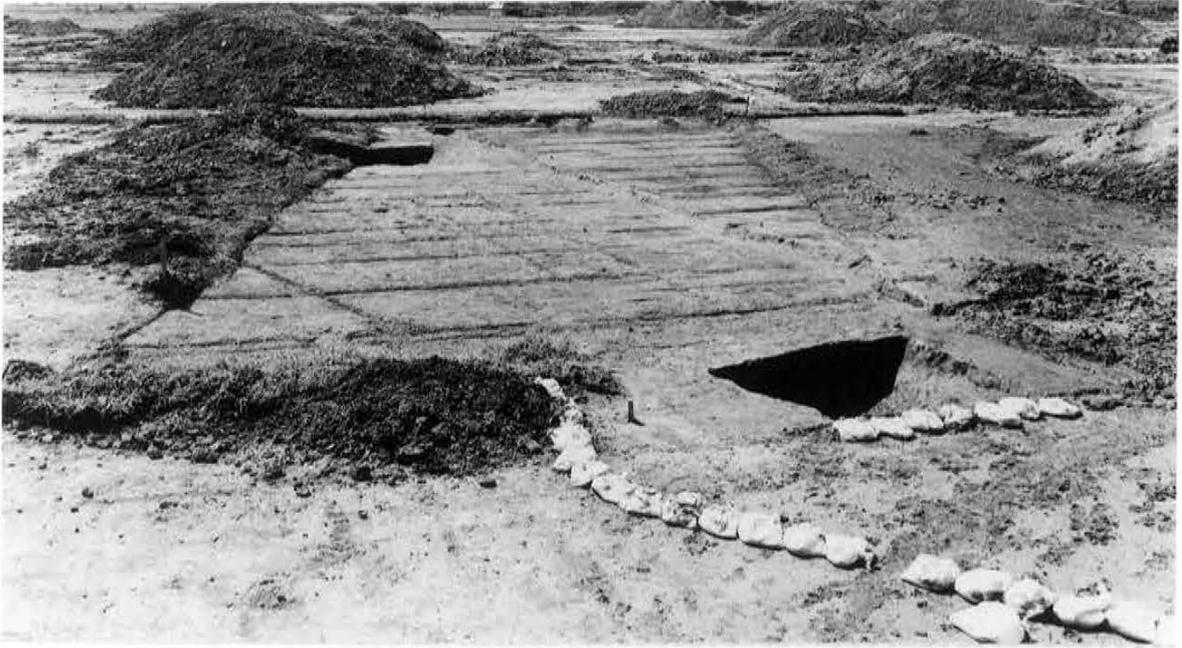
凡例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。

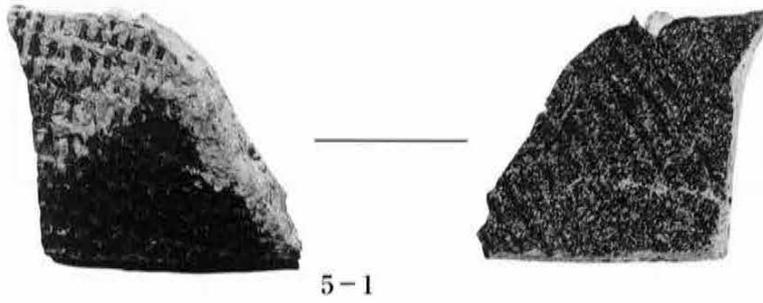


Fig番号

遺物番号



溝口北新替遺跡調査区全景（東から）



5-1



5-2

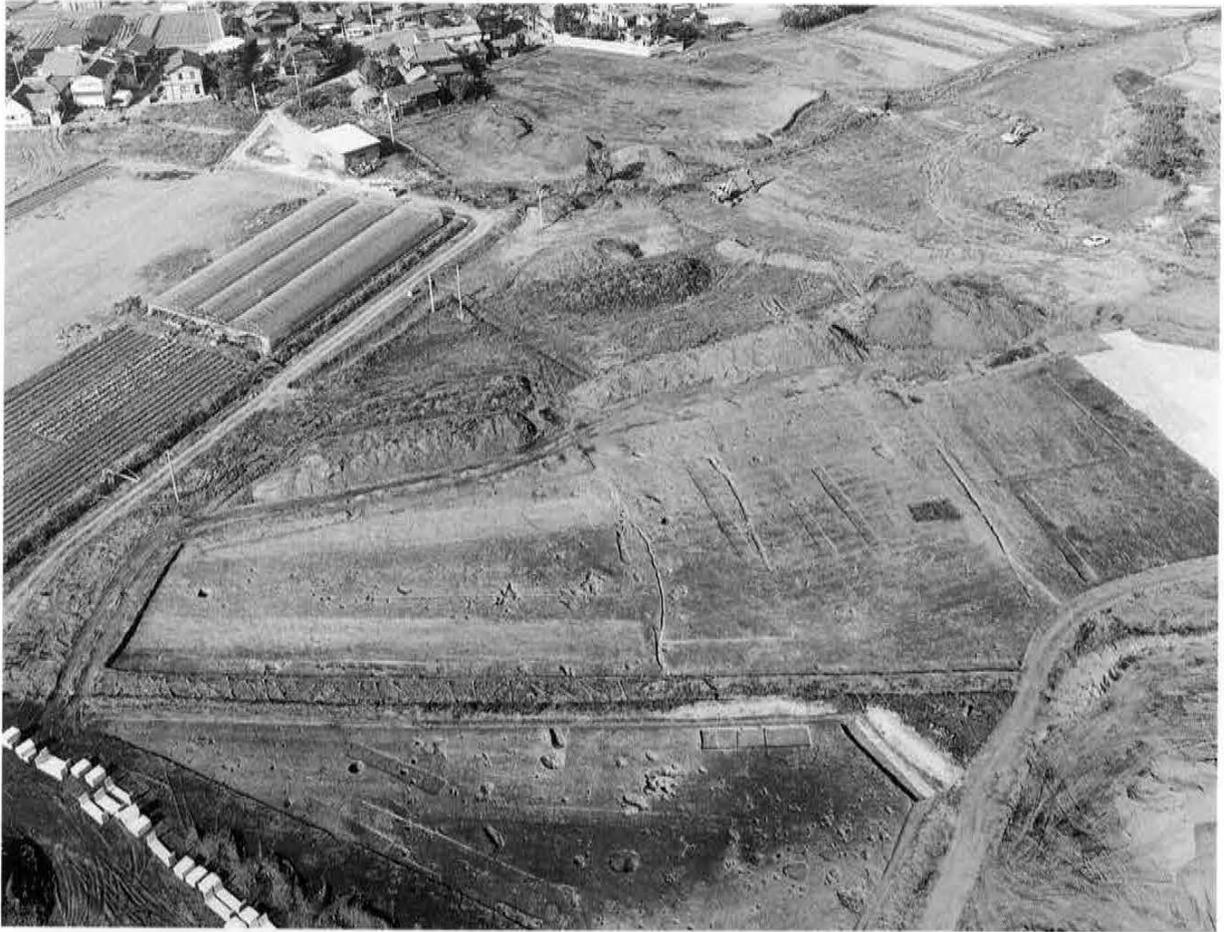
溝口北新替遺跡出土遺物



鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査全景（真上から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査 SK001土層断面（南から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査全景（東から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査全景（真上から）



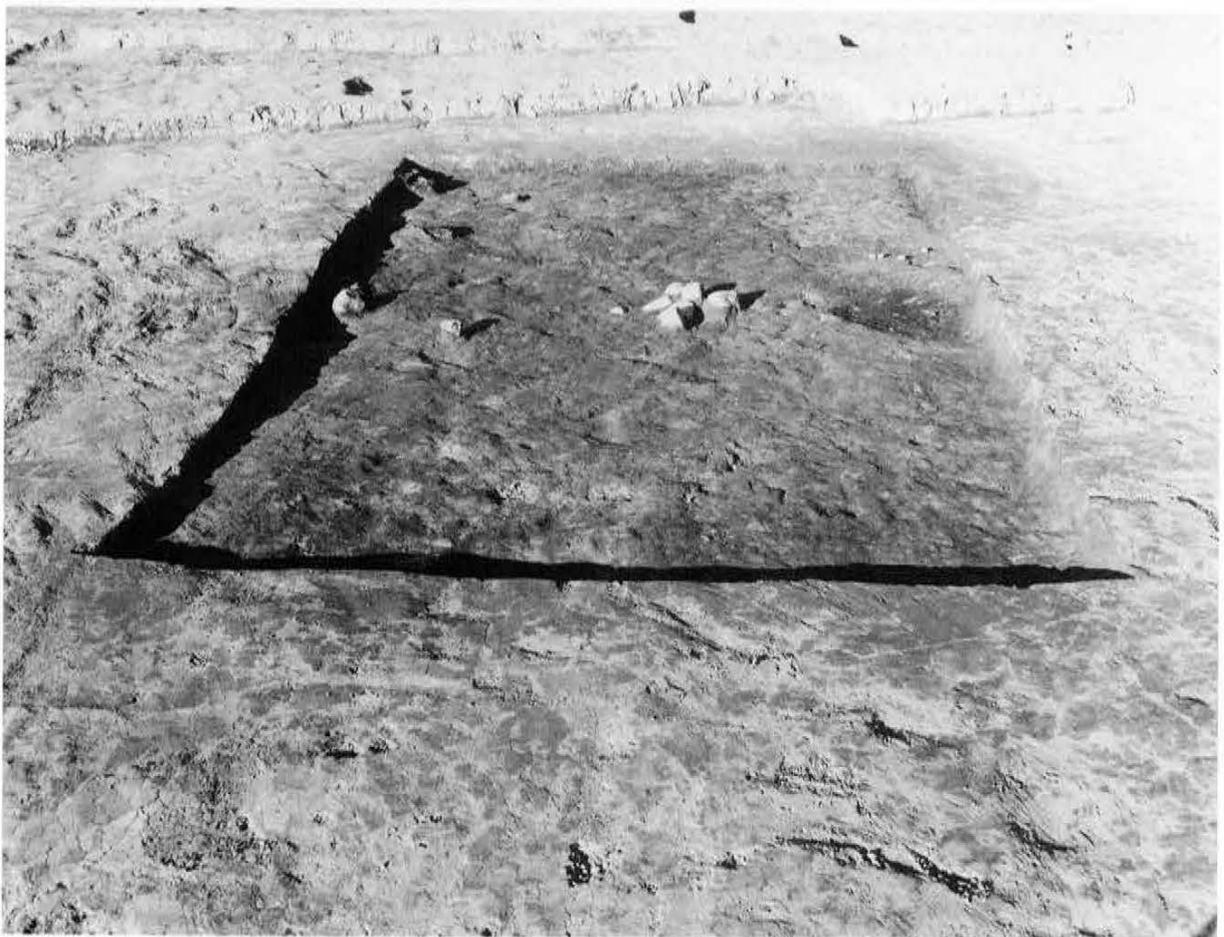
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SK005 (南西から)



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SK005完掘状況 (南西から)



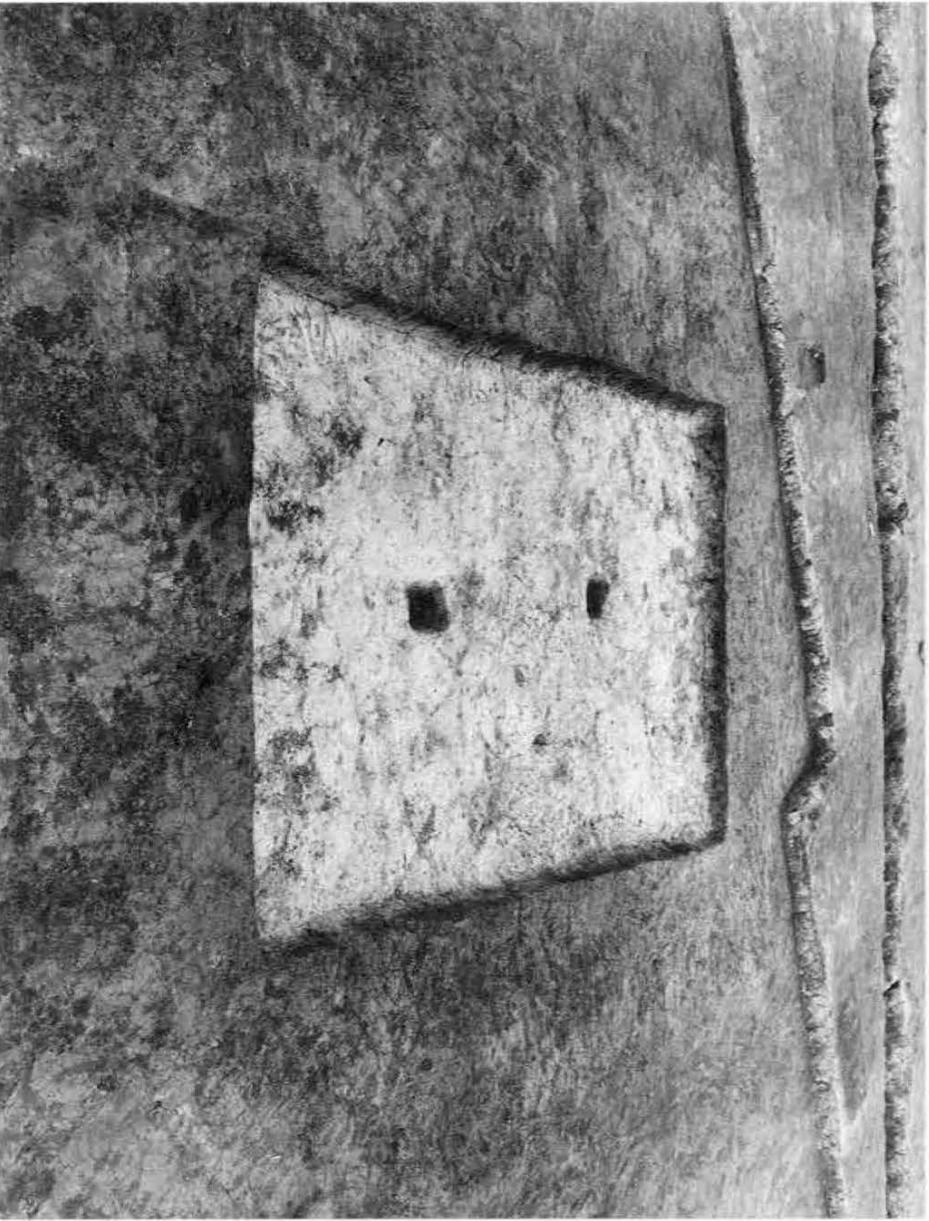
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SI010検出状況（南から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 SI010床面検出状況（南から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 S1010住居内土壇（西から）



鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査 S1010完掘状況（南から）



鶴田西牛ヶ池遺跡調査前全景（南東から）



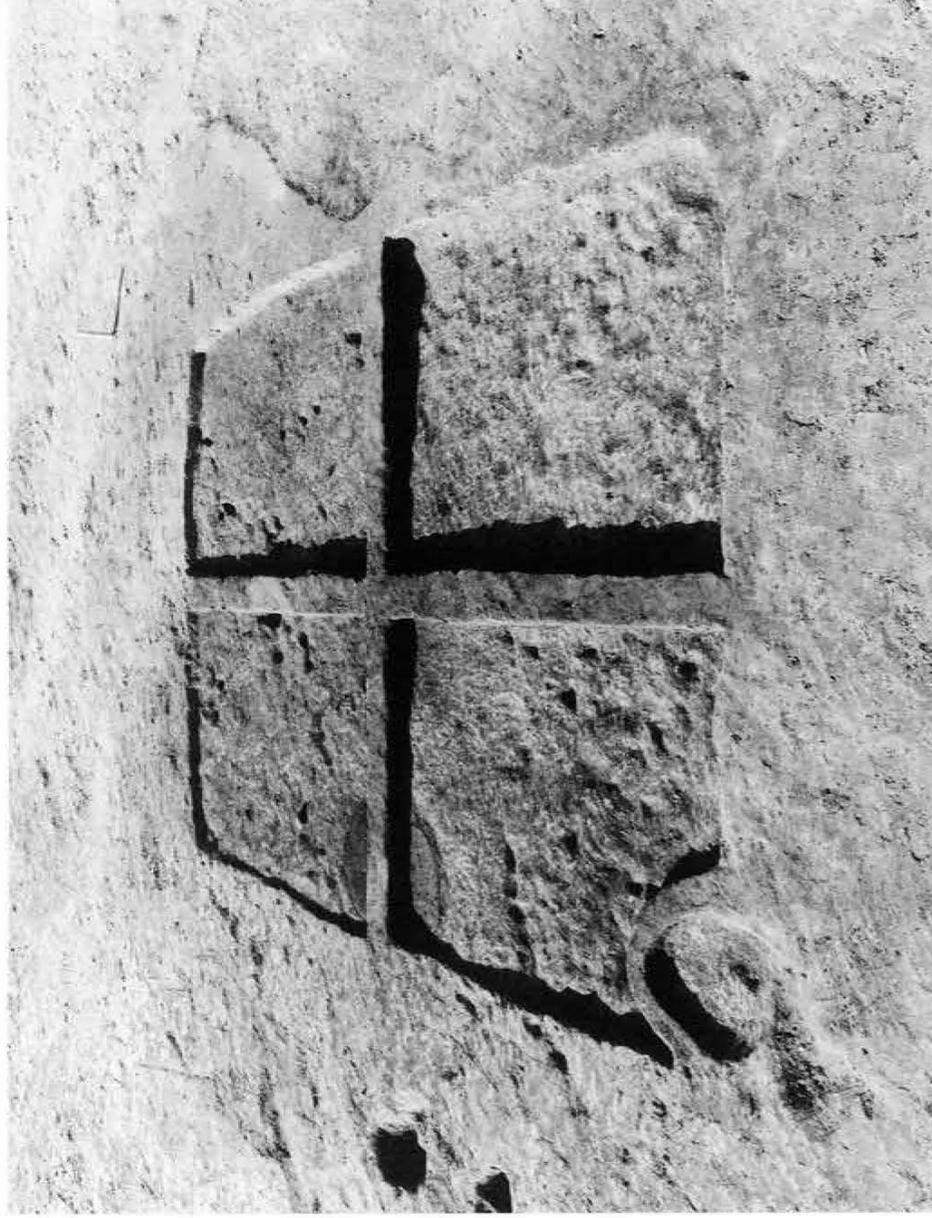
鶴田西牛ヶ池遺跡全景（真上から）



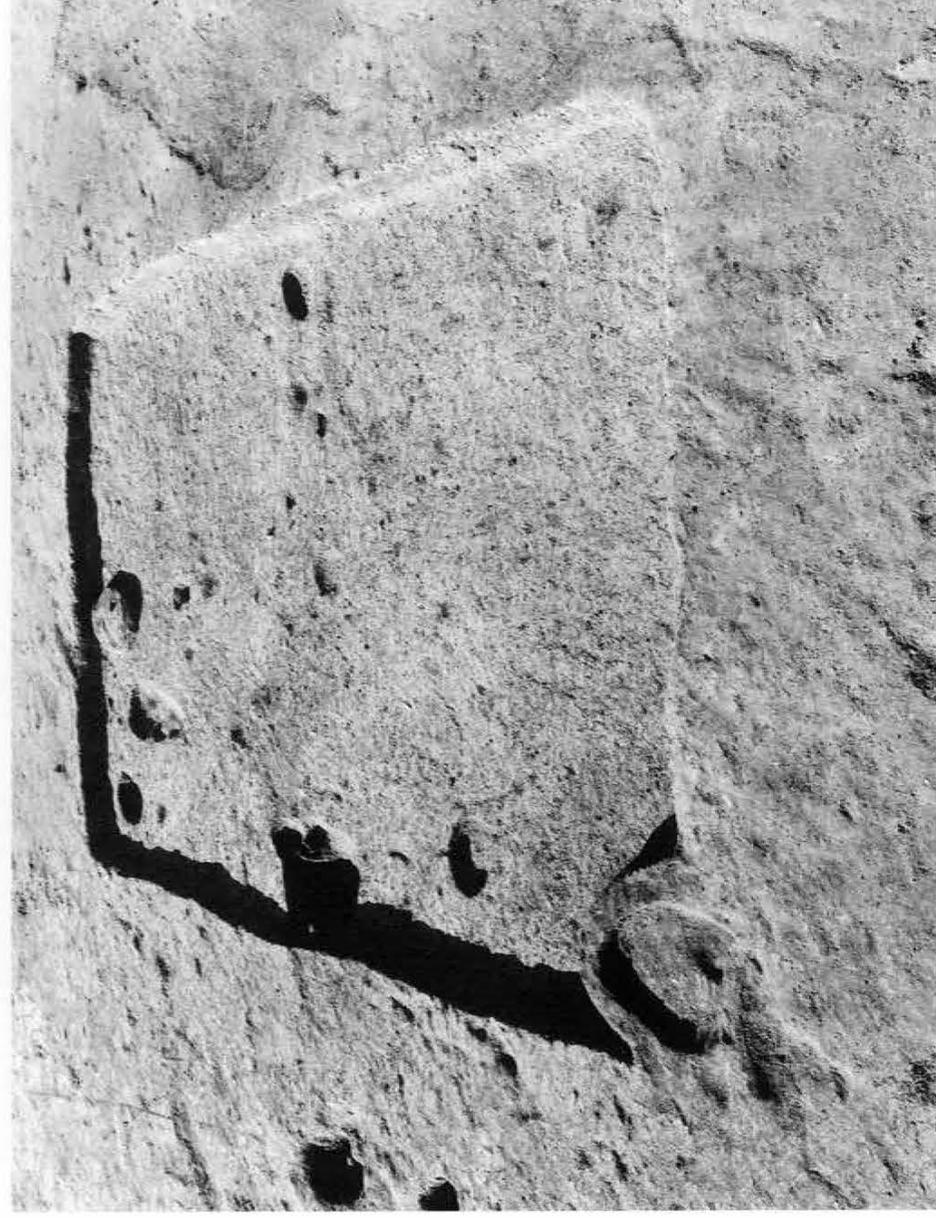
住居群完掘状況（真上から）



掘立柱建物群完掘状況（真上から）



SI001床面検出状況（東から）

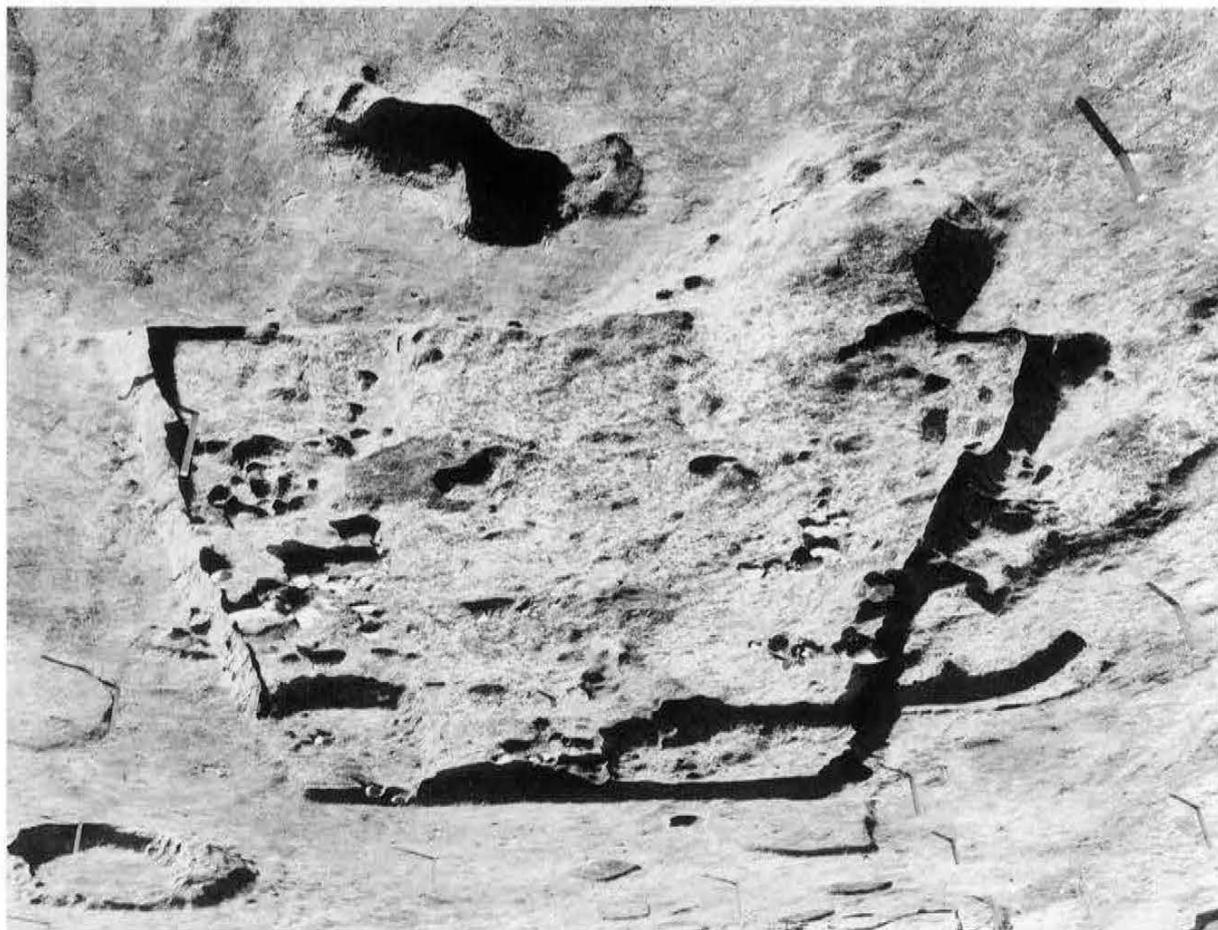


SI001完掘状況（東から）

SI010床面検出状況 (北から)



SI010床面・土器検出状況 (東から)





SI010土製支脚出土状況（北から）



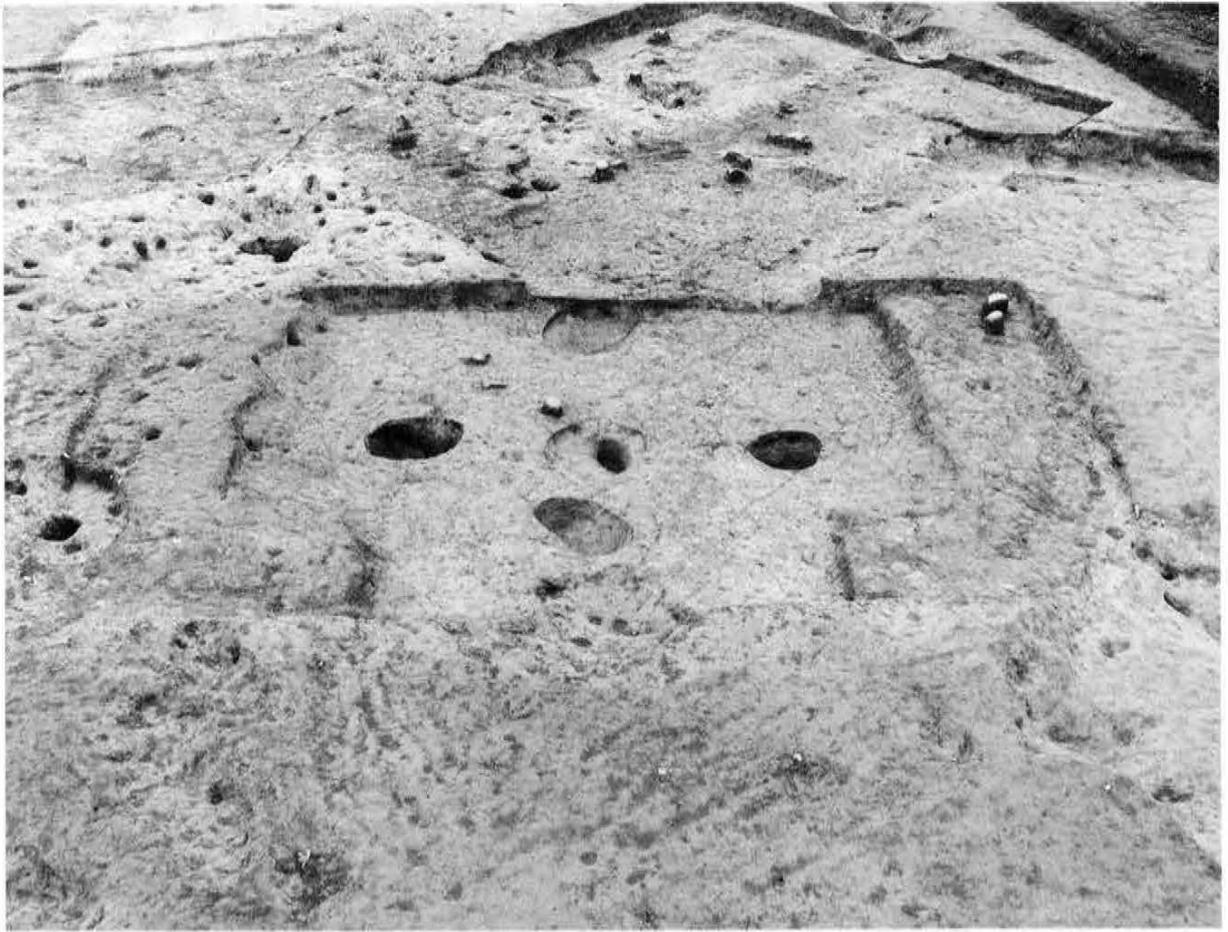
SI010土器出土状況（北から）



SI010住居内土壌土層断面（北から）



SI010住居内土壌完掘状況（北から）



SI025床面検出状況（北から）



SI025完掘状況（北から）



SI030完掘状況（北から）



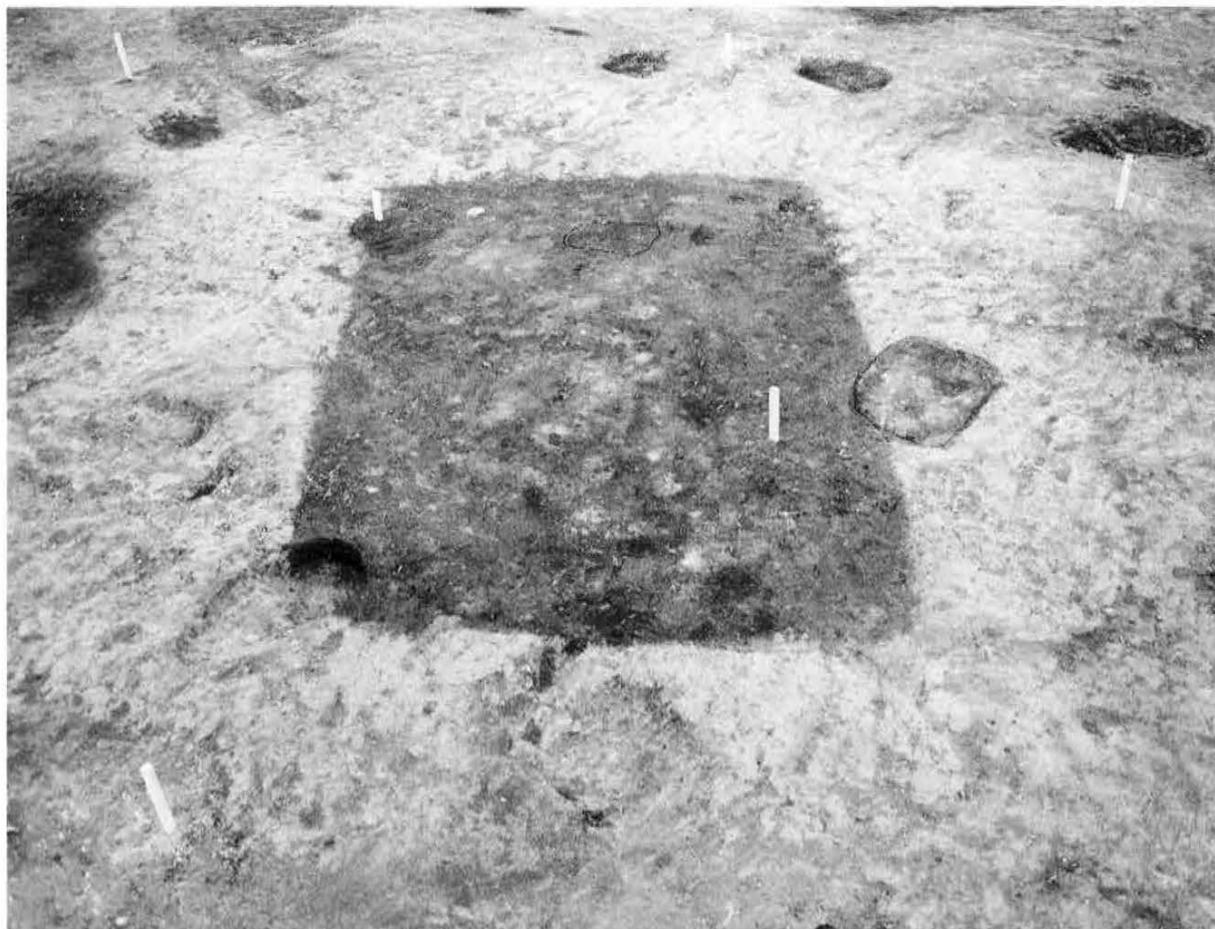
SI030柱穴完掘状況（北から）



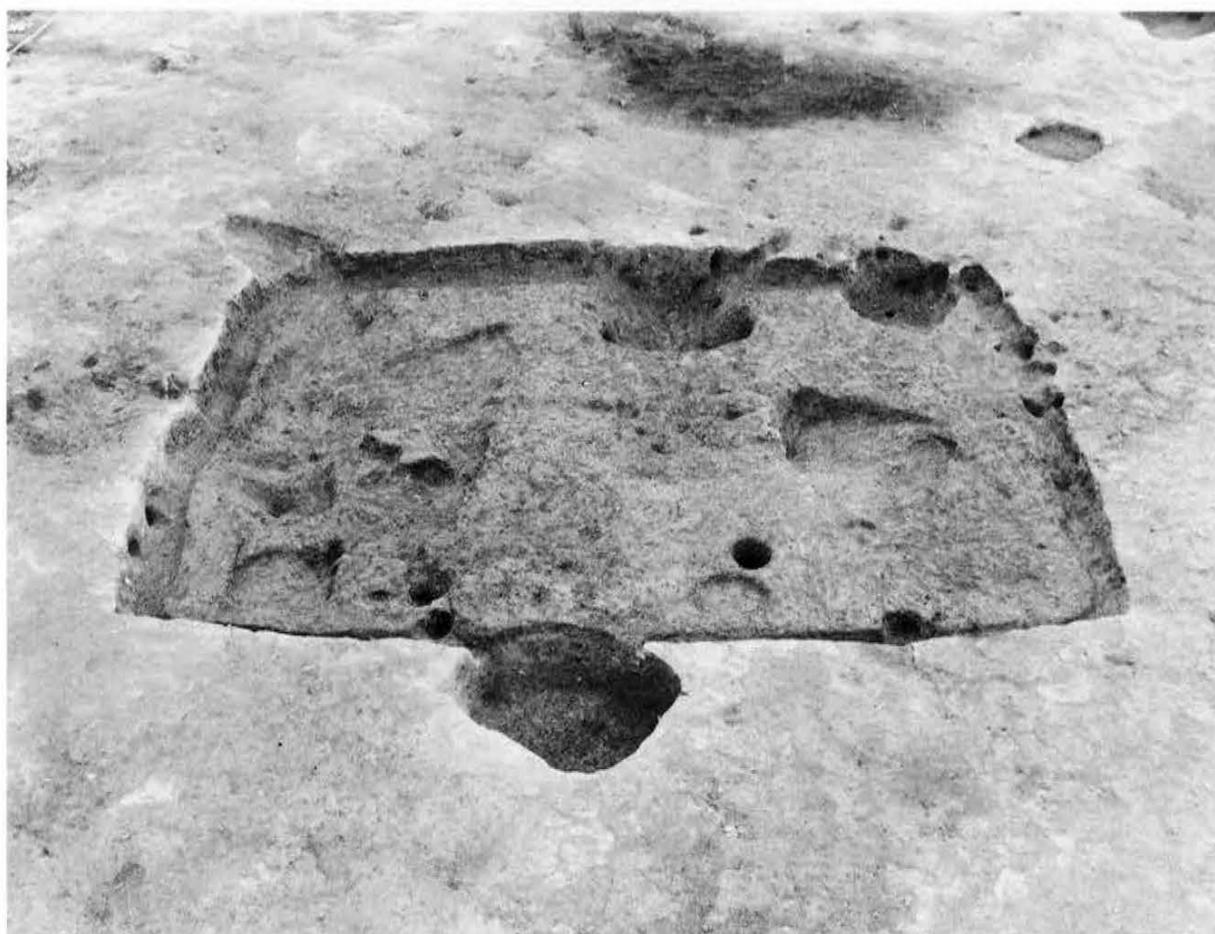
SI035床面完掘状況（東から）



SI035東南隅ベット完掘状況（東から）

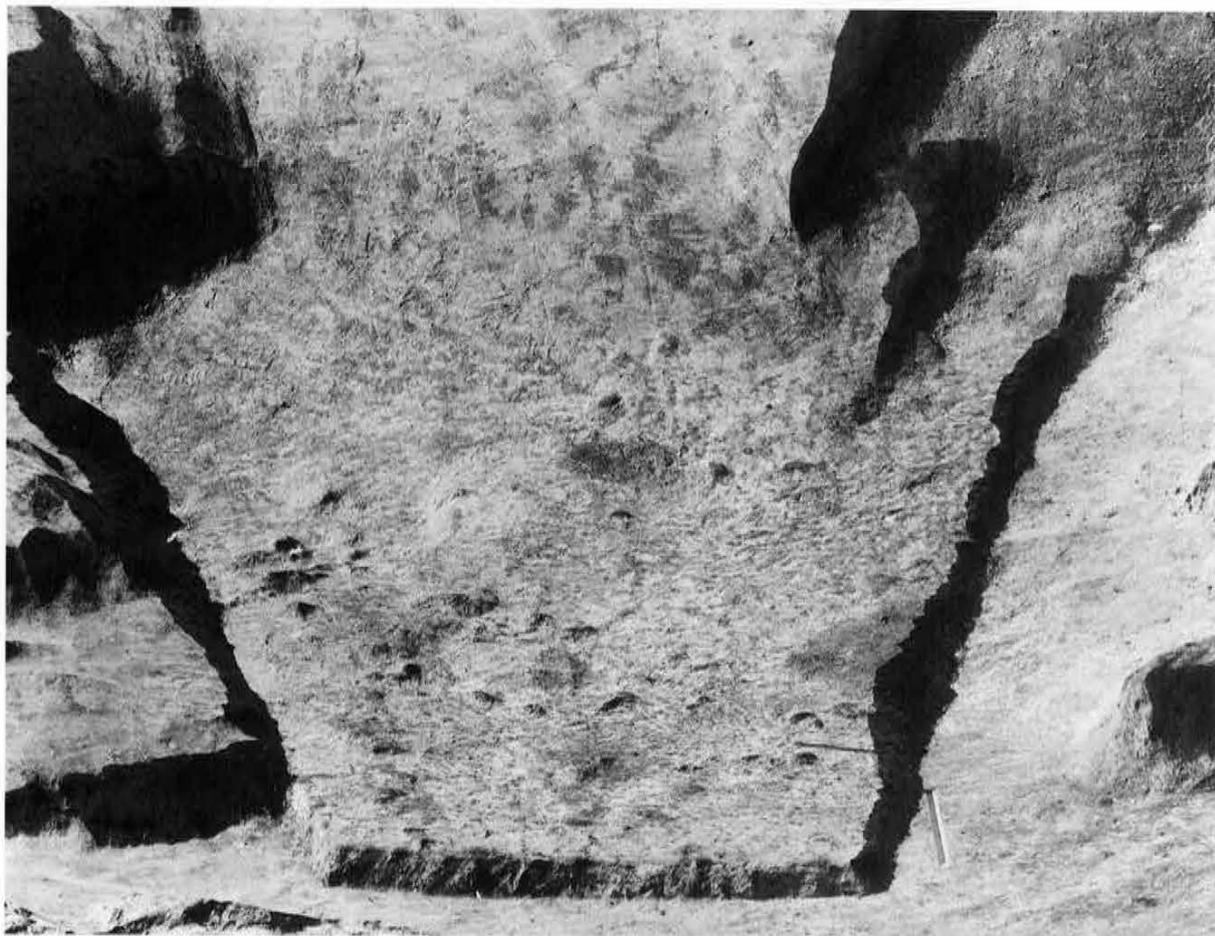


SI050検出状況（東から）



SI050完掘状況（北から）

S1075床面検出状況 (東から)



S1070床面検出状況 (東から)





SI075完掘状況（東から）



SI080第1床面検出状況（東から）



SI080第2床面完掘状況（東から）



SI085床面検出状況（東から）



SI085完掘状況（東から）



SI095床面検出状況（北から）



SI095完掘状況（北から）



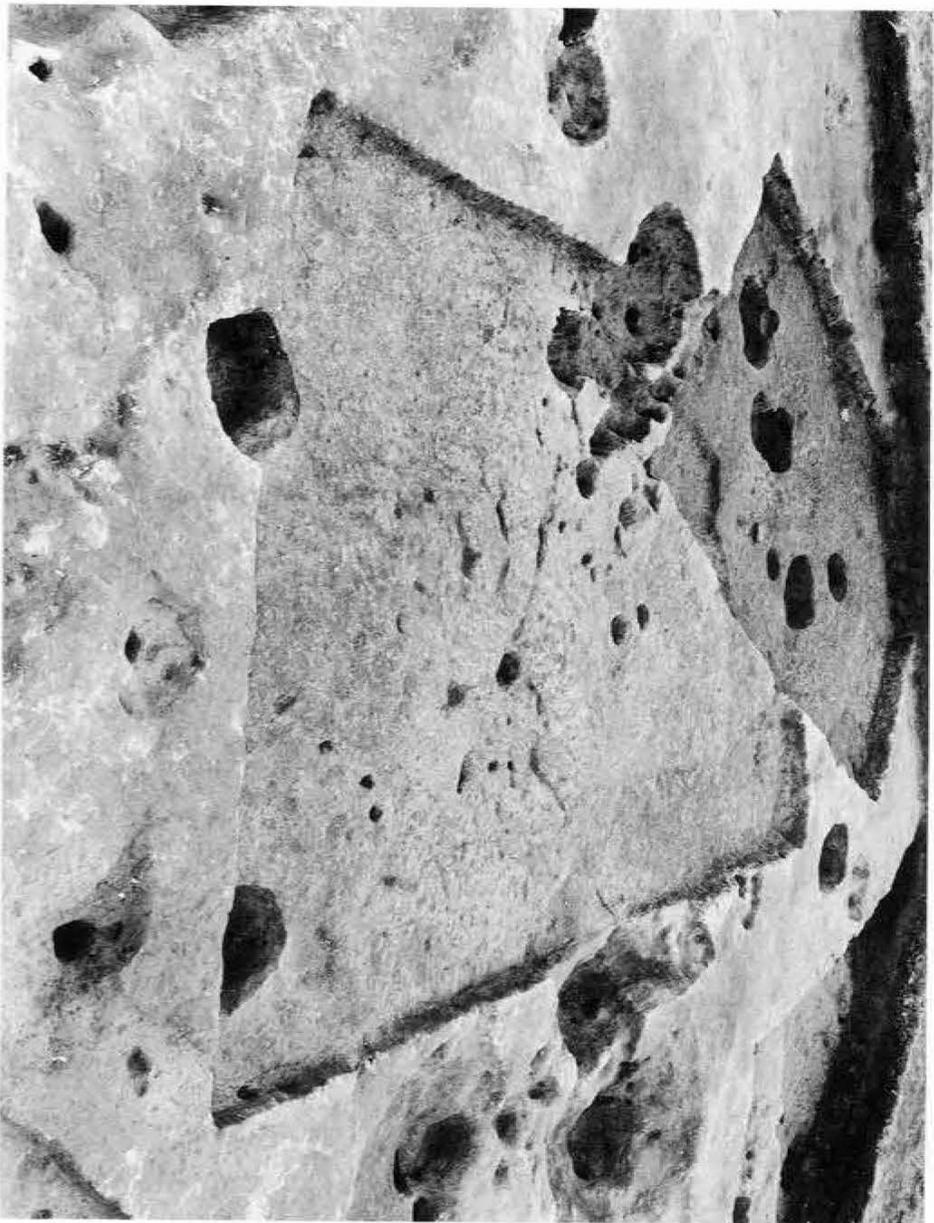
SI100床面検出状況（東から）



SI105検出状況（北東から）



SI105床面検出状況（北東から）



S1105完掘状況 (東から)



石剣出土状況 (北西から)



住居内土堀遺物検出状況 (東から)



SB040完掘状況（東北から）



SB040a土層断面（北東から）



SB040b土層断面（南西から）



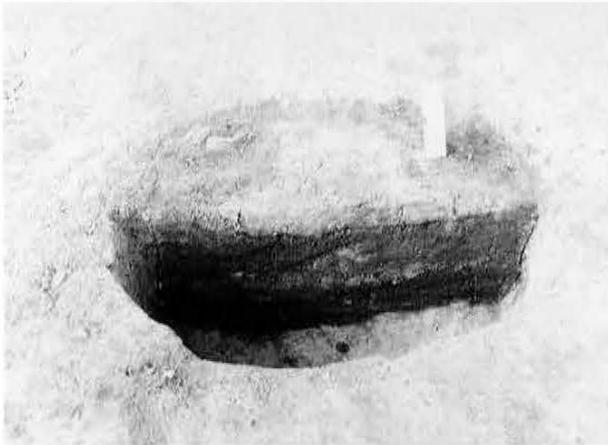
SB040d土層断面（南西から）



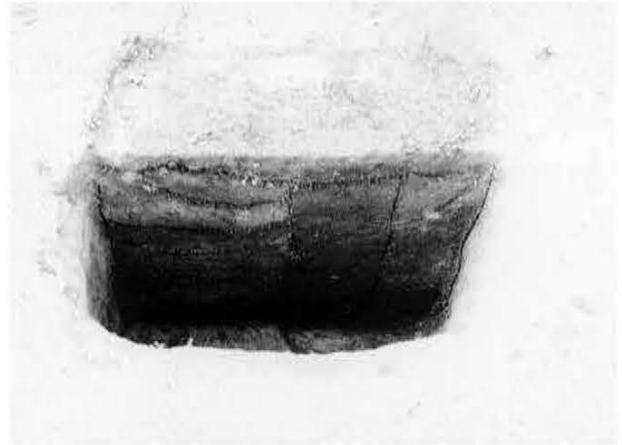
SB040e土層断面（北から）



SB045完掘状況（南東から）



SB045a土層断面（東から）



SB045b土層断面（北から）



SB040c土層断面（南から）

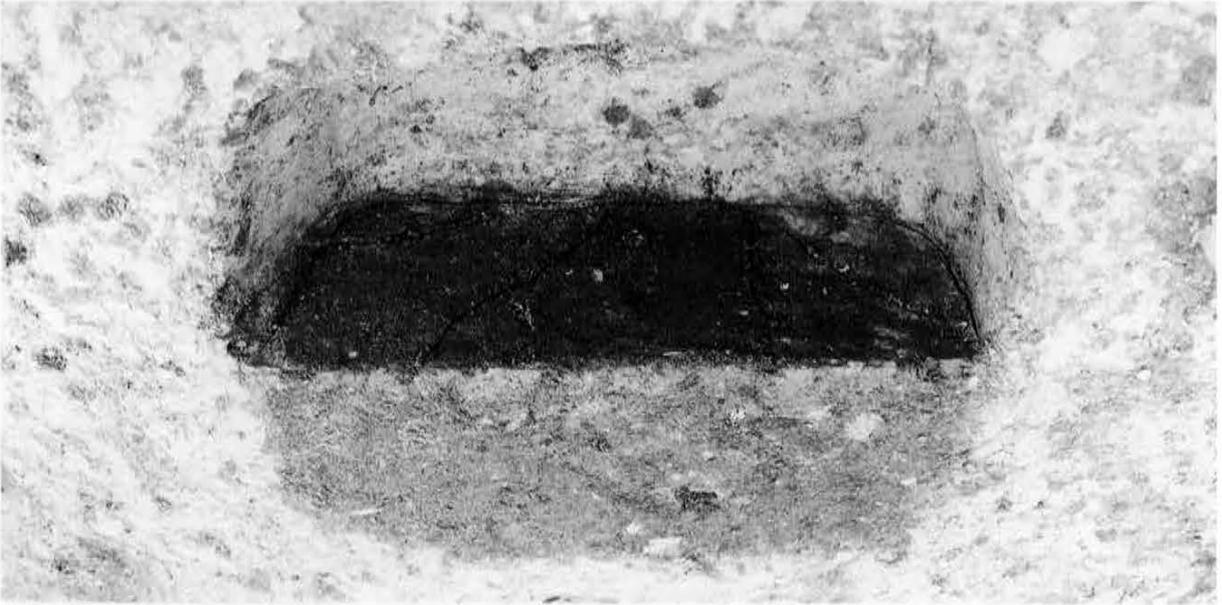


SB040d土層断面（北東から）

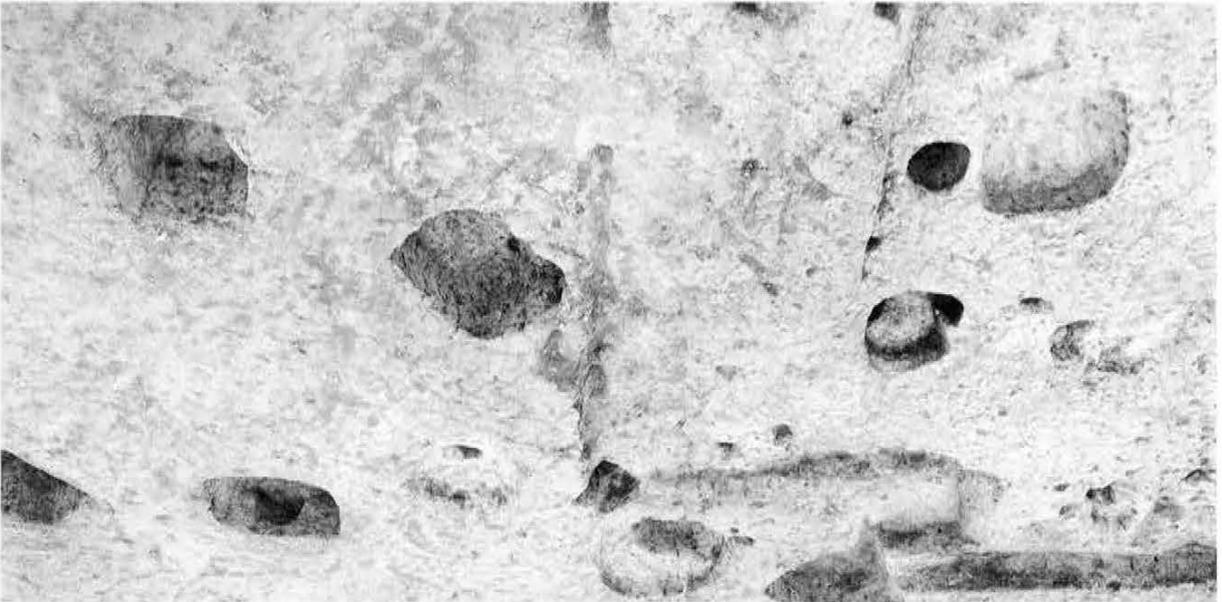
S1055d' 土層断面 (西南から)



S1055c' 土層断面 (西南から)

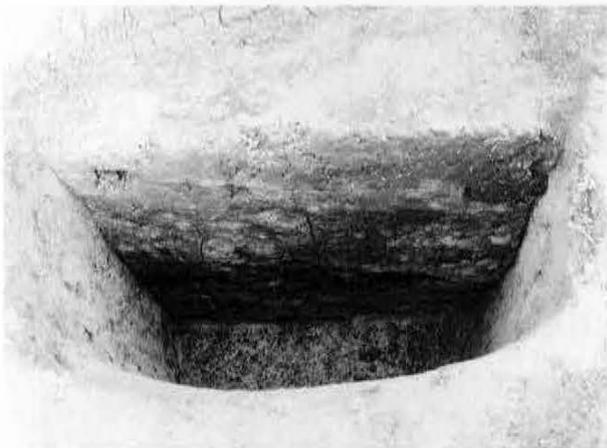


S1055完掘状況 (南東から)

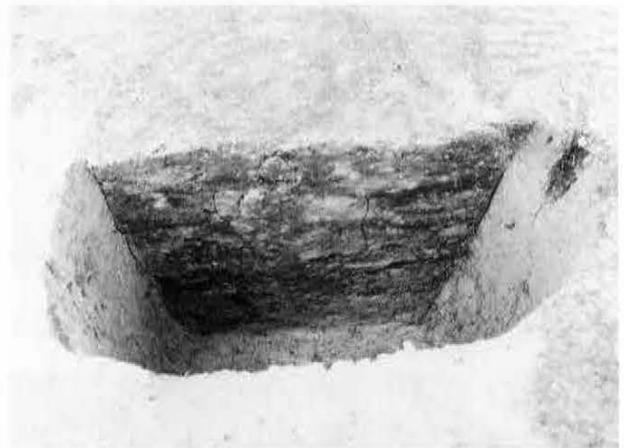




SB065完掘状況（東から）



SB065a土層断面（南から）



SB065b土層断面（南から）



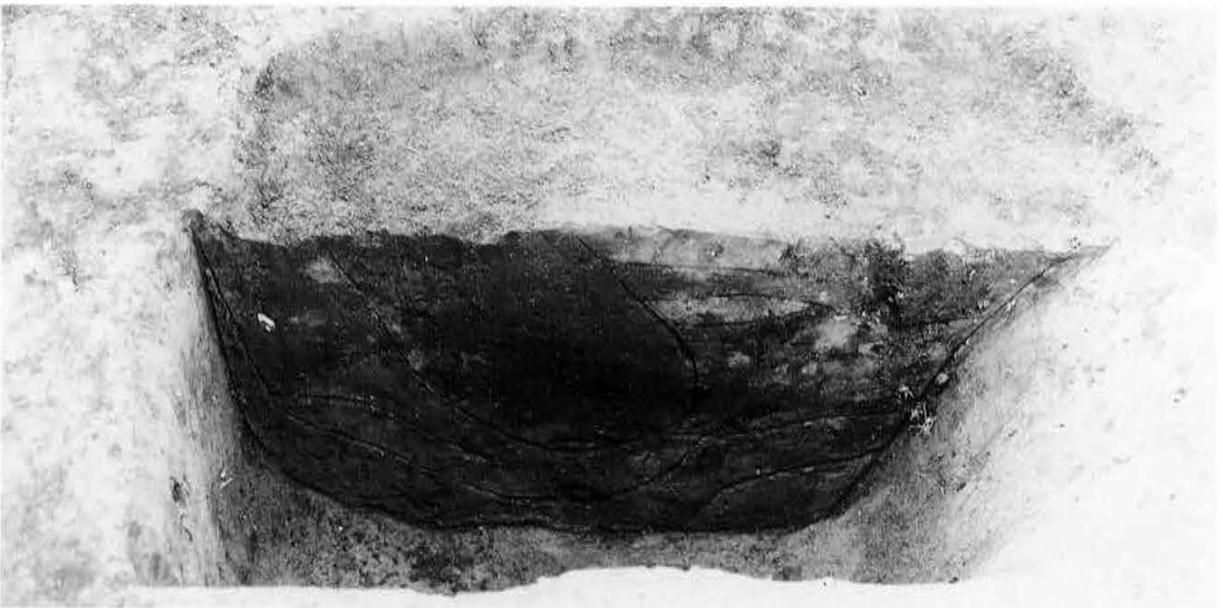
SB065c土層断面（南から）



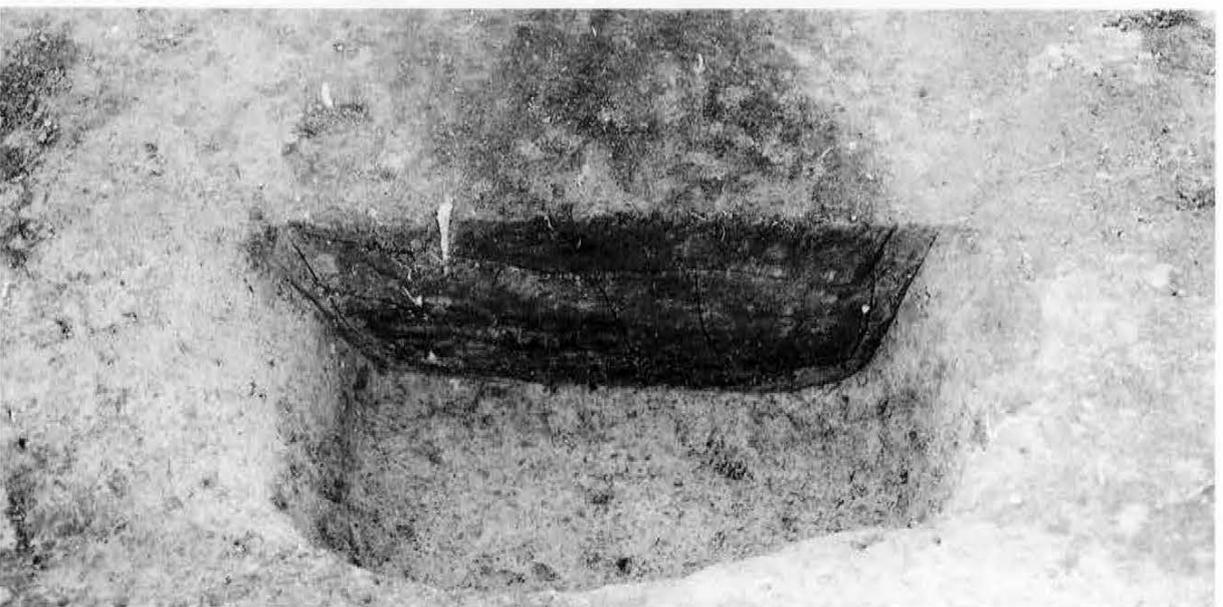
SB065d土層断面（南から）



SI110a土層断面（東から）



SI110b土層断面（東から）



SI110d土層断面（東から）



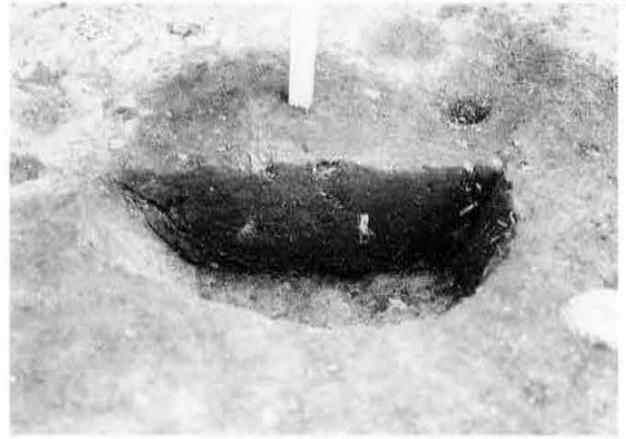
SB120・125検出状況（北から）



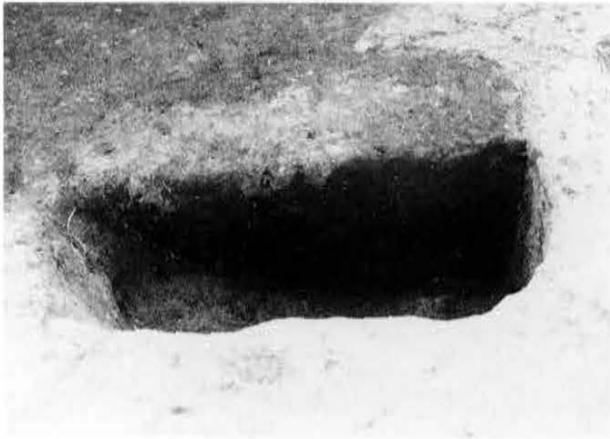
SB120・125完掘状況（北から）



SB120a土層断面（北から）



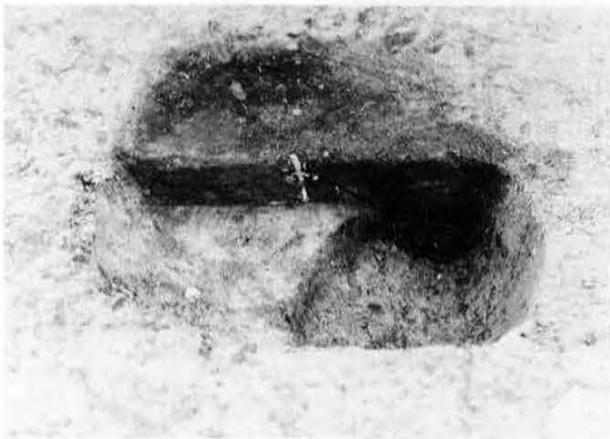
SB120b土層断面（北から）



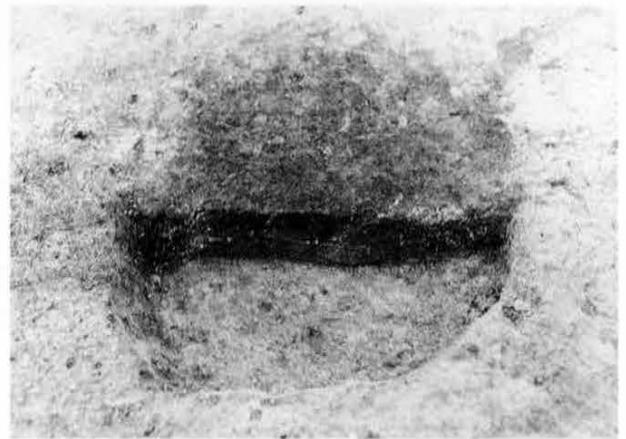
SB120c土層断面（北から）



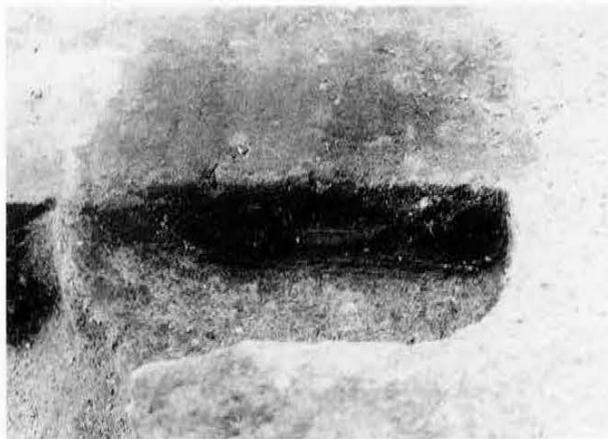
SB120d土層断面（南から）



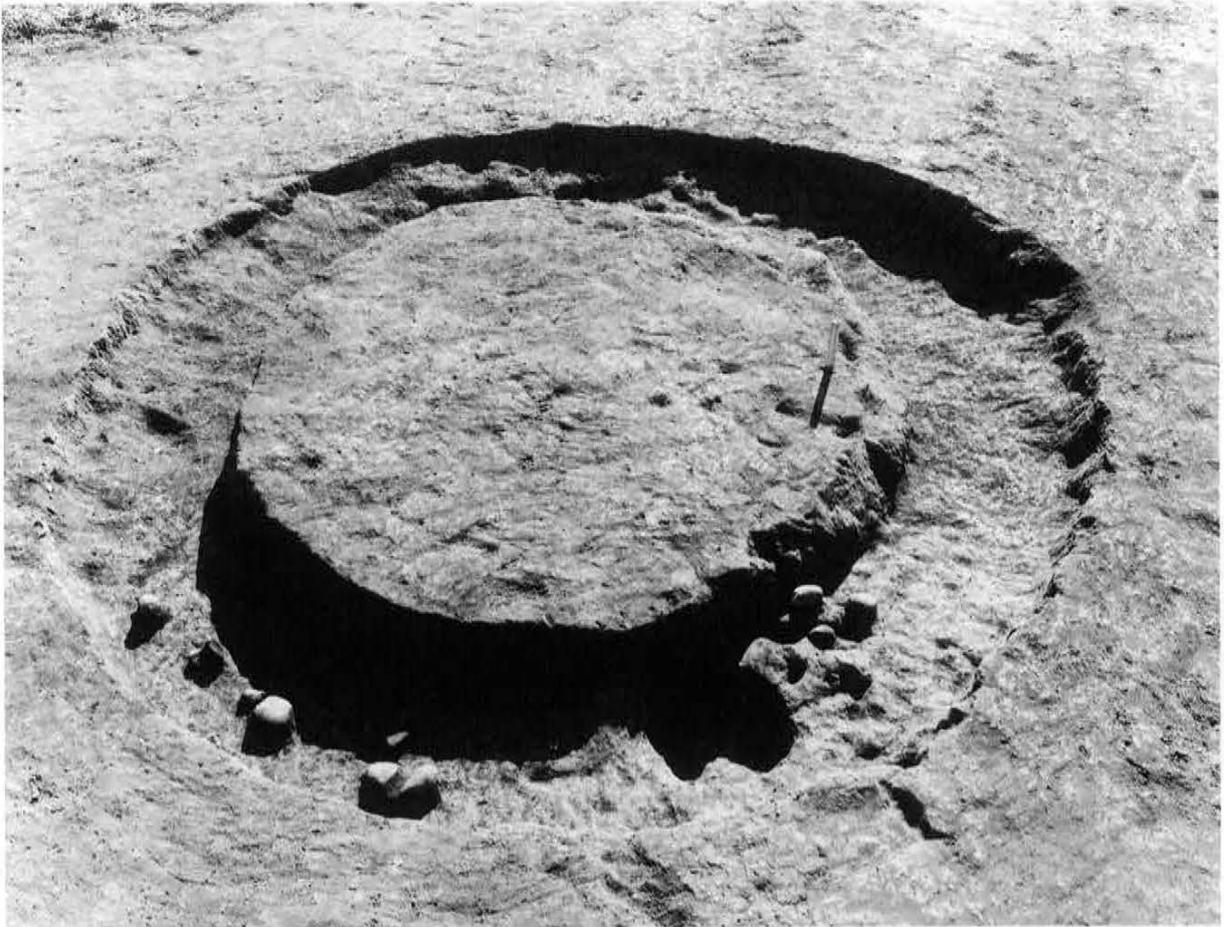
SB125a' 土層断面（北から）



SB125c' 土層断面（南から）



SB125d' 土層断面（南から）



SX005完掘状況（北から）



SX005内ビット土層断面（北から）



SX005ミニチュア土器検出状況（南から）



SX020a-b土層断面（東から）



SX020c-d土層断面（南から）



SX020e-f土層断面（東から）



SX020g-h土層断面（南から）



SK072土層断面（西南から）



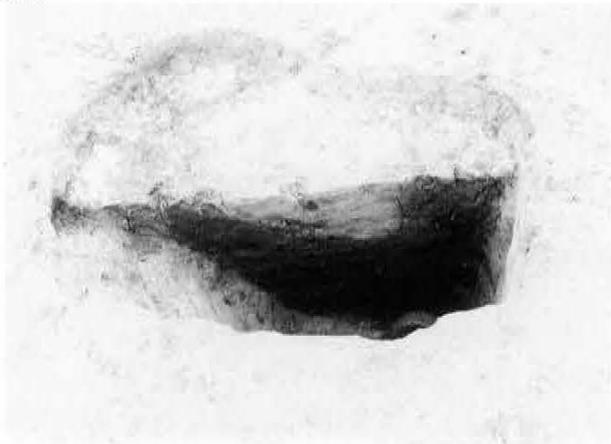
SK090土層断面（東から）



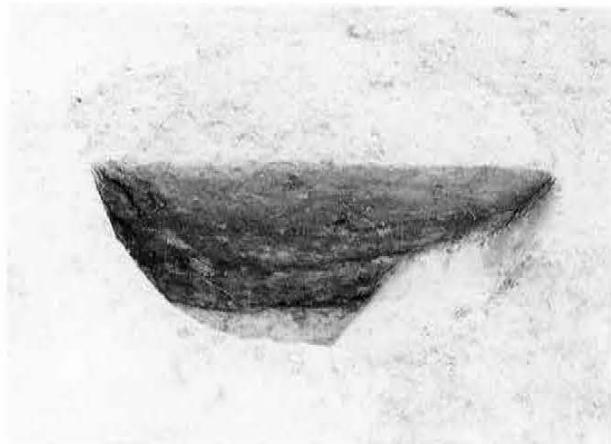
SX084土層断面（東から）



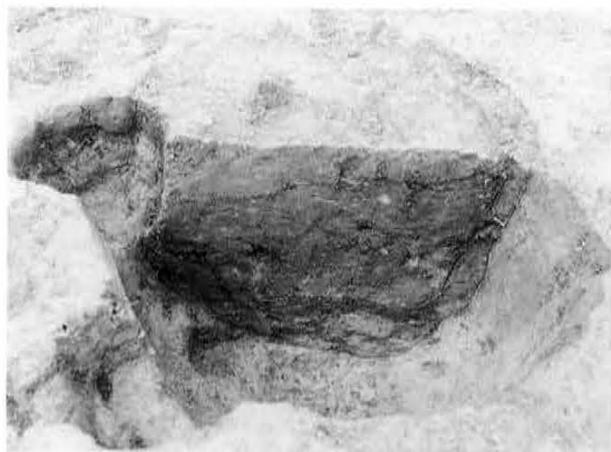
SX094土層断面（南東から）



SX101土層断面（西南から）



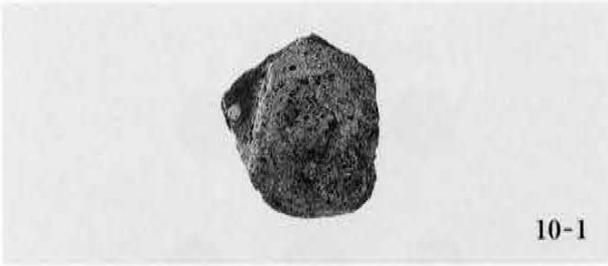
SX116土層断面（北西から）



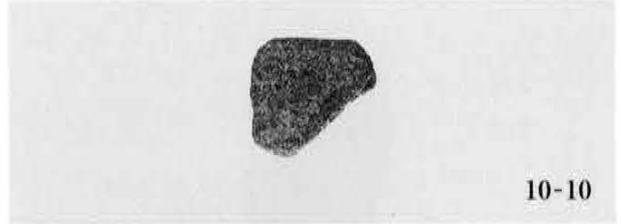
SX126土層断面（東から）



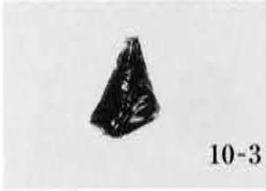
SX117遺物出土状況（北から）



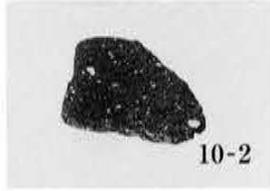
10-1



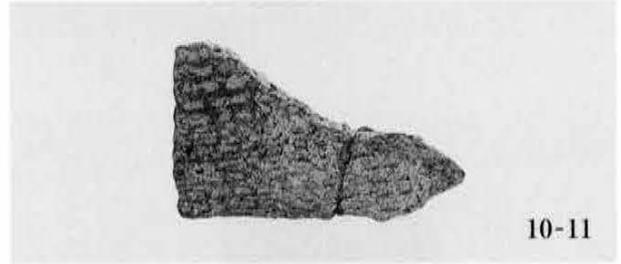
10-10



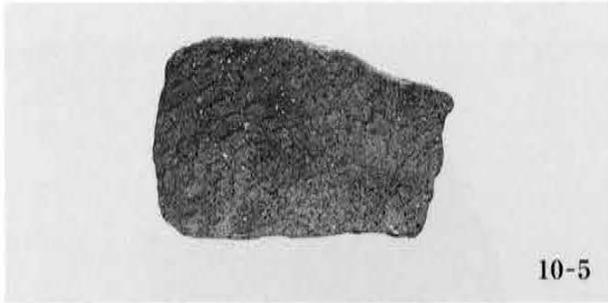
10-3



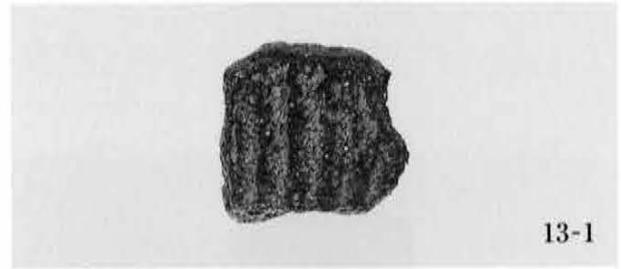
10-2



10-11



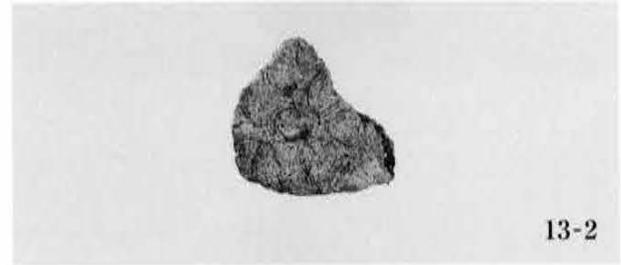
10-5



13-1



10-6



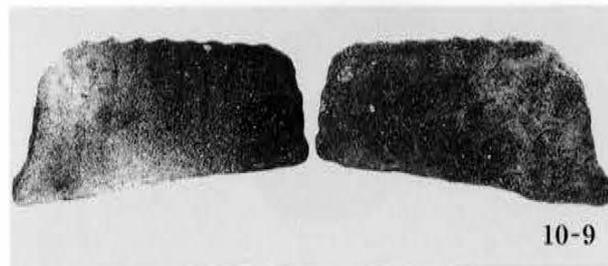
13-2



10-7



13-3

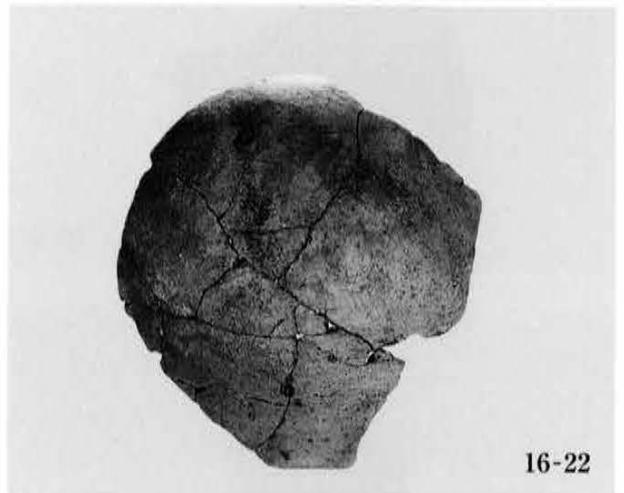
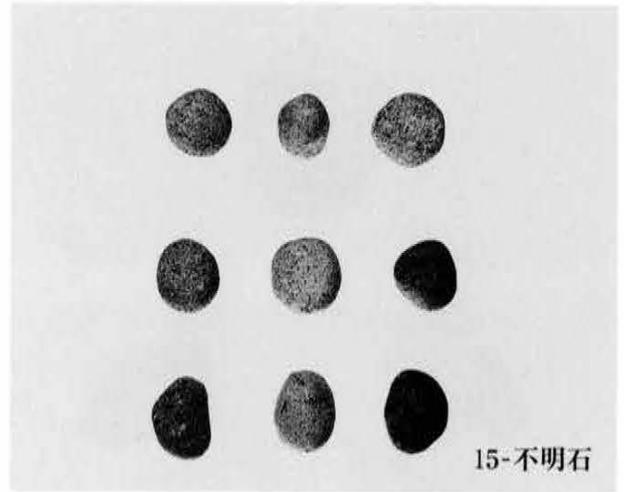
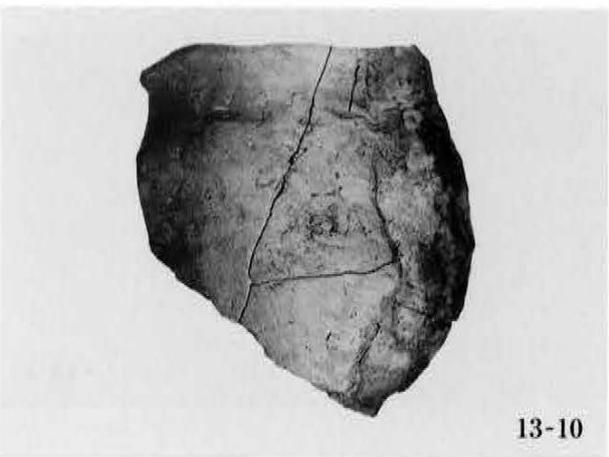
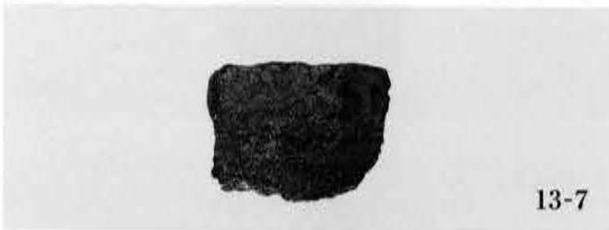
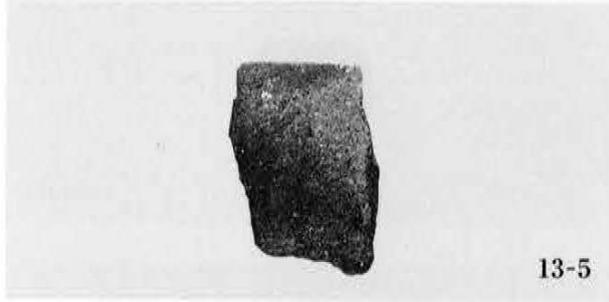


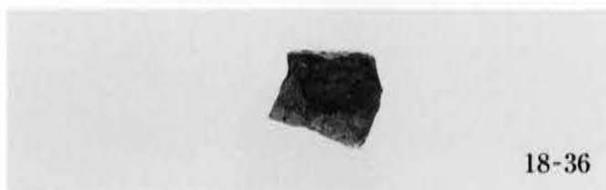
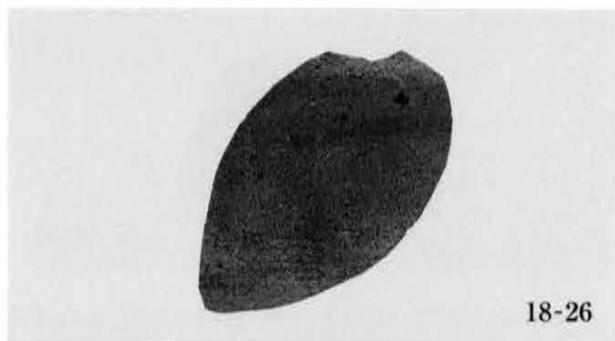
10-9

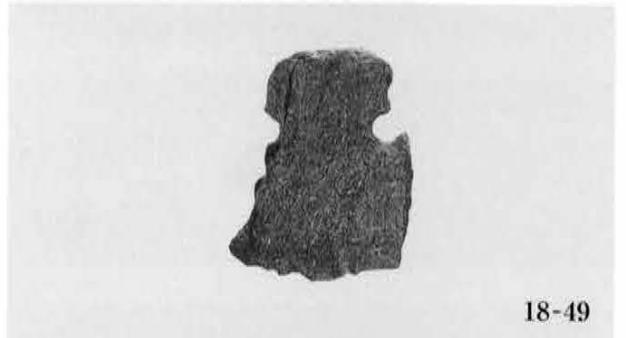
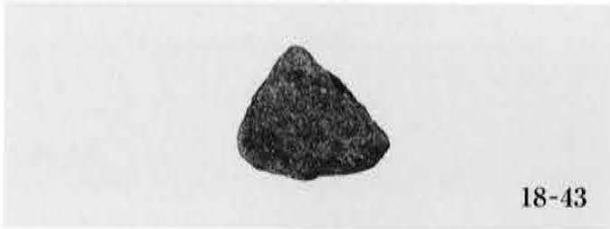
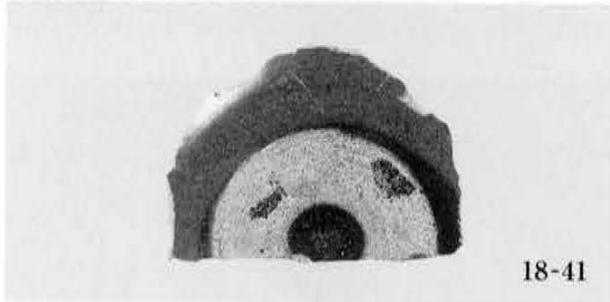


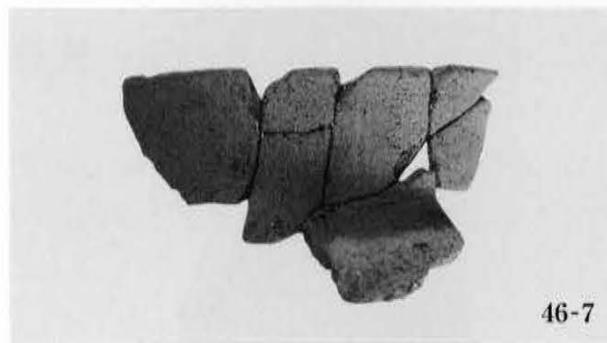
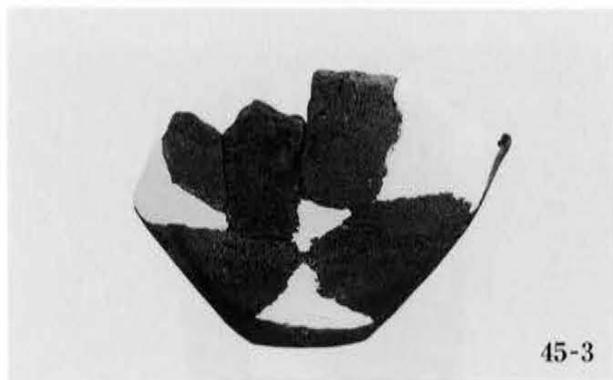
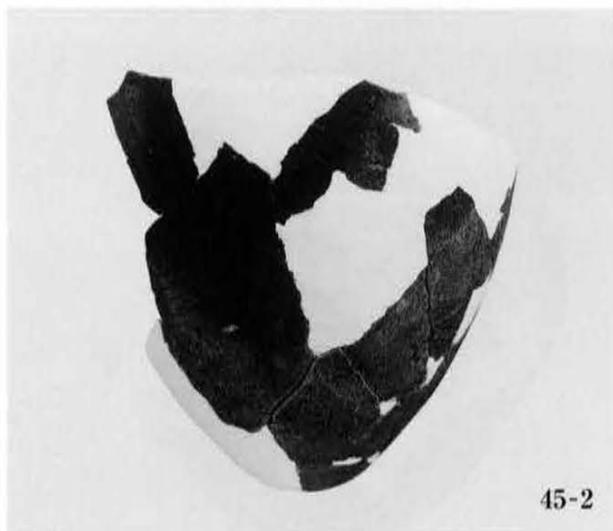
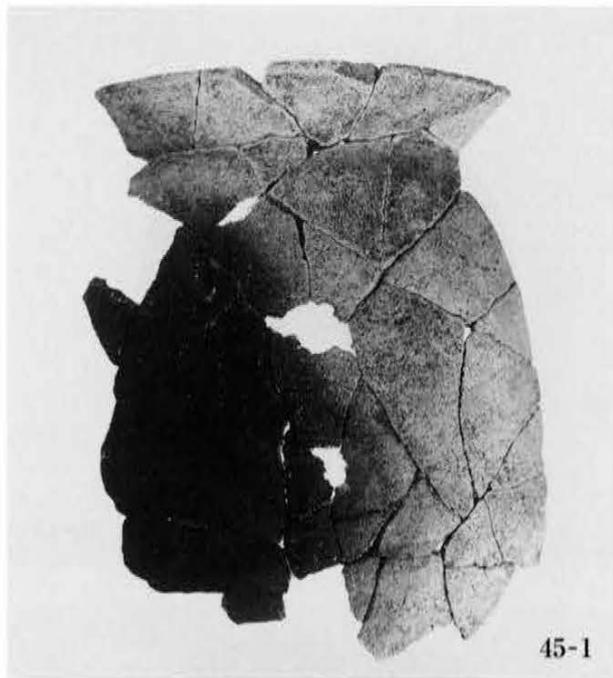
13-4

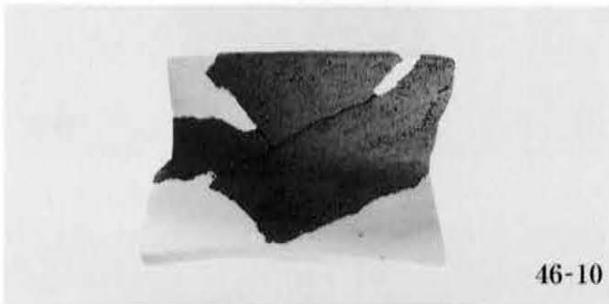
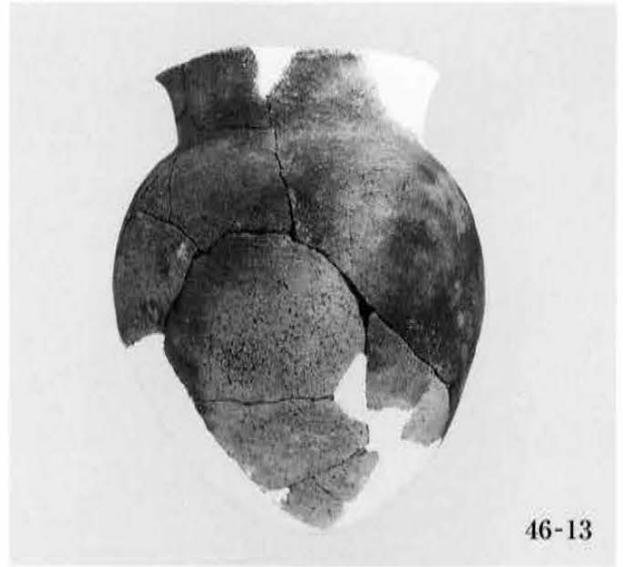
鶴田東牛ヶ池遺跡第1次調査出土遺物
鶴田東牛ヶ池遺跡第2次調査出土遺物

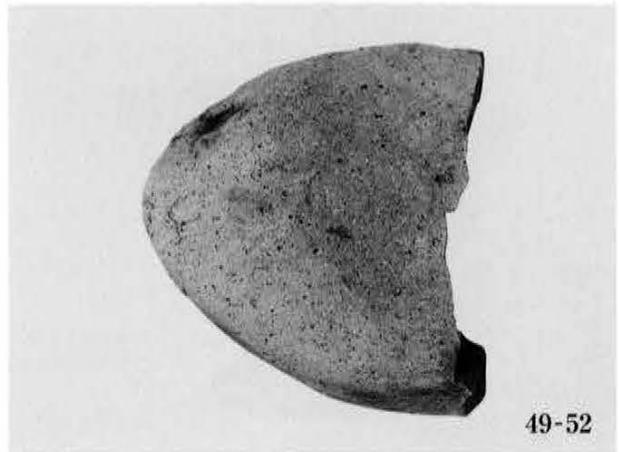
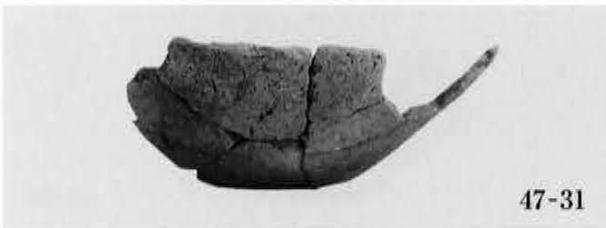
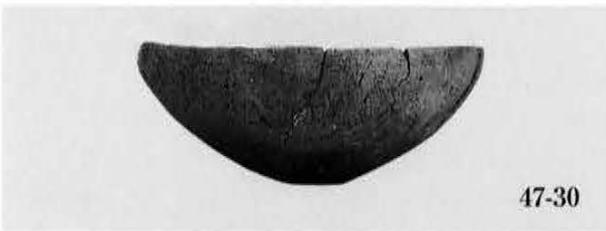
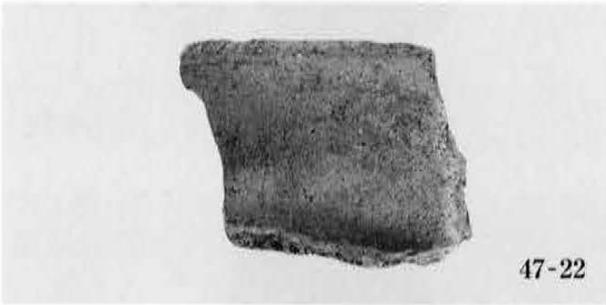
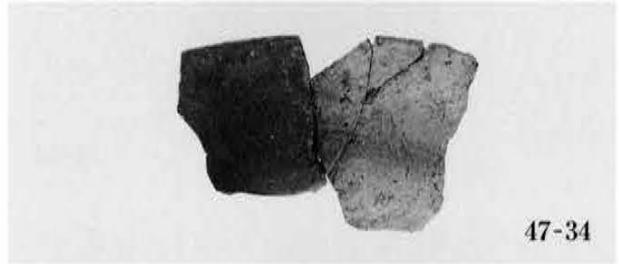
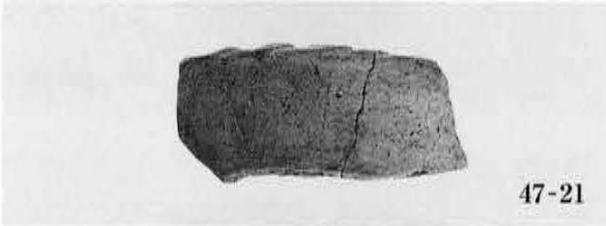


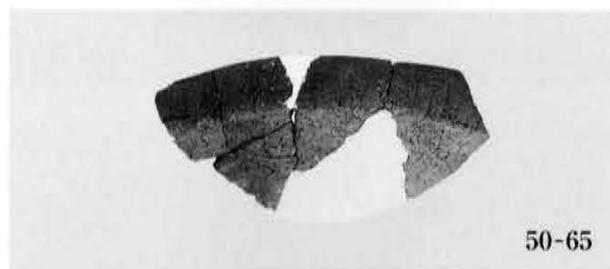
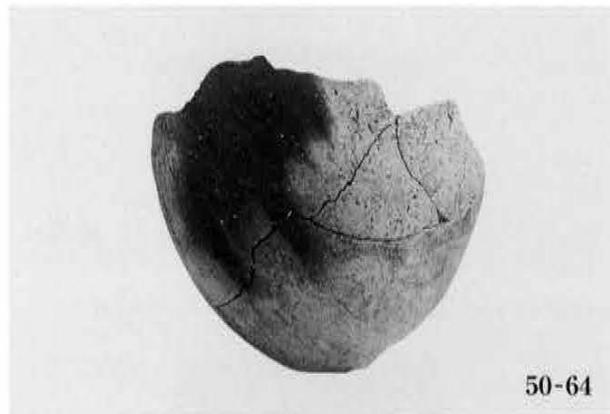
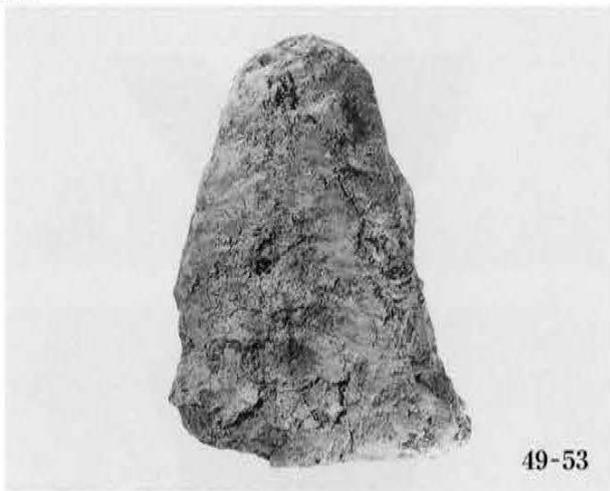


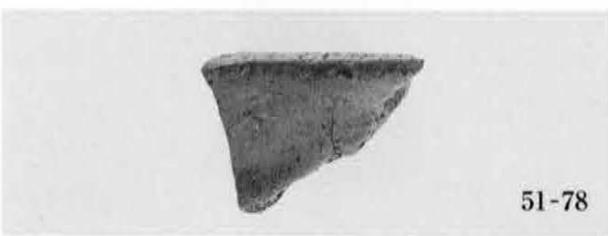
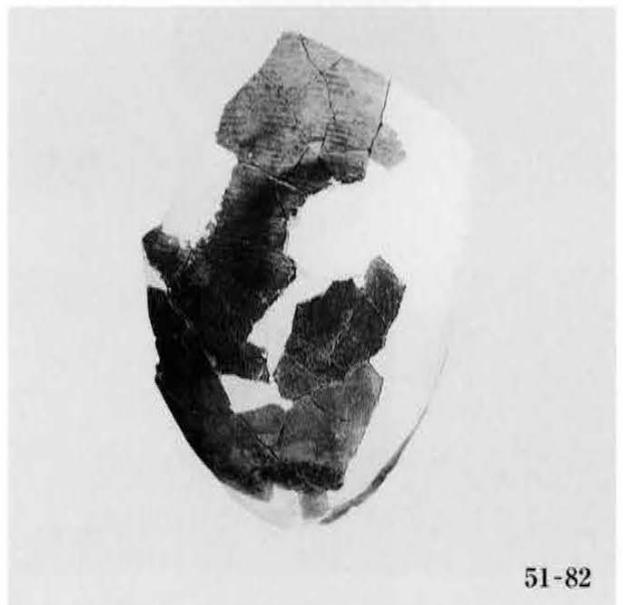
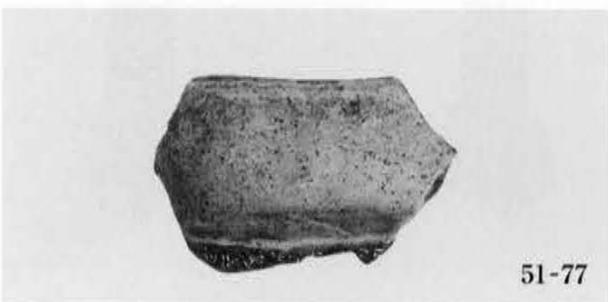
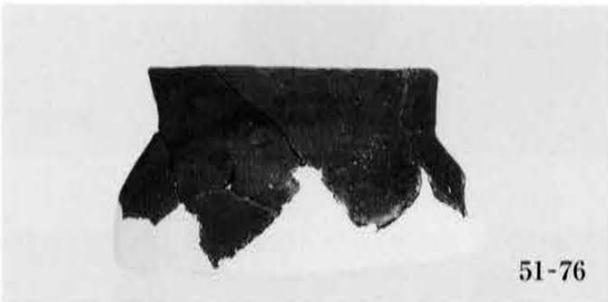
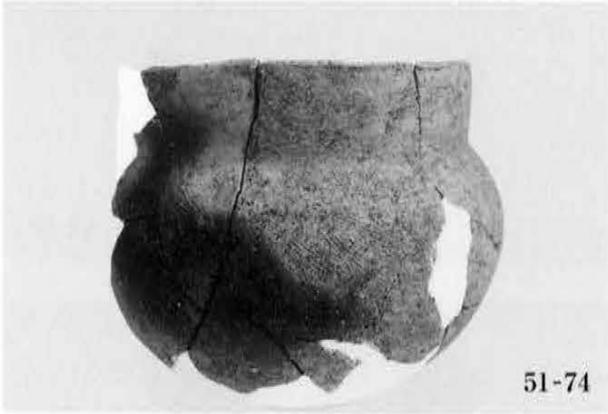


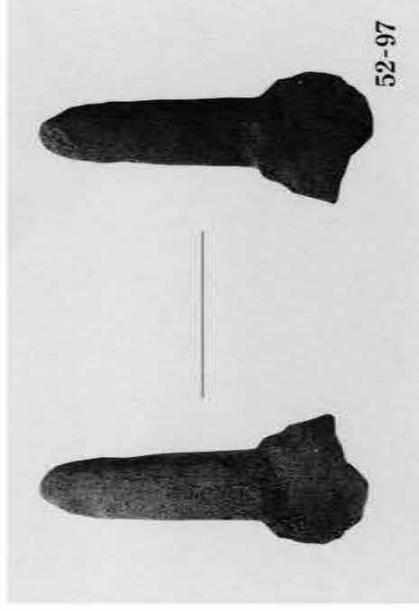
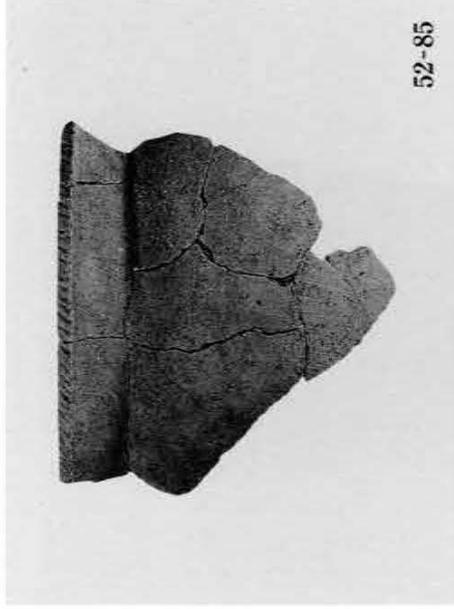


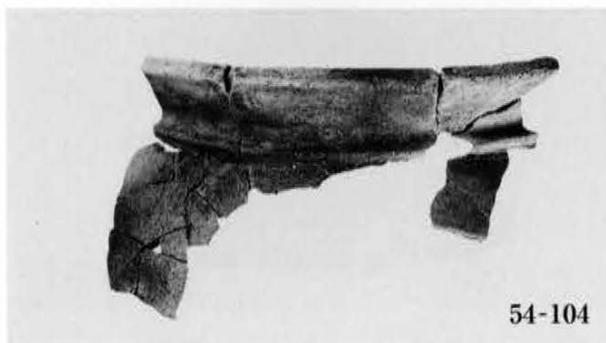
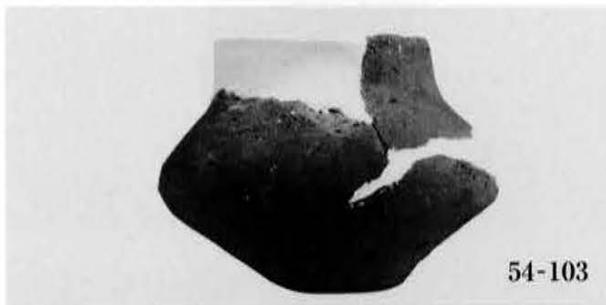
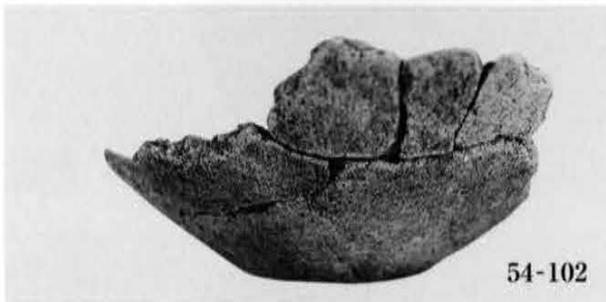
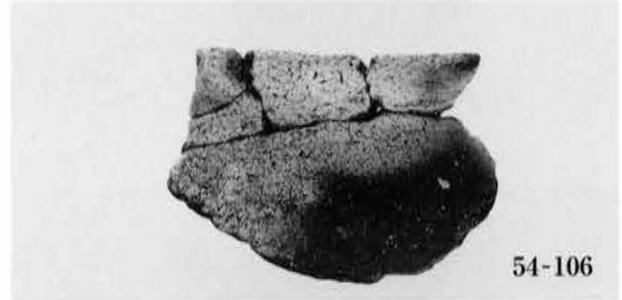
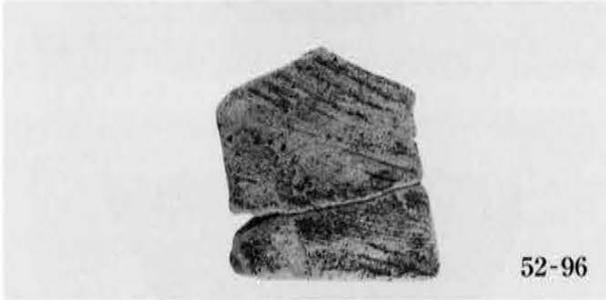
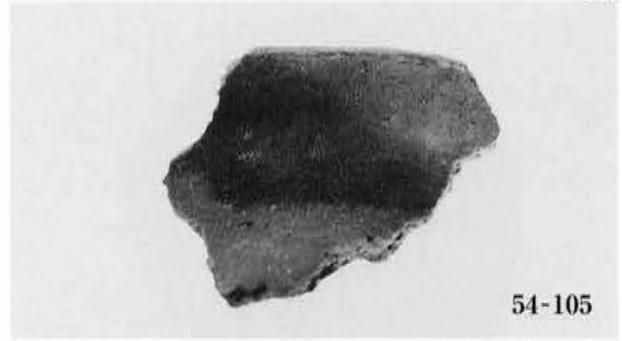


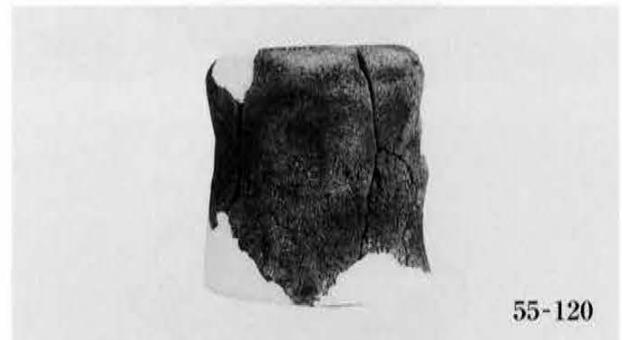
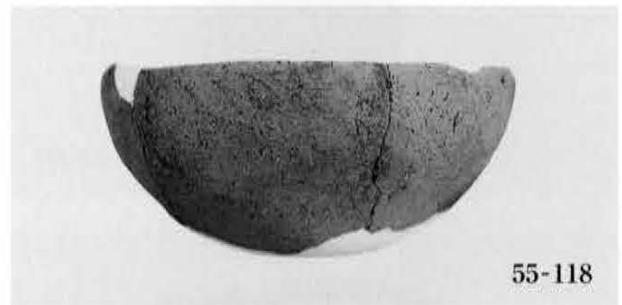


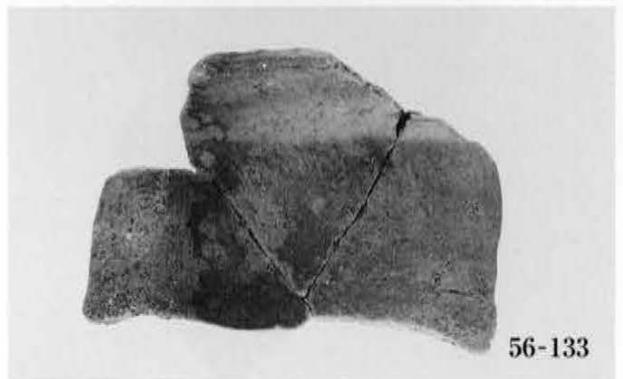
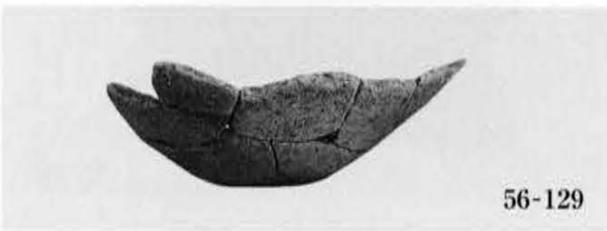
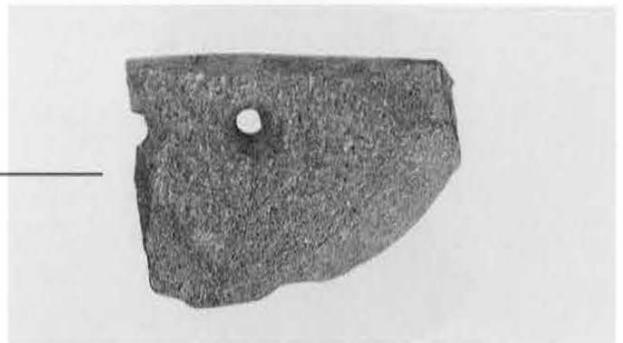
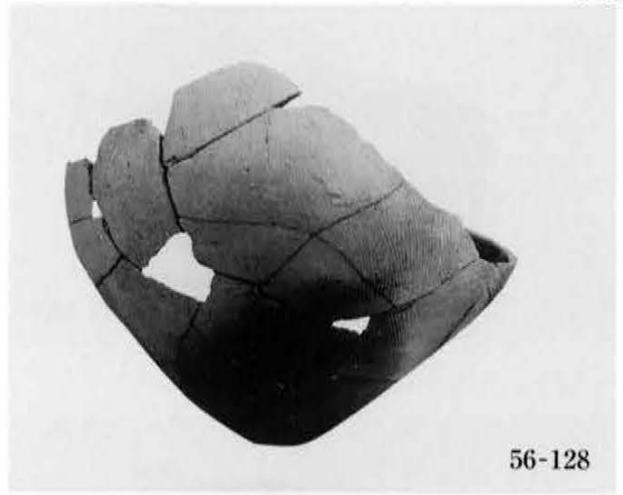


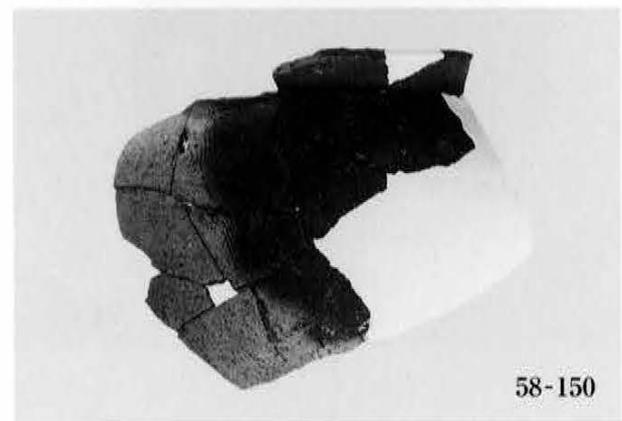
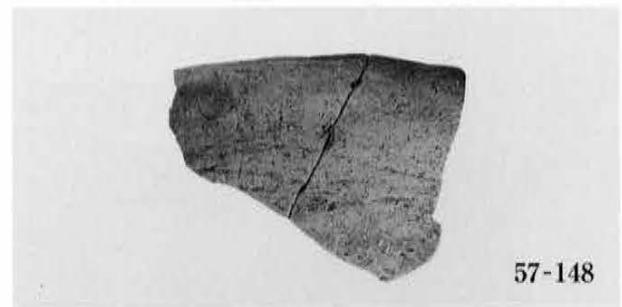
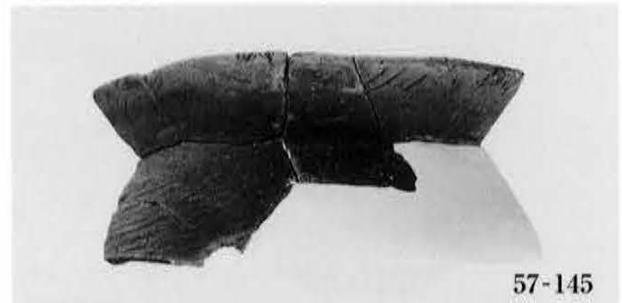
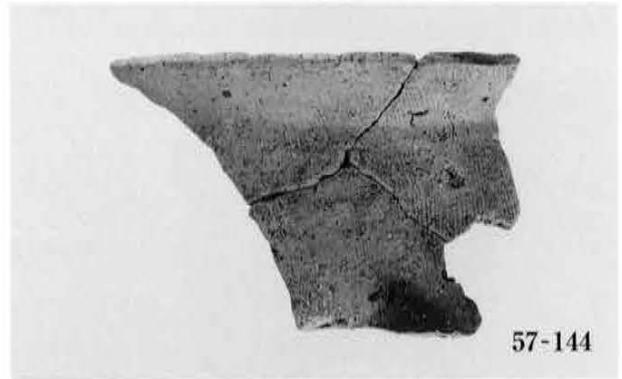
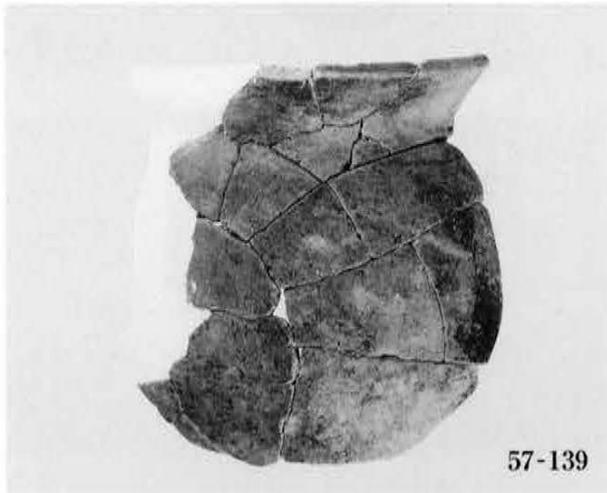
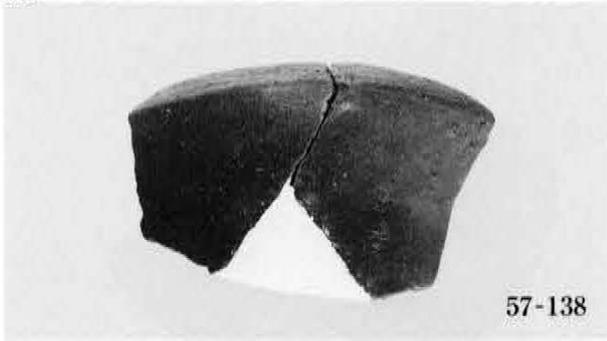


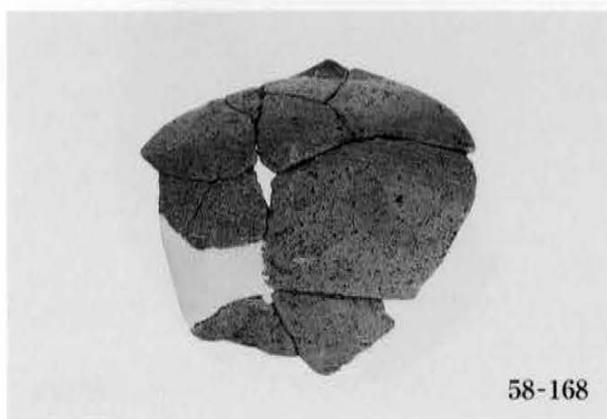
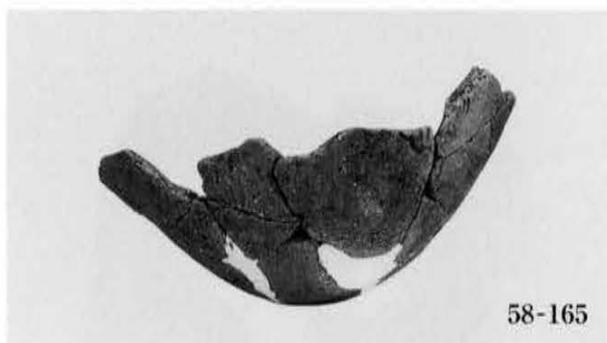
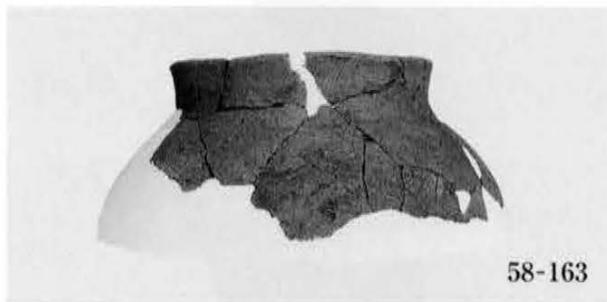
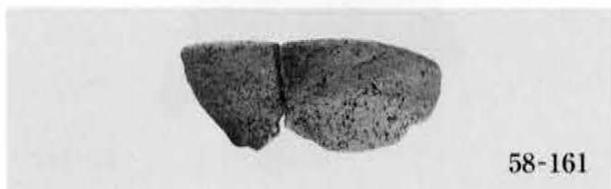
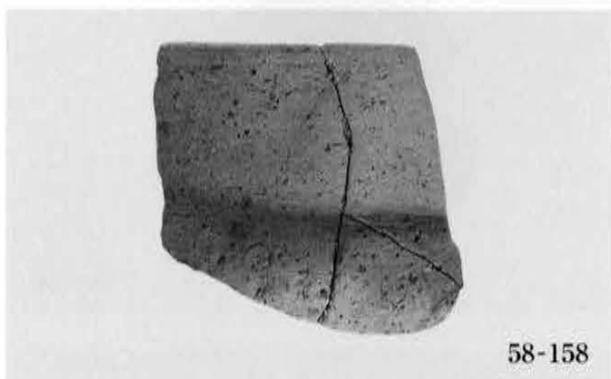
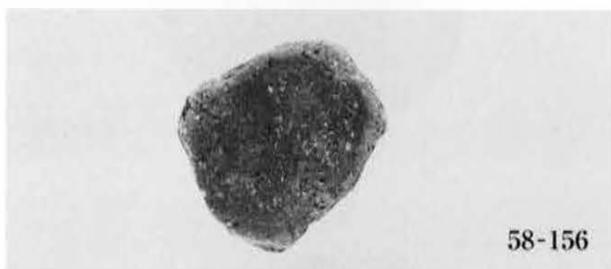


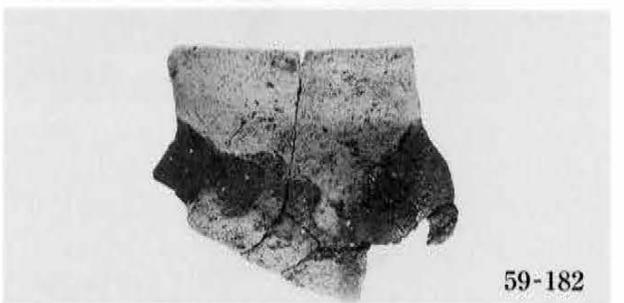
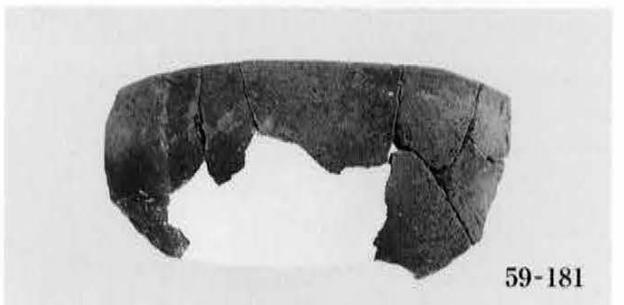
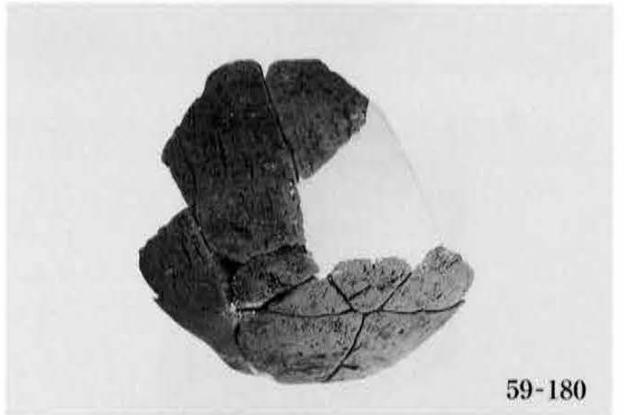
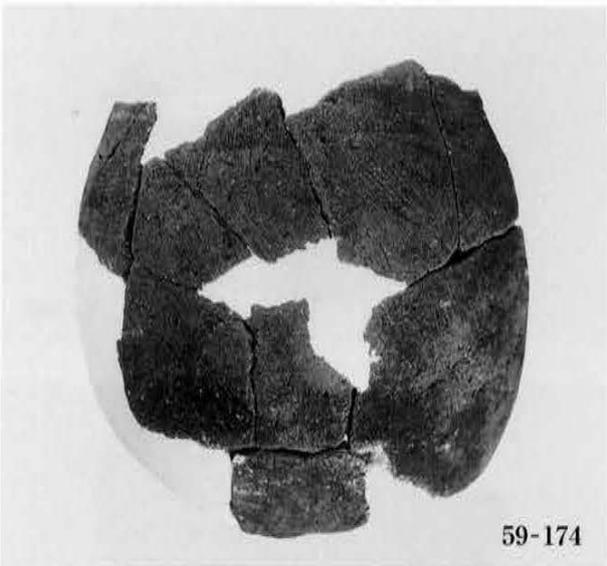
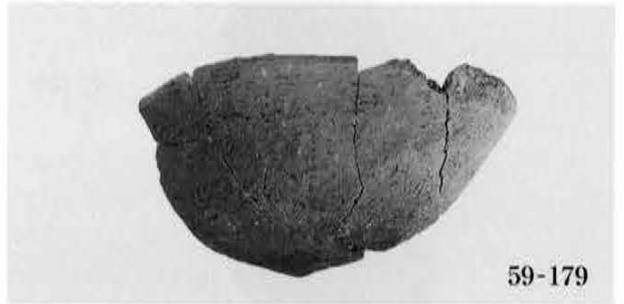
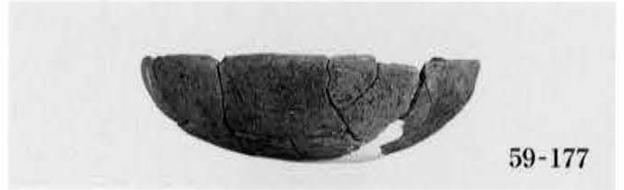
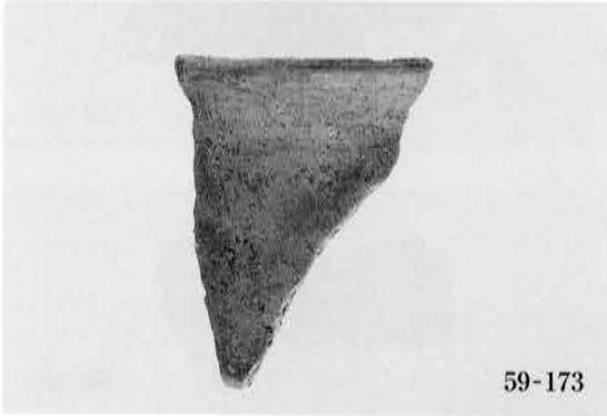
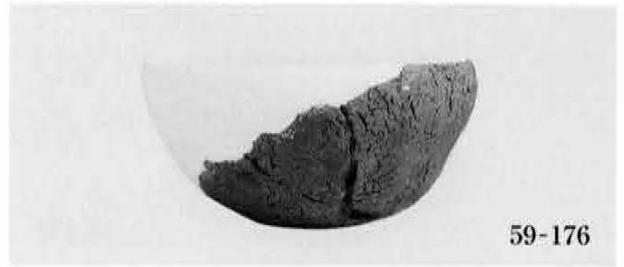
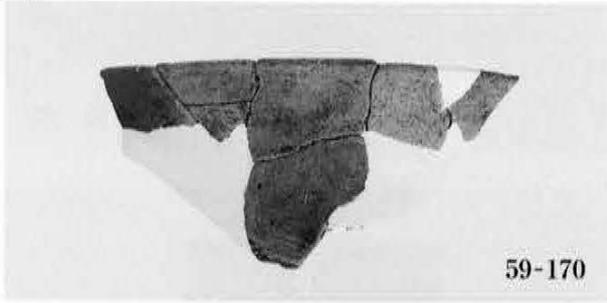


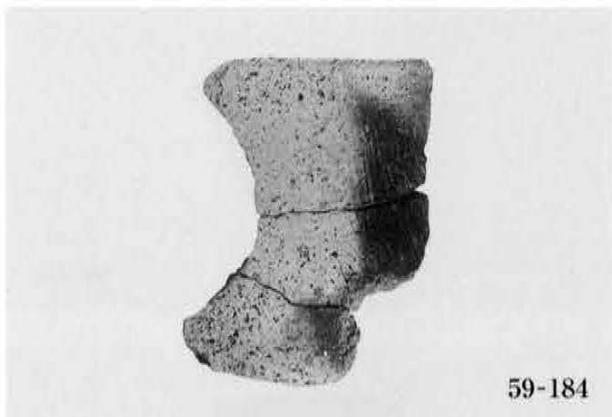




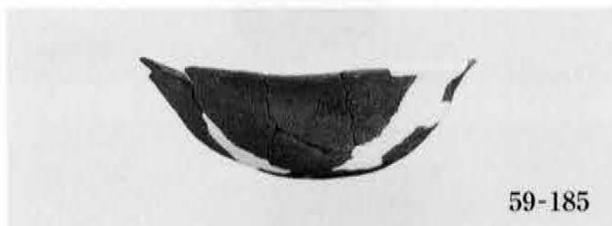








59-184



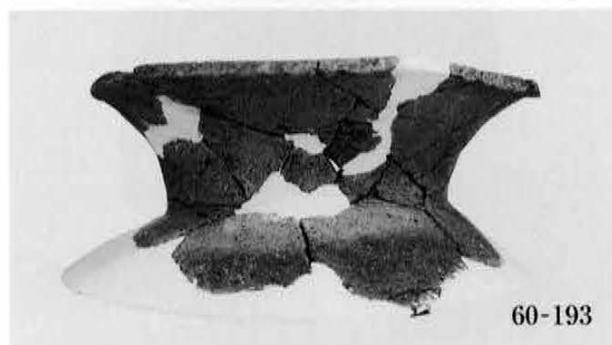
59-185



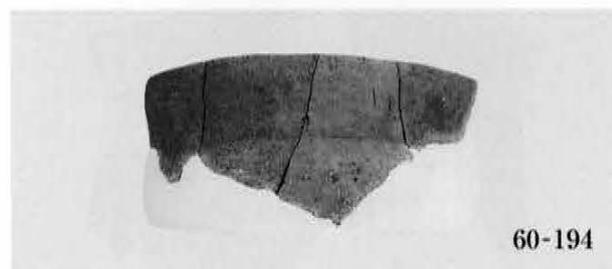
59-189



59-190



60-193



60-194



60-195



60-196



60-197



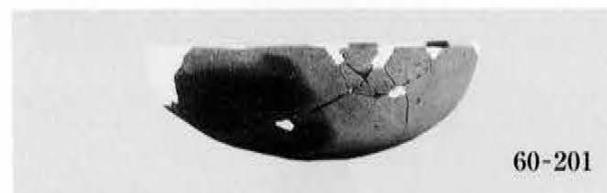
60-198



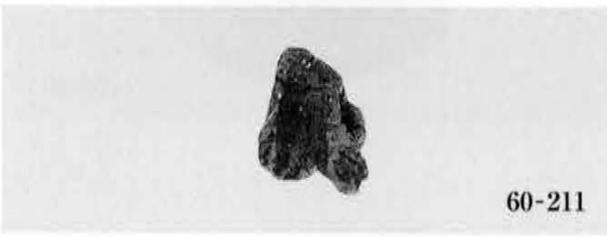
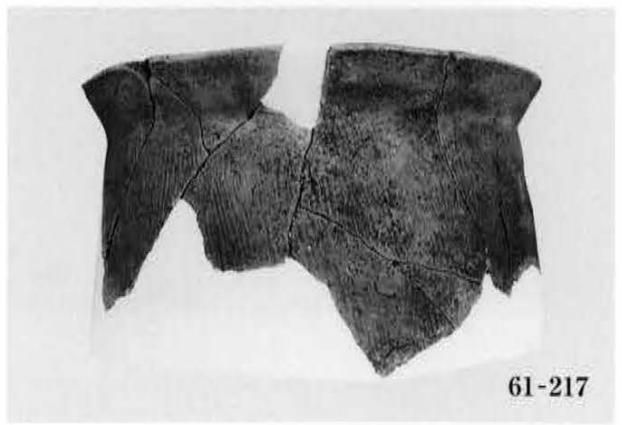
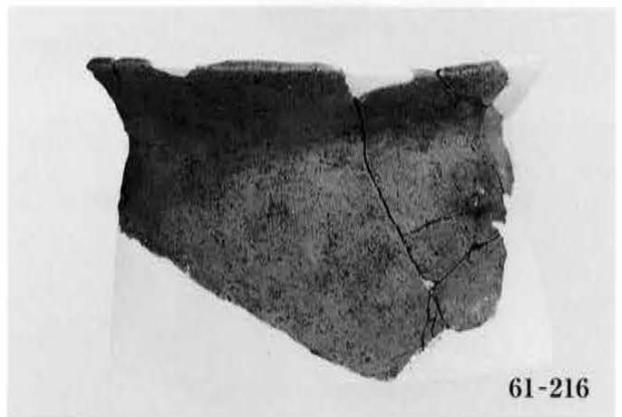
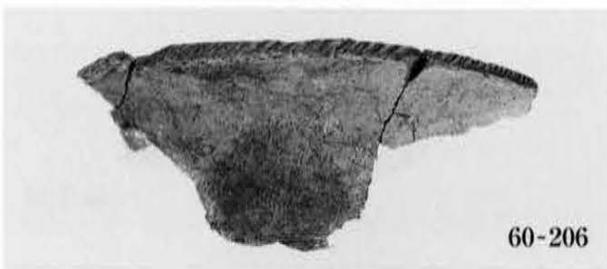
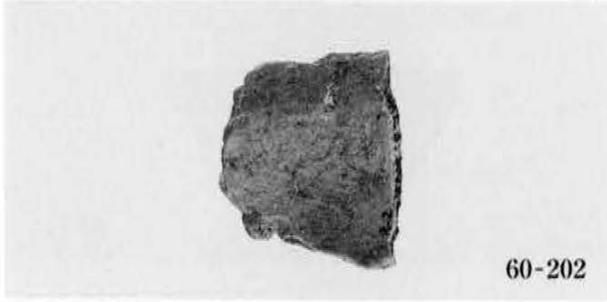
60-199

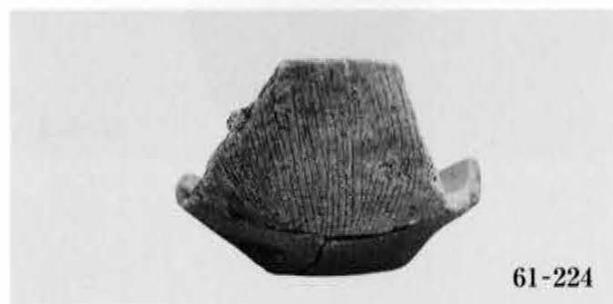
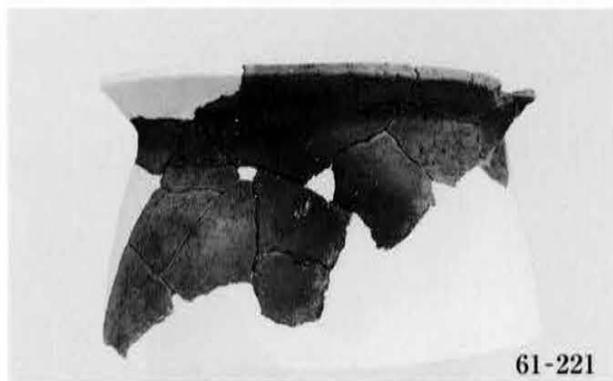
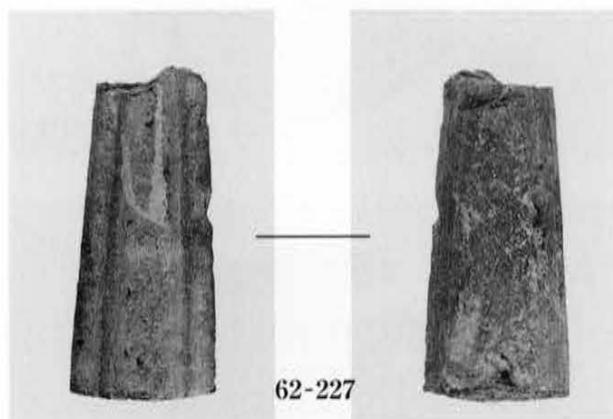
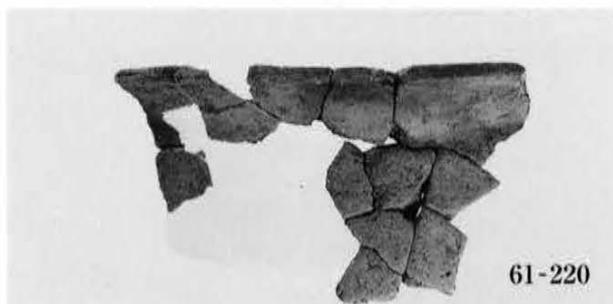
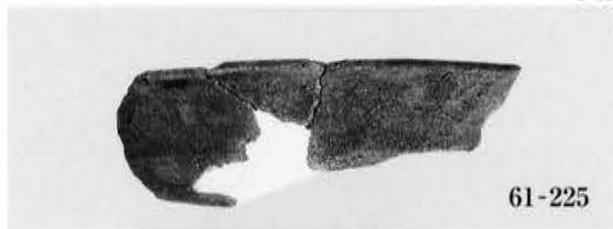


60-200

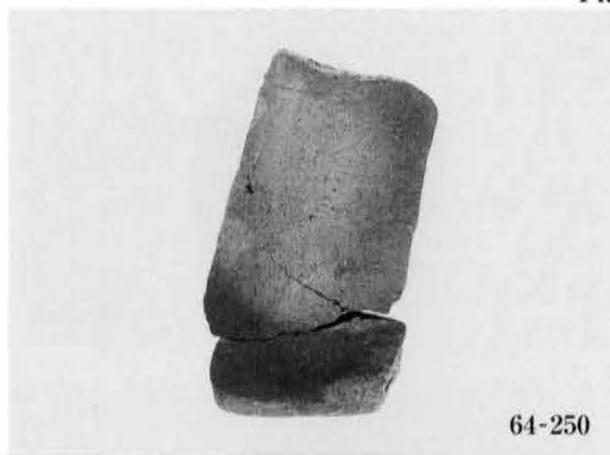
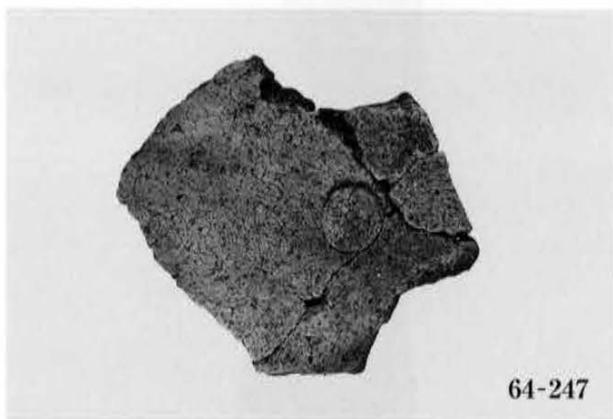
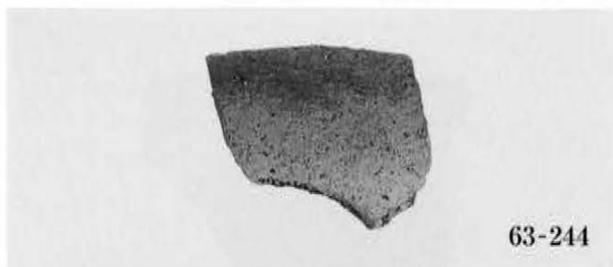


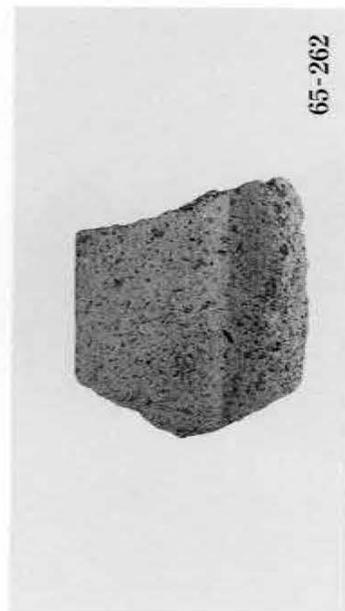
60-201

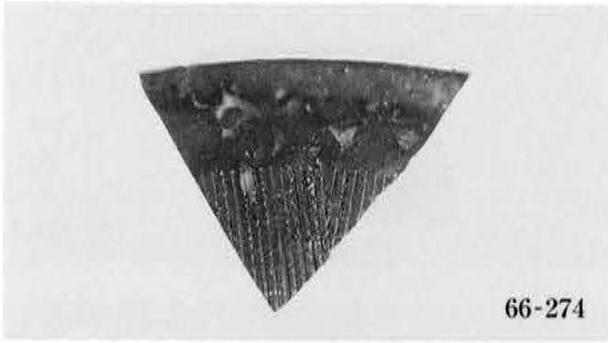












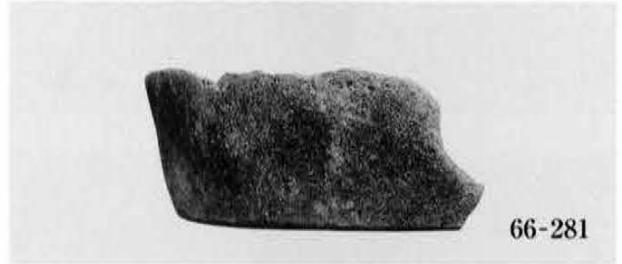
66-274



66-280



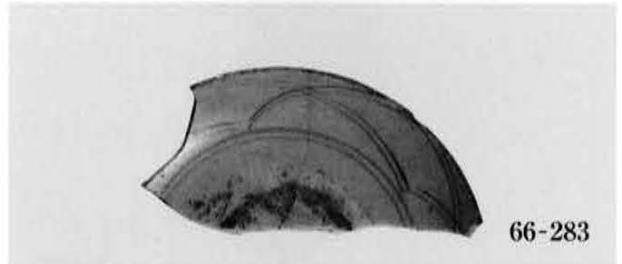
66-275



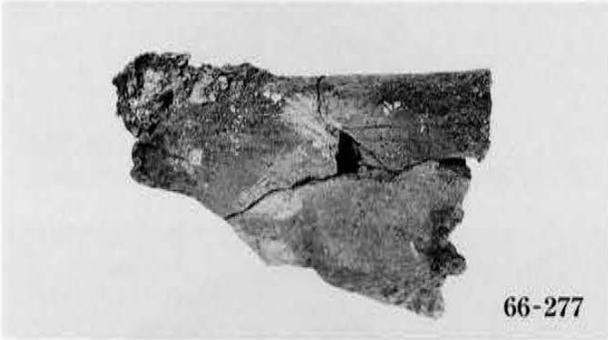
66-281



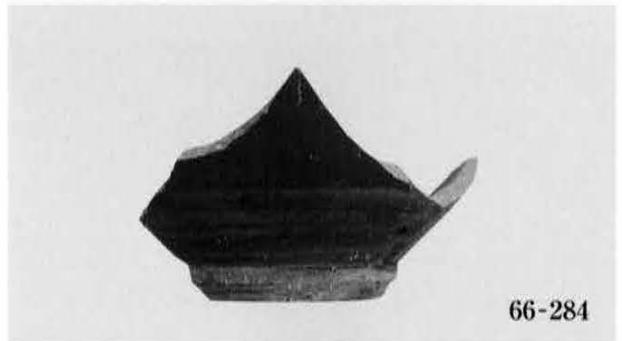
66-276



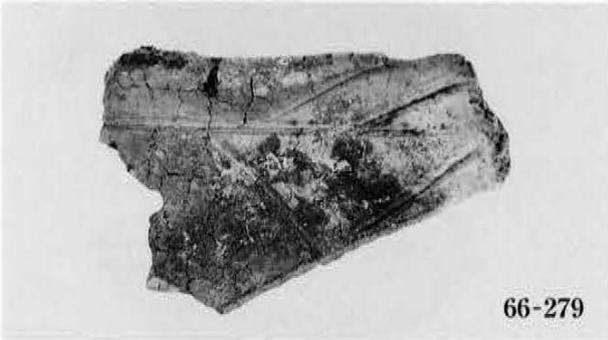
66-283



66-277



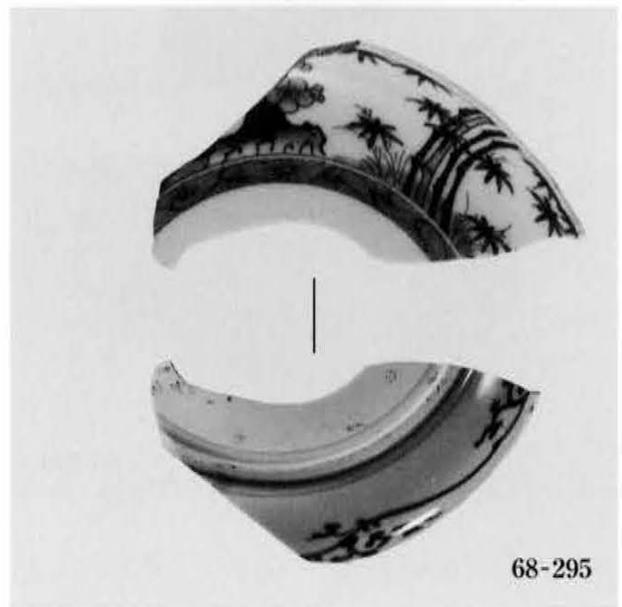
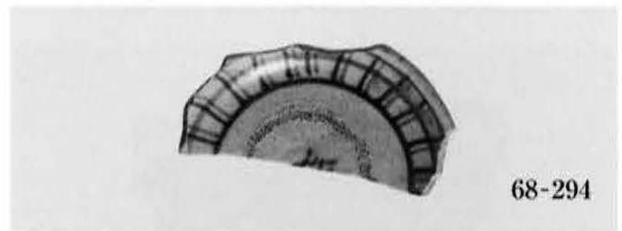
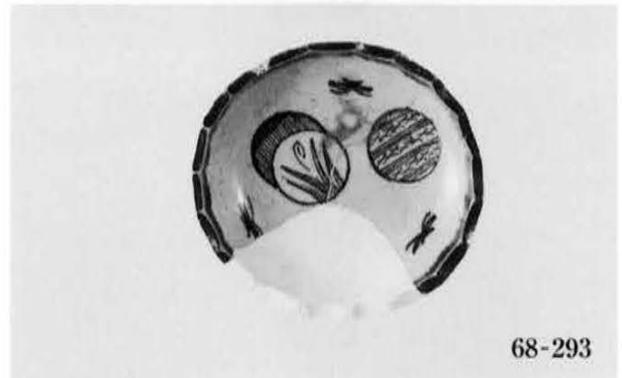
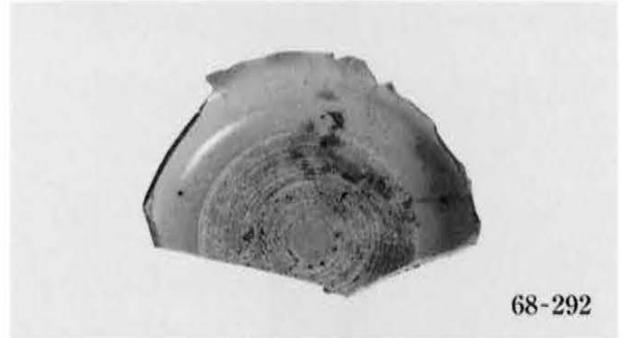
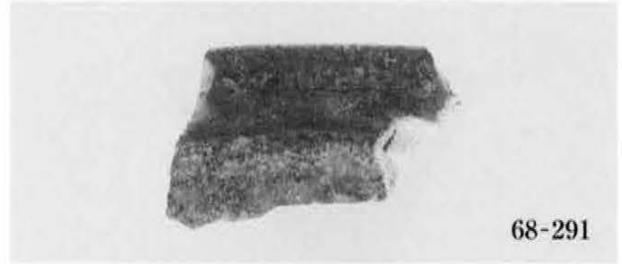
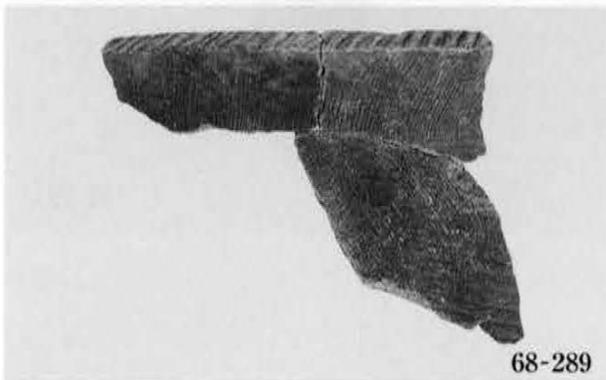
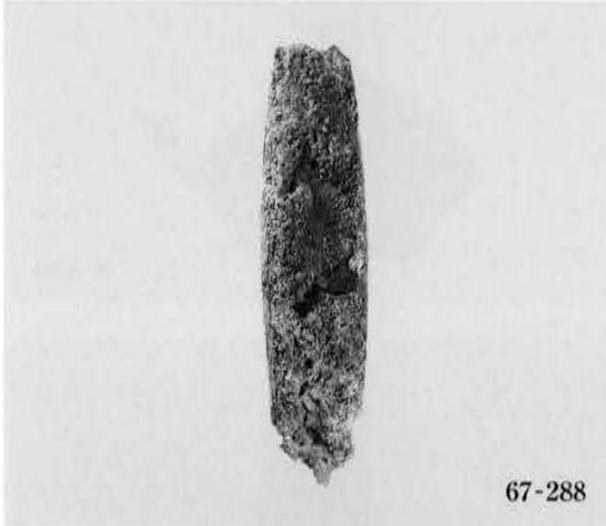
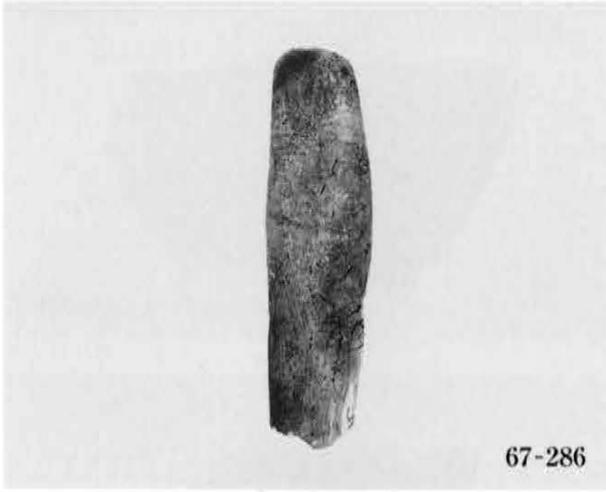
66-284

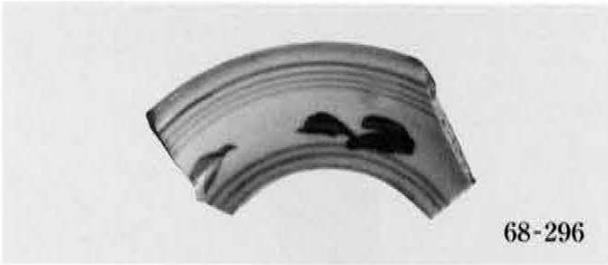


66-279

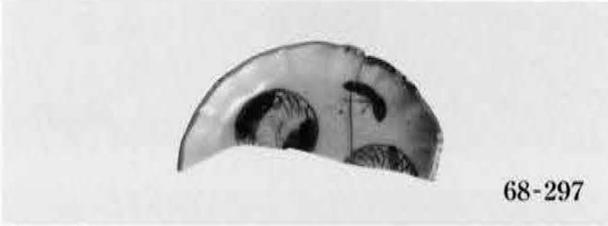


67-285

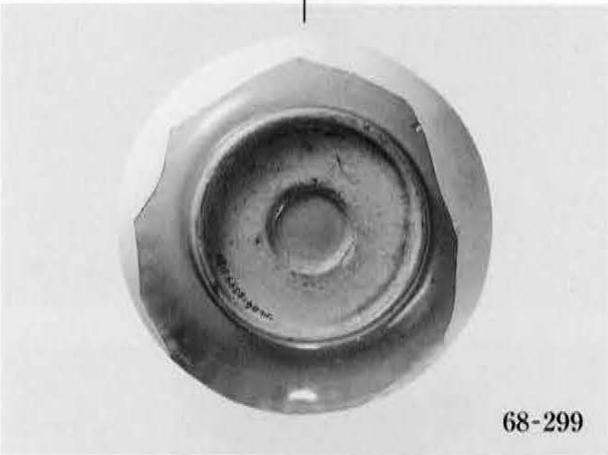




68-296



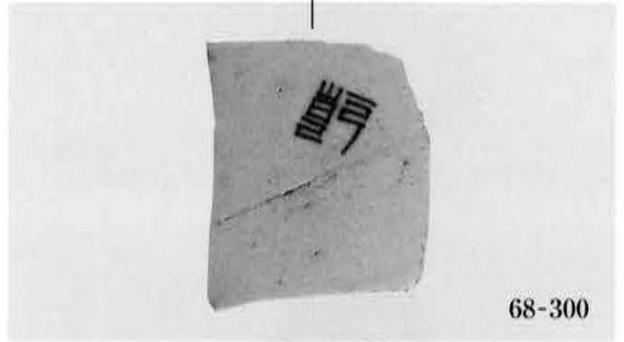
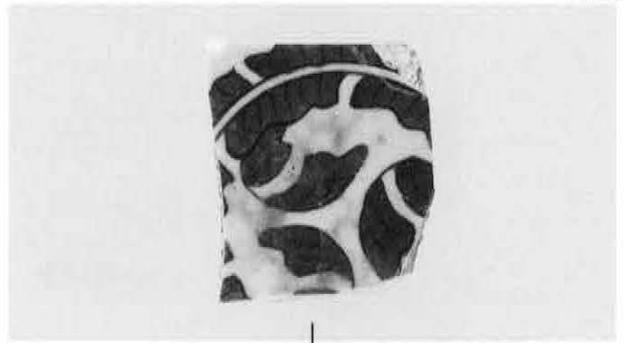
68-297



68-299



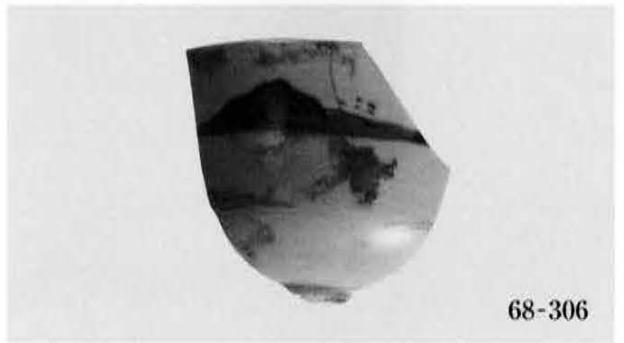
68-302



68-300



68-304



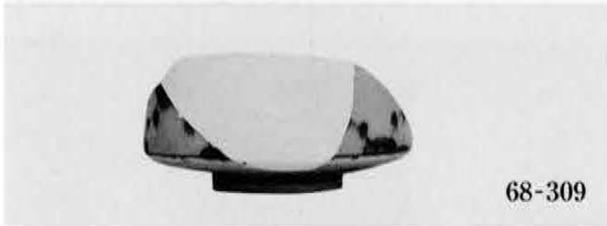
68-306



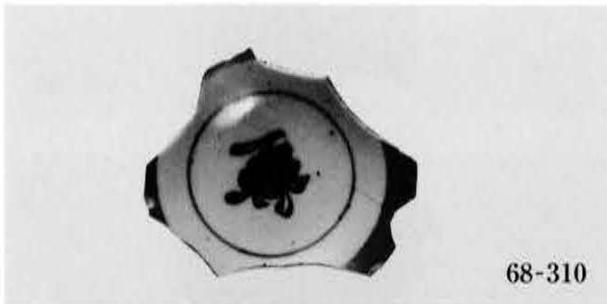
68-307



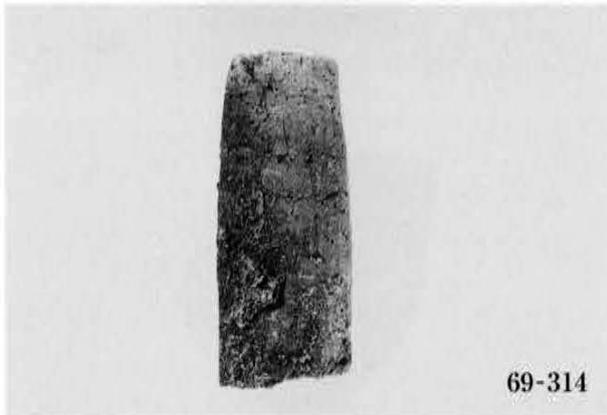
68-308



68-309



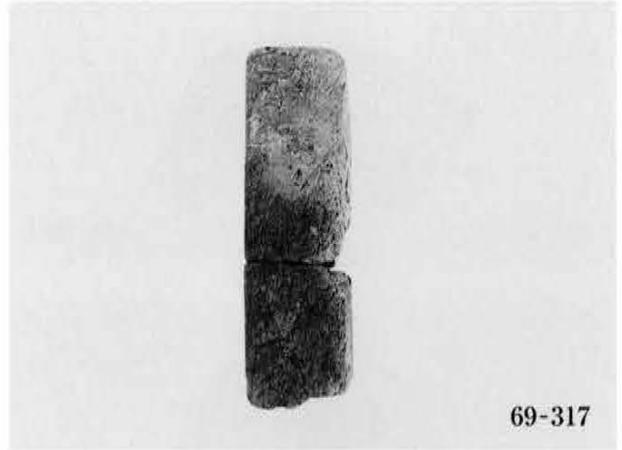
68-310



69-314



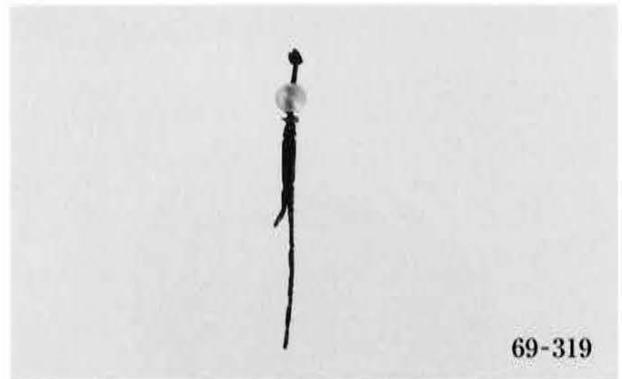
69-315



69-317



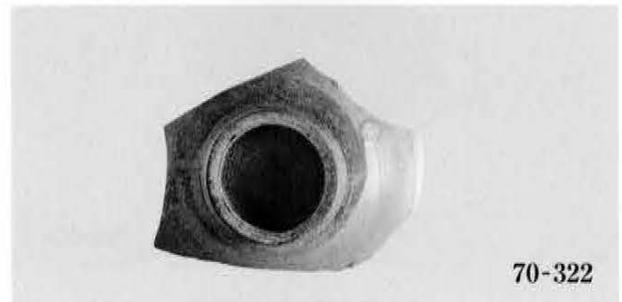
69-318



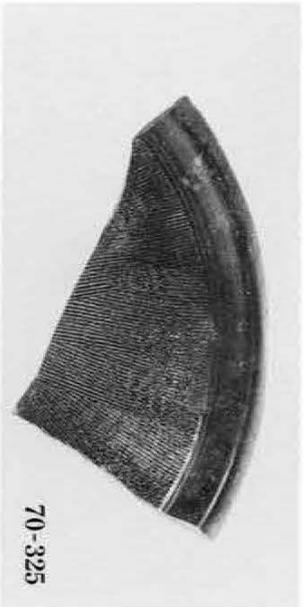
69-319



70-321



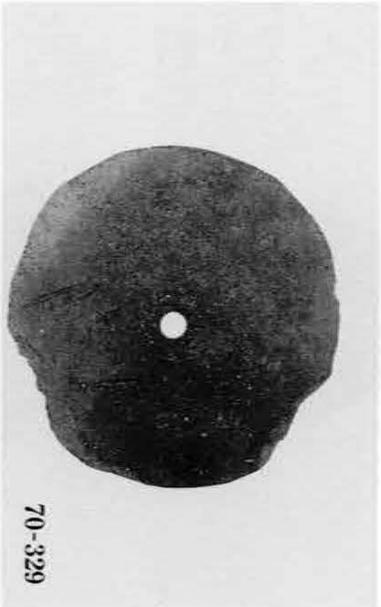
70-322



70-325



70-328



70-329



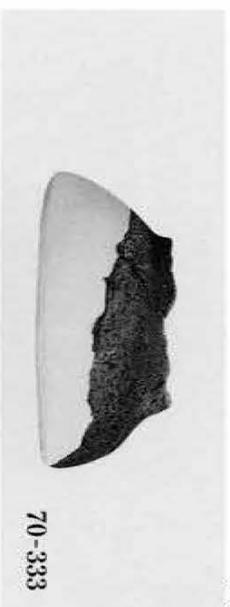
70-330



70-331



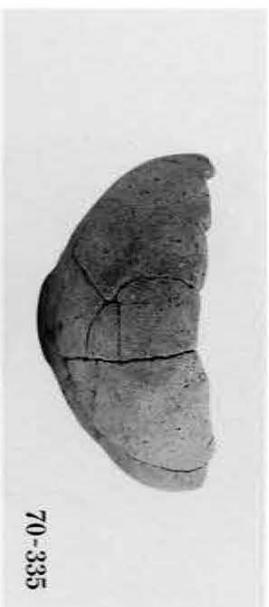
70-332



70-333



70-334



70-335



70-336



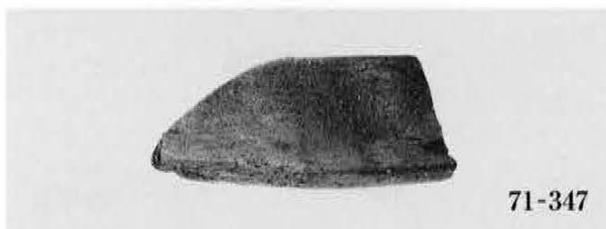
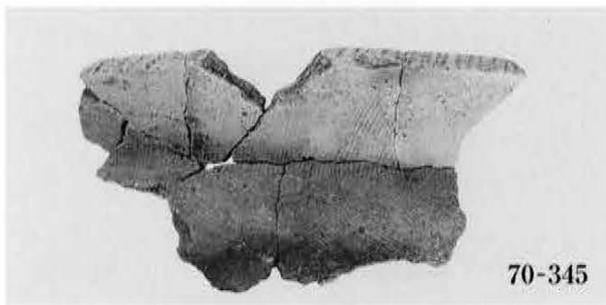
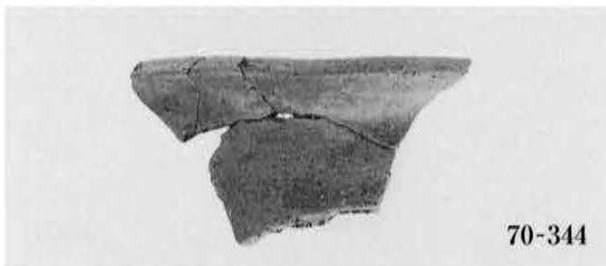
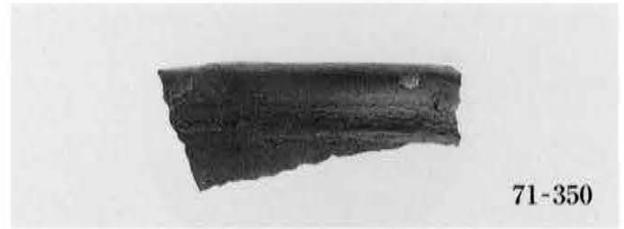
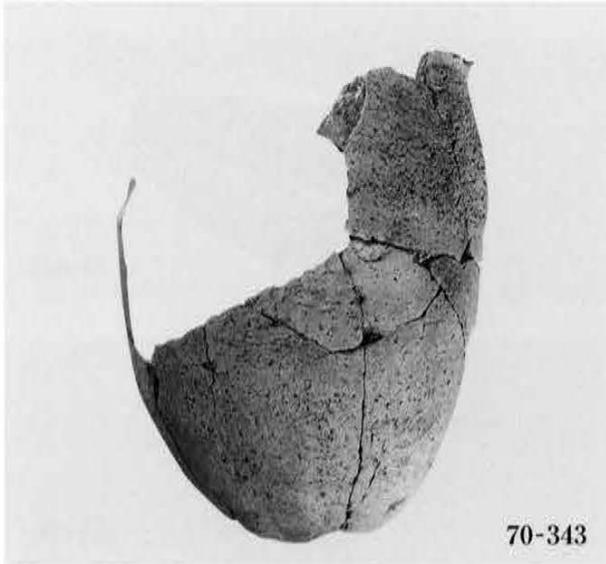
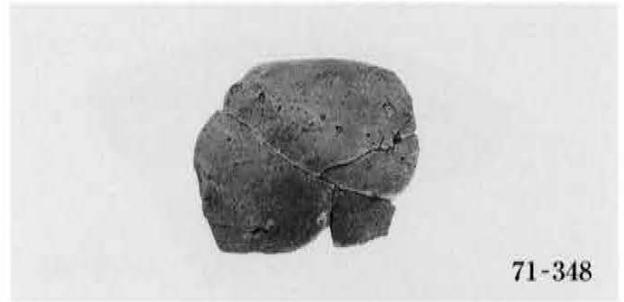
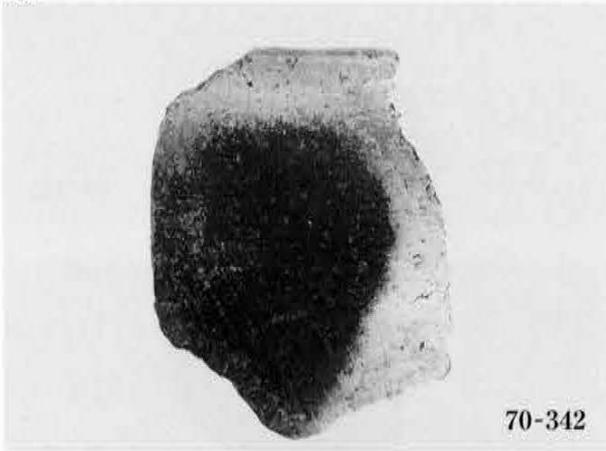
70-337



70-338

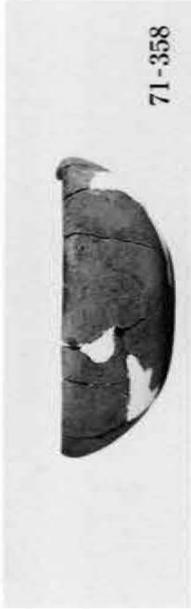


70-340

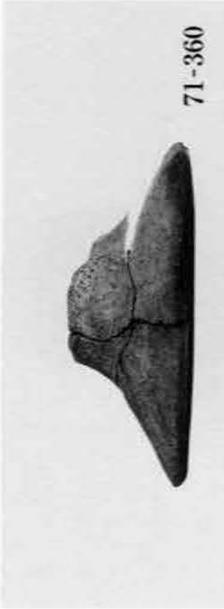




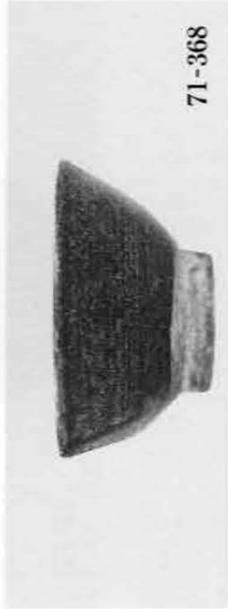
71-357



71-358



71-360



71-368



72-371



72-375



72-372



72-373



72-379



72-380



72-381



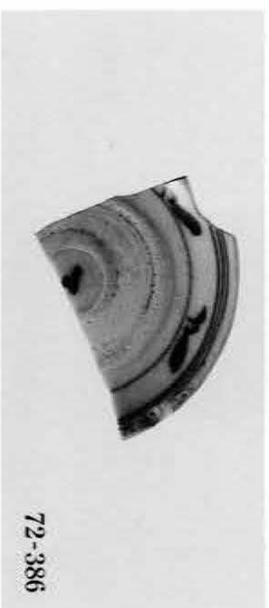
72-382



72-383



72-384



72-386



72-387



72-389



72-390



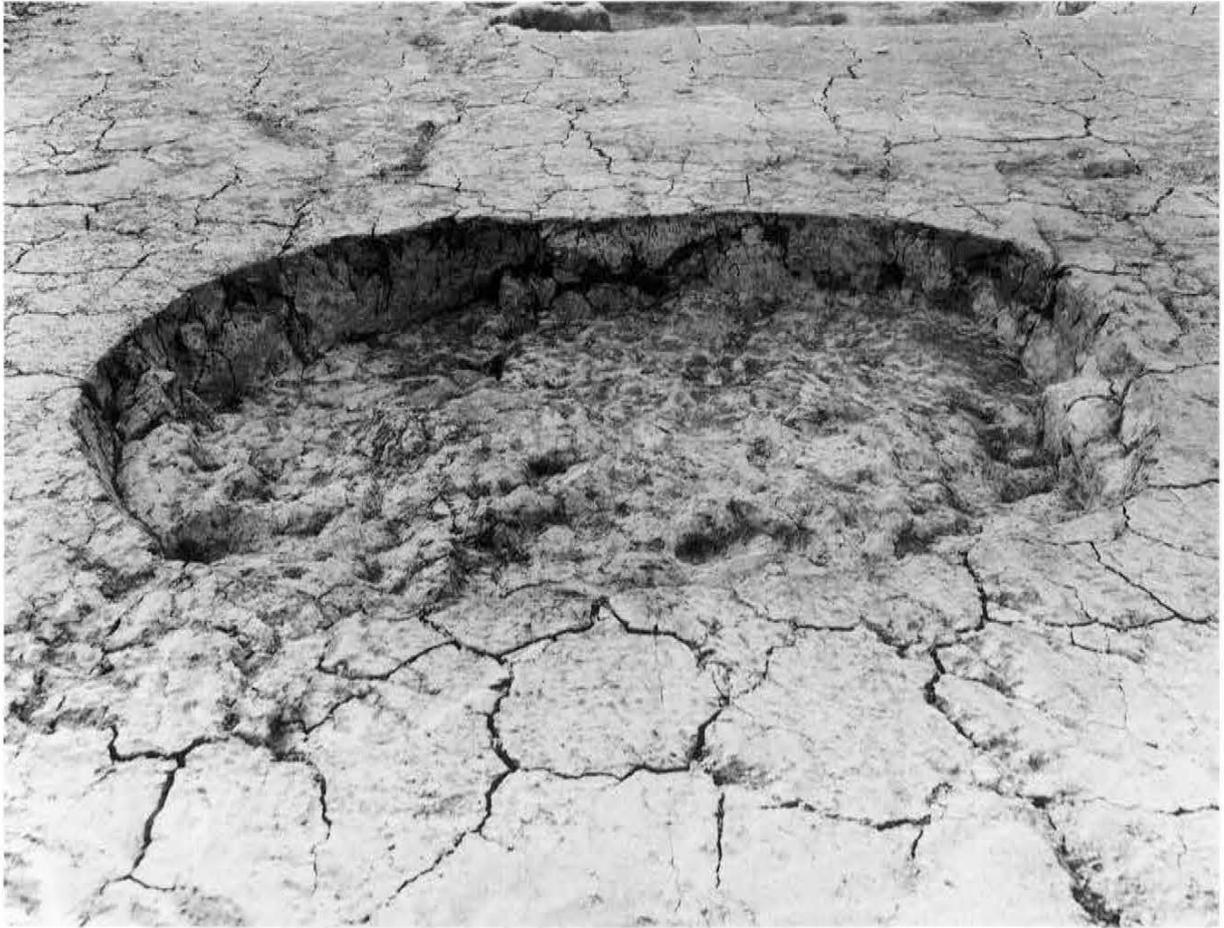
72-391



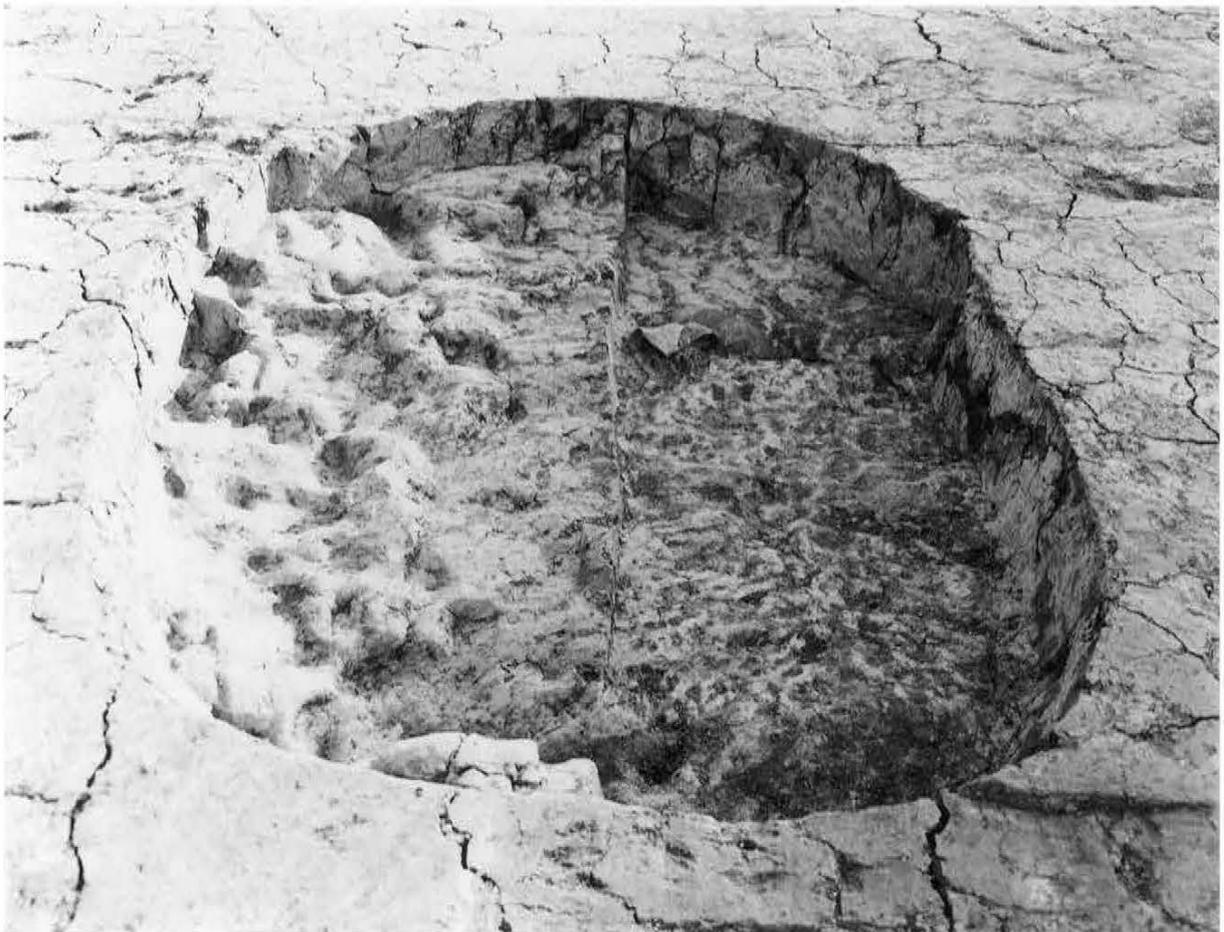
鶴田木屋ノ角遺跡調査区全景（上が西）



鶴田牛ヶ池遺跡（第2次調査）調査区全景（上が西）



SK02 完掘 (東から)



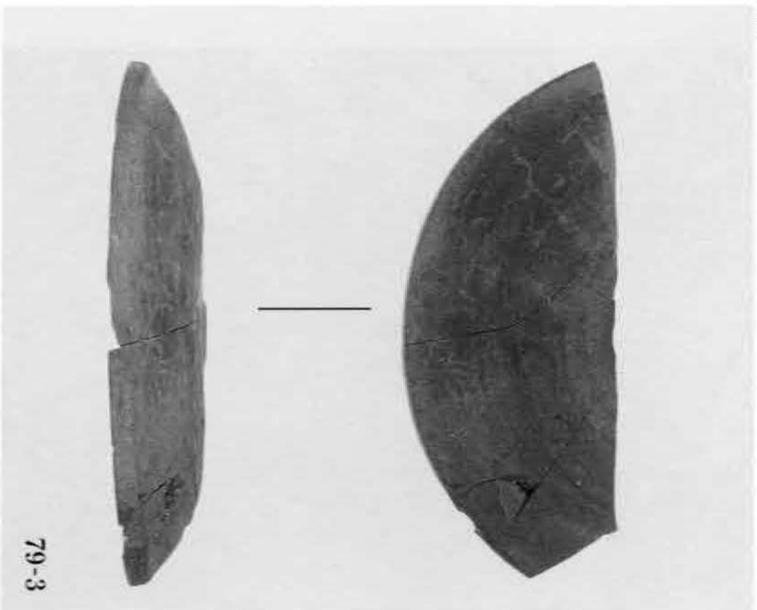
SK02 完掘 (北から)



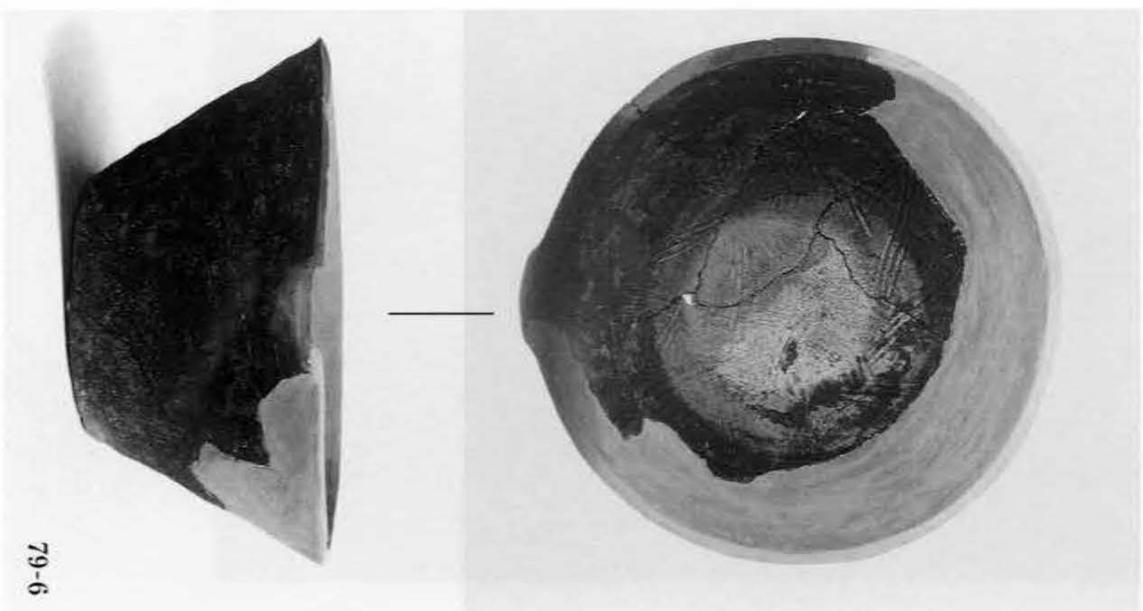
SK02 土器出土状況 (南から)



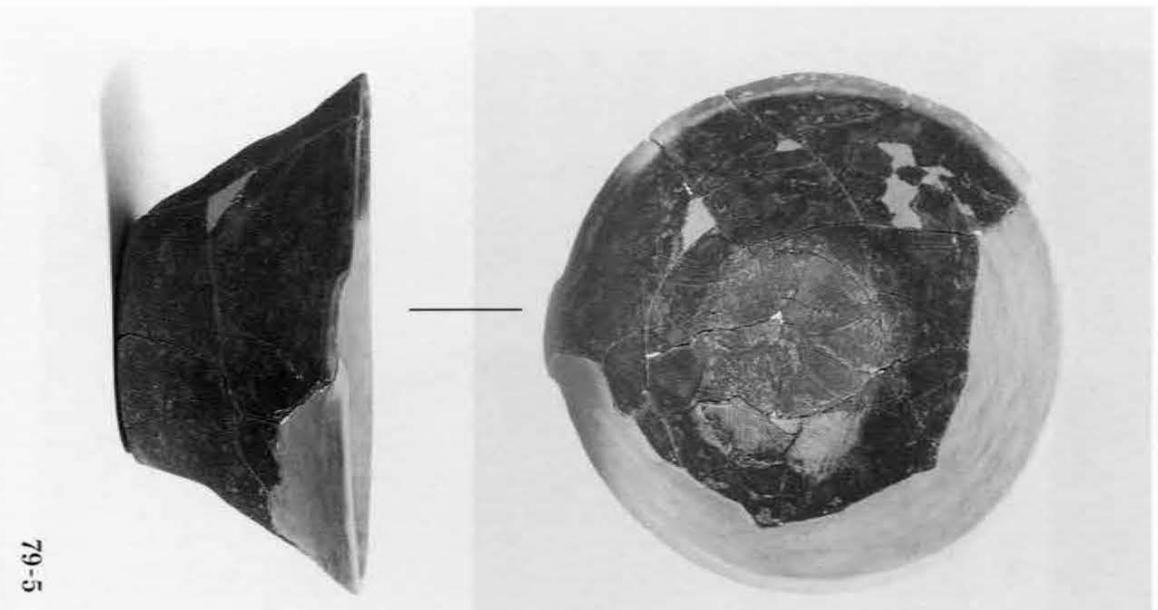
SK03 完掘 (南から)



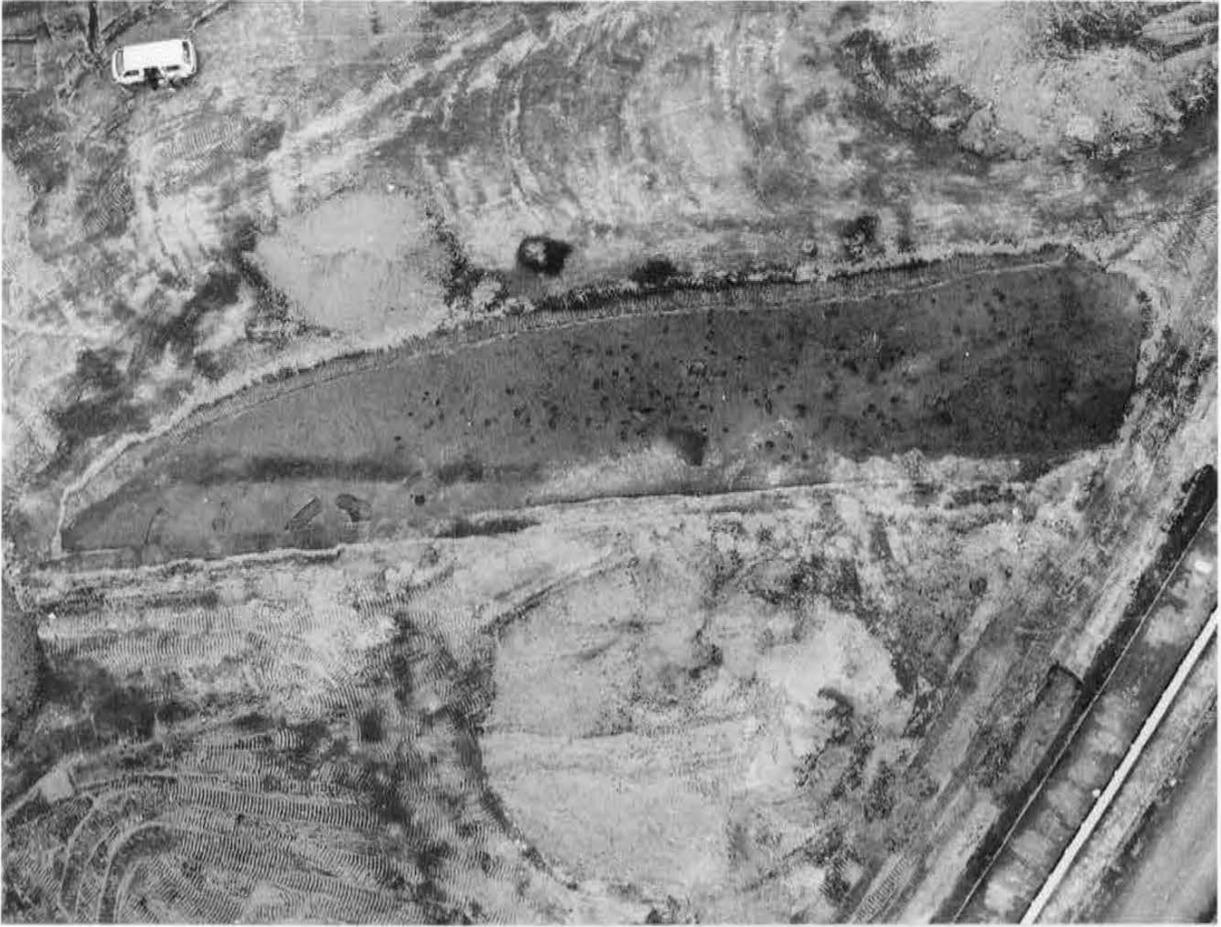
79-3



79-6



79-5



鶴田牛ヶ池遺跡（第3次調査）調査地区全景（空中写真：真上から）



鶴田牛ヶ池遺跡（第3次調査）出土遺物



鶴田牛ヶ池遺跡（第4次調査）遠景（空中写真：南から）



鶴田牛ヶ池遺跡（第4次調査）調査区全景（空中写真：真上から）



4SI20 床面検出状況（南東から）



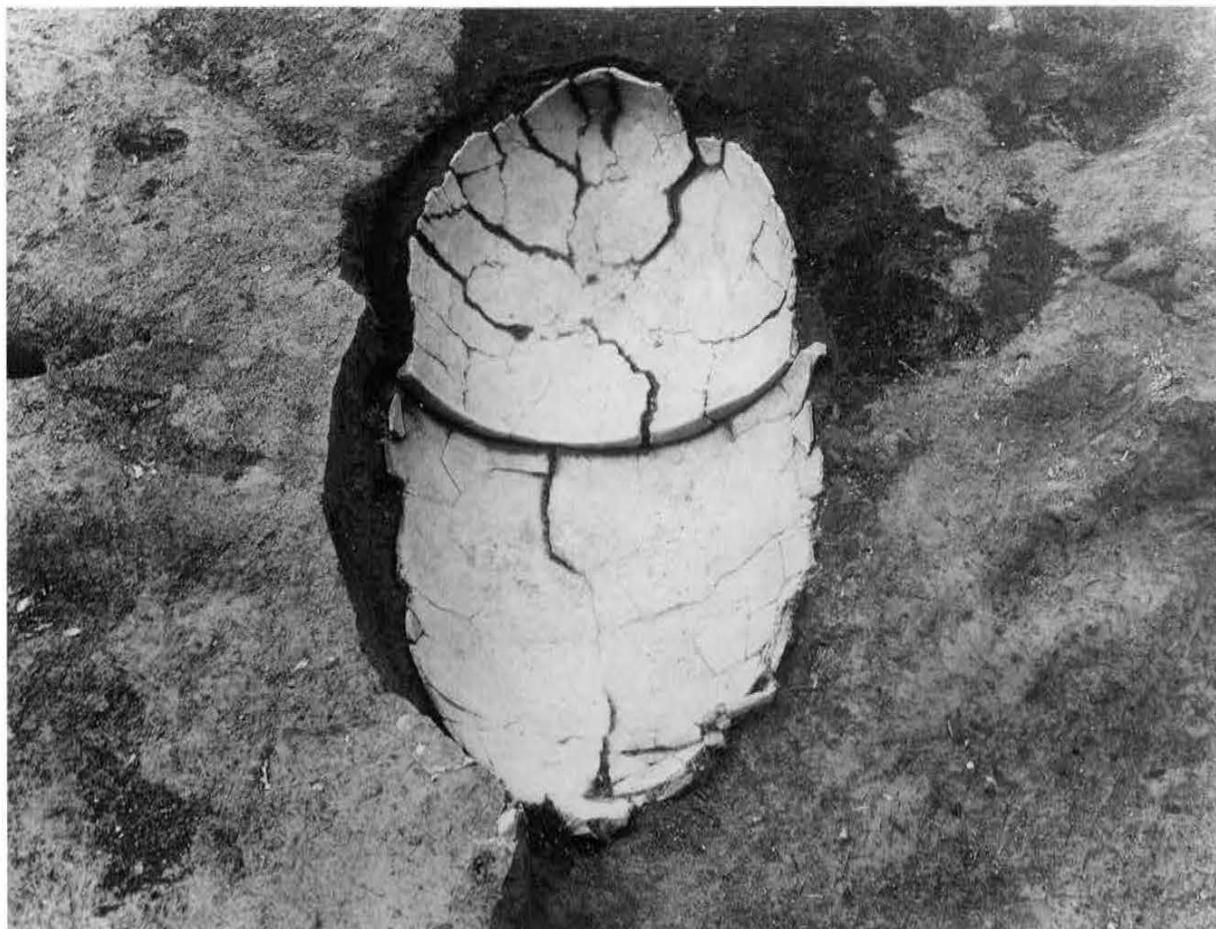
4SI20 完掘（南東から）



4ST10 屋内土壌遺物出土状況 (南東から)



4ST10 甕棺墓出土状況 (東から)



4ST10 甕棺墓出土状況（東から）



4ST10 完掘状況（東から）



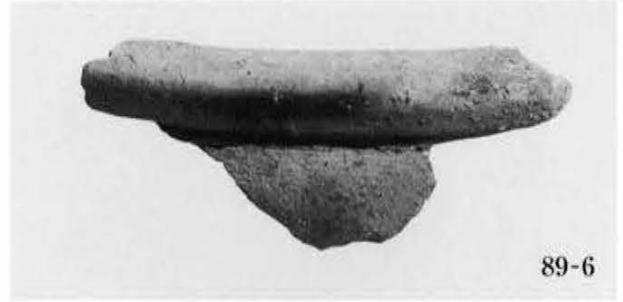
4SK21 完掘状況（南から）



4SK38・60 完掘状況（西から）



87-3



89-6



89-7



88-4



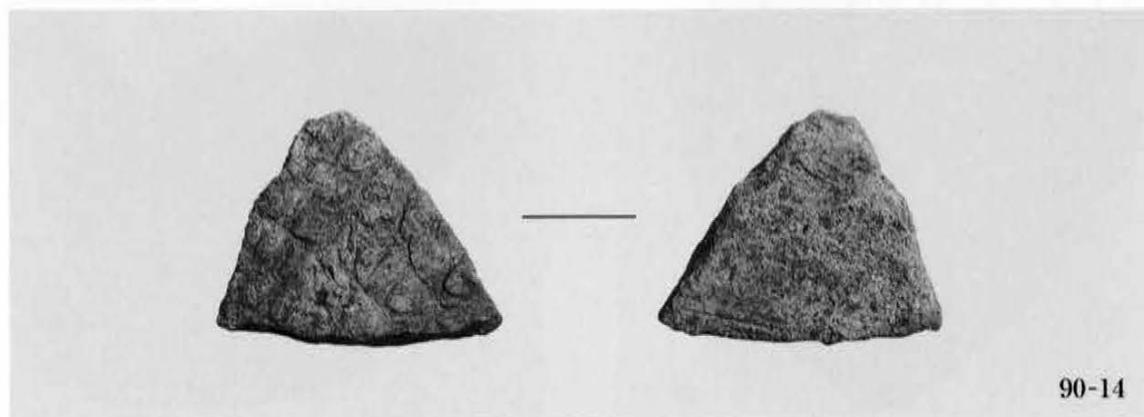
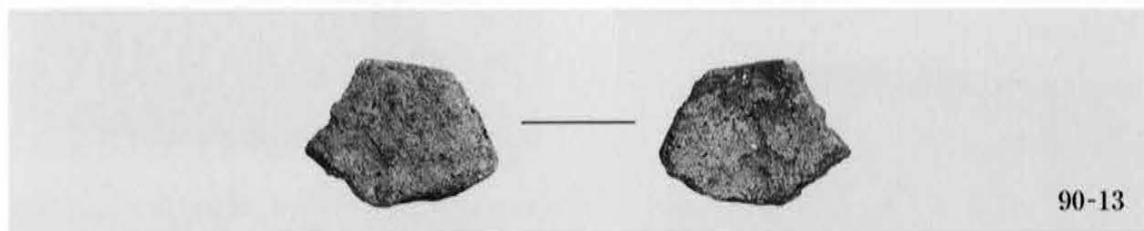
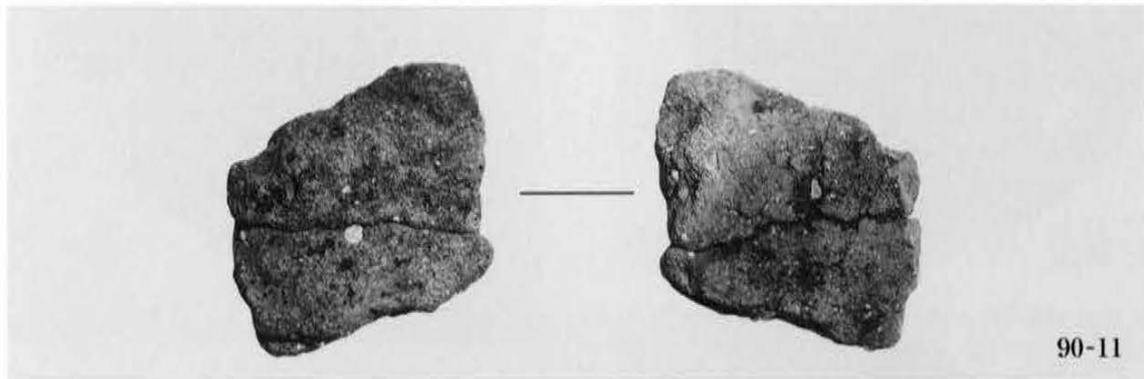
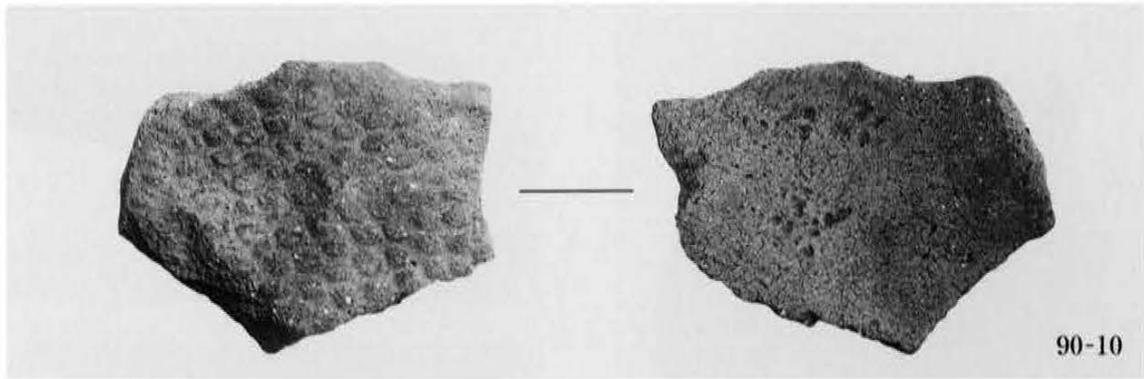
89-8

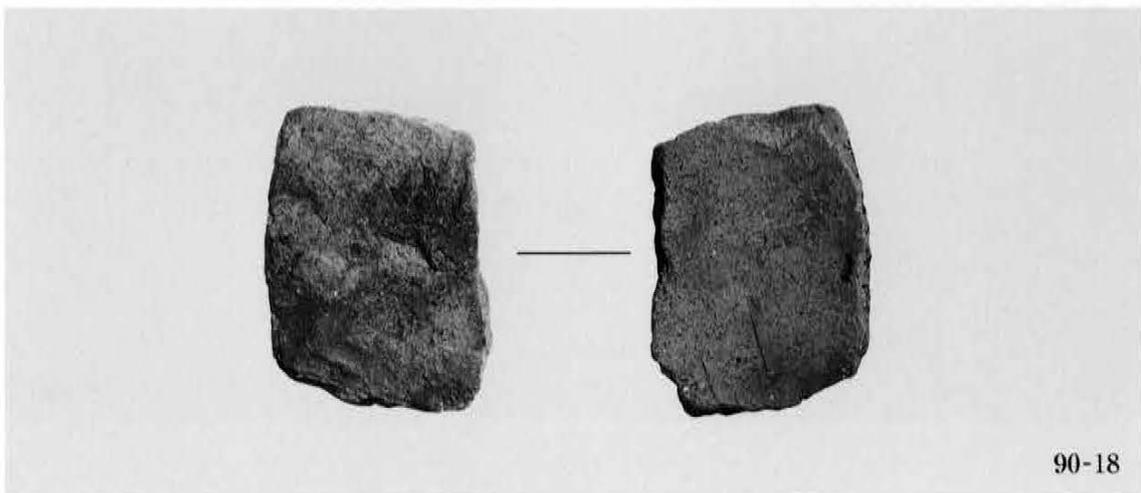
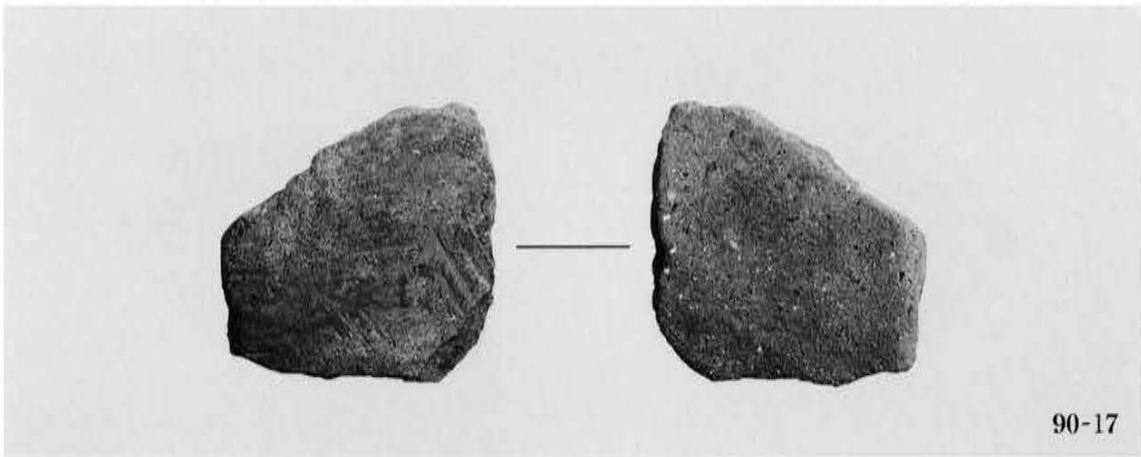
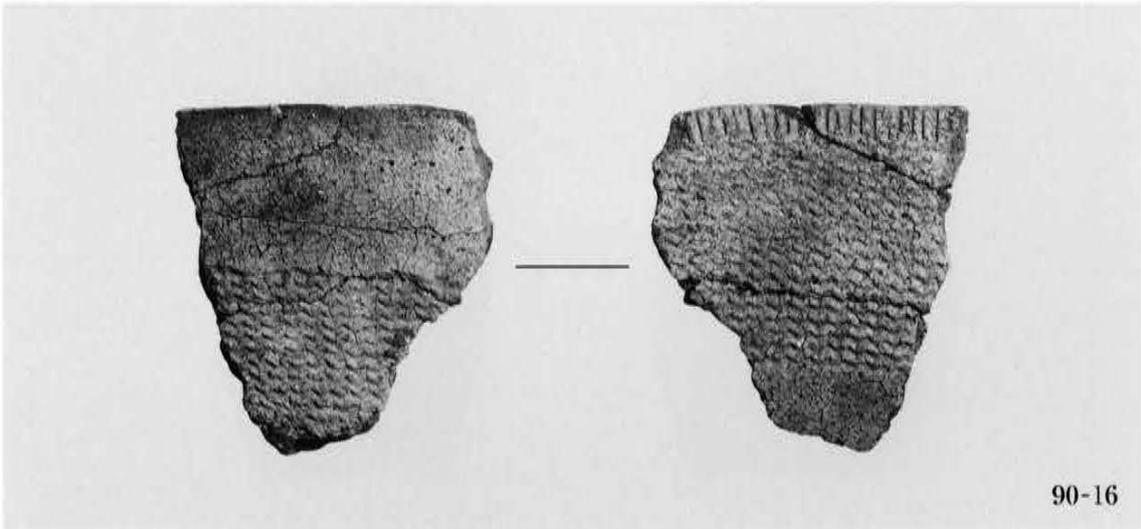
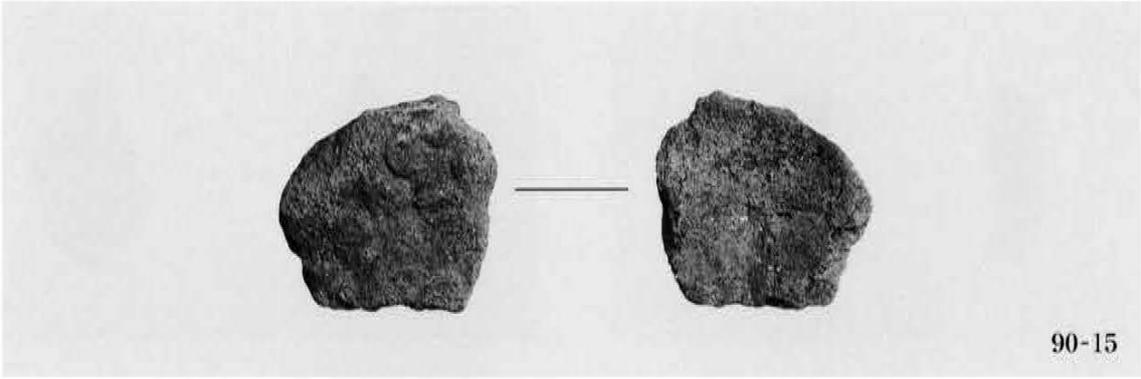


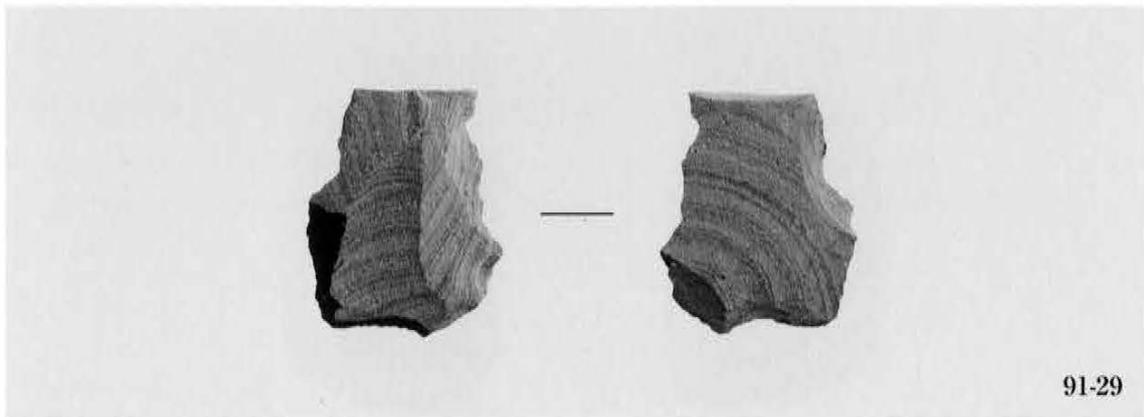
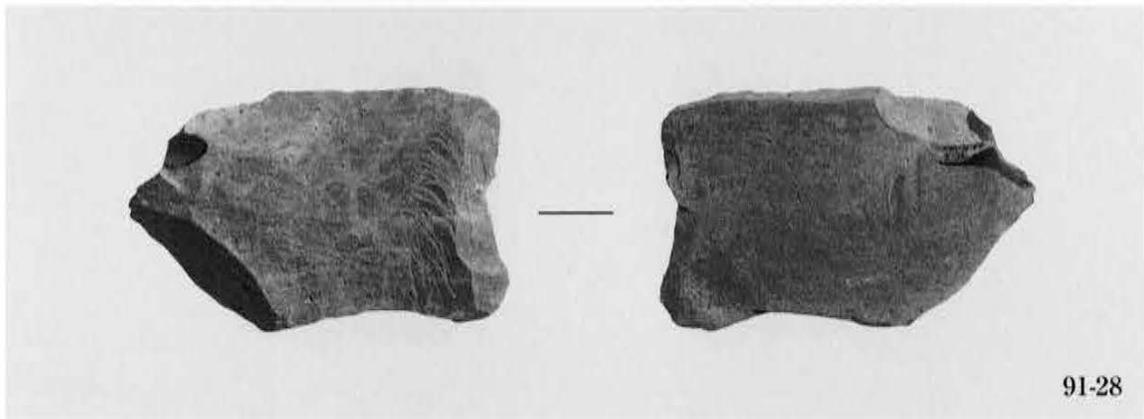
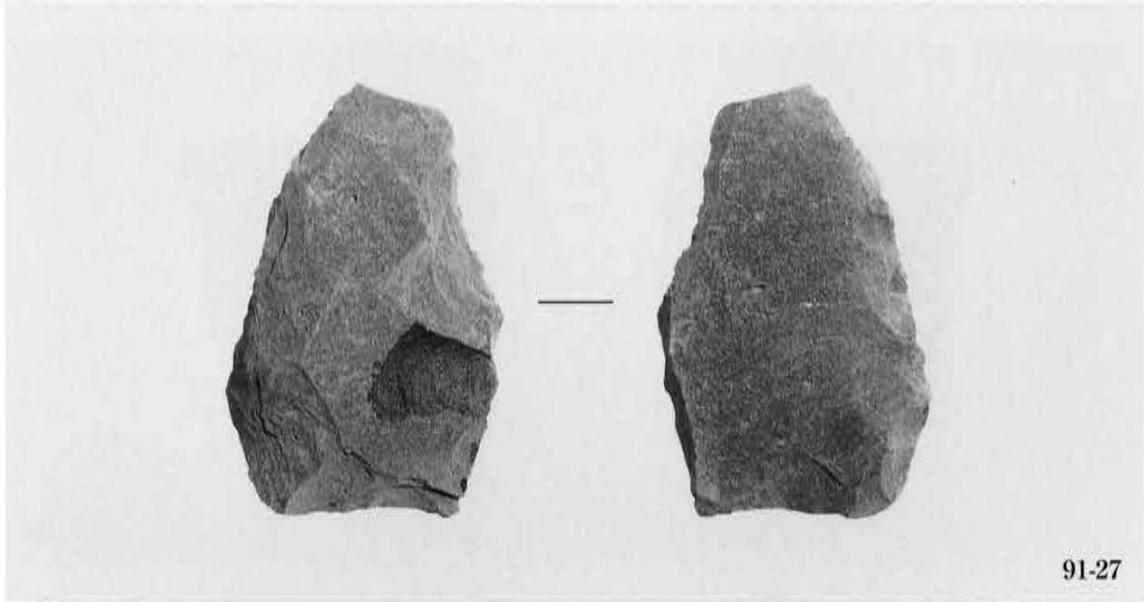
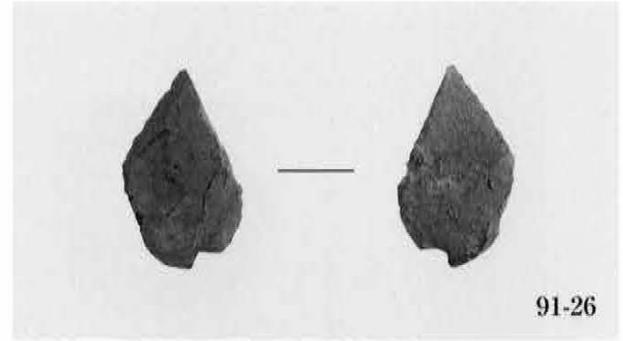
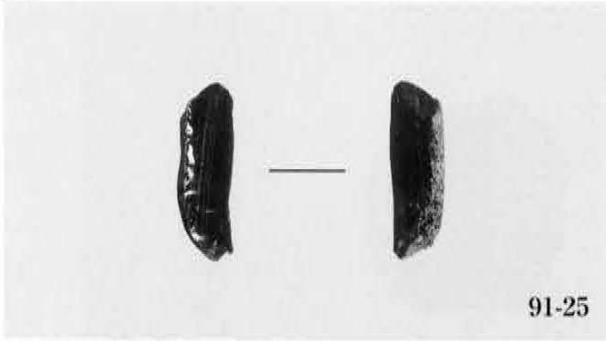
88-5



89-9







筑後東部地区遺跡群Ⅵ

筑後市文化財調査報告書
第36集

平成13年3月31日

発行 筑後市教育委員会
筑後市大字山ノ井898

印刷 瞬報社写真印刷株式会社
福岡市中央区天神5丁目4番16号城戸ビル3F
TEL 092-712-2241